

F8DocServ
電子マニュアル

株式会社フォーラムエイト
FORUM 8

掲載されている各社名および
各社製品名は、一般に各社の
商標または登録商標です。

UC-1 電子マニュアル
For Ver.1.02.00
2008.03 現在

目次

目次	2
F8DocServについて	9
概要	9
バージョン及び改良点	9
Version 1.00.00 ~	9
著作権	12
プログラム使用権許諾	12
有償機能について	14
必要システムおよびプロテクト	15
必要システム	15
ハードウェアプロテクトキー	16
プロテクト	16
プログラムの機能概要	17
機能および特長	17
旧製品との互換性について	20
制限事項等	21
プログラムの機能詳細	21
構成	21
ドキュメントの構成	21
ファイルの構成	25
主要機能	29
プレビュー / 印刷	30
編集	34
テンプレートの作成	37
テンプレートによるXMLマッピング	38
XMLデータの抽出	40
継承元製品のファイル読み込み	41
データのエクスポート	43
画面	44
メイン画面の外観	44
プレビュー	45
目次タブ	46
サムネイルタブ	47
マッピングデータタブ	48
辞書フレーム	49
高度な活用	50
XMLタグ辞書ファイルの作成	50
機能一覧	53
本プロダクトと継承元製品の機能一覧	53
操作方法	54

起動.....	54
当社製品から起動するために.....	58
保存.....	59
編集する / 入力する.....	60
テキストの色・サイズ・書体.....	61
テキストの配置.....	61
テキストを検索.....	62
テキストを置換.....	62
行の高さ.....	63
線の色・幅・種類.....	63
順番を入れ替える.....	64
操作を取り消す・やり直す.....	65
表紙.....	65
目次.....	66
ヘッダ / フッタ.....	67
BOX.....	68
BOXを選択する.....	69
BOXを移動する.....	70
BOXのサイズを変更する.....	72
BOXの配置.....	73
BOXを編集状態にする.....	73
BOXの書式設定 (ツールバー).....	74
BOXのプロパティ.....	76
BOXのマッピング情報.....	78
BOXの表示条件の設定.....	79
重なり合ったBOX.....	79
計算結果を任意の書類形式にする.....	80
電子納品の不可文字列をチェック.....	80
ファイル作成・開く・保存・変換.....	80
ドキュメントを開く.....	80
旧製品のファイルを開く.....	81
ドキュメントを保存.....	81
他のファイル形式に変換.....	81
Word変換時のエラー.....	81

ページ・改ページ	82
改ページ	82
改ページを全て無効にする	82
新規ページを作成	82
見出し(章) / 目次ツリー	83
章番号	83
章番号の表示設定(目次ツリー)	84
章番号の形式設定(その他の設定)	85
出力する章(節、項)を選択	85
章(節、項)を作成	87
章(節、項)の削除	90
章(節、項)の順番入れ替え・移動	91
章番号を振りなおす	93
見出し	94
見出しを追加する	95
見出しを修正する	95
見出しのテキストを修正する	95
見出しを削除する	96
見出しの属性(目次ツリー)	97
見出しの表示設定	99
見出しの自動整列	100
目次ツリーの編集モード	102
テキストBOX	103
テキストBOXを追加	103
テキストBOXを修正	104
テキストBOXを修正(マッピング)	104
表BOX	105
表を追加	105
表を修正	106
表の途中での改ページ	107
表のタイトル	109
表エディタ	110
表タブ(表エディタ)	111
セルの入力・修正・削除(表エディタ)	115
セルの書式(表エディタ)	116
セルの罫線(表エディタ)	117
セルの背景(表エディタ)	117
セルのプロパティ(表エディタ)	117
セルにテキストを入力	119
セルのテキスト配置	120
シートのプロパティ(表エディタ)	120
行の高さ・列の幅(表エディタ)	122
行高・列幅を数値指定(表エディタ)	122
行高・列幅をマウスで調整(表エディタ)	124
行・列のプロパティ(表エディタ)	124
表のヘッダ/フッタタブ(表エディタ)	127
表のヘッダ/フッタ追加	128
表のヘッダ/フッタ削除	129
表のヘッダ/フッタ書式	130
表のヘッダ/フッタ修正	131
表のヘッダ/フッタの表示設定(表エディタ)	132

数式BOX	133
数式を追加	133
数式を修正	133
数式エディタの使い方	134
行列BOX	138
行列式を追加	138
行列式を修正	138
行列エディタの使い方	139
グラフィックBOX	142
グラフィックを追加	142
グラフィックを修正	142
グラフィックをイメージファイルに保存	143
グラフィックエディタの使い方	145
グラフィックのサイズを変更	146
イメージファイルの読み込み	146
マッピング画像BOX	147
マッピング画像を追加	147
マッピング画像を修正	147
マッピング画像のサイズを変更	148
BOXのグループ	148
BOXをグループ化する	148
グループの操作	149
表示条件	150
表示条件の設定	150
表示条件のクリア	151
表示条件の設定ダイアログ	152
変数名の編集	154
XML検索の詳細	154
書式設定	154
行スタイル	154
行スタイル修正	155
行スタイルを適用する	156
一部のテキストの書式を設定する	158
フォント(文字属性)設定	158
フォント設定ダイアログ	159
行ピッチ(行間)を設定	161
行ピッチ設定ダイアログ	161
インデント(字下げ)を設定	162
インデント設定ダイアログ	163
装飾部品	165
装飾部品	165
装飾部品の追加・削除・変更	165
装飾部品を表示する / しない	167
装飾部品の配置	168
社名(装飾部品)	170
製品名(装飾部品)	171
日付(装飾部品)	172
日付の文字列編集(装飾部品)	173
ページ番号(装飾部品)	174

ページ番号の文字列編集.....	176
ページ番号の初期値.....	176
任意文字列(装飾部品).....	177
図(装飾部品).....	178
XMLマッピング.....	180
XMLマッピング 概要.....	180
XMLマッピング機能を使用する.....	181
XMLマッピングの修正.....	182
XMLマッピングを保存する.....	183
マッピング辞書ファイルとは.....	184
マッピング辞書ファイル読み込み(マッピング).....	184
辞書項目のデータ型.....	186
辞書項目のプロパティ.....	186
辞書項目を配置(マッピング).....	188
辞書項目を追加配置(マッピング).....	189
マッピングデータ.....	190
マッピングデータ追加.....	190
マッピングデータ削除.....	192
マッピングデータのプロパティ.....	193
マッピングデータの抽出.....	194
マッピングデータグループIDの変更.....	195
データマッピング情報.....	195
データマッピング情報を修正する.....	197
表BOXに対する一括マッピング.....	199
下層データの一括マッピングダイアログ.....	201
テンプレート.....	203
テンプレート.....	203
テンプレートを作成する.....	204
テンプレートを利用する.....	205
テンプレートを開く.....	206
テンプレートを保存.....	206
表示操作.....	206
プレビューの移動・スクロール.....	206
プレビューの表示拡大・縮小.....	207
プレビューの表示属性.....	208
目次ツリーを表示する.....	211
目次ツリーの展開と縮小.....	211
全ページを一覧表示する.....	213
サムネイルの拡大・縮小.....	214
辞書ツリーを表示する.....	214
辞書ツリーの操作.....	215
印刷.....	216
全て印刷する.....	216
ページを指定して印刷する.....	216
指定の章(節、項)を印刷する.....	217
余白の境界線を印刷.....	217
用紙設定.....	217
用紙サイズを変更する.....	217
印刷時の用紙方向を設定.....	217
余白の設定.....	217

F8DocServ Maintenance Tool (環境設定).....	218
環境設定ツール.....	218
メニュー項目.....	220
メニュー・アイコン.....	220
メニューバー.....	220
ツールバーのアイコン.....	221
ショートカットキー.....	222
ファイル.....	222
[ファイル] [新規作成].....	222
[ファイル] [開く].....	223
[ファイル] [追加読み込み].....	225
[ファイル] [開き直す].....	227
[ファイル] [上書き保存].....	227
[ファイル] [名前を付けて保存].....	227
[ファイル] [他形式ファイルの出力].....	228
[ファイル] [印刷].....	229
[ファイル] [終了].....	230
編集.....	230
[編集] [元に戻す].....	230
[編集] [やり直し].....	230
[編集] [切り取り].....	231
[編集] [コピー].....	231
[編集] [貼り付け].....	232
[編集] [BOX追加].....	233
[編集] [BOX削除].....	235
[編集] [ページ追加].....	235
[編集] [ページ削除].....	236
[編集] [検索].....	236
[編集] [置換].....	237
[編集] [次を検索].....	238
[編集] [前を検索].....	239
表示.....	240
[表示] [先頭ページ].....	240
[表示] [前ページ].....	240
[表示] [次ページ].....	240
[表示] [最終ページ].....	240
[表示] [実際の大きさ].....	241
[表示] [全体を表示].....	241
[表示] [幅に合わせる].....	241
[表示] [アウトラインフレーム表示].....	242
[表示] [辞書フレーム表示].....	243
[表示] [表示移動モード].....	244
[表示] [表示拡大モード].....	245
[表示] [再描画].....	246
[表示] [目次の更新].....	246
[表示] [ページ再解析].....	247
設定.....	247
[設定] [用紙の設定].....	247
[設定] [プリンタの設定].....	248

[設定] [ページの設定]	250
[設定] [ページの設定] (本文)	252
[設定] [ページの設定] (目次)	254
[設定] [ページの設定] (表紙)	255
[設定] [行スタイルの設定]	257
[設定] [その他の設定]	259
電子納品	260
[電子納品] [電子納品規定文字列チェック]	260
ヘルプ	261
[ヘルプ] [トピックの検索]	261
[ヘルプ] [Forum8 ホームページ]	261
[ヘルプ] [Internet利用による問合せ]	262
[ヘルプ] [通常/Web認証切り替え]	262
[ヘルプ] [バージョン情報]	263
Q&A	263
用語集	263
ヒント1 WORD出力:複雑な書式の表が出力されました	265
エラー1 WORD出力:このファイルは他のアプリケーションまたはユーザーが使用しています	266
サポート	268
本プログラムの改訂	268
サポートの範囲	268
ご購入についてのお問い合わせ	269
東京本社	269
大阪支社	270
名古屋事務所	270
福岡営業所	271
索引	272

F8DocServ について

概要

バージョン及び改良点

Version 1.00.00 ~

本プロダクトは、『F8出力編集ツール』および『調表出力ライブラリ』の上位バージョンとなります。
また、本プロダクトにはViewer版があり、一部の有償機能の利用が制限されます。

有償機能に関する説明は、

『[概要 | 著作権 | 有償機能について](#)』

『[概要 | 必要システムおよびプロテクト | プロテクト](#)』

『[機能詳細 | 機能一覧](#)』

にありますので、そちらをご参照ください。

Ver.1.02.00 (2008.03)

- (1) Web認証方式に対応しました。
- (2) Word/PDFファイル出力で既存ファイルへ上書きする際に、出力できませんと警告が出る場合がある問題を修正しました。
既存ファイルのフルパスが半角文字で128文字以上の時、この問題が発生していました。
- (3)表エディタで編集集中に”BOXの新規貼り付け”を行うと、読み込み違反となる問題を修正しました。

Ver.1.01.02 (2008.01)

- (1) Word出力の諸問題を対策しました。
 - ・旧PPF書式”分数”指定の1行目(分子)の行ピッチが小さく設定されている問題を対策しました。
 - ・Word2007環境での出力で正しく出力されない問題を対策しました。
 - ・罫線表で罫線の設定が正しく出力されない場合がある問題を対策しました。
但し、Word2002以降
- (2)英語モード時に数式の \cdot が正しく表示されない問題を対策しました。
- (3)見出し毎の章番号表示設定画面のヘルプボタンからヘルプが開かない問題を対策しました。

Ver.1.01.01 (2007.06)

- (1)F8出力編集ツールの文書データファイル(ppfファイル)の読み込み精度を上げるよう対応しました。
 - ・罫線表(繰返し数 = 1)が、開始行と終了行にて罫線と文字列が詰まっている問題を対策しました。
 - ・罫線なし表にて空行指定がされていた場合、行が重なってしまう問題を対策しました。
 - ・罫線表のタイトルブロックに空行があると表のレイアウトがおかしくなる問題を対策しました。
 - ・表セル中ブロックが本文フォントではなく表フォントとなっている問題を対策しました。
 - ・数式で括弧の位置がずれる場合がある問題を対策しました。
 - ・Symbolフォントを使用した際に行高が大きくなり、表罫線からはみ出す問題を対策しました。
- (2)マッピングデータ追加時のオープンダイアログにファイルの種類”*.xml”を追加しました。
- (3)アウトラインフレームのサムネイルとマッピングデータにポップアップメニュー同じ処理を行うツールボタンを追加しました。

- (4)表エディタにて行・列追加を行う時、幅・高さの指定を1/10mmとし、スピンボックス()に対応しました。
- (5)表エディタにて配置情報変更後の元に戻す(やり直し)で表示が戻らない問題を対策しました。
- (6)表のタイトルヘッダ行と設定された場合、セルの下ラインが設定にかかわらず強制的に描画されてしまう問題を対策しました。
- (7)表の行のタイプにタイトルフッタ行を追加しました。
- (8)表エディタのプロパティダイアログ画面下方の”確定時の条件”を分かりやすくし、ヘルプに記載しました。
- (9)表のヘッダ部に表がある場合、ヘッダ部の表を編集状態とすると”無効なクラス型キャスト.”となる問題を対策しました。
- (10)表エディタを開くとエディタ内の表に空白のセルが発生する場合がある問題を対策しました。
- (11)表エディタのツールバーアイコンのデザインを一部変更しました。
- (12)n行1列の表を表エディタにて開きセルのプロパティを開いても”シートの設定”ができない問題を対策しました。
- (13)1ページに入りきれない横並び表の場合、表中の改ページができない問題を対策しました。
- (14)表エディタでタイトルヘッダ行を含むセルを縦方向にセル結合した場合、リストインデックスエラーが発生する問題を対策しました。
- (15)表のWord出力の精度を上げました。
Word2000においては、最新版へアップデートする必要があります。
- (16)英語版の時、翻訳漏れの部分がある問題を対策しました。
- (17)英語版で作成した文書(F9D、F9T)を日本語版で読むと強制終了してしまう問題を対策しました。
- (18)数式エディタ整列位置テンプレートボタンのヒントが異なっている問題を対策しました。
- (19)ヘルプをWinHelp形式(*.hlp)からHTML形式(*.chm)に変更しました。(Windows Vista対策)
- (20)WindowsXPの標準(ルナ)インターフェイスで確定・取消・ヘルプのボタンの位置が切れている問題を対策しました。
- (21)メイン画面の現在のページ表示部分が黒で塗りつぶされる場合がある問題を対策しました。
- (22)データサイズの大きな画像データを多数使用したとき、メモリ不足となる問題を対策しました。
- (23)縦書きのテキストBOXでSymbolフォント等に変更しても、表示に反映されない問題を対策しました。
- (24)拡大表示中に縦書きのテキストBOXをクリックすると、”整数のオーバーフロー”となる問題を対策しました。

Ver.1.01.00(2006.08)

- (1)Windowsの違いによるプレビュー上の表示問題が発生する不具合を修正しました。
- (2)表BOXのインデントがセル内まで効いていた不具合を修正しました。
- (3)ヘルプボタンからヘルプが呼び出せない部分がある不具合を修正しました。
- (4)調表出力ライブラリ互換モード時に調表出力ライブラリのヘルプが呼び出せない不具合を修正しました。
- (5)文字列検索・置換における対象文字列設定機能不足、表セル内BOXの発見順に関する不具合を修正しました。
- (6)マッピングデータを含むBOXの表示処理、設定変更処理に関する不具合を修正しました。
- (7)画像未指定のグラフィックBOXがページ内にある場合、プレビューでその位置が不明となる問題を対策しました。
- (8)F8出力編集ツールの文書データファイル(*.ppf)の読み込み精度を上げるよう対応しました。
- (9)ページ内のマッピングデータを書式文字で表示できるよう(テンプレートモード機能)に対応しました。
- (10)BOX内容編集やスタイル変更によるBOX高さ変化時に以降のBOX位置を自動調整するよう機能を追加しました。
- (11)条件によってプレビューへの表示有無が制御できるようにBOXに表示条件の設定機能を追加しました。

(12)表BOXエディタの操作性改善を図りました。

(13)表BOXへの一括マッピング機能・自動可変表機能を追加し、マッピングの操作性改善を図りました。

Ver.1.00.00(2005.07)

初版

著作権

プログラム使用権許諾

【通常ライセンスの場合】

1. 適用

以下の事項は、(株)フォーラムエイトがおお客様にご購入いただいたフォーラムエイト社製品シリーズの各製品(コンピュータープログラム、プログラム製品媒体及びプロテクト、プログラム製品添付資料など以下「プロダクツ」という)に適用いたします。

2. 使用権の許諾

- 1) お客様は、プロダクツを「ユーザー登録カード」で登録された1台の機械(コンピューター)においてのみ使用することができます。但し、LAN対応プロダクツとして当社が提供した場合に限り、定められた使用数の範囲内での登録された機械で使用することができます。
- 2) お客様は、如何なる事由に因ろうともプロダクツを譲渡、販売、転貸しはできません。
- 3) お客様は、プロダクツを有料、無料にかかわらず、転貸しすることはできません。
- 4) お客様は、プロダクツの複製をつくることはできません。
- 5) お客様は、当社の許諾なしにプロダクツを解析したり、改変したりすることはできません。

3. プロダクツの改訂

- 1) プロダクツは、機能追加・入出力の改善等の改訂を行う場合があります。
- 2) プロダクツ使用権を有するお客様には、別途定める料金にて改訂版プロダクツと交換致します。

4. 保証の範囲

- 1) プログラム製品の記録媒体を購入した場合は、その記録媒体に不良があった場合、また製品添付の資料等に落丁・乱丁があった場合には、お客様がプロダクツを購入された日から1ヶ月に限り、無償で良品とお取り替え致します。
- 2) 当社は、お客様の逸失利益、使用不可能による損失及び第3者からお客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害を含む如何なる損害についても責任を負いません。
- 3) 当社は、コンピュータ・ウイルスによる損害に対し、一切の責任を負いません。お客様ご自身の責任でウイルスチェック、駆除等の対策を講じるものとします。
- 4) お客様が「ユーザ登録カード」にご記入のうえご返送いただいた場合に限り、以下のカスタマーサポートサービスが受けられます。但し、カスタマーサポートが受けられる期間は、プロダクツ購入後、1年間とさせていただきます。
 - ・プロダクツを含む当社製品の改訂及び新製品情報をご送付いたします。
 - ・プロダクツに関するお問い合わせに対しては、「サポート窓口」が対応いたします。
 - ・お客様がプロダクツの媒体を破損した場合には、規定の料金で良品と交換致します。

5. 契約期間

- 1) 本契約は、お客様がプロダクツを受領開封した時点より発効します。ダウンロードによる購入申込を行った場合は、当社がパスワードを発行した時点で発効します。
- 2) プロダクツ購入後1年間を経過した後のカスタマーサポートサービスは、「保守・サポート契約」等により継続または更新することが可能な場合があります。当社が別途定める「保守・サポート契約」等でご確認下さい。
- 3) お客様が本契約の条項に違反した場合は、当然に本契約は解除され、プロダクツは当社に返却して頂きます。
- 4) 上記3)の場合、プロダクツの代金は返還いたしません。

【レンタルライセンス・フローティングライセンスの場合】

1. 適用

以下の事項は、(株)フォーラムエイト(以下「当社」という)がお客様により申し込みいただいたフォーラムエイト社製品シリーズのうち、レンタルライセンス、フローティングライセンスによる提供製品「コンピュータープログラム」(以下「プロダクト」という)に適用いたします。

2. 使用権の許諾

- 1) お客様は、プロダクトを登録したサービス利用者(フローティングライセンスの場合は、組織に属する者)においてのみ使用することができます。
- 2) お客様は、如何なる事由に因ろうともプロダクトを譲渡、販売、転貸しはできません。
- 3) お客様は、プロダクトを有料、無料にかかわらず、転貸しすることは、できません。
- 4) お客様は、プロダクトの複製をつくることはできません。
- 5) お客様は、当社の許諾なしにプロダクトを解析したり、改変したりすることはできません。

3. 保証の範囲

- 1) 当社は、お客様の逸失利益、使用不可能による損失及び第三者からお客様に対してなされた損害賠償請求に基づく損害を含む如何なる損害についても責任を負いません。
- 2) 当社は、コンピューター・ウイルスによる損害に対し、一切の責任を負いません。お客様ご自身の責任でウイルスチェック、駆除等の対策を講じるものとします。
- 3) お客様は、プロダクトの利用登録後、「サポート窓口」でのプロダクトに関する問い合わせサポートをカスタマーサービスとして受けることができます。但し、カスタマーサービスが受けられる期間は、ライセンスの有効な期間内とさせていただきます。

4. 契約期間

- 1) 本契約は、お客様がプロダクトを購入した時点より発効します。
- 2) お客様が本契約の条項に違反した場合は、当然に本契約は解除され、当社は、何らの通知催告を要せずに即時に解約(利用登録の削除)できるものとします。
- 3) 上記2)の場合、プロダクトの使用料金は返還致しません。

有償機能について

下記の機能は、有償機能となります。

1. BOX の追加 : BOX を追加することはできません。
2. BOX の貼り付け : BOX の貼り付けはできません。
3. 見出しの追加 : 目次編集機能のうち、「見出しの追加」は利用できません。
4. 辞書ツリーの表示 : マッピング辞書を利用する機能は全て利用できません。
5. 表示条件の設定 : BOX の表示条件の設定変更はできません。

BOXとは、基本データをプレビュー画面上に配置するためのベースとなるものです。

■ Viewer版 (F8DocServのライセンスをお持ちでない) の場合

有償機能はご利用いただけません。

■ F8出力編集ツールのライセンスをお持ちの場合

上記有償機能のうち、1,2,3の機能をご利用いただけます。

必要システムおよびプロテクト

必要システム

■オペレーティングシステム

Windows 98/ME/NT 4.0(SP4 以降)/2000/XP 等の 32 ビット Windows 環境を有す OS (推奨 : Windows2000以上)

Windows3.1では動作致しません。

Windows95での動作保証はできません。

Microsoft社の無償サポート期限の切れたOSに関しては、動作保証ができない場合があります。

・Windows98、および Windows98 SE(Second Edition) 無償サポートは、2003 年 6 月 30日をもって終了しております。

・WindowsME(Millennium Edition) 無償サポートは、2003 年 12 月 31日をもって終了しております。

他形式ファイルの出力 (Microsoft Word文書) には、Microsoft Wordがインストールされていなければなりません。

・Microsoft Word 2000/2002/2003/2007に対応しています。(推奨 : Microsoft Word 2003)

Word(Office)は、Microsoft Updateで最新の状態にしておくことをお勧めいたします。

・Microsoft Word 2007以降は未対応です。

掲載されている各社名および各社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

■ハードウェア

CPU Pentium 333MHz以上 (推奨 : Pentium4以上)

■ディスプレイ

解像度が800×600ドット以上 (推奨 : 1024×768ドット以上)

■ハードディスク

約15MB以上必要 (インストール時)

実行時のWindows作業領域は1GB以上の空きを推奨

■メモリ

256MB以上 (推奨 : 1GB以上)

■ネットワーク

IPX,TCP/IP,NetBIOS等のプロトコル

■プロテクト

ハードウェアキー (プリンタポートへの接続)

タイプ1 : アンフェノール (36ピン)

タイプ2 : D-SUB (25ピン)

タイプ3 : USB

ネットワーク対応ハードウェアプロテクトキーの場合は、クライアント側にはハードウェアプロテクトキーの接続は必要ありません。

レンタルライセンス、フローティングライセンスの場合は、Web認証方式となりますのでハードウェアプロテクトキーはありません。

『[概要](#) | [プログラムの機能概要](#) | [制限事項等](#)』もあわせてご確認ください。

ハードウェアプロテクトキー

製品版を使用するためには、当社から提供されるハードウェアプロテクトキーの装着が必要です。
プロテクトに関する情報は、別途『導入の手引き』を参照ください。

ハードウェアプロテクトキーが装着されていないシステムでプログラムを起動すると、Viewer版として動作します。

【重要な注意事項】

プログラム動作中にハードウェアプロテクトキーの着脱は絶対に行わないで下さい。プログラムが中断されデータが失われることがあります。

プロテクト

本プロダクトは、ハードウェアプロテクトキー、または、Web認証方式(レンタルライセンス・フローティングライセンス)により有償機能の不正使用を防止しています。このため、ハードウェアプロテクトキーが接続されてない場合やWeb認証を行っていない場合は、無償版として動作します(有償機能が使用できません)。

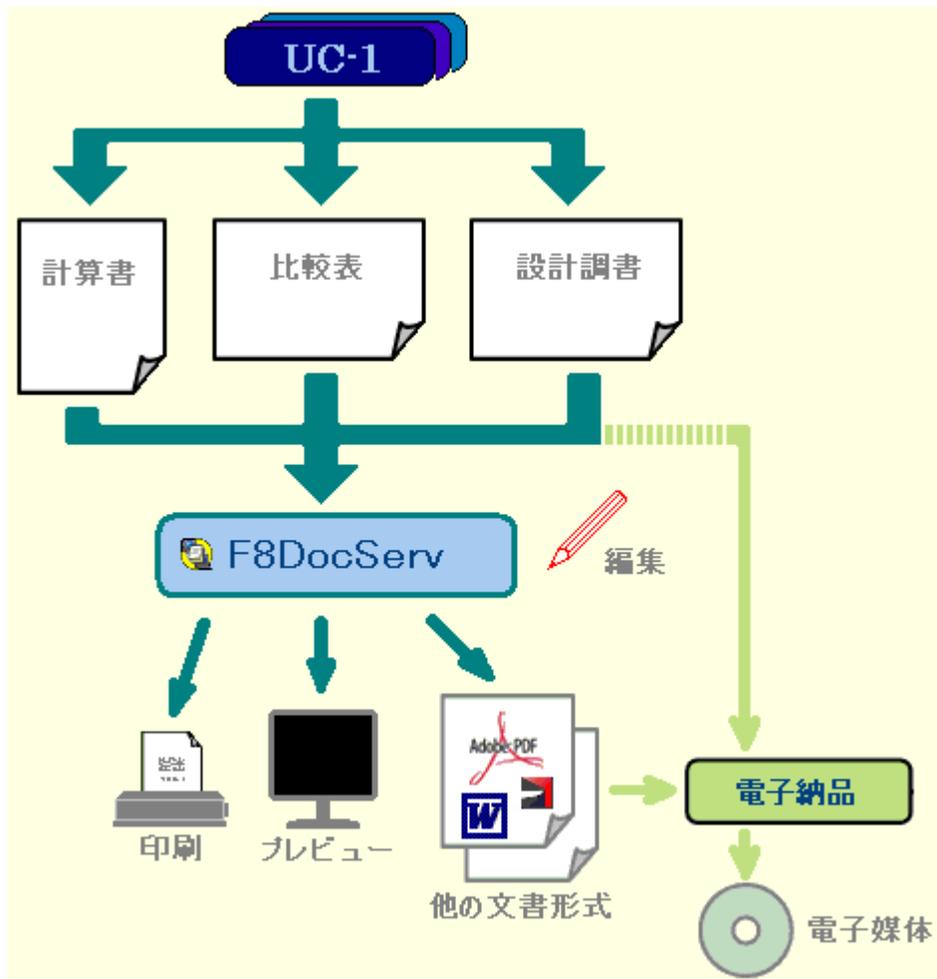
本プロダクトの機能一覧:『[機能詳細](#) | [機能一覧](#)』

有償機能について:『[著作権](#) | [有償機能について](#)』

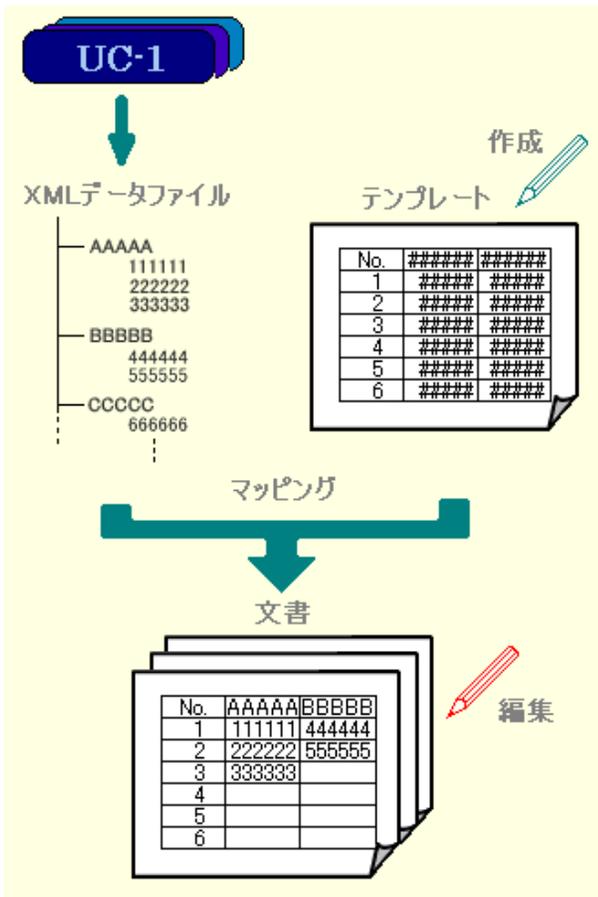
プログラムの機能概要

機能および特長

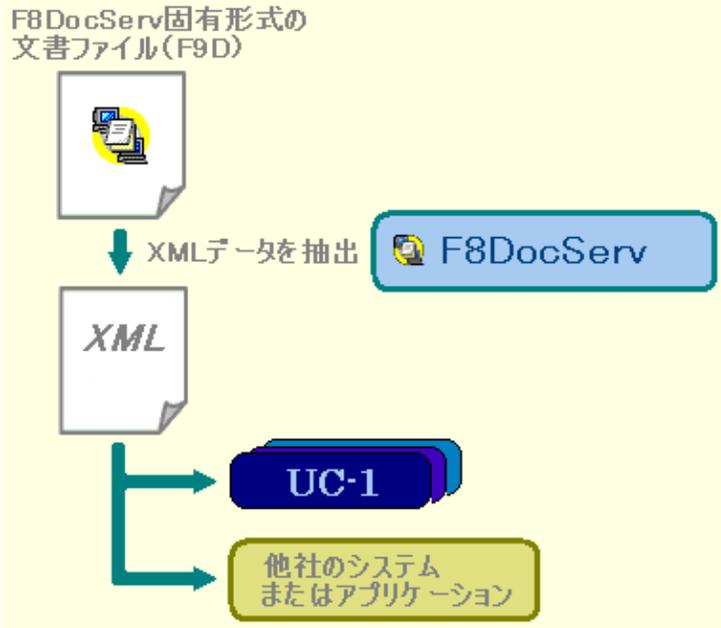
本プログラムは、当社製品が出力する計算書、比較表、設計調書などの電子納品に対応した各種文書を統合的にサポートするドキュメンテーションツールで、当社製品から出力された各種文書データの結合、編集、プレビュー、印刷および他の出力形式での保存を行うことができます。



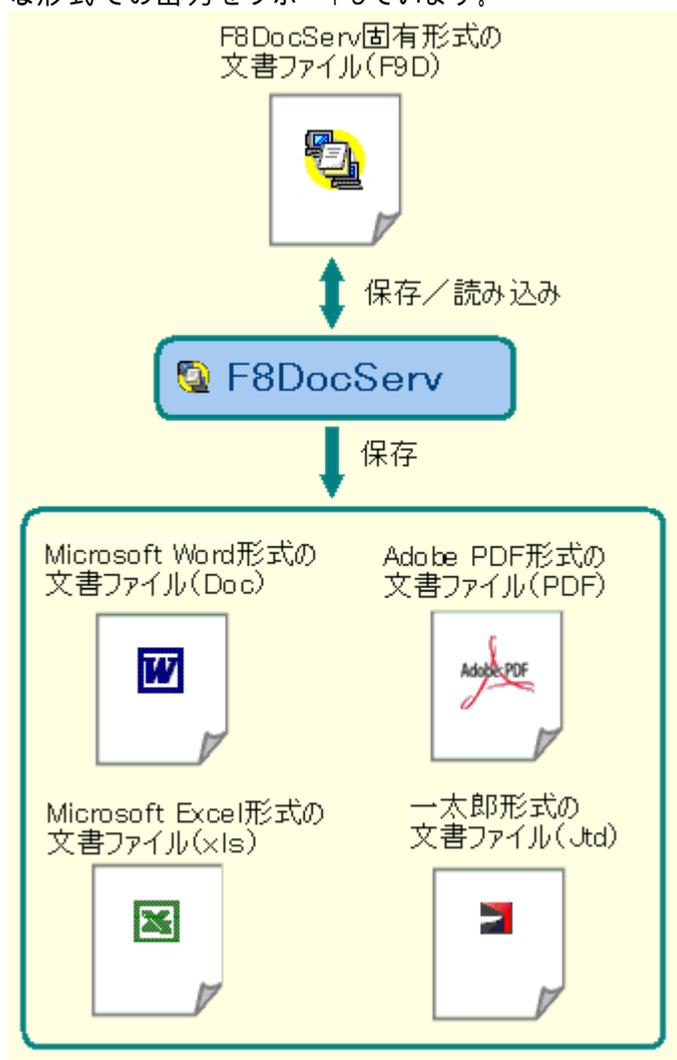
また、テンプレート(文書雛形)を用いたXMLデータのマッピング機能を利用すれば、当社製品のXMLデータを文書として簡単に書式化できますので、文書作成の大幅な省力化と自由な形式での文書作成が容易に実現できます。



更に、本プロダクト自身も文書データをXML形式で保持しているため、文書内で使用したXMLデータを文書の中からそのまま抽出することができますので、文書を介してのデータ交換が他のシステムへの提供を含めて可能となります。



他社アプリケーション等へのデータ提供として、XML以外にも、汎用ワープロソフトを始めとした様々な形式での出力をサポートしています。



Microsoft Excel形式および一太郎形式は、今後のバージョンで対応予定。

上記のように、本プロダクトでは、これまで当社が提供してきた『F8出力編集ツール』や『調表出力ライブラリ』などの出力系ツールの特長を継承しつつ、その後継製品として、より充実した機能と操作性を実現しています。

継承元の製品である『F8出力編集ツール』および『調表出力ライブラリ』との互換性については、[『概要 | プログラムの機能概要 | 旧製品との互換性について』](#)をご参照ください。

旧製品との互換性について

本プロダクトは、『F8出力編集ツール(製品に組み込まれているF8 - PPFを含む)』および『調表出力ライブラリ』の後継製品として、これらの製品との互換性を以下の機能によって維持しています。

つまり、本プロダクト対応の製品でなくても、『F8出力編集ツール』または『調表出力ライブラリ』に対応した製品であれば、本プロダクトの使用が可能です。

尚、製品毎の対応状況につきましては、当社ホームページ (<http://www.forum8.co.jp/>)にてご確認ください。

■『F8出力編集ツール』ファイルの読み込み(拡張子:ppf)

『F8出力編集ツール』で保存されたファイルを体裁の互換性を保ち本プロダクトに読み込みます。但し、本プロダクトから『F8出力編集ツール』が保存するファイル形式での保存はできません。

■『調表出力ライブラリ』ファイルの読み込み(拡張子:f8s、f8c)

『調表出力ライブラリ』で保存されたファイル(当社の調表対応製品から調表用ファイルとして保存されたファイル(f8cファイル)、および調表のテンプレートファイル(f8sファイル)を含む)を体裁の互換性を保ち本プロダクトに読み込みます。

但し、本プロダクトから『調表出力ライブラリ』が保存または使用するファイル形式での保存はできません。

■各製品からの呼び出しをトラップ

当社製品から呼び出される『F8出力編集ツール』および『調表出力ライブラリ』は、本プロダクトがインストールされた環境では、それらに代わって本プロダクトがその呼び出しを受け取る事ができます。

(環境設定ツール(F8DocServ Maintenance Tool)での設定が必要です。)

従いまして、『F8出力編集ツール』または『調表出力ライブラリ』に対応した製品であれば、本プロダクト対応の製品でなくても、本プロダクトをインストールするだけで、本プロダクトの使用が可能になります。

制限事項等

■機能制限

本プロダクトのViewer版は、利用できる機能に制限があります。
機能制限については『[著作権 | 有償機能について](#)』をご覧ください。
本プロダクトの全機能の一覧は、『[機能詳細 | 機能一覧](#)』でご確認いただけます。

■OSに関する制限および注意事項

Windows3.1では動作致しません。
Windows95での動作保証はできません。
Microsoft社の無償サポート期限の切れたOSに関しては、動作保証ができない場合があります。

■WORD形式出力に関する注意事項

WORD形式での出力には、本プロダクトを使用するマシン(PC)にMicrosoft社のMicrosoft Wordがインストールされている必要があります。
また、WORD形式での出力においては、一部の環境にて幾つかの不具合(WORD形式での出力エラー)を確認しております。これらは、本プロダクトでは回避不可能な不具合も含まれていますので、できるだけ最新バージョンのWordをご使用ください。(Word2003を推奨)
Microsoft社の提供するMicrosoft Updateを利用する事で、最新の状態のWord(Office)を使用することができます。

■一太郎形式出力に関する注意事項

(一太郎形式出力は、今後のバージョンで対応予定)
一太郎形式での出力には、本プロダクトを使用するマシン(PC)にジャストシステム社の一太郎がインストールされている必要があります。
また、一太郎形式での出力においては、不具合等は報告されていませんが、Word同様のケースも考えられますので、できるだけ最新バージョンの一太郎をご使用ください。(一太郎8以上を推奨)

掲載されている各社名および各社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

プログラムの機能詳細

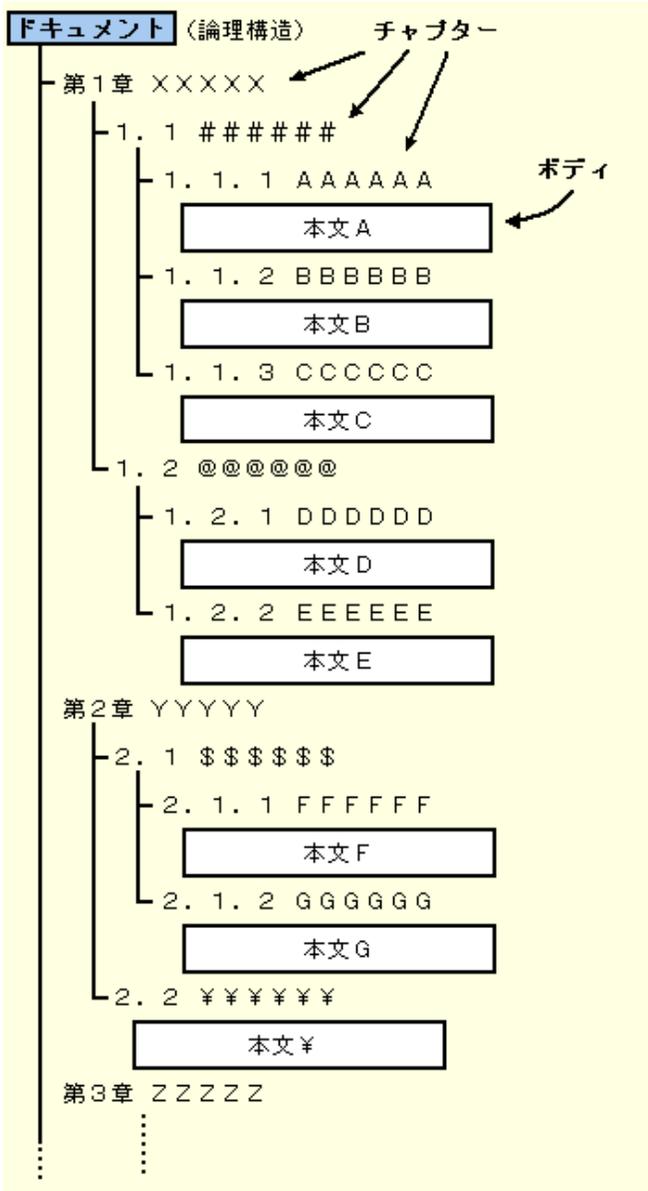
構成

ドキュメントの構成

本プロダクトでは、ドキュメントを『章立て』による論理構造で保持し、印刷段階(プレビュー/編集時を含む)において物理構造である『ページ』単位に分割しています。

論理構造

一般的な文書構成と同様に、『[CHAPTER\(章, 節, 項...](#)』のツリー(木)構造を骨格として、各CHAPTERに『[ボディ\(本文\)](#)』を従属させる形でドキュメントを構成しています。
例えば、章, 節, 項の3階層からなる標準的なドキュメントの場合は、以下の様な論理構造になります。



また、ボディ(本文)は、テキスト、表、グラフィック、数式、行列式、マッピング画像、および、これらの集合であるブロックの各要素から構成されます。

・テキスト

下記例のように、改行を含む複数行の文字列からなる要素で、複数のフォントが混在できます。

標準サンプルテキスト

色の異なるサンプルテキスト

斜体文字 **太文字** *斜体* **太文字**

サイズの異なるサンプルテキスト

上付き文字¹²³⁴⁵ 下付き文字_{ABCDE}

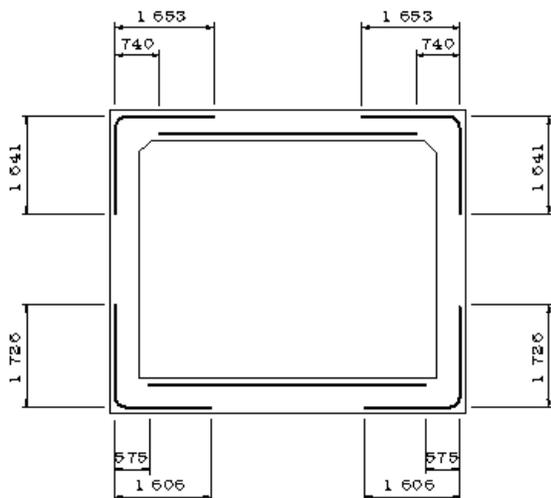
・表

下記例のように、罫線で区切られた表形式の要素で、表内には更にテキストや図などの要素を含む事ができます。

コンクリート	設計基準強度 c_k	N/mm ²	24.00
	ヤング係数 E_c	N/mm ²	2.50×10^4
	許容曲げ圧縮応力度 c_a	N/mm ²	8.00
鉄筋	材質	-	SD345
	許容曲げ引張応力度	N/mm ²	180.00
ヤング係数比 n		-	15.0
静止土圧係数 K_o		-	0.500
土砂の単位重量		kN/m ²	18.00
過裁荷重 h_o		kN/m ²	10.00
過裁荷重土砂換算高 $h_o=Q_v /$		m	0.556

・グラフィック

下記例のように、線や文字、画像からなるメタファイルやビットマップなどの図形要素です。



・数式

下記例のように、(ルート)や(インテグラル)など、数式特有の記号や配置を有する要素です。

$$= \sqrt[4]{\frac{kH \cdot D}{4 \cdot E \cdot I}} = 0.149629(m^{-1})(\text{常時})$$

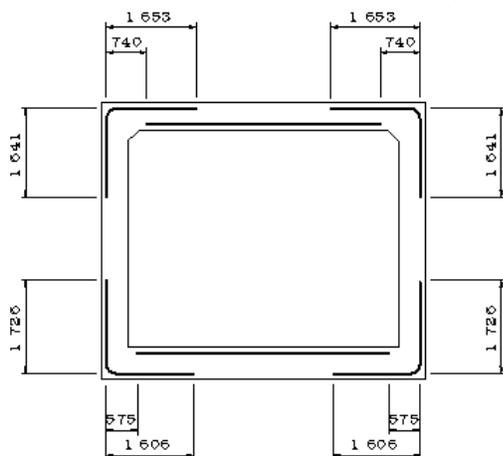
・行列式

下記例のように、行列より成る式を表現する要素です。

$$\begin{bmatrix} V \\ Hx \\ My \\ Hy \\ Mx \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} Azz & Azx & Azay & Azy & Azax \\ Axz & Axx & Axay & Axy & Axzx \\ Aayz & Aayx & Aayay & Aayy & Aayax \\ Ayz & Ayx & Ayay & Ayy & Aya \\ Aaxz & Aaxx & Aaxay & Aaxy & Aaxax \end{bmatrix} \begin{bmatrix} z \\ x \\ y \\ y \\ x \end{bmatrix}$$

・マッピング画像

XMLマッピング機能により、マッピングデータ(XMLデータ)から引用して図形要素を表示する領域で、引用先の情報だけを有する要素です。



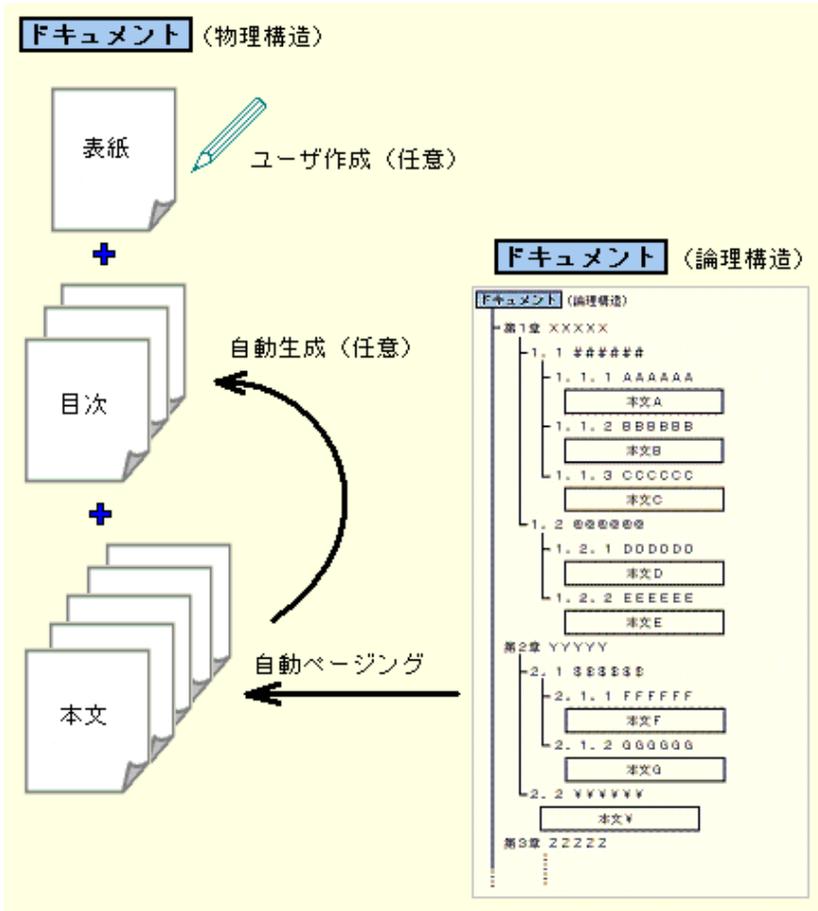
・ブロック

テキスト、表、グラフィック、数式、行列式、マッピング画像の任意の組み合わせから成る複数の要素を1つの要素と同等に扱うための要素で、ブロック自体は何の描画情報も持ちません。

ブロック要素は、表要素の1つのセルに複数の要素を配置する場合や、改ページによる要素の分断を避ける目的で使用されます。

■物理構造

ドキュメントのプレビュー、印刷、編集時に動的に作成されるページから成る構造で、『表紙』ページ、『目次』ページ、『本文』ページから構成されます。



『表紙』ページは、本プロダクトの設定において任意に指定されたデータで、ドキュメントの先頭に1ページのみ存在します。『表紙』ページの付加は、ユーザの任意です。

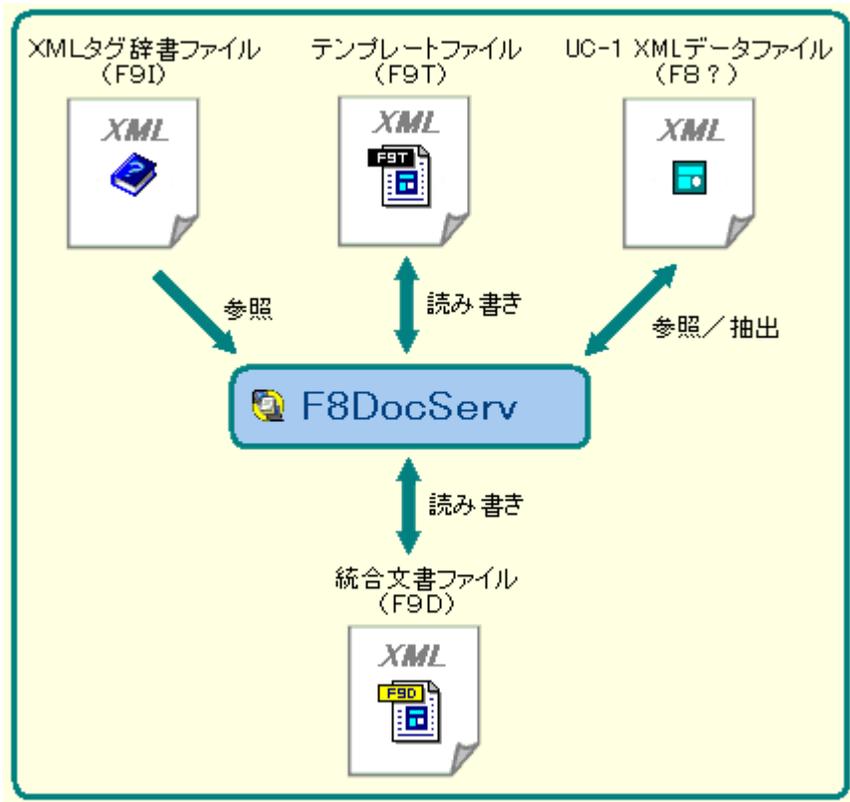
『目次』ページは、『本文』ページから抽出された論理構造におけるチャプターの羅列で、動的に生成された『本文』ページのページ番号を含みます。この『目次』ページは、『表紙』ページの次に付加され、複数ページとなる場合もあります。『目次』ページの付加は、ユーザの任意です。

『本文』ページは、論理構造のデータをページ単位に分割したものです。このページ単位への分割においては、論理構造におけるデータの単位が体裁よくページへ分割できるよう様々な設定や機能が盛り込まれています。

ファイルの構成

本プロダクトの純粋なファイルは、以下のファイルになります。

■本プロダクトの純粋なファイル



・XML タグ辞書ファイル (F9I)

UC-1 XMLデータファイルの構造を定義した辞書ファイルで、UC-1 XMLデータファイルの各項目を可変項目としてテンプレート上に配置するために使用します。また、UC-1 XMLデータをテンプレートにマッピングし統合文書ファイルを生成する際にも使用されます。

このファイルは、当社の各製品より提供されるもので、ユーザでの変更はできません。但し、F8DocServでユーザ固有のデータファイルをマッピングの対象としたい場合は、ユーザ固有のデータファイルの構造を『XMLタグ辞書ファイル』の形式で一般のテキストエディタ等を使用し作成する事で対応できます。

尚、このファイルの目的はXMLスキーマにも似ていますが、XMLスキーマとは全く異なり、F8DocServ固有の簡単なルールとタグで構成されています。

・テンプレートファイル (F9T)

統合文書ファイルを作成する際の雛形となるデータで、UC-1 XMLデータファイルを用いたXMLマッピングにて使用されます。

このファイルには、ドキュメントの固定情報と可変項目の埋め込み位置が定義 (レイアウト) されています。

このファイルは、当社の各製品より提供されるものですが、ユーザでの変更 (編集) も自由に行えます。勿論、ユーザで新規に作成する事も可能です。

・UC-1 XML データファイル (F8?)

当社UC-1製品のデータファイルで、入力データや計算結果などがXML形式で格納されています。各製品では、このファイルをF8DocServで扱えるよう、各製品用のXMLタグ辞書ファイルを提供します。

・統合文書ファイル (F9D)

最終目的物である文書(ドキュメント)を格納したファイルです。

このファイルのデータは、いつでもF8DocServに読み込み、表示、編集、印刷およびデータの抽出を行う事ができます。

尚、データの抽出は、XMLマッピングを使用して生成されたファイルに対してのみ実行できます。

上記に加え、本プロダクトでは他のプロダクト用に作られた以下のファイルに対してもサービスを提供します。

但し、これらの印刷イメージは、仕様の相違からF8DocServとは完全に一致しない場合があります。

■ 調表出力ライブラリのファイル



・編集ファイル(F8C)

当社製品により出力された計算結果を含んだ調表データで、調表出力ライブラリ側で明示的に調表データとして保存されたファイルです。

このファイルは、印刷直前の完成した調表で、調表出力ライブラリの編集機能によりユーザにて修正されている場合もあります。

F8DocServでは、このファイルをドキュメントとして読み込み、編集 / 印刷する事ができます。

・テンプレートファイル(F8S)

調表の雛形となるデータを保存したファイルで、当社製品が出力する計算結果が埋め込まれる前のデータファイルです。

このファイルは、当社製品より提供されるもので、ユーザでの作成 / 編集はできません。

F8DocServでは、このファイルをF8DocServ用のテンプレートデータに変換し読み込みます。以降、このデータはF8DocServ用のテンプレートとして編集する事ができます。

・データファイル(BTDT)

当社製品より調表用に出力される計算結果が格納されたファイルです。

前記テンプレートファイルにこのデータファイルの内容を埋め込む事で目的とする調表が完成されます。

F8DocServでは、このファイルを前記テンプレートファイル用のデータファイルとしてF8DocServ用のXML形式に変換し読み込みます。以降、このデータを使った別形式のテンプレートを作成すれば、当社製品が提供する調表の形式以外のドキュメントとしてこのデータを活用する事ができます。

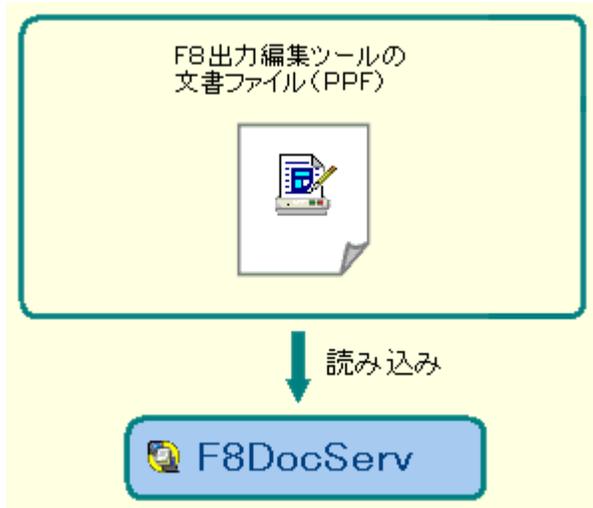
・データ名称ファイル(BTDN)

前記データファイルを前記テンプレートに埋め込むために使用されるインデックス情報を格納したファイルです。

このファイルは、当社製品より提供されるもので、ユーザでの作成 / 編集はできません。

F8DocServでは、このファイルをF8DocServ用のXMLタグ辞書ファイルに変換し読み込みます。このデータはF8DocServでも参照するのみで変更する事はできません。

■F8出力編集ツール(F8-PPF)のファイル

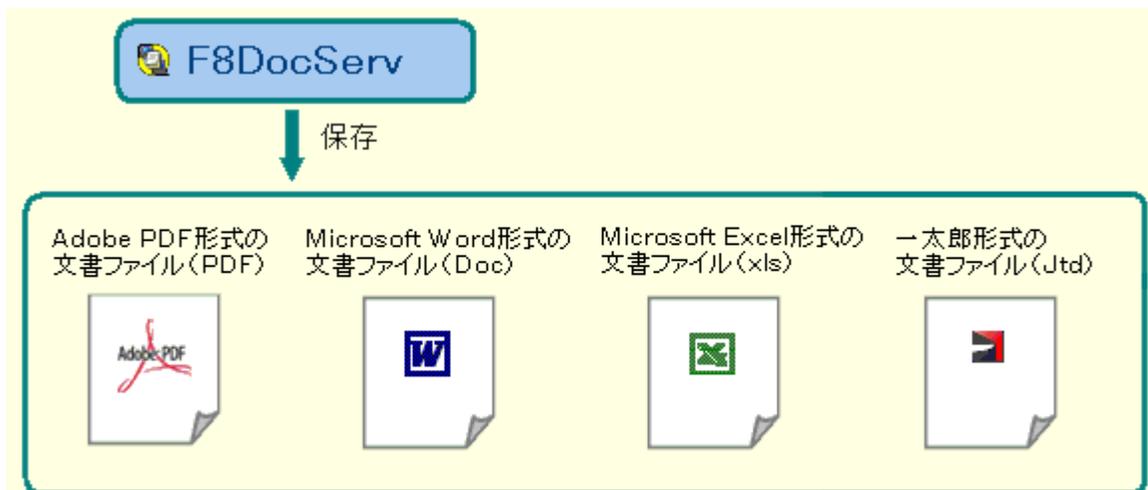


・文書ファイル(PPF)

当社製品の計算書として出力される完成された文書データを格納したファイルです。

F8DocServでは、このファイルをドキュメントとして読み込み、編集 / 印刷する事ができます。

■他社プロダクトのファイル



F8DocServでは、完成されたドキュメントを上記製品用のファイルとして保存する事ができます。ここで保存されたファイルは、各製品にて直接読み込む事ができます。

Microsoft Excel形式および一太郎形式は、今後のバージョンで対応予定。

主要機能

本プロダクトは、以下の主要機能で構成されています。

これらの機能は、全て同一の操作環境(メインフォーム)上に実装されています。

■ドキュメントのプレビュー／印刷機能

本プロダクトの最も基本となる機能で、当社の各製品から出力されたドキュメントデータを印刷イメージで画面に表示し、指定されたページまたは章をプリンタに印刷します。

当社製品からの計算書等の出力においては、この機能だけで十分事足ります。

『F8出力編集ツール』相当の機能になります。

■ドキュメントの編集機能

本プロダクトの最も特長的な『テンプレートによるXMLマッピング機能』で使用するテンプレート作成のために実装された機能で、テンプレートのプレビューイメージを直接編集できます。

この編集機能は、テンプレートの作成だけでなく、本プロダクトで扱うドキュメントの全てに対して使用できるようプレビュー機能を中心に様々な機能に実装されています。

■テンプレートによるXMLマッピング機能

本プロダクトの最も特長的な機能で、あらかじめ作成し保存されたドキュメントの雛形(テンプレート)に、文書書式を伴わないXMLデータをはめ込み、ドキュメントを完成させます。

この機能を使用する事により、当社製品のXMLデータを、ユーザ固有の書式で文書化する事も可能となります。

『調表出力ライブラリ』相当の機能は、この機能に吸収されています。

■テンプレートの作成機能

本プロダクトの最も特長的な『テンプレートによるXMLマッピング機能』で使用するテンプレートを作成／編集する機能で、一般的な文書編集機能に加え、XMLマッピングの元となるマッピング辞書から可変項目をテンプレートに組み込む機能を実装しています。

■XMLデータの抽出機能

本プロダクトでは、ドキュメントデータをXML形式で保存しますが、『テンプレートを使用したXMLマッピング機能』を用いて作成されたドキュメントファイルには、マッピングの対象となったXMLデータファイルが、オリジナルと同等の形式で格納されています。このため、このドキュメントファイルからオリジナルのXMLデータファイルを抽出する事も可能となります。

この機能により、ドキュメントファイル自体がデータファイルと同等となる事でデータと文書の一元管理ができるばかりでなく、XML形式であるという事から、当社製品を含め他のシステムでの再処理がこのドキュメントファイルだけ行えるようになります。

■データのエクスポート機能

本プロダクトでは、文書データを独自のファイル形式(但し、XML形式)で保存しますが、他社製品のファイル形式(独自のファイル形式に対し外部形式と呼びます)での文書データの出力(エクスポート)もサポートしています。

尚、エクスポートされたファイルは、XML形式ではなくエクスポート先の独自の形式になりますので、

『XMLデータの抽出機能』にあるようなメリットは失われます。

■ 継承元製品のファイル読み込み機能

本製品の継承元である『F8出力編集ツール』および『調表出力ライブラリ』との互換性を維持するための機能で、これらが保存する独自形式のファイルを本製品用に変換して読み込みます。

プレビュー／印刷

プレビューおよび印刷機能は、本製品の最も基本となる機能です。

当社製品から出力されたドキュメントデータを印刷イメージで画面に表示し、指定されたページまたは章をプリンタに印刷します。

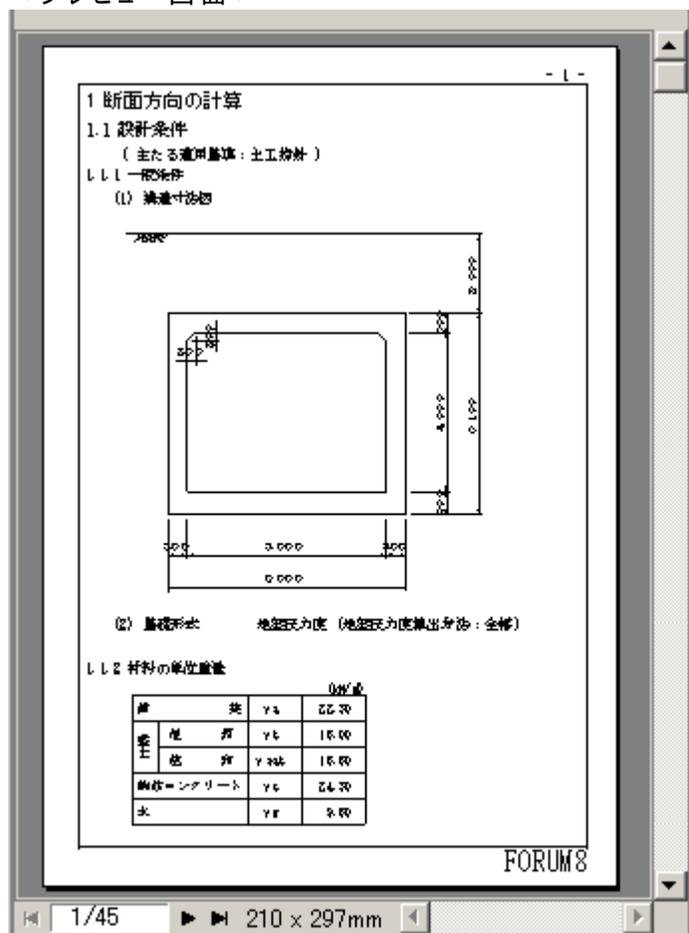
■ プレビュー表示・印刷

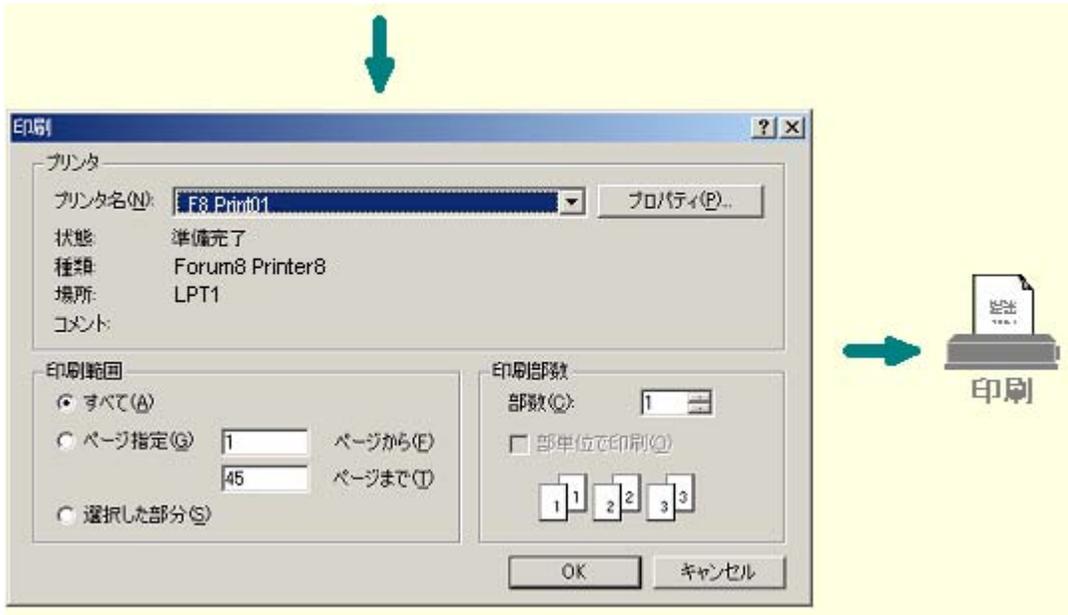
現在開いているドキュメントの印刷イメージは、プレビューに表示されます。(下図参照)

画面で内容を確認後、目的のページを印刷できます。

更に、本製品ではプレビュー画面においてドキュメントやテンプレートの編集作業も行えます。

<プレビュー画面>





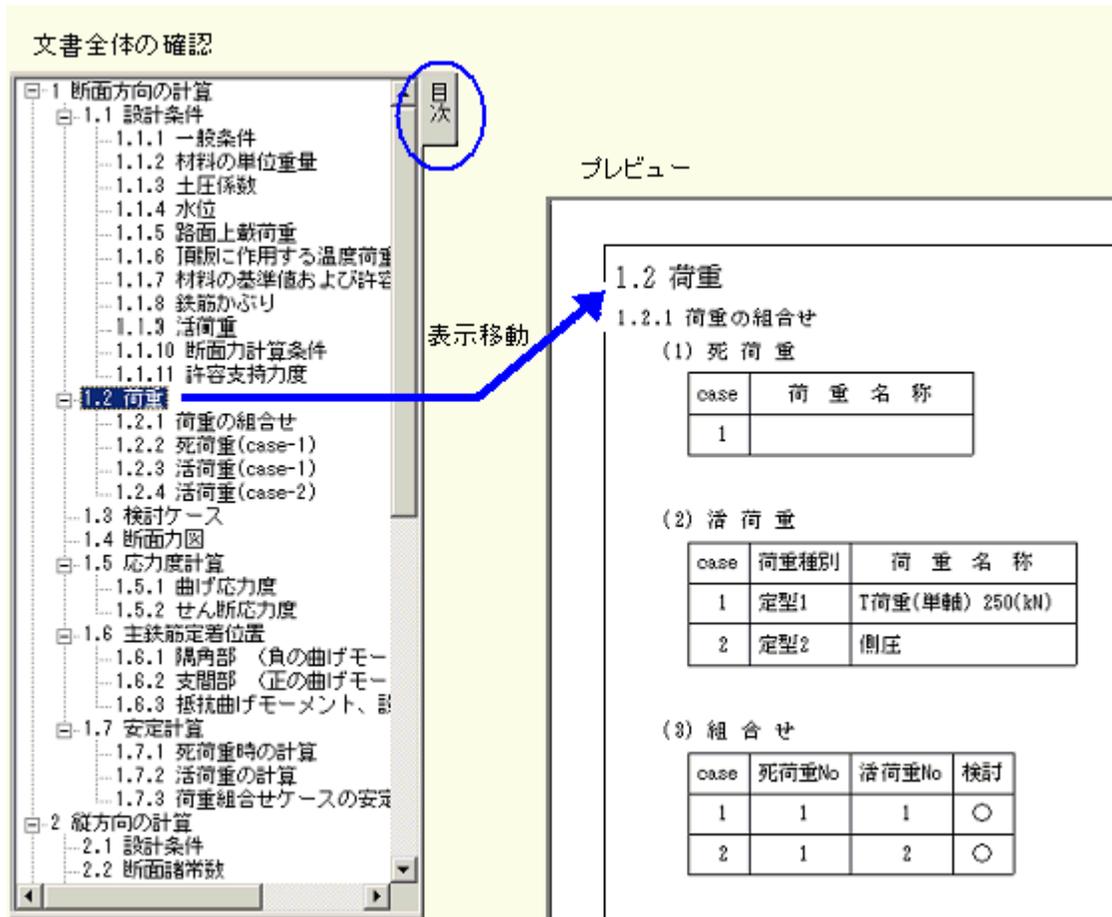
■プレビューとアウトラインフレーム

アウトラインフレームの「目次」「サムネイル」「マッピングデータ」画面を利用して、以下の操作が行えます。

- ・プレビュー画面のページ移動
- ・ドキュメント全体の構成確認
- ・使用しているデータの確認 等

目次

現在開いているドキュメントの見出しがツリー形式で表示され、全体の構成確認ができます。
また、ツリーの見出しをクリックすることで、プレビューの当該見出しへのジャンプ(表示移動)が行えます。

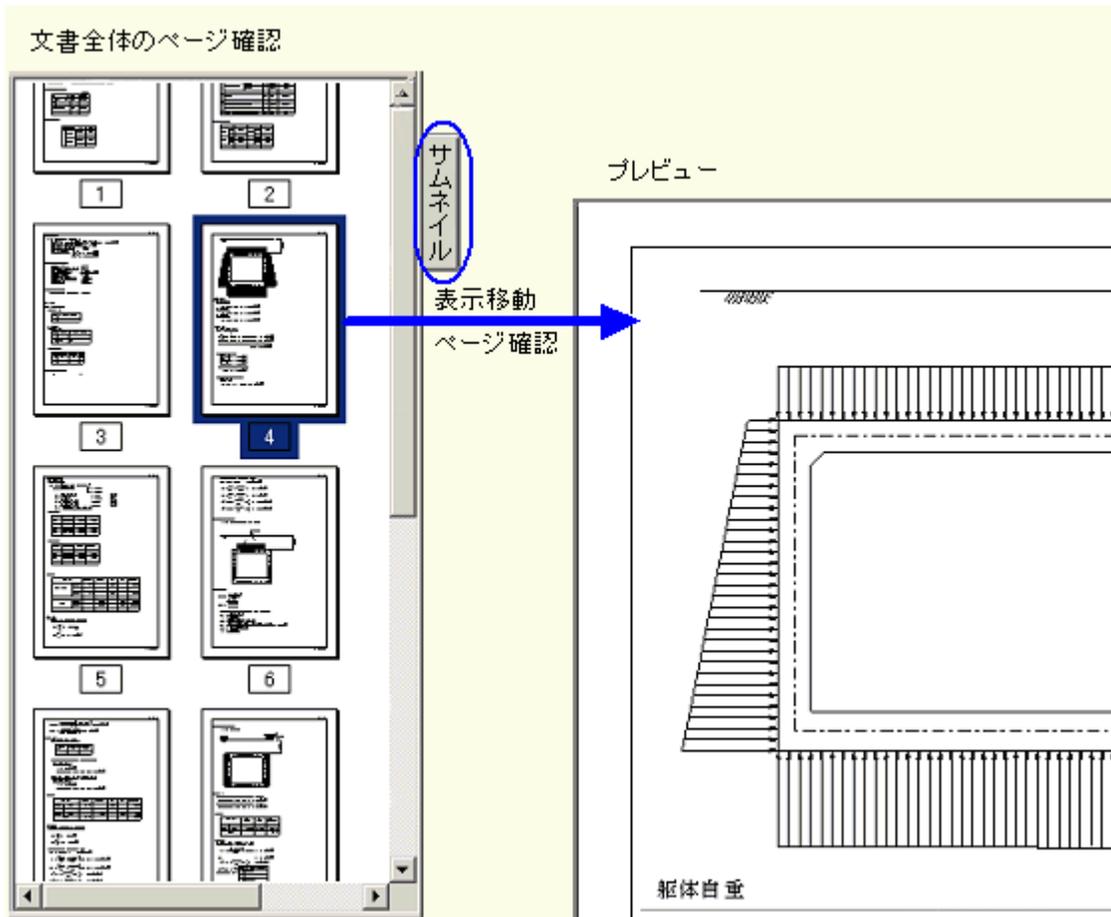


目次ツリーは章編集機能も備えており、以下の操作が行えます。

- ・章ごとの出力要否の選択
 - ・章単位での順序入替え、削除
 - ・章番号の振り直し
- 等

サムネイル

現在開いているドキュメントの全てのページがサムネイル形式で表示されます。
このサムネイルにより、ドキュメント全体のページ構成がイメージ的に把握できます。
また、このサムネイルをクリックする事で、クリックしたページをプレビュー画面にすばやく表示させる事ができます。

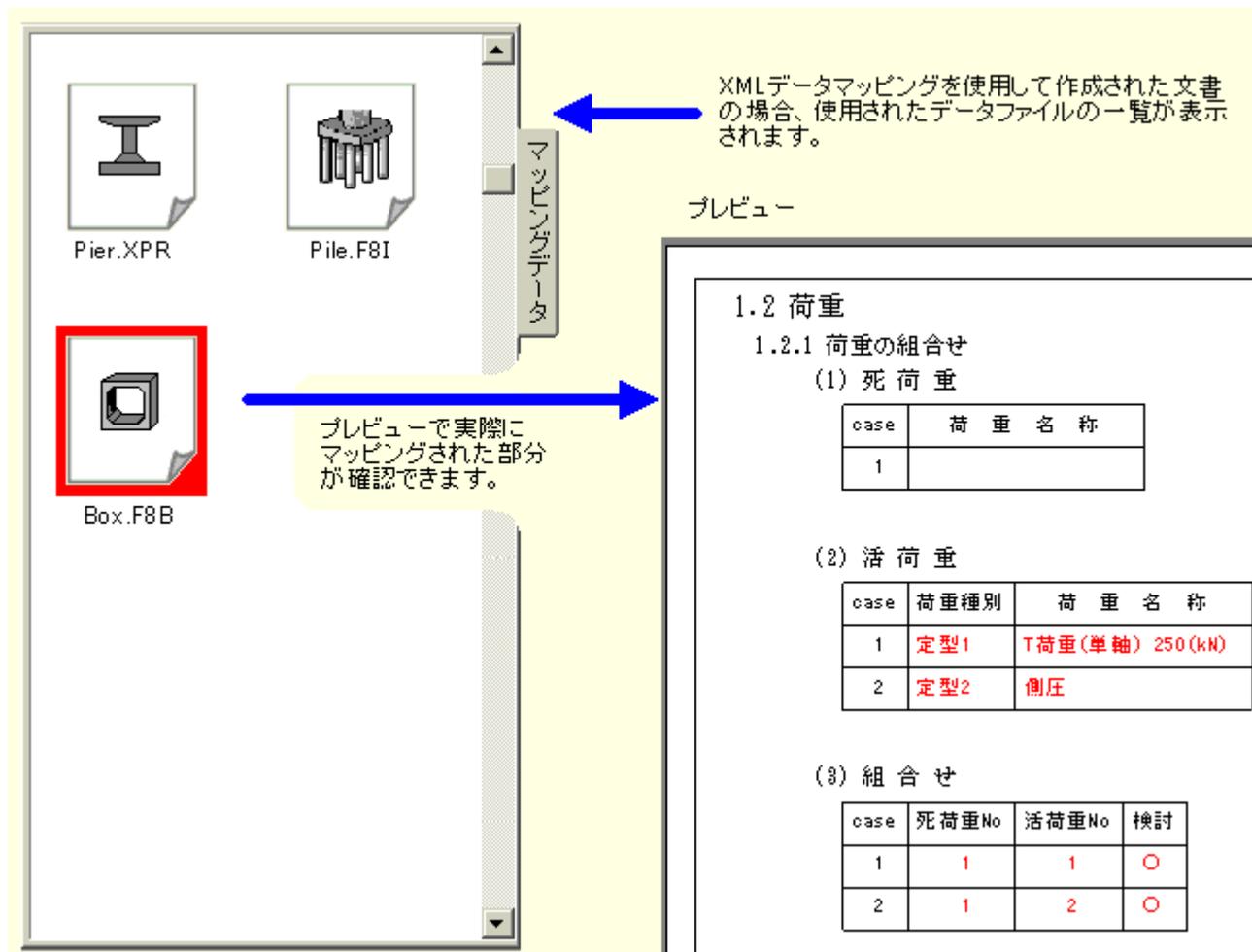


データ

現在開いているドキュメントがXMLマッピングを使用して作成されている場合、使用されたマッピングデータの一覧がこの画面に表示されます。

この画面に表示されているファイルをドラッグし、エクスプローラなどで表示しているフォルダにドロップする事で、このドキュメントで使用しているデータをドキュメントから抽出し、元のデータファイルとして保存する事ができます。

また、エクスプローラなどからデータファイルをドラッグし、この画面にドロップする事で、ドロップされたデータを現在のドキュメントに展開 (XMLマッピング) する事もできます。



編集

本プロダクトでは、プレビューにおいて新規ドキュメントの作成および既存ドキュメントの修正が行えます。

プレビューの本文(文字・図・表など)は全てBOXの中に入力されており、BOX内を編集することでドキュメントの作成・修正を進めることとなります。

■BOX

BOXは下記の7種類があり、ドキュメントを構成する要素(文字、図、表など)は必ずいずれかのBOX内に入力されています。

- ・テキスト BOX ・表 BOX ・グラフィック BOX
- ・行列式 BOX ・数式 BOX ・マッピング画像 BOX ・見出し BOX

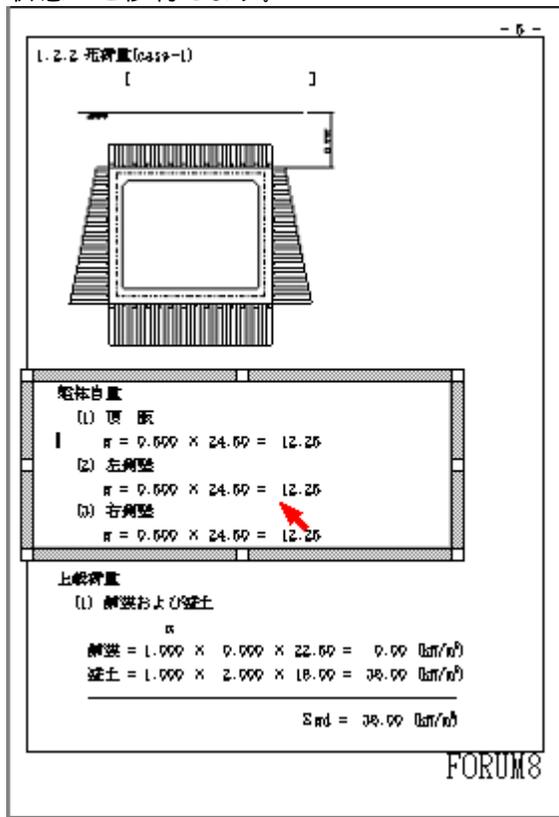
プレビュー上で新しくBOXを作成することもできます。

■選択状態

プレビュー上で、編集対象をマウスでクリックすると選択状態となり、下図のように外周がマーカーで囲われます。

マーカーで囲まれる範囲が1個のBOXです。選択状態のBOXを、もう一度クリックする事により編集

状態へと移行します。



■編集状態

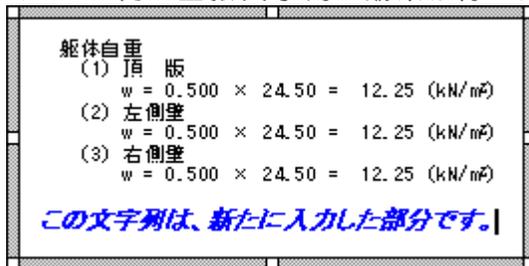
選択状態のBOXをもう一度クリックする事により、編集状態へと移行します。

編集状態では、インプレースエディタまたはアウトプレースエディタのいずれかが起動し、これを利用してBOX内の編集を行います。

起動するエディタの種類は、クリックしたBOXの種類によって異なります。

インプレースエディタ (テキストBOX, 見出しBOX)

下図のようにマーカー内がインプレースエディタに置き換わり、キャレットが表示されます。マーカー内で直接文字列の編集が行えます。



アウトプレースエディタ (表BOX, グラフィックBOX, 行列BOX, 数式BOX, マッピング画像BOX)

アウトプレースエディタとして別の画面が表示され、専用の編集操作を行います。

<例> 数式BOXの編集

・選択状態

$$q_l = \frac{\sum V}{B} + \frac{6 \times Me}{B^2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_r = \frac{\sum V}{B} - \frac{6 \times Me}{B^2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_l' = q_l + \frac{q_r - q_l}{B} \times \frac{T}{2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_r' = q_r + \frac{q_l - q_r}{B} \times \frac{T}{2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$



・編集状態 (数式専用のエディタ)

数式エディタ

数式コード

```

q_l = (\sum V)/(B) + (6 \times Me)/(B^2) = 64.75 (kN/m^2)
q_r = (\sum V)/(B) - (6 \times Me)/(B^2) = 64.75 (kN/m^2)
q_l' = q_l + (q_r - q_l)/(B) \times (T)/(2) = 64.75 (kN/m^2)
q_r' = q_r + (q_l - q_r)/(B) \times (T)/(2) = 64.75 (kN/m^2)

```

プレビューイメージ

$$q_l = \frac{\sum V}{B} + \frac{6 \times Me}{B^2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_r = \frac{\sum V}{B} - \frac{6 \times Me}{B^2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_l' = q_l + \frac{q_r - q_l}{B} \times \frac{T}{2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_r' = q_r + \frac{q_l - q_r}{B} \times \frac{T}{2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

確認

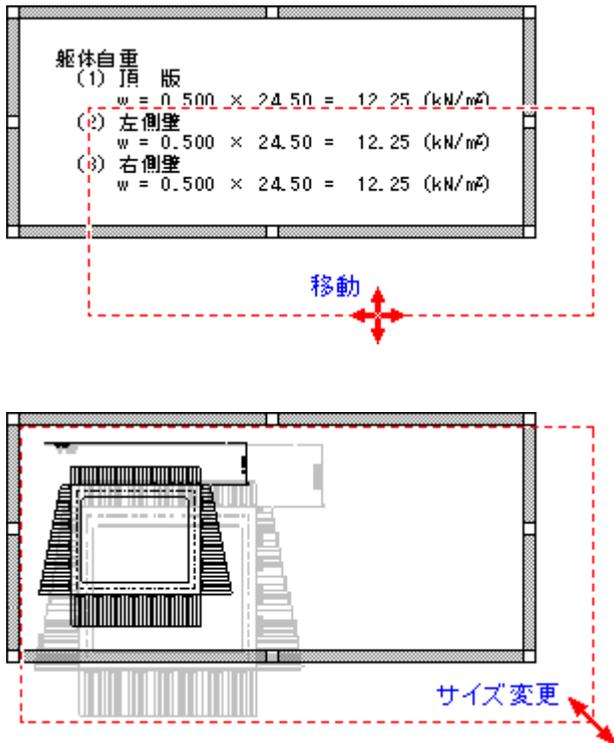
記号・テンプレート

√ ∑ ∫ () = % | →

✓ 確定 ✗ 取消 ? ヘルプ(H)

■移動／サイズ変更

選択状態では、マーカーの各部をドラッグすることで、当該BOXの移動やサイズ変更が行えます。



■ 削除

削除メニューにより、選択したBOXを削除する事ができます。

テンプレートの作成

テンプレートとは、最終目的物である文書(ドキュメント)のXMLマッピングを用いて作成する場合に使用される文書の雛形となるもので、**固定情報**と**可変項目**から構成されます。

固定情報とは、最終目的物である文書にそのまま出力される部分の情報で、設計調表でいうと用紙サイズや表の枠組み、項目名、固定的な文章などがこれに当てはまります。

この固定情報は、本プロダクトを用いて新規に文書を作成する場合と同様の操作で、簡単に作成する事ができます。

テンプレート(固定情報)

##### 一覧			
項番	項目名	内 容	備考
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
この表は、テンプレートのサンプルです。			

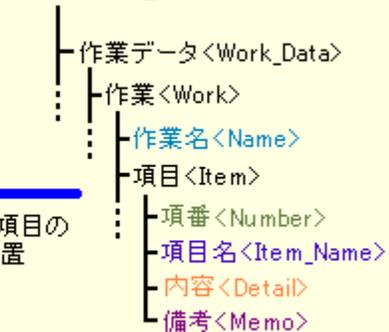
グレーの部分は、可変項目を示します。

可変項目とは、計算結果や計算に使用した入力データなど、対象に応じて変化する部分を示す情報で、マッピング辞書ファイルから引用し、前記固定情報との位置関係などを見ながら、テンプレート上に配置します。

テンプレート(可変項目)

##### 一覧			
項番	項目名	内 容	備考
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
##	#####	#####	####
この表は、テンプレートのサンプルです。			

マッピング辞書ファイル



← 可変項目の配置

グレーの部分は、固定情報を示します。

上記のように作成したドキュメントを、テンプレートとして保存することができます。

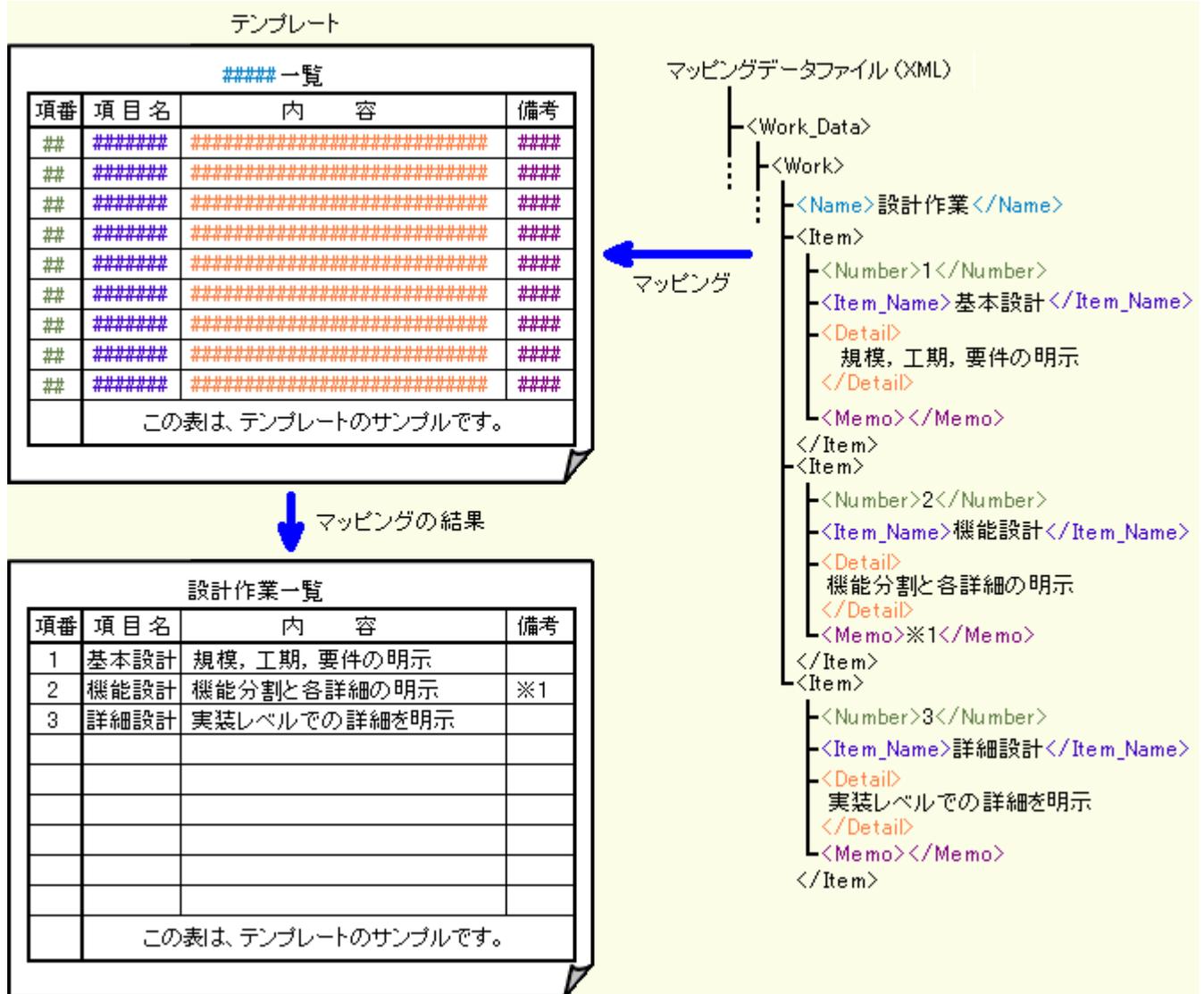
テンプレートによるXMLマッピング

■テンプレートとは

『[テンプレートの作成](#)』をご覧ください。

■XMLマッピング

XMLマッピングとは、予め用意されたテンプレートに実際のデータファイルの内容を埋め込む処理の事を言います。



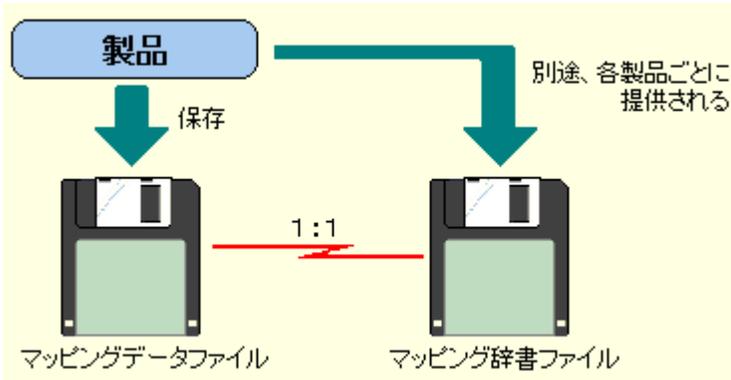
尚、当社製品の出力機能として使用する場合は、この処理は自動的に行われますので、特別な操作は必要ありません。

■ マッピング辞書ファイルとマッピングデータとの関係

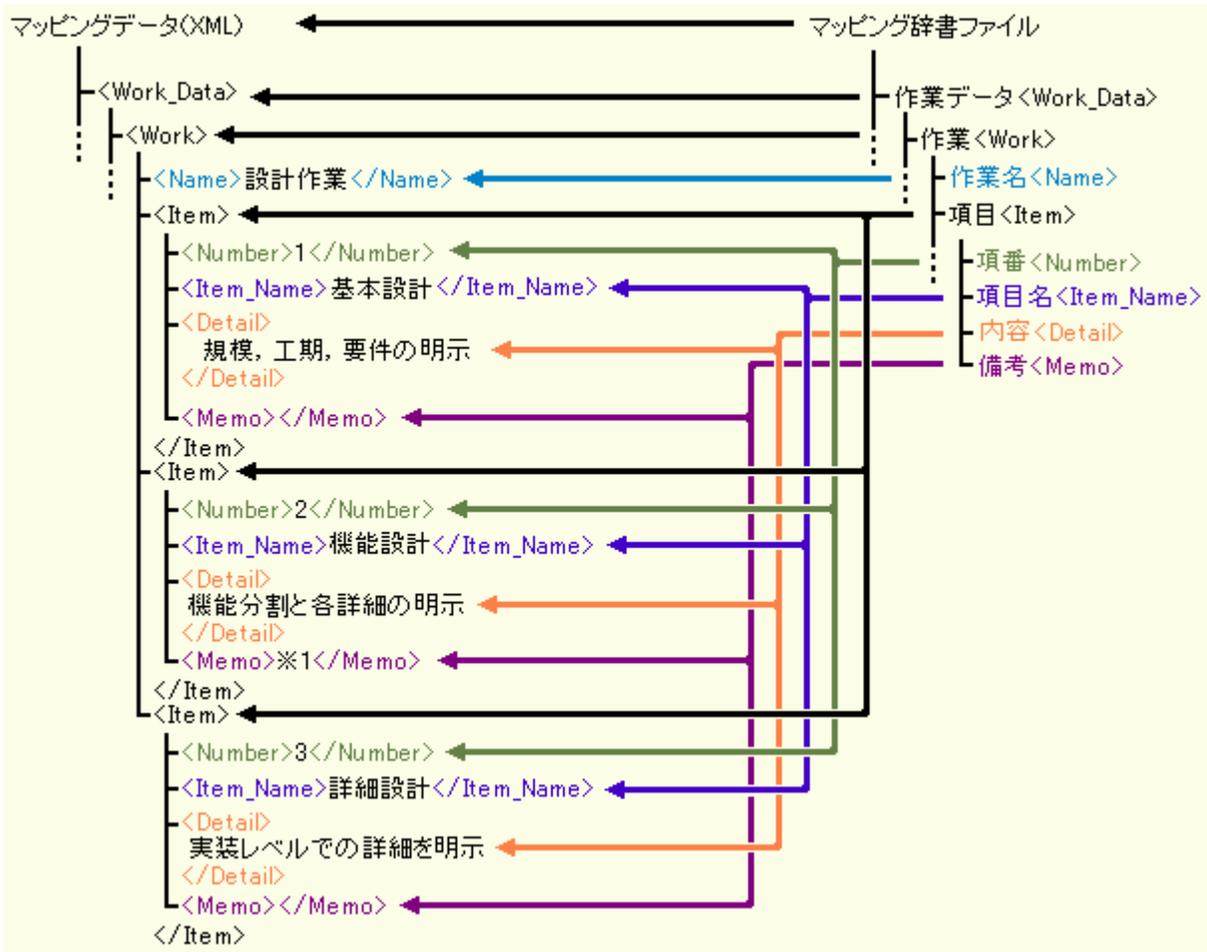
マッピング辞書ファイルは、本プロダクトのXMLマッピングで使用するマッピングデータの書式毎に設定します。

当社製品の場合、製品毎に専用のXMLデータファイルを出力します。(=マッピングデータとして利用)

よって、出力されるXMLデータファイルの種類ごとに、XMLタグ辞書ファイル(=マッピング辞書ファイルとして利用)が存在します。



テンプレートおよび前記『XMLマッピング』の説明で示した図のXML例を用いてマッピング辞書ファイルとマッピングデータの詳細な関係を示すと、下図のようになります。



マッピング辞書ファイルとして使用する『XMLタグ辞書ファイル』の具体的な書式は、『[XMLタグ辞書ファイルの作成](#)』をご参照ください。

XMLデータの抽出

本製品のXMLマッピング機能を用いて作成された統合文書ファイル(拡張子*.f9d)には、マッピングの対象となったデータが、文書としての配置情報とは別に、ほぼオリジナルの状態で作成されています。

す。

この統合文書ファイルから、マッピングの対象となったデータを抽出し、元のデータファイルとして保存する事ができます。

■データの所在

統合文書ファイルを開くと、[アウトラインフレーム](#)の『マッピングデータ』画面に、マッピングデータファイルの一覧が表示されます。



■抽出できないデータ

例外として、『調表出力ライブラリ データ定義ファイル(拡張子:*.BTDT)』は当機能によって抽出することはできません。

■データを抽出する

ドラッグ&ドロップで抽出する

『マッピングデータ』画面に表示されているファイルをドラッグし、エクスプローラなどで表示しているフォルダにドロップする事で、このドキュメントで使用しているデータをドキュメントから抽出し、元のデータファイルとして保存する事ができます。

複数のファイルを同時に選択し、まとめてドラッグ&ドロップすることも可能です。

ポップアップメニューを使用して抽出する

『マッピングデータ』画面に表示されているファイルを選択し右クリックすることで、ポップアップメニューが表示されます。

メニューから『データ保存』を選択することにより、保存先指定ダイアログが表示され、任意のフォルダにデータを保存(抽出)することができます。

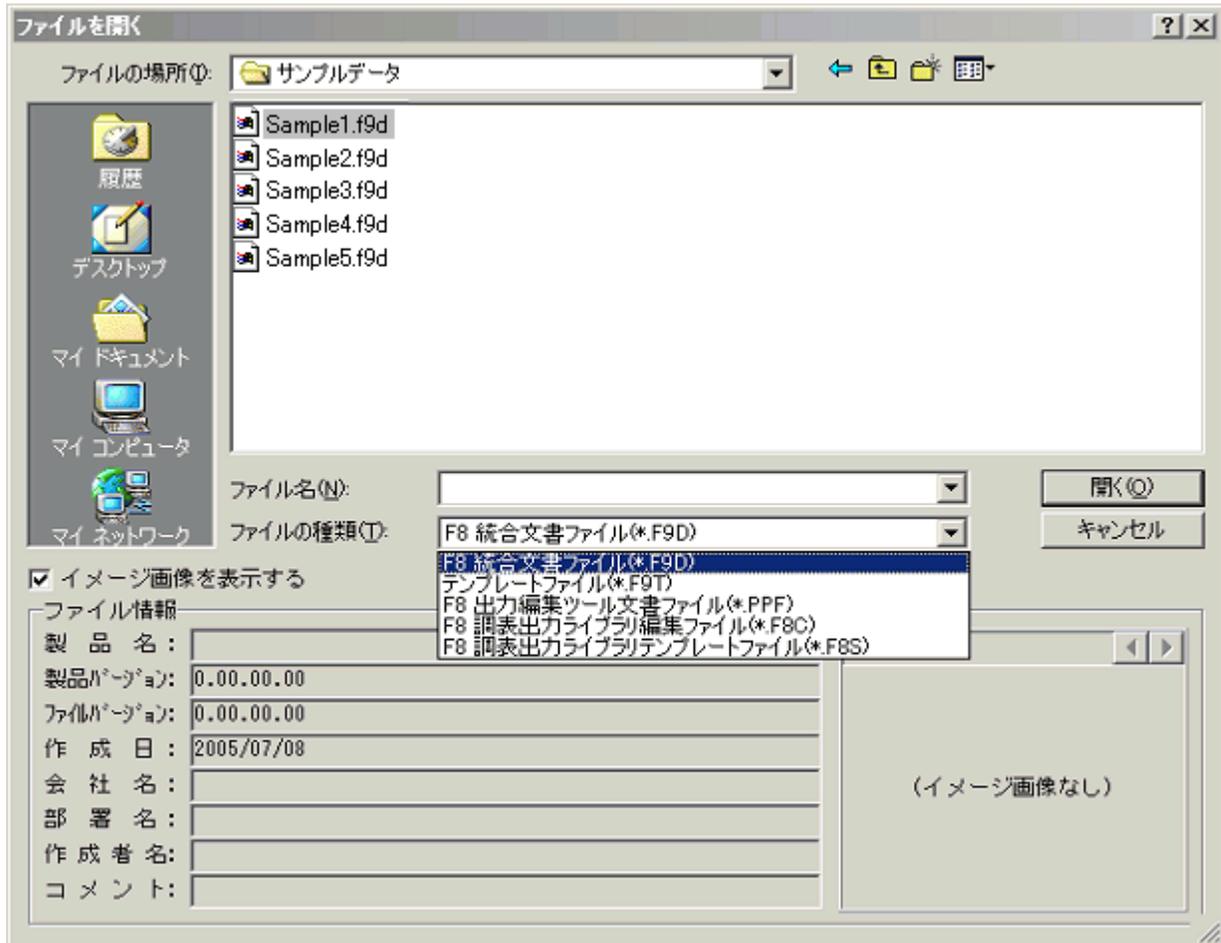
この方法は、複数のデータを同時に選択して実行することはできません。

継承元製品のファイル読み込み

本プロダクトでは、継承元製品(ツール)である『F8-PPF(製品バンドル版)』, 『F8出力編集ツール』, 『調表出力ライブラリ』の各製品用のファイルを読み込む事ができます。

これら継承元製品のファイルは、本プロダクトの純粋なファイル([ファイルの構成](#)を参照)を読み込む場合と同じ場所(画面)で、『ファイルの種類』を選択する事で簡単に読み込めます。

本プロダクトで各種ファイルの読み込み(開く)を行う場合は、下記画面例のようなファイル・オープン・ダイアログと呼ばれる画面で対象となるファイルを指定します。この画面の『ファイルの種類』には、現在の環境または処理において指定できるファイルの種類のみが表示されますので、この選択を変更する事で対象となるファイルの種類を変更する事ができます。



『F8 統合出力ファイル(*.F9D)』は、本プロダクトの純粋なファイルですので、全ての機能が網羅された書式になっています。

継承元製品のファイルは、読み込みのみで、本プロダクトから書き込む事はできません。

■F8 出力編集ツール文書ファイル(*.PPF)

F8出力編集ツールの文書ファイルは、既に完成された印刷直前の状態になっています。従いまして、このファイルを本プロダクトに読み込んだ場合は、全てが固定的な情報として読み込まれます。

また、F8出力編集ツールには、XMLマッピングまたはこれに相当する機能はありませんので、このデータから可変情報であるXMLデータの抽出を行う事もできません。

ここで読み込まれた固定的な情報は、本プロダクトがサポートするビジュアルな編集機能を除いて、F8出力編集ツールと同等の動作となります。

応用的な使用法としては、このデータを編集してテンプレートとして登録する事で、各製品が出力する『計算書』をカスタマイズする事ができます。但し、そのためには、各製品が計算結果をXMLファイル(マッピングデータの対象)に保存している事が前提となります。(現時点では未対応です。)

■F8 調表出力ライブラリ編集ファイル(*.F8C)

F8調表出力ライブラリの編集ファイルは、既に完成された印刷直前の状態になっています。従いまして、このファイルを本プロダクトに読み込んだ場合は、全てが固定的な情報として読み込まれます。

F8調表出力ライブラリには、XMLマッピングに相当する機能がありますが、このデータから可変情報であるXMLデータの抽出を行う事はできません。XMLデータの抽出と同等の機能は、F8調表出力ラ

イブラリのテンプレートファイル(*.F8S)およびデータファイル(*.BTDT)を使用して生成した場合のみ可能となります。

■F8 調表出力ライブラリテンプレートファイル(*.F8S)

F8調表出力ライブラリのテンプレートファイルは、本プロダクトのテンプレートファイルとして読み込む事ができます。

本プロダクトで読み込まれたこのテンプレートファイルは、F8調表出力ライブラリではサポートされていなかったテンプレートの編集が可能となります。

このテンプレートの編集には、本プロダクトのXMLタグ辞書ファイルに相当するF8調表出力ライブラリのデータ定義ファイルが使用されます。

■F8 調表出力ライブラリデータファイル(*.BTDT)

F8調表出力ライブラリのデータファイルは、本プロダクトのXMLマッピングで使用するマッピングデータファイルとして読み込む事ができます。

このファイルの読み込みは、[アウトラインフレームの『マッピングデータ』画面](#)で行います。

データのエクスポート

本プロダクトでは、ドキュメントデータを下記のファイル形式に変換し、出力する事ができます。

■本バージョンで対応している形式

Microsoft Word 形式

Microsoft(R) Wordで読み込み可能なデータ形式。

[制限事項]

- ・本プロダクトを使用するコンピュータに、Microsoft社のMicrosoft Wordがインストールされている必要があります。
- ・Word2000/2002/2003に対応しています。それ以外のバージョンでは、出力できない場合がありますので、ご了承ください。
- ・出力エラーの回避については『[その他の設定](#)』の『Word出力設定』をご覧ください。

Adobe PDF 形式

Adobe社が開発した電子文書ファイルフォーマット。

[制限事項]

- ・出力時にページ範囲を指定すると、しおりデータの作成を行いません。

■今後のバージョンで対応予定の形式

Microsoft Excel 形式

Microsoft(R) Excel で読み込み可能なデータ形式。

一太郎形式

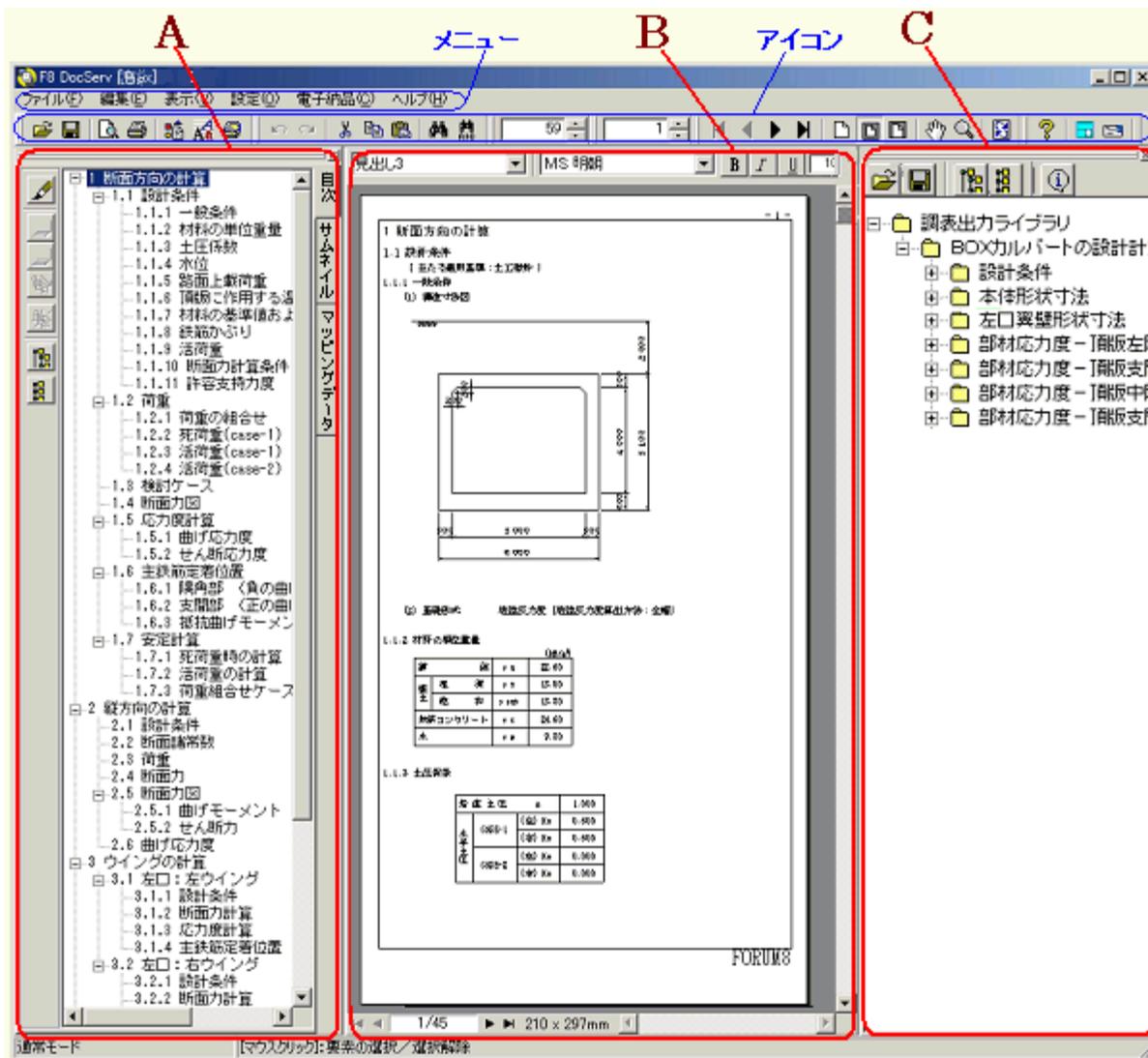
ジャストシステム社の一太郎11以降で読み込み可能なデータ形式。

掲載されている各社名および各社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

画面

メイン画面の外観

本プロダクトを起動すると下図のメイン画面が表示され、全ての機能はこの画面から操作します。
メイン画面はアイコン・メニュー等の一般的な部分を除き、3つのフレームで構成されています。



■アウトラインフレーム（上図A）

- ・ドキュメントの構成情報を表示・操作するフレームです。
- ・このフレームは非表示にすることができます。
- ・タブを切り替えることで『目次ツリー』、『ページサムネイル』、『マッピングデータ』を扱うことができます。

■プレビューフレーム（上図B）

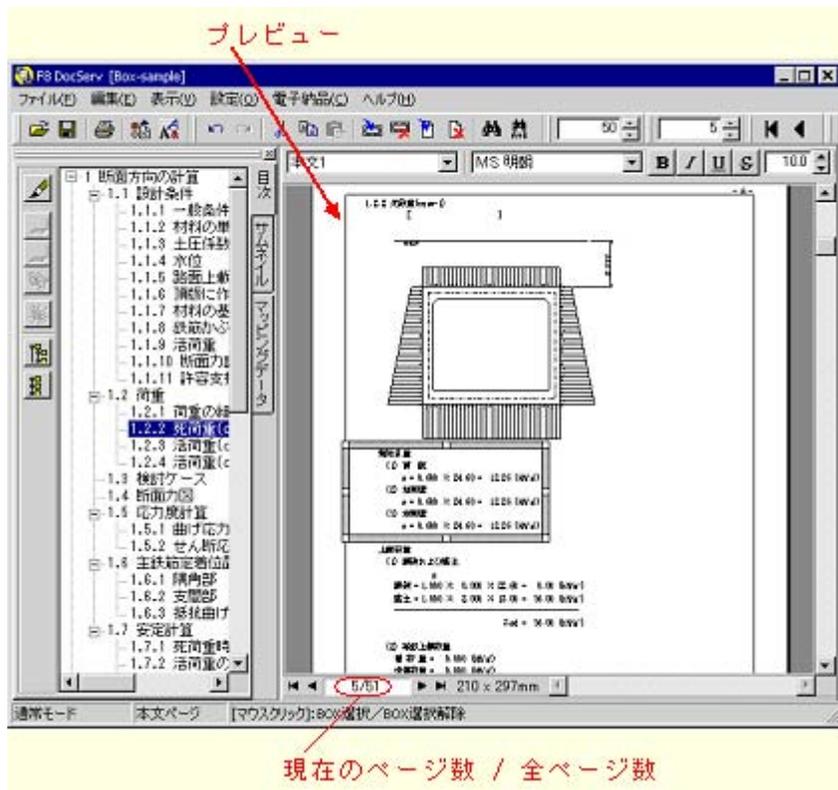
- ・ドキュメントを印刷イメージで表示するフレームです。
- ・ドキュメントの編集作業も、このフレーム上で直接行えます。（詳細は [プレビュー](#)参照）

■辞書フレーム（上図C）

- ・XMLマッピングで使用する [辞書ツリー](#)を表示するフレームです。
- ・このフレームは非表示にすることができます。

プレビュー

本プロダクトでドキュメントを開くと、プレビューに印刷イメージが表示されます。
プレビュー上で、ドキュメントを編集することもできます。



■プレビューの機能

- ・ドキュメントの印刷イメージを表示する
- ・ドキュメントを編集する
- ・ページを移動・スクロールする
- ・表示を拡大・縮小する

■プレビューのページ数

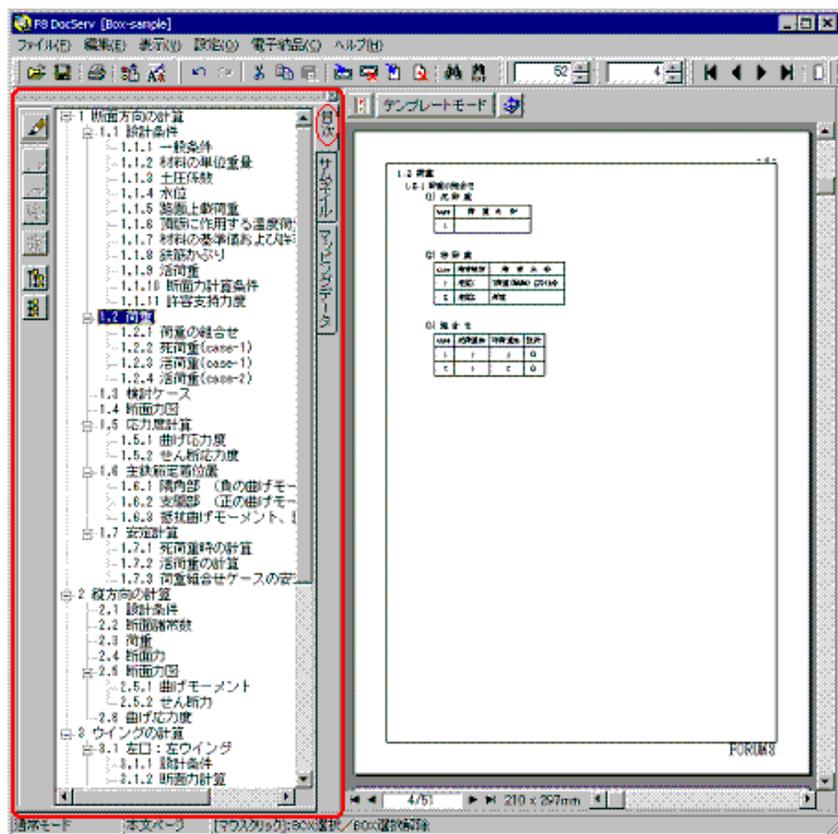
「現在のページ数 / 全ページ数」は、プレビュー上のページ数です。表紙や目次がプレビューに表示されている・いない などによりページ数が変わります。
ドキュメントの余白部分に表示するページ番号とは異なる場合がありますので、ご注意ください。

■関連トピック

プレビューの補助マーカー

目次タブ

目次ツリーには、現在開いているドキュメントの見出しが、ツリー形式で表示されます。



■ 目次ツリーを表示する

目次ツリーは、[アウトラインフレーム](#)の『目次』タブをクリックすると表示されます。
アウトラインフレームが表示されていない場合は、[アウトラインフレーム表示](#)をご覧ください。

■ 目次ツリーを使用して、プレビューを移動する

目次ツリーの任意の見出しをクリックすると、プレビューは当該見出しのページへ[移動](#)します。

■ 目次ツリーを使用して、章および見出しを操作する

[目次ツリーの編集モード](#)により、以下のような操作を行うことができます。

- ・ [出力する章\(節、項\)の選択](#)
- ・ [章\(節、項\)を作成する](#)
- ・ [章\(節、項\)を削除する](#)
- ・ [章\(節、項\)の順番入れ替え](#)
- ・ [章番号を振りなおす](#)
- ・ [章番号の表示設定](#)
- ・ [見出しごとの改ページ指定](#)

■関連トピック

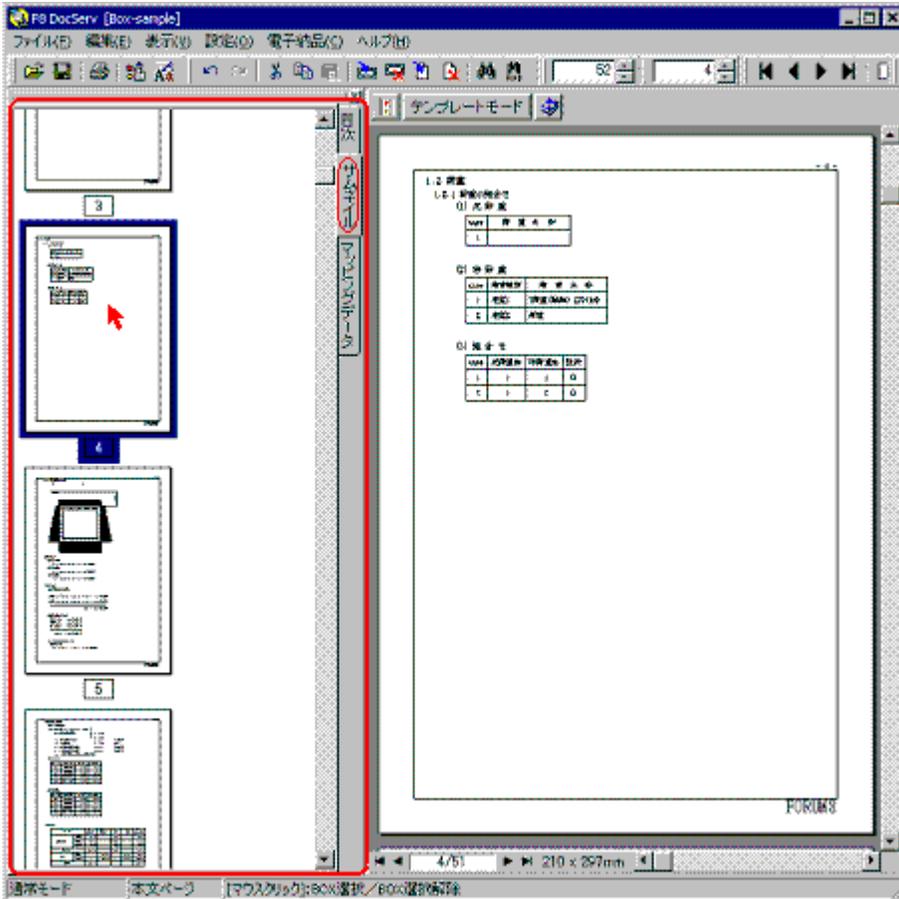
[見出しを修正する](#)

サムネイルタブ

『サムネイル』タブには、全ページのサムネイル(ページサムネイル)が表示されます。

これにより、ドキュメント全体のページ構成がイメージ的に把握できます。

サムネイルで強調表示しているページは、プレビューで現在表示しているページです。



■ページサムネイルを表示する

ページサムネイルは、[アウトラインフレーム](#)の『サムネイル』タブをクリックすると表示されます。
アウトラインフレームが表示されていない場合は、[アウトラインフレーム表示](#)をご覧ください。

■サムネイルの拡大・縮小

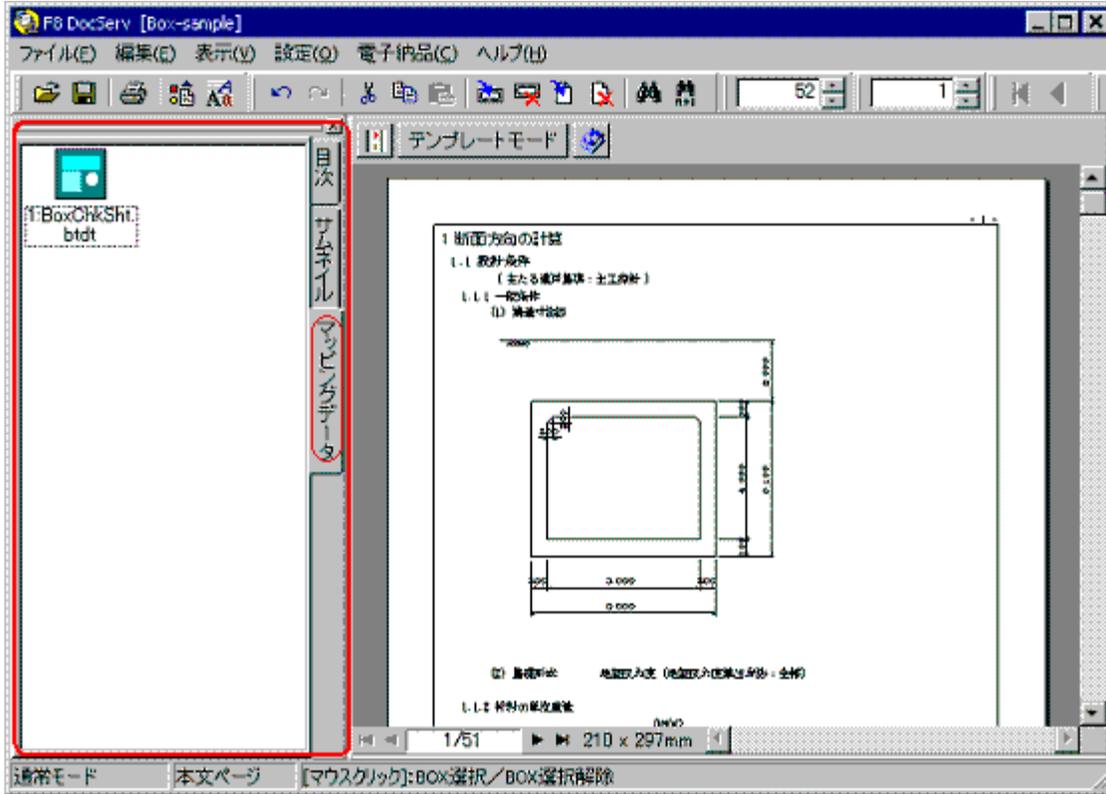
サムネイルの大きさは6段階あり、[拡大・縮小](#)することによって適切な大きさで表示することができます。

■サムネイルを使用して、プレビューを移動する

サムネイルをクリックすることで、プレビューはクリックされたページへ移動します。

マッピングデータタブ

『マッピングデータ』タブでは、[XMLマッピング](#)で使用する[マッピングデータ](#)の読み込み等を行います。
読み込んだマッピングデータは、アイコン表示されます。



■ マッピングデータを表示する

マッピングデータは、[アウトラインフレーム](#)の『マッピングデータ』タブをクリックすると表示されます。
アウトラインフレームが表示されていない場合は、[アウトラインフレーム表示](#)をご覧ください。
マッピングデータを読み込んでいなければ、『マッピングデータ』タブ内には何も表示されません。

■ マッピングデータの読み込み・削除

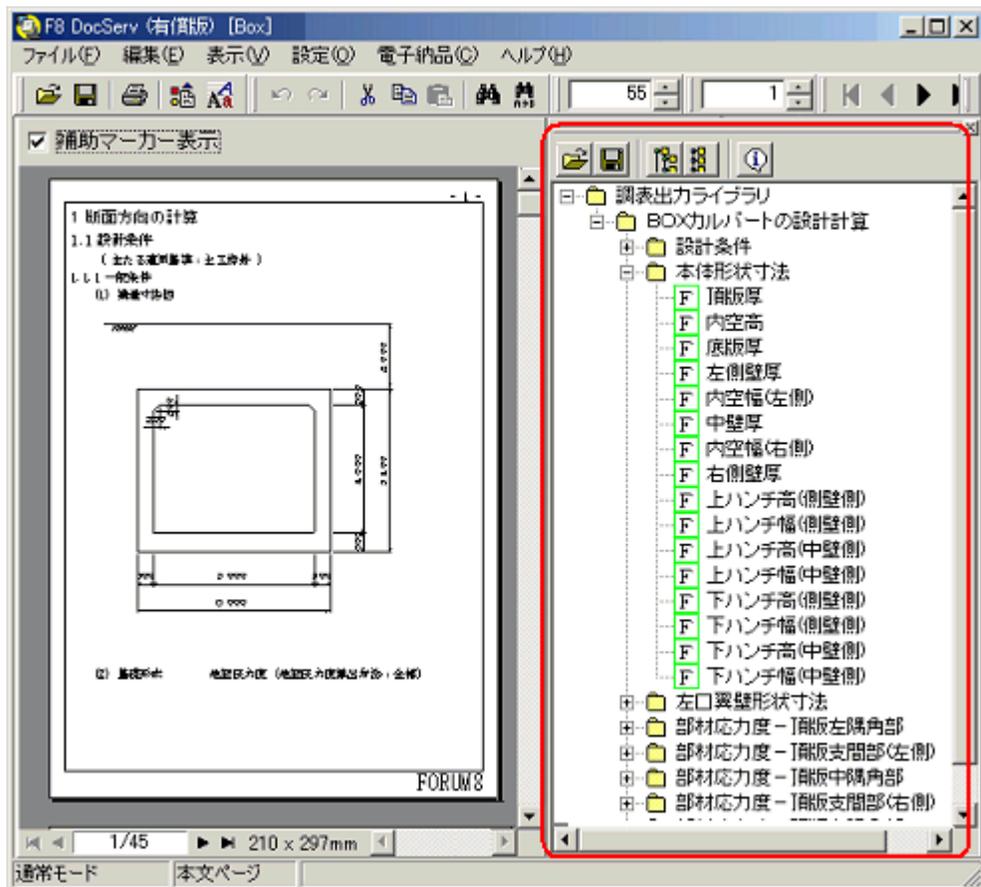
[XMLマッピング](#)で使用する[マッピングデータ](#)を読み込みます。
また、使用しない[マッピングデータ](#)を削除することもできます。

■ マッピングデータのプロパティ修正

必要に応じて、読み込まれている[マッピングデータのプロパティ](#)を修正することができます。

辞書フレーム

辞書ツリーは、[マッピング辞書ファイル](#)の項目をツリー形式で表示したものです。(下図 右フレーム)
[XMLマッピング](#)を用いた[テンプレート](#)作成などに使用します。



■ 注意

この機能は[有償機能](#)となっております。

■ 辞書ツリーを表示する

[辞書フレーム](#)を表示し、[マッピング辞書ファイルを読み込む](#)と辞書ツリーが表示されます。

■ 辞書ツリーの操作

[辞書ツリーの展開・縮小](#)

■ 辞書ツリーの表示

□は、項目のグループを表しています。

グループを展開すると項目が表示されます。

[辞書項目のプロパティ](#)、[辞書項目のデータ型](#)も合わせてご覧ください。

■ 関連トピック

[XMLマッピング
テンプレート](#)

高度な活用

XMLタグ辞書ファイルの作成

XMLタグ辞書ファイルは、本プロダクト対応の当社製品より提供されるファイルですが、ユーザ独自のXMLデータファイルの本プロダクトのXMLマッピングデータとして利用したい場合は、これに対応したXMLタグ辞書ファイルを作成し、マッピング辞書ファイルとして使用すれば簡単に対応させる事ができます。

XMLファイルは全てテキストファイルですので、Windows標準のメモ帳(notepad.exe)など、テキストファイルの編集が可能なプログラムで作成が可能です。

作成したXMLタグ辞書ファイルがXML書式として正しいかどうかは、拡張子を『xml』とする事で、Windows標準のIE(インターネット・エクスプローラー)などで確認する事ができます。

以下にXMLタグ辞書の書式を示します。

尚、書式の**太字**部分は、固定の文字列を示します。

■ヘッダ行(1行目)

ヘッダ行は、以下の内容として下さい。(全て固定です)

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
```

XMLタグ辞書は、UTF-8で記述して下さい。

■データ行(2行目以下)

データ行は、基本的に対象となるXMLデータファイルと同じツリー構造となります。

```
<NNNNNN TagID="999999" Contents="XXXXXXX" Type="TTTTTT" Unit="UUUUUU">
```

NNNNNN: タグ名

XMLデータファイルのノードのタグ名と同じ文字列を指定します。

999999: タグ管理番号

このデータは管理上の連番で特に意味は持ちません。常に『0』でも構いません。

XXXXXX: ノードが保持するデータの内容

XMLデータファイルの当該ノードが保持するデータの内容を記述します。

この文字列は、本プロダクトのXMLタグ辞書ツリーに表示されます。

TTTTTT: ノードが保持するデータの型

XMLデータファイルの当該ノードが保持するデータの型を以下の何れかの文字列で指定します。

なし : 型なし(サブノードを保持するノードの場合のみ指定可)
Integer : 10進数数値
Double : 浮動小数点数値
String : 文字列
Boolean : TrueまたはFalse
Enum : 列挙型
SetOfEnum : 集合型

Integer・Double・String・Booleanのデータ型には配列データを指定することができます。

< 表記例 >

Integer[] Integer型の1次元配列の指定
Double[][] Double型の2次元配列の指定
“[]”は全て半角文字です。
“[”と”]”の間は半角スペースが必要です。
配列データは2個(2次元配列)まで指定できます。

UUUUUU: ノードが保持するデータの単位

XMLデータファイルの当該ノードが保持するデータの単位を任意の文字列で指定します。このデータは、本プロダクトでは使用しませんが、将来的に他のツール等で使用する可能性があります。

必須ではありませんが、以下の例を参考に、できるだけ設定しておいてください。

m : メートル
N : ニュートン
g : グラム
km : キロメートル
m² : 平方メートル
kN/m² : キロニュートン・パー・平方メートル
kN.m : キロニュートン・メートル

これらの文字列は、以下の特殊な表記を除き、一般的な単位の表記法に準じています。

m² m^2 乗数は『^』(山型: アクサンシルコンフレックス)で表します。

kN/ m² m^2 除算式は『/』(スラッシュ)で表します。

kN・m kN.m 乗算式は『.』(ドット)で表します。

尚、当該ノード下の定義が終わったら、XMLのルールに従い、必ず</NNNNNN>で当該ノードを閉じてください。

ノードが属性を持つ場合は、当該ノード下に以下の書式で属性の情報を記述します。

<TagAttributes AttrName="NNNNNN" Contents="XXXXXXX" Type="TTTTTT" />

NNNNNN: 属性名

XMLデータファイルの当該ノードに指定される属性の属性名を指定します。

XXXXXX: 属性の内容

XMLデータファイルの当該ノードの当該属性が表す内容を記述します。

この文字列は、本プロダクトのXMLタグ辞書ツリーに表示されます。

TTTTTT: 属性のタイプ

XMLデータファイルの当該ノードの当該属性が表す属性の型を規定の文字列で指定します。

規定の文字列は、前記データ行の『TTTTTT』と同じですので、そちらをご参照ください。

■ XMLデータファイルとXMLタグ辞書ファイルの例

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<Graphics>
  <Rectangle FrameColor="clRed" SolidColor="clWhite">
    <Left>10</Left>
    <Top>20</Top>
    <Right>530</Right>
    <Bottom>300</Bottom>
  </Rectangle>
  <Rectangle FrameColor="clBlack" SolidColor="clSilver">
    <Left>1200</Left>
    <Top>600</Top>
    <Right>1600</Right>
    <Bottom>1000</Bottom>
  </Rectangle>
  <Circle FrameColor="clGreen" SolidColor="clBlue">
    <CenterX>800</CenterX >
    <CenterY >800</CenterY >
    <Radius>300</Radius >
  </Circle >
</Graphics>
```

例えば、上記のようなXMLデータファイルがあった場合、これに対応した以下のようなXMLタグ辞書ファイルを作成する事で、本プロダクトの『XMLマッピング』でこのXMLデータファイルが使用できるようになります。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>
<Graphics TagID="0" Contents="図形のデータ" Type="なし" Unit="">
  <Rectangle TagID="0" Contents="矩形データ" Type="なし" Unit="">
    <TagAttributes AttrName="FrameColor" Contents="枠線の色" Type="Integer" />
    <TagAttributes AttrName="SolidColor" Contents="内部の色" Type="Integer" />
    <Left TagID="0" Contents="左座標" Type="Integer" Unit="Dot"/>
    <Top TagID="0" Contents="上座標" Type="Integer" Unit="Dot"/>
    <Right TagID="0" Contents="右座標" Type="Integer" Unit="Dot"/>
    <Bottom TagID="0" Contents="下座標" Type="Integer" Unit="Dot"/>
  </Rectangle>
  <Circle TagID="0" Contents="円データ" Type="なし" Unit="">
    <TagAttributes AttrName="FrameColor" Contents="枠線の色" Type="Integer" />
    <TagAttributes AttrName="SolidColor" Contents="内部の色" Type="Integer" />
    <CenterX TagID="0" Contents="中心X座標" Type="Integer" Unit="Dot"/>
    <CenterY TagID="0" Contents="中心Y座標" Type="Integer" Unit="Dot"/>
    <Radius TagID="0" Contents="半径" Type="Integer" Unit="Dot"/>
  </Circle>
</Graphics>
```

機能一覧

本プロダクトと継承元製品の機能一覧

下表は、本プロダクトと継承元製品の機能一覧です。

本プロダクトのViewer版では、下表のサポート機能のうち一部が使えなくなっています。詳細は『[概要 | 著作権 | 有償機能について](#)』をご覧ください。

分類 / 機能・項目	旧製品		F8DocServ		備考
	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
文書ファイル読み込み	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
F8統合文書ファイル(*.F9D)	×	×	○		F8DocServ固有の文書ファイル(xml形式)
テンプレートファイル(*.F9T)	×	×	○		F8DocServ固有のテンプレートファイル(xml形式)
F8-PPFファイル(*.PPF)	○	×	○		F8-PPF固有の文書ファイル(独自形式)
調表編集ファイル(*.F8C)	×	○	○		調表固有の文書ファイル(独自形式)
調表テンプレートファイル(*.F8S)	×	○	○		調表固有のテンプレートファイル(独自形式)
文書ファイル保存	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
F8統合文書ファイル(*.F9D)	×	×	○		F8DocServ固有の文書ファイル(xml形式)
テンプレートファイル(*.F9T)	×	×	○		F8DocServ固有のテンプレートファイル(xml形式)
F8-PPFファイル(*.PPF)	○	×	×		F8-PPF固有の文書ファイル(独自形式)
調表編集ファイル(*.F8C)	×	○	×		調表固有の文書ファイル(独自形式)
マッピングデータファイル読み込み	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
UC-1データファイル XML形式 (*.F8?, *.F7?, *.F9?)	×	×	○		各製品のデータファイル
調表データファイル(*.BTDT)	×	×	○		各製品の調表用データファイル
マッピングデータファイル抽出	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
UC-1データファイル XML形式 (*.F8?, *.F7?, *.F9?)	×	×	○		各製品のデータファイル
マッピング辞書ファイル読み込み	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
XMLタグ辞書ファイル(*.F9I)	×	×	○		F8DocServ固有の辞書ファイル(xml形式)
調表名称定義ファイル(*.BTDN)	×	○	○		調表固有の辞書ファイル(独自形式)
調表データファイル(*.BTDT)	×	○	○		各製品の調表用データファイル(独自形式)
文書データのエクスポート	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
Word(見出し対応)	○	×	○		Wordのインストールが必要
Excel	×	○	×	○	Excelのインストールが必要
一太郎	○	×	×	○	一太郎のインストールが必要
PDF(しおり対応)	○	×	○		
HTML	○	×	×		将来的にもサポートの予定はない
プレーンテキスト	○	×	×		将来的にもサポートの予定はない
基本データ	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
テキスト	○	○	○		
グラフィック	○	○	○		
表	○	○	○		
数式	○	×	○		
行列	○	×	○		
見出し	○	×	○		
基本データエディタ	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
テキスト	×	○	○		
グラフィック	×	×	×	△	関連付けされたAPを起動の予定(OLEではない)
表	×	○	○		
数式	×	×	○		
行列	×	×	○		
見出し	○	×	○		
基本データ操作	F8-PPF	調表	初版	今後予定	

グループ化	○	×	○		
コピー	△※1	△※2	○		※1:ソース編集時のみ可, ※2:テキストのみ可
切り取り	△※1	△※2	○		※1:ソース編集時のみ可, ※2:テキストのみ可
貼り付け	△※1	△※2	○		※1:ソース編集時のみ可, ※2:テキストのみ可
文字列検索	△※1	×	○		※1:ソース編集時のみ可
文字列置換	△※1	×	○		※1:ソース編集時のみ可
Undo/Redo	△※1	△※2	○		※1:ソース編集時のみ可, ※2:1回のみ可
グラフィックファイル読み込み・保存	△※1	○	○		※1:ソース編集時のみ可
データマッピング	×	○	○		
グラフィック形式	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
Windowsメタファイル(*.wfm)	○	○	○		
Windows拡張メタファイル(*.emf)	○	○	○		
ビットマップ(*.bmp)	○	×	○		
JPEGイメージ(*.jpg, *.jpeg)	○	×	○		
PNGイメージ(*.png)	○	×	○		
目次	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
目次ページの生成	○	×	○		
目次編集	○	×	○		
章番号管理	○	×	○		
目次更新	○	×	○		
表示	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
ページ移動(ジャンプ)	○	△※1	○		※1:ページ間のみ可
ページ移動(スクロール)	○	△※1	○		※1:ページ内のみ可
拡大/縮小	○	○	○		
サムネイル表示	×	○	○		
体裁	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
ページ装飾(ヘッダ/フッタ)	○	×	○		
用紙サイズ選択	○	○	○		
異用紙サイズ混在	×	△※1	○		※1:用紙サイズに合わせたストレッチが可能
余白設定	○	○	○		
書式設定	○	○	○		
縦書き文字列	×	○	○		
文字列の自動折り返し	×	×	○		
自動改ページ	○	×	○		
印刷	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
印刷プレビュー	○	○	○		
用紙設定	○	○	○		
印刷	○	○	○		
プリンタ設定	○	○	○		
その他	F8-PPF	調表	初版	今後予定	
表紙ページの生成	○	×	○		
ページ追加/削除	△※1	×	○		※1:ソース編集にて可
電子納品規定文字列チェック	○	×	○		

操作方法

起動

本製品の起動は、単体での使用と当社製品の出力機能としての使用で異なります。

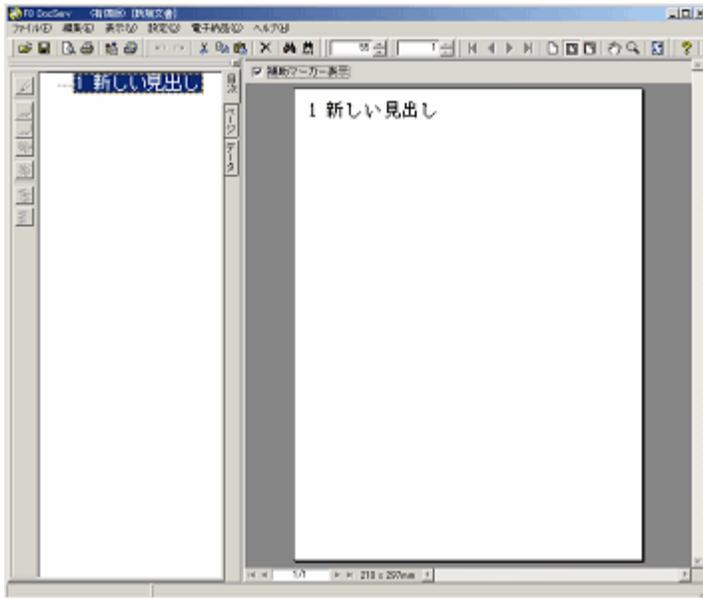
■単体での使用

本プロダクトを単体で使用する場合は、通常のアプリケーションと同様に、Windowsのスタートメニューより起動します。



単体での起動の場合は、スプラッシュ(オープニング)画面が表示された後に、本プロダクトのメイン画面が表示されます。

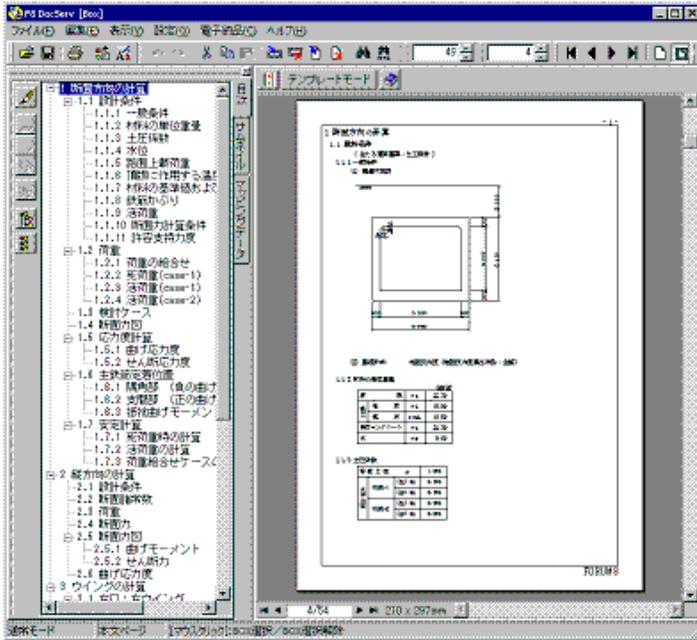




また、単体で使用される場合は、本プロダクトの文書ファイル(F9D)をエクスプローラ等でダブルクリックする事でも起動できます。



この場合、ダブルクリックした文書ファイルが読み込まれた状態で起動されます。

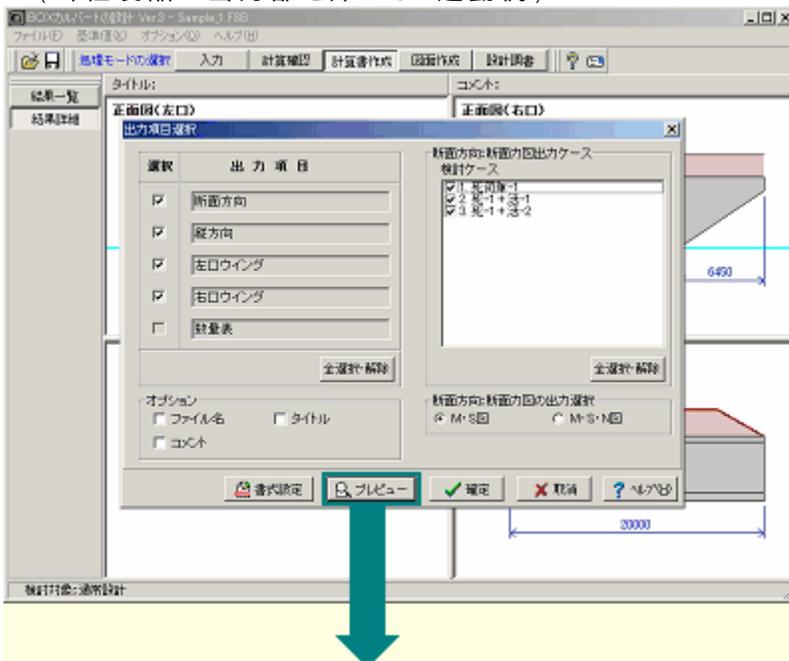


■ 当社製品からの使用

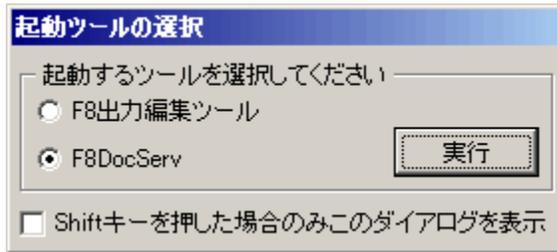
当社製品の出力部を介して本プロダクトを使用するには、[F8DocServ Maintenance Tool](#) による環境設定が必要です。

この環境設定により、当社製品の出力操作から『直接本プロダクトを起動する』/『本プロダクトを起動する前に確認画面を表示』/『旧プロダクトを起動する』のいずれかを選択することができます。

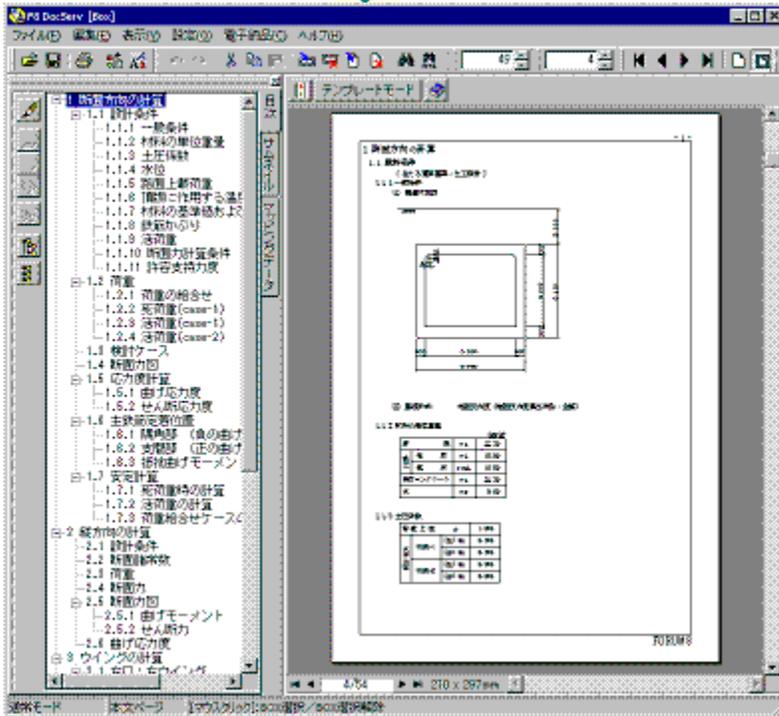
(当社製品の出力部を介しての起動例)



当社製品の出力部の操作方法につきましては、各製品のヘルプをご参照ください。



[起動時に確認する]を選択した場合に表示されます。



当社製品から起動するために

当社製品の出力部を介して本プロダクトを起動するには、下記の設定が必要です。

■ 設定手順

環境設定ツール(F8DocServ Maintenance Tool)を起動します。

『F8出力ツール環境』の欄で以下の設定を行います。

- ・「F8DocServを使用」を選択します。
- ・必要に応じて、「起動時に確認画面を表示する」を選択します。
- ・[適用]ボタンをクリックします。

『調表出力ライブラリ環境』の欄で以下の設定を行います。

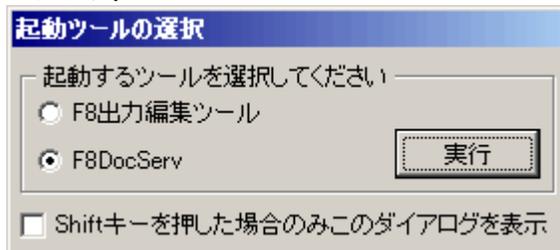
- ・「F8DocServを使用」を選択します。
- ・必要に応じて「起動時に確認画面を表示する」を選択します。
- ・[適用]ボタンをクリックします。

[閉じる]ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。

当社製品の次回起動時から、上記設定が有効になります。

■補足

「起動時に確認画面を表示する」を選択した場合、本プロダクトを起動する前にダイアログが表示されます。



■関連トピック

[起動](#)

保存

■本プロダクトのファイルとして保存する

編集中のドキュメントを本プロダクトのファイルとして保存する場合、選択できるファイル形式は2種類です。

- ・統合文書ファイル(拡張子*.F9D)
- ・テンプレート(拡張子*.F9T)

次のいずれかの方法で保存します。

- ・[名前を付けて保存する](#)
- ・[上書き保存する](#)

■その他の保存

[ドキュメントを他社製品のファイル形式で出力する](#)

[ドキュメント内のマッピングデータのみをファイルに抽出する](#)

[行スタイルの設定を保存する](#)

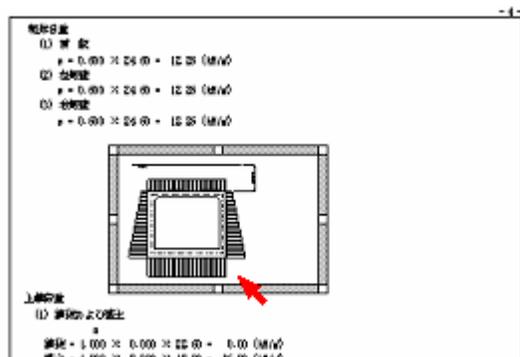
[ページの設定を保存する](#)

■関連トピック

[本プロダクトのファイルの構成](#)

編集する / 入力する

プレビュー画面に示されるドキュメントの本文(文字・図・表など)は、すべてBOXの中に入力されており、本文の編集 = BOXの編集 となります。



本文以外(表紙、目次、装飾部品など)は、それぞれ専用の編集方法が用意されています。(下記をご覧ください)

■BOXについて

BOXのタイプと、入力できる要素

■既存のBOXを編集する

BOXを編集する

■新しくBOXを追加する

プレビュー上で、任意の位置にBOXを追加し、文字・図・表などを入力することができます。但し、見出しを追加する場合は、目次ツリー上で章を作成します。これにより、プレビュー上に見出しBOXが自動作成されます。

■見出しを編集する

見出しのテキスト

■章番号を編集する

章番号

■表紙を編集する

表紙

■目次を編集する

目次

■ページの装飾部品(ヘッダ/フッタ)を編集する

各ページの余白等に表示する、ページ番号/マーク(画像)/社名などは、本プロダクトでは装飾部品として取り扱います。

詳細は、[『装飾部品』](#)をご覧ください。

テキストの色・サイズ・書体

ドキュメントのテキストに対して、書式(色・サイズ・書体等)を設定することができます。

■BOX内のテキスト

[行スタイルを使用して書式を一括設定する](#)

[選択したBOXの書式を設定する](#)

[テキストBOX内の一部のテキストに対して書式を設定する](#)

[テキストBOX内で上付文字/下付文字を設定する](#)

[数式BOX内で上付文字/下付文字を設定する](#)

[行列BOXで上付文字/下付文字を設定する](#)

[表のヘッダ/フッタの書式を設定する\(表エディタ\)](#)

[表のセルごとに書式を設定する\(表エディタ\)](#)

画像の中に描画されている文字の書式を変更することはできません。

目次の書式は、[行スタイル](#)の「目次1~5」を使用します。

■装飾部品のテキスト

[装飾部品](#)のテキストに書式を設定する方法は、[装飾部品の追加・削除・変更](#)の「変更」の項をご覧ください。

■表紙タイトル

表紙タイトルは装飾部品です。[装飾部品の追加・削除・変更](#)の「変更」の項をご覧ください。

■目次のテキスト

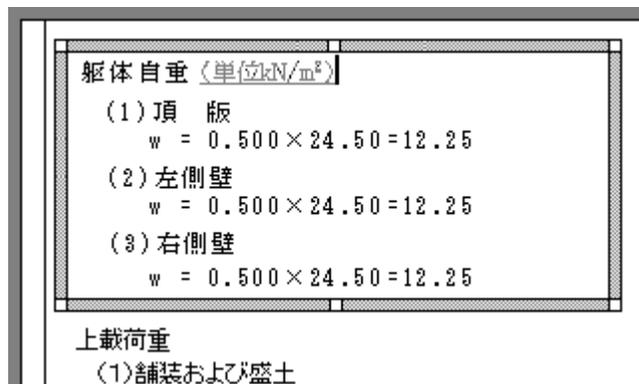
目次には、[行スタイル](#)の「目次1」~「目次5」が適用されます。[行スタイル修正](#)で書式を修正することができます。

テキストの配置

■BOX内のテキスト配置

BOX内では、テキスト・数式・行列式は全て左寄せになります。(中央寄せ、右寄せ等の設定はできません)

[インデント設定](#)により、テキストの開始位置を右にずらすことができます。



■プレビュー上のBOXの配置

BOXを手動で移動し、任意の場所へ配置します。(詳細は[BOXの配置](#)をご覧ください)

■表のテキスト配置

テキストBOXを貼り付けているセルは、[セルのプロパティ](#)でテキストの配置を指定することができます。

mm	0	25	50	75	100
0		A		B	
1		中央に配置する		右上に配置する	
25	2				

テキストを検索

現在開いているドキュメント内で、任意のテキスト(数字も含む)を検索することができます。

[検索](#)をご覧ください。

テキストを置換

現在開いているドキュメント内で任意のテキスト(数字も含む)を検索し、別のテキストに書き換えることができます。

[置換](#)をご覧ください。

行の高さ

■テキストの行ピッチを調整する

[行ピッチの設定](#)をご覧ください。

ABCDEFGG
abcdefghijklmnop
1234567

↑ 行ピッチ

■表の行高・列幅

[行高・列幅を数値指定する](#)

[行高・列幅をマウスで調整する](#)

	A	B	C	D
1	舗	装	γ_a	22.50
2	盛 土	湿	潤	γ_t
3		飽	和	γ_{sat}
4	鉄筋コンクリート		γ_c	24.50
5	水		γ_w	9.80

↑ 行高

← 列幅

線の色・幅・種類

ドキュメント内で表示される様々な線は、色・幅・線種を設定することができます。

[BOXの枠線](#)

[表\(セル\)の罫線](#)

[ページの枠線](#) (設定できるのは線種のみです)

1 断面方向の計算

1.1 設計条件
(主たる適用基準: 土工指針)

1.1.1 一般条件

(1) 構造寸法図

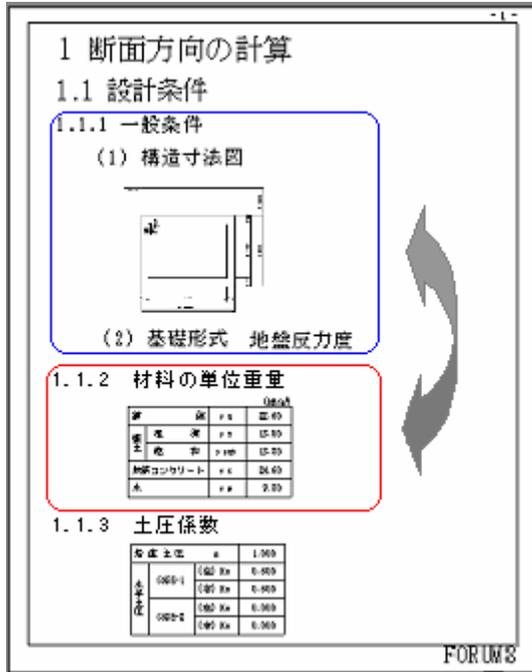
1.1.2 材料の単位重量 (kN/m³)

舗	装	γ_a	22.50
盛 土	湿	潤	γ_t
	飽	和	γ_{sat}
鉄筋コンクリート		γ_c	24.50
水		γ_w	9.80

FORUMS

順番を入れ替える

■章(節、項)の順番を入れ替える



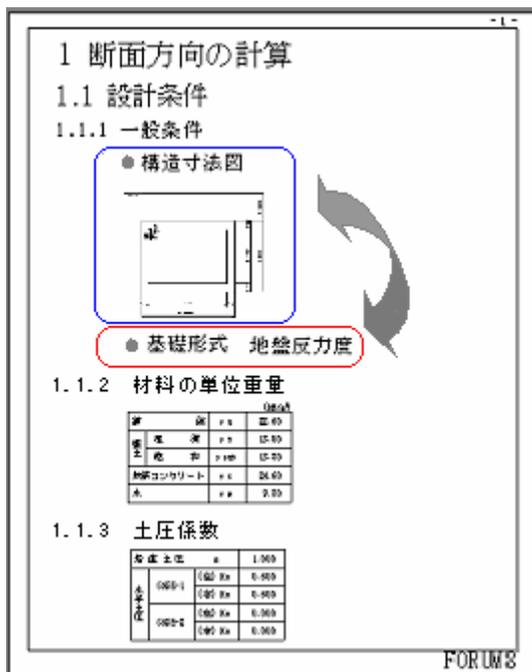
左図のように、見出し単位(本文も含む)で順番を入れ替えるには、[目次ツリーの編集モード](#)で見出しの順番を入れ替えます。

プレビューでは、見出しBOXを移動して順番を入れ替えることはできません。

・見出しBOXを前へ移動する場合、直前のBOXよりも前には移動できません。

・見出しBOXを後方へ移動する場合、見出しより後に存在するBOXも一緒に、後へ移動します。

■同じ項の中で、BOXの順番を入れ替える



左図のように、同一の見出しの中でBOXの順番を入れ替えるには、プレビューで[BOXを目的の位置へ移動](#)します。

■マッピングデータのグループIDを入れ替える

マッピングデータは読み込んだ順に並んで表示され、特に指定しなければグループIDは1番から順に付与されます。

このグループIDを入れ替えるには、[データのプロパティ](#)でグループIDを変更します。



操作を取り消す・やり直す

■プレビュー上で、操作を取り消す・やり直す

プレビューでの編集において、直前に行った編集操作を取り消して1つ前の状態に戻すことができます。[元に戻す](#)をご覧ください。

また、取り消した操作を再度実行することもできます。[やり直し](#)をご覧ください。

■表エディタ上で、操作を取り消す・やり直す

表エディタでの編集において、直前に行った編集操作を取り消して1つ前の状態に戻すことができます。[表エディタ](#)の[アンドゥ]をご覧ください。

また、取り消した操作を再度実行することもできます。[表エディタ](#)の[リドゥ]をご覧ください。

表紙

■表紙を出力する

表紙を外部出力 ([印刷](#)及び[他形式ファイル出力](#)) するには、表紙をプレビュー画面に表示し、出力操作を行います。

■表紙をプレビューに表示する

本プロダクトの初期状態では、表紙はプレビュー画面に表示されません。

[ページの設定](#)の『[表紙](#)』で表示・非表示を切り替えます。同タブ内では表紙に関する以下の設定も行えます。

- ・表紙のタイトル文字
- ・表紙の余白
- ・表紙の枠線の表示有無と線種
- ・装飾部品(ページ番号・社名・製品名・日付・任意文字列・図)

■表紙のタイトル修正

ページの設定の『表紙』タブで行います。

■表紙の余白・枠・装飾部品の修正

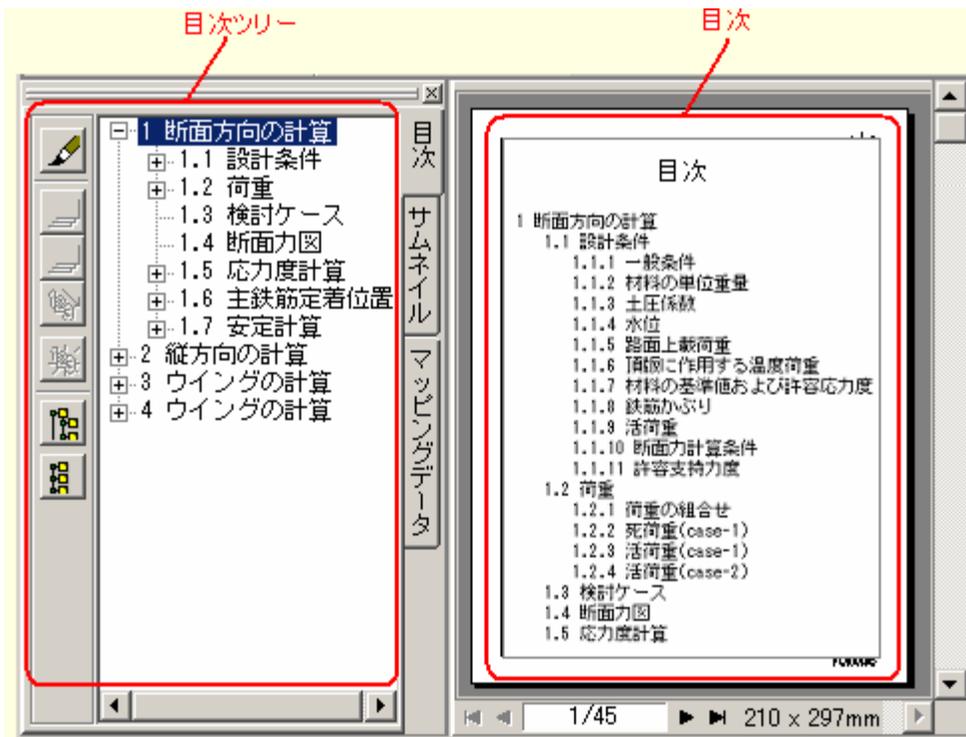
ページの設定の『表紙』タブで行います。

目次

本プロダクトには『目次ツリー』と『目次』が存在します。どちらも、ドキュメントの見出しを集約したものです。

目次ツリー …… 各章の見出しがツリー形式で表示され、全体の構成確認や、見出しの操作(追加・削除・移動など)を行う画面

目次 …… プレビュー画面に表示され、ドキュメントの一部として印刷する目次ページ



■目次ツリーの操作

目次ツリーをご覧ください。

■目次の操作

目次を出力する

目次を外部出力 ([印刷](#) 及び [他形式ファイル出力](#)) するには、目次をプレビュー画面に表示した状態で、印刷などの出力操作を行います。

目次を作成する(プレビューに表示する)

本プロダクトの初期状態では、目次はプレビュー画面に表示されません。[ページの設定の『目次』タブ](#)で、目次の表示・非表示を切り替えます。

見出しのプロパティで「本文のみ表示」または「目次のみ表示」を設定している見出しは、目次には含まれません。([見出しの表示設定](#) を参照)

目次タイトル

[ページの設定の『目次』タブ](#)で設定します。

目次の修正(見出しのテキスト)

目次ページを直接修正することはできません。(修正しても目次更新時に元に戻ります)

・章番号を修正する場合は、目次ツリーで [章番号の表示設定\(目次ツリー\)](#) を行います。

・テキストを修正する場合は、本文ページで対象の [見出しBOXのテキストを修正](#) します。

目次の余白・枠・装飾部品の修正

[ページの設定の『目次』タブ](#)で行います。

章番号修正

・章番号の前後に付加する文字列を設定する <例> **第3章 - 第2節 - 4項**、3.2.4 等
[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

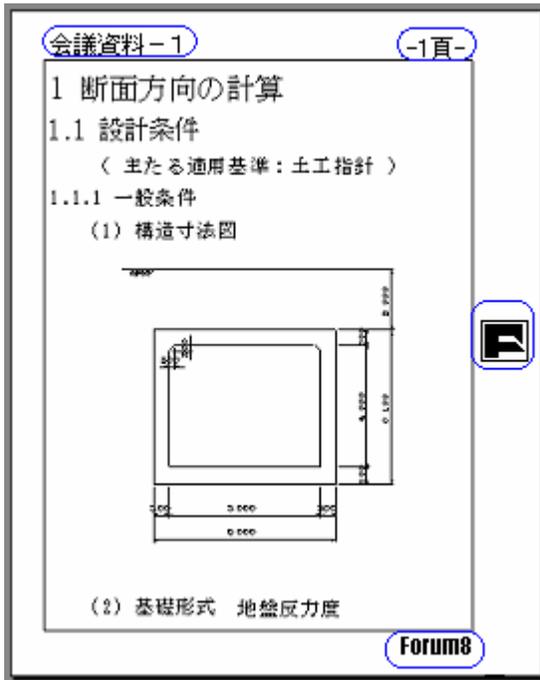
・章番号の表示有無 / 上位の章番号の表示有無 などを設定する
[章番号の表示設定\(目次ツリー\)](#)

ヘッダ/フッタ

■ページのヘッダ・フッタ(装飾部品)

各ページの余白に表示する「ページ番号」「マーク(図)」「社名」などは、本プロダクトでは「装飾部品」として取り扱います。

詳細は、[装飾部品](#) をご覧ください。



■表のヘッダ・フッタ

表に付属するヘッダ・フッタの編集は、[表エディタ](#)をご覧ください。

表2. 材料の単位重量表 (t/m³)

舗	装	材	22.50
盛土	逕	和	18.00
	炮	和	18.80
鉄筋コンクリート			24.50
水			9.80

(主たる適用基準: 土工指針)

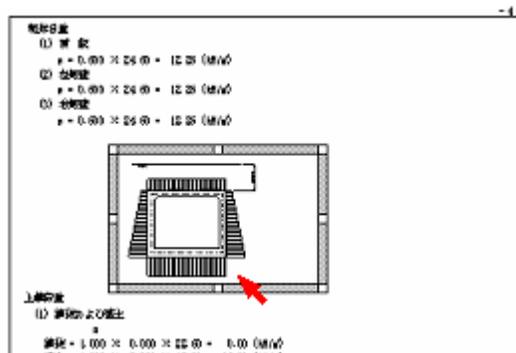
ヘッダ

フッタ

BOX

[プレビュー画面](#)において、ドキュメントの本文(文字・図・表など)をクリックすると、クリックした対象を含む矩形のマーカーが表示されます。

マーカーで囲まれた範囲が1つのBOXです。



■BOXのタイプ

プレビュー上で任意に作成できるBOXは下記の6タイプがあり、それぞれ入力できる要素に制限があります。

BOXタイプ	入力できる要素
テキストBOX	キーボードから入力できる全ての文字(数字、記号)
表BOX	表のセルにBOXを貼り付けるので、各BOXの制限に準じる
グラフィックBOX	イメージファイルから読み込む 画像のみ
行列式BOX	・行列式 ・特殊な数式記号(専用アイコン使用) ・キーボードから入力できる全ての文字(数字、記号)
数式BOX	・特殊な数式記号(専用アイコン使用) ・キーボードから入力できる全ての文字(数字、記号)
マッピング画像BOX	XMLマッピング によってマッピングデータから読み込む画像のみ

特殊なBOXの種類として「見出しBOX」があります。

見出しBOXは、他のBOXとは操作が異なります。詳細は「[見出し](#)」をご覧ください。

■BOXタイプを確認する

既存のBOXのタイプを確認する方法は、[BOXのプロパティ](#)をご覧ください。

■BOXの操作

[BOXを追加する](#)

[BOXを削除する](#)

[BOXを移動する](#)

[BOXを編集する](#)

[BOXのサイズを変更する](#)

[BOXをグループ化する](#)

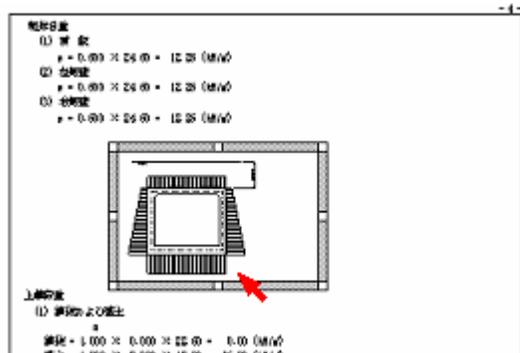
■関連トピック

[BOXにスタイルを適用する](#)

[BOXの書式設定](#)

BOX を選択する

[プレビュー](#)で、[BOX](#)(テキスト・表・行列式など)を選択 / 解除する方法です。



■ 選択／解除の基本操作

プレビュー上で選択対象をマウスでクリックする事により、BOXが選択状態となります。選択状態では、上図のように対象のBOXがマーカーで囲まれます。マーカー外をクリックすると、選択解除されます。

■ 複数のBOXを選択／解除する

複数選択する

キーボードのCtrlキーを押した状態でプレビュー上のBOXを順次クリックします。すでに選択されているBOXに加えて、クリックしたBOXも選択状態になります。これを繰り返すことにより、いくつものBOXを同時に選択状態にすることができます。

複数選択を全て解除する

Ctrlキーを放してプレビュー上の任意の位置をクリックします。選択状態だったBOXは、すべて未選択の状態に戻ります。

複数選択の一部を解除する

(複数のBOXを選択している途中で、不要なBOXを選択してしまった場合などに、特定のBOXだけ選択解除できます)

Ctrlキーを押した状態で、誤って選択したBOXをもう一度クリックしてください。クリックしたBOXだけが選択解除されます。

BOXを移動する

プレビュー上のBOXは、マウス操作で任意の位置へ移動することができます。

BOXを移動し、異なる見出しの下に配置することで、章・節・項の構成を変更することもできます。

■ 注意

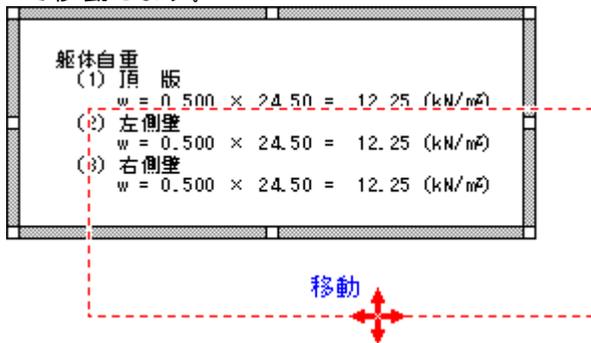
- ・見出しBOXは、垂直方向の移動のみ可能です。
- ・見出しBOXを移動すると、その下に属する本文や下位見出しも同時に移動します。
- ・グループの親になっているBOXを移動すると、子のBOXも同時に移動します。一定の条件下で、グループは自動的に成立します。(BOXをグループ化する参照)

■操作

移動の基本

移動するBOXをクリックし、選択状態にします。

マーカーのグレーの部分にカーソルを合わせてドラッグすると、選択しているBOXがマウスに合わせて移動します。



垂直に移動する / 水平に移動する

移動するBOXをクリックし、選択状態にします。

キーボードの[Shiftキー]を押した状態で、マウスでBOXを移動します。(移動の基本)

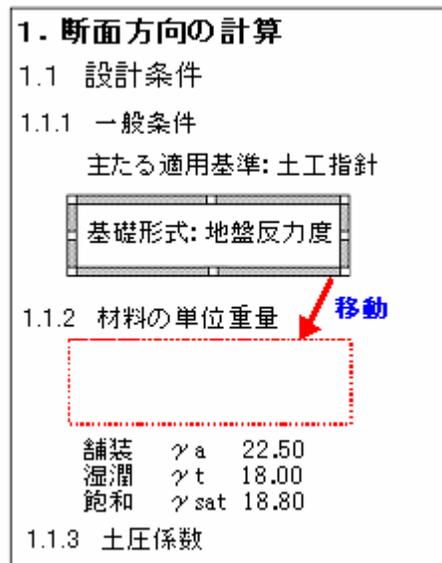
マウスが縦方向に多く動くと、選択したBOXは垂直に移動します。

マウスが横方向に多く動くと、選択したBOXは水平に移動します。

異なる見出しの下へ移動

移動対象のBOXを、別の見出しの下へ移動します。

下図の場合、移動したBOXは『1.1.2』の本文として扱われるようになります。



(目次ツリー編集時に、見出しの前の余分な空白が詰まります。)

1. 断面方向の計算

1.1 設計条件

1.1.1 一般条件

主たる適用基準: 土工指針

1.1.2 材料の単位重量

基礎形式: 地盤反力度

舗装 γ_a 22.50

湿潤 γ_t 18.00

飽和 γ_{sat} 18.80

1.1.3 土圧係数

鉛直土圧	α	1.000	
水平	CASE-1	(左) K_0	0.500
		(右) K_0	0.500

■関連トピック

[章\(節・項\)の順番を入れ替える](#)

BOXのサイズを変更する

下記4種類のBOXは、マウス操作でBOXのサイズを変更することができます。

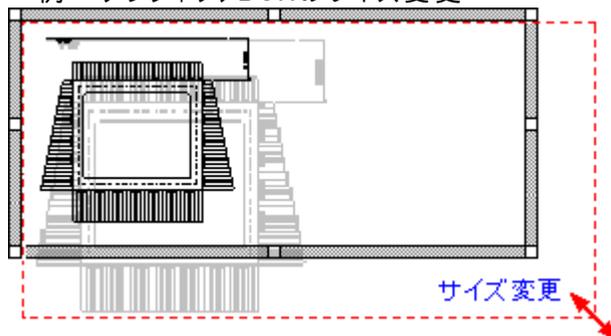
- ・テキストBOX
- ・グラフィックBOX
- ・見出しBOX
- ・マッピング画像BOX

■操作

対象のBOXをクリックし、選択状態にします。

マーカーの頂点にカーソルを合わせてドラッグすると、選択しているBOXがマウスに合わせて伸縮します。

<例> グラフィックBOXのサイズ変更



- ・グラフィックBOX、マッピング画像BOXは、ページに収まる範囲で自由にサイズを変更できます。BOXに合わせて画像の表示サイズが変わります。

- ・テキストBOXは、BOXの横幅を自由に変更できます。BOXの高さは、入力されている文字が全て表示されるように自動調整されます。

見出しBOXは、折り返しを解消するための幅変更のみ可能です。

■補足

表BOX、数式BOX、行列BOX は、入力された内容がすべて表示されるように、BOXのサイズが自動調整されます。

■関連トピック

[グラフィックエディタ\(グラフィックの表示方法\)](#)

BOX の配置

プレビュー上のBOXは、下記の基準に基づき、配置されます。

■本文のBOX（テキスト、表、グラフィック、行列、数式、マッピング画像）

- ・BOXは [手動で移動](#)し、任意の場所に配置します。
- ・ページに入りきらないBOXは、本プロダクトが自動的に次ページへ移動します。
- ・本プロダクトでは、BOX同士を重ねて表示することが可能です。そのため「BOXが重ならないように自動配置する」という機能はありません。
- ・本文のBOXは、上位の見出しBOXが移動すると一緒に移動します。
- ・[グループ](#)の親BOXが移動すると、子のBOXも一緒に移動します。
- ・特殊な配置方法として、[任意のBOXのプロパティ](#)で「常にページの先頭に配置する」という設定が可能です。

■見出しBOX

- ・見出しBOXは、ページの左端に固定されます。垂直方向の配置は本プロダクトが自動的に制御します。（[見出しの自動整列](#)をご覧ください）
- ・一時的にスペースを空けるために、手動で見出しBOXを垂直方向へ移動することは可能です。（[BOX移動](#)をご覧ください）
- ・見出しBOXの移動に合わせて、その下に属する本文BOXも動きます。

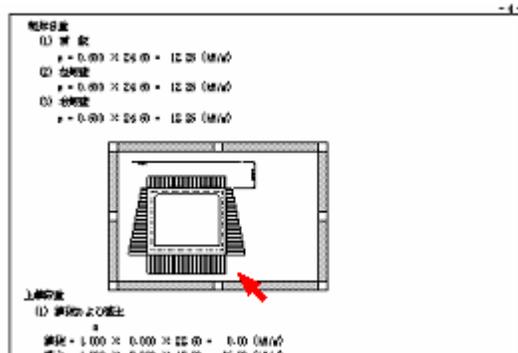
■関連トピック

[BOXを移動する](#)

BOX を編集状態にする

■プレビュー上のBOXを編集状態にする

対象のBOXをクリックし、選択状態にします。
(選択状態のBOXは、外周がマーカーで囲まれます)



BOX を再度クリックすると編集状態になります。
BOXタイプによって編集状態が異なります。

[テキストBOX](#)

[表BOX](#)

[グラフィックBOX](#)

[見出しBOX](#)

[行列BOX](#)

[数式BOX](#)

[マッピング画像BOX](#)

■表のセルに貼りつけたBOXを編集状態にする

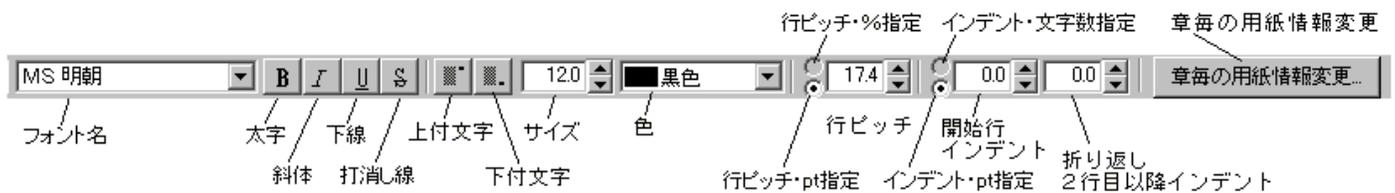
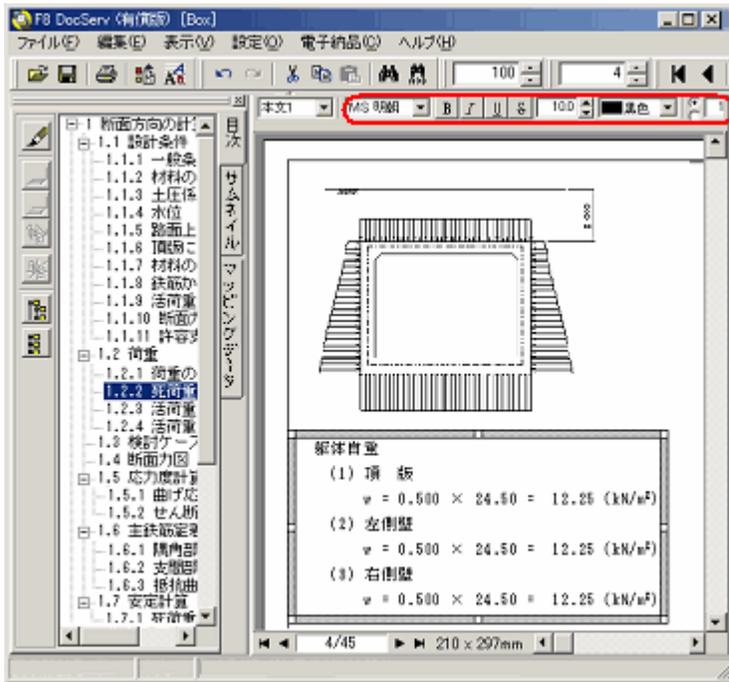
[表エディタ](#)を起動し、『表』タブ内で対象のセルをダブルクリックします。
セルに貼り付いているBOXが編集状態になります。(BOXが貼り付いていないと編集状態にはなりません)
上記【BOXの編集状態】をご覧ください。

■表のヘッダ／フッタのBOXを編集状態にする

[表エディタ](#)の『ヘッダ／フッタ』タブ内で、対象のBOXをダブルクリックします。
BOXが編集状態になります。
上記【BOXの編集状態】をご覧ください。

BOXの書式設定(ツールバー)

プレビュー画面のツールバーのアイコンを使用し、選択したBOXの書式(フォント、行間、インデント)を修正することができます。



■注意

ツールバーを使って修正した属性は、行スタイルの影響を受けなくなります。

■操作

BOXをクリックして選択状態にします。**複数選択**も可能です。
テキストBOXの場合、BOX内の一部のテキストを選択することも可能です。

ツールバーに書式設定アイコンが表示されます。

アイコンの上にカーソルを移動すると、アイコンの意味がポップアップ表示されます。

アイコンを使って、書式を変更します。

■関連トピック

[行スタイル](#)

[行ピッチについて](#)

[インデントについて](#)

[一部のテキストの書式を設定する](#)

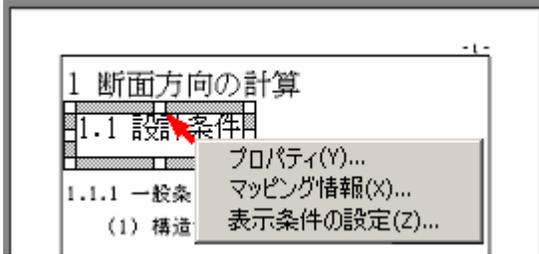
BOXのプロパティ

プレビュー上で、既存のBOXのプロパティを確認・修正することができます。
プロパティには、BOXのタイプ / 位置 / 枠線などの情報が含まれます。

■操作

対象のBOXを選択します。

マウスを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

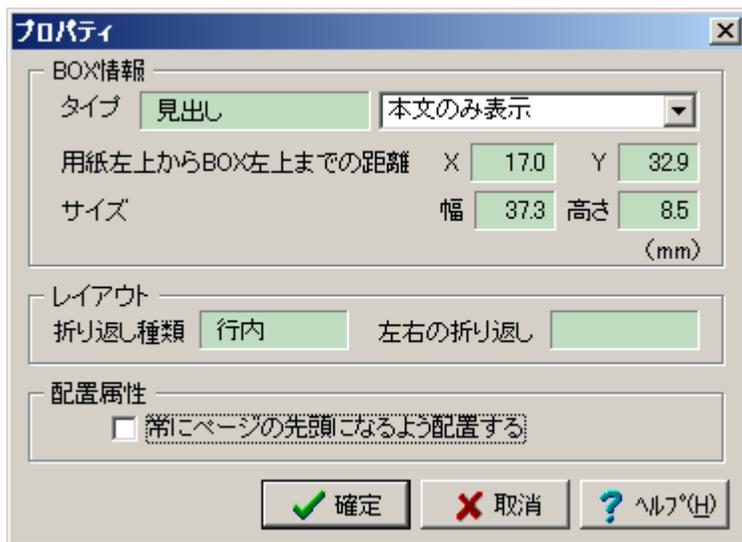


[マッピング情報]は、[XMLマッピング](#)されたBOXにのみ表示されます。

プロパティが表示されます。(詳細項目説明を参照)
選択したBOXのタイプにより、表示される項目が若干異なります。

■詳細項目説明

見出しBOXのプロパティ



タイプ (閲覧のみ) 選択したBOXのタイプ ([BOXのタイプとは...](#))

縦書き/横書き テキストBOXの場合のみ表示されます。
BOX内のテキストの、縦書き/横書きを切り替えます。

本文のみ表示 / 目次ツリーのみ表示 / 両方表示 (目次, 本文)

見出しBOXを選択した場合のみ表示される項目です。
(詳細は[見出しの表示設定](#)をご覧ください)

X・Y(閲覧のみ) 用紙左上を基点に、BOXの左上までの水平・垂直距離
([BOXの位置を変えるには...](#))

幅・高さ(閲覧のみ) BOXの幅と高さ
([BOXのサイズを変えるには...](#))

折り返し種類 現バージョンでは未使用(固定値)

左右の折り返し 現バージョンでは未使用(固定値)

常にページの先頭になるように配置する

プレビュー(または印刷)において、そのBOXが必ずページの先頭にくるように、BOXの直前で改ページが行われます。

・以下のいずれかの条件に該当する場合は、ページ先頭に表示されない場合があります。

1)(見出しBOXの場合)プレビュー上で直前のBOXが上位見出しである

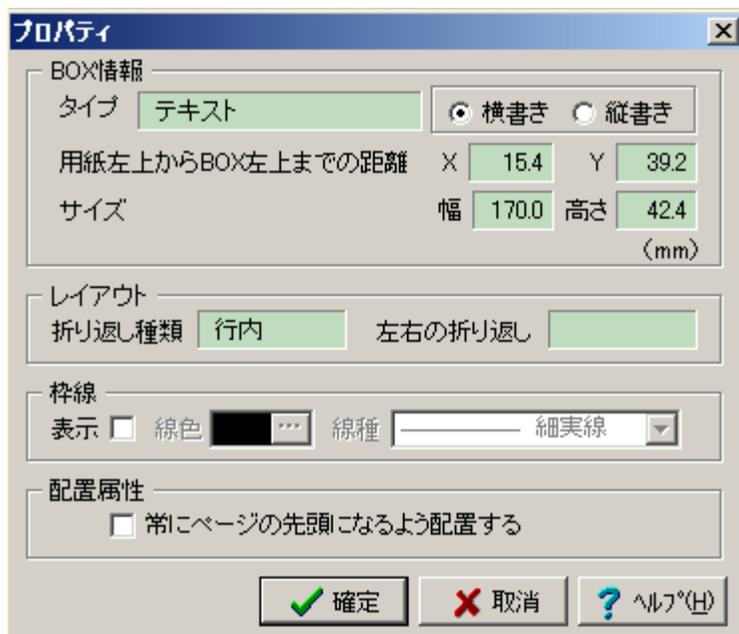
2)[その他の設定](#)で「トップページ属性を無視する」を選択している

選択している場合、当項目のチェックBOXはカスケード表示
(BOX内が薄い灰色)になります。

・当項目を選択した後、BOXを手動で[移動](#)した場合、選択は自動的に解除されます。

・見出しBOXに対する当項目の設定は、[見出しの属性](#)においても同様に行うことができます。

見出しBOX以外のプロパティ



タイプ (閲覧のみ) 選択したBOXのタイプ ([BOXのタイプとは...](#))

縦書き/横書き	テキストBOXの場合のみ表示されます。 BOX内のテキストの、縦書き/横書きを切り替えます。
X・Y(閲覧のみ)	用紙左上を基点に、BOXの左上までの水平・垂直距離 (BOXの位置を変えるには...)
幅・高さ(閲覧のみ)	BOXの幅と高さ (BOXのサイズを変えるには...)
折り返し種類	現バージョンでは未使用(固定値)
左右の折り返し	現バージョンでは未使用(固定値)
表示	枠線の表示/非表示を切り替えます。 この項目を選択(マークをつける)すると、BOXの枠線を表示します。
線色	現在の枠線の色が表示されます。  ボタンをクリックし、カラーパレットで枠線の色を選択します。
線種	現在の枠線の種類が表示されています。 ボタンをクリックし、プルダウンリストから枠線の種類を選択します。

常にページの先頭になるように配置する

プレビュー(または印刷)において、そのBOXが必ずページの先頭にくるように、BOXの直前で改ページが行われます。

・以下のいずれかの条件に該当する場合は、ページ先頭に表示されない場合があります。

1)(見出しBOXの場合)プレビュー上で直前のBOXが上位見出しである

2)[その他の設定](#)で「トップページ属性を無視する」を選択している

選択している場合、当項目のチェックBOXはカスケード表示(BOX内が薄い灰色)になります。

・当項目を選択した後、BOXを手動で[移動](#)した場合、選択は自動的に解除されます。

・見出しBOXに対する当項目の設定は、[見出しの属性](#)においても同様に行うことができます。

BOXのマッピング情報

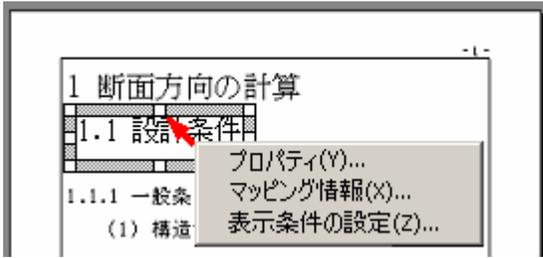
プレビュー上で、既存のBOXのマッピング情報を確認・修正することができます。

マッピング情報は既に[XMLマッピング](#)されたBOXのみ参照することができます。

■操作

対象のBOXを選択します。

選択されたBOX上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューの[マッピング情報]を選択します。



[マッピング情報]は、[XMLマッピング](#)されたBOXにのみ表示されます。

データマッピング情報ダイアログが表示されます。(詳細は"[データマッピング情報を修正する](#)"を参照)

BOX の表示条件の設定

プレビュー上で、既存のBOXの[表示条件の設定](#)を確認・修正することができます。

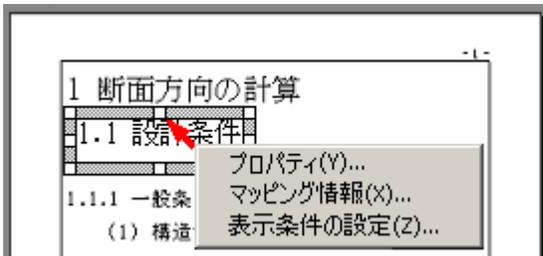
■注意

この機能は[有償機能](#)となっています。

■操作

対象のBOXを選択します。

選択されたBOX上でマウスを右クリックし、ポップアップメニューの[表示条件の設定]を選択します。



[マッピング情報]は、[XMLマッピング](#)されたBOXにのみ表示されます。

表示条件の設定ダイアログが表示されます。(詳細は"[表示条件の設定ダイアログ](#)"を参照)

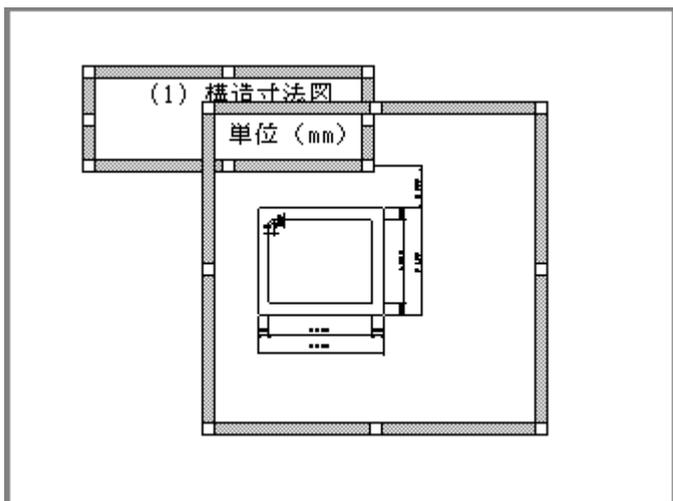
重なり合ったBOX

BOX同士の一部が重なり合っていると、自動的に1つのまとまり(グループ)と認識される場合があります。

意図しないグループ化にご注意ください。

グループとして認識される条件については、[BOXをグループ化する](#)をご覧ください。

< 例 >



■関連トピック

[BOXグループの操作](#)

計算結果を任意の書類形式にする

当社プロダクト(製品)の計算結果を任意の書類形式に当てはめて出力することができます。

[XMLマッピング概要](#)をご覧ください。

電子納品の不可文字列をチェック

現在開いているドキュメント内で、電子納品に使用できない文字を使っていないかチェックすることができます。

チェックした結果は、結果表示ウィンドウに表示されます。

[電子納品規定文字列チェック](#)をご覧ください。

ファイル作成・開く・保存・変換

ドキュメントを開く

統合文書ファイル(拡張子*.F9D)およびテンプレートファイル(拡張子*.F9T)を開くには、[ファイルを開く](#)をご覧ください。

最近利用したファイルの場合、[ファイルを開き直す](#)によって簡単に開くこともできます。(最大10個のファイル名が表示されます)

旧製品のドキュメントを開くには、[継承元製品のファイル読み込み](#)をご覧ください。

旧製品のファイルを開く

[継承元製品のファイル読み込み](#)をご覧ください。

ドキュメントを保存

編集中のドキュメントは、下記いずれかの方法で保存できます。

[上書き保存](#)

[名前を付けて保存](#)

他のファイル形式に変換

現在開いているドキュメントを、他のアプリケーション(ワープロソフト等)で扱える形式のファイルに出力することができます。

[他形式ファイルの出力](#)をご覧ください。

Word変換時のエラー

[他形式ファイルの出力](#)においてWord文書ファイルに出力する際、エラーが発生する場合があります。

■エラーメッセージ

「文書の書式設定が複雑すぎます。[高速保存]オプションをオフにして、文書を今すぐ保存してください。」

■エラー回避方法

[その他の設定](#)のWord出力設定で、「TOC(目次)フィールドを作成しない」にチェックをつけてください。

■関連トピック

[データのエクスポート](#)

ページ・改ページ

改ページ

改ページする／しないをコントロールするのは、次の2種類です。

- ・本プロダクトが自動的に行う改ページ制御
- ・任意に設定する改ページ制御

任意に設定する改ページ制御は、以下の方法があります。

■見出しの前で、強制的に改ページする

任意の見出しに対して「ページの先頭」の設定をすることにより、見出しBOXの直前で必ず改ページされます。

設定方法は次の2種類があります。

目次ツリーで、任意の[見出しの属性](#)で「ページ先頭へ出力」を選択する

プレビューで、任意の[見出しBOXのプロパティ](#)で「常にページの先頭になるように配置する」を選択する。

但し以下のいずれかの条件に該当する場合は、ページ先頭に表示されない場合があります。

- ・[その他の設定](#)で「トップページ属性を無視する」を選択している
- ・プレビュー上で、直前のBOXが上位見出しである

■BOXの前で、強制的に改ページする

任意の[BOXのプロパティ](#)で「常にページの先頭になるように配置する」を選択することにより、BOXの直前で必ず改ページされます。

但し、[その他の設定](#)で「トップページ属性を無視する」を選択している場合は、ページ先頭に表示されない場合があります。

■表の途中で改ページしない

任意の表を選択し、[表エディタのシートのプロパティ](#)で、「全行をタイトル行にする」を設定します。この設定により、表の途中でページをまたぐ場合には表の直前で改ページを行い、表が1ページに収まるようにします。

改ページを全て無効にする

[任意の方法で設定した改ページ](#)は、それぞれの設定を元に戻すことで改ページを無効にすることができます。

「ページ先頭へ出力」および「常にページの先頭になるように配置する」を一括で無効にするには、[その他の設定](#)で「トップページ属性を無視する」を選択します。

新規ページを作成

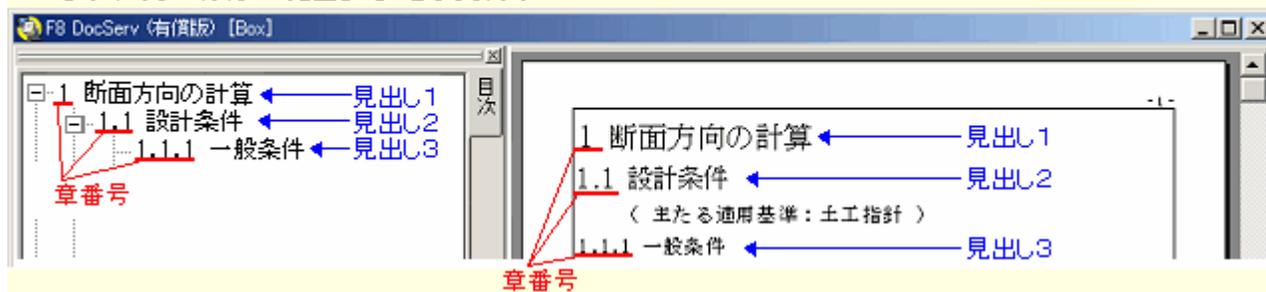
[ページ追加](#)をご覧ください。

見出し（章） / 目次ツリー

章番号

本プロダクトは階層化された見出しに対応しており、見出し1～3に対しては、下図のように章番号を自動的に振ることができます。

最上位レベルの見出しを「見出し1」として
次のレベルは「見出し2」
その下のレベルは「見出し3」となります。



章番号の表示形式などは任意に指定できます。

■見出しの先頭に章番号を表示する／しない（上図は章番号を表示した例です）

基本設定 : [章番号の表示設定\(目次ツリー\)](#)
個々の見出しの設定 : [見出しの属性](#)

■上位の章番号を表示する／しない（上図は上位章番号を表示した例です）

基本設定 : [章番号の表示設定\(目次ツリー\)](#)
個々の見出しの設定 : [見出しの属性](#)

■章番号の表示形式（上図の章番号の形式は『?.?.?』です）

[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

■任意の見出しの章番号を指定(変更)する

[見出しの属性](#)

■章番号を振り直す／開始番号を変更する(例:章番号は2番から始める 等)

[章番号を振り直す](#)

■関連トピック

[目次ツリーの編集モード](#)
[章\(節、項\)を作成する](#)

[章\(節、項\)を削除する](#)

[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

[出力する章\(節、項\)の選択](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

章番号の表示設定(目次ツリー)

目次ツリーでは、[見出しの章番号表示](#)に関して、以下の設定を行うことができます。ここでの設定は、見出し全体に適用されます。

- ・見出しの先頭に章番号を表示する/しない
- ・章番号は、上位の章番号も含む/含まない

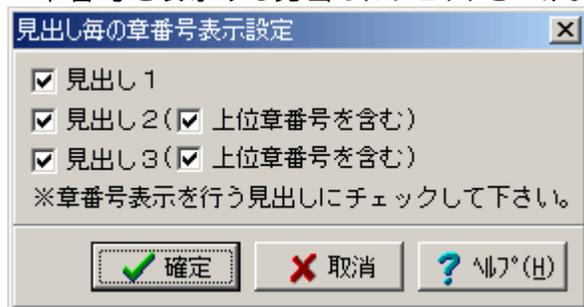
■操作

[目次ツリーを編集モード](#)にします。



アイコン(全表の章番号表示設定)をクリックします。

章番号を表示する見出しにチェックをつけます。(詳細項目説明を参照)



[確定]ボタンをクリックします。

目次ツリーの編集モードを終了します。

■詳細項目説明

- | | |
|----------|---|
| 見出し1 | 見出しの前に章番号を表示する場合は、チェックマークをつけます。 |
| 見出し2 | (同上) |
| 見出し3 | (同上) |
| 上位章番号を含む | 上位の章番号を含めて章番号を表示する場合は、この項目にチェックマークを付けます。
見出し1は最上位なので、この項目はありません。 |

<例>

- | | |
|------------------|------------|
| 見出し2に上位の章番号を含む | : 1.1 設計条件 |
| 見出し2に上位の章番号を含まない | : 1 設計条件 |

■関連トピック

見出しの章番号に関して

- ・上記以外の全体設定は、[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)
- ・見出しへの個別設定は、[見出しの属性](#)をご覧ください。

章番号の形式設定(その他の設定)

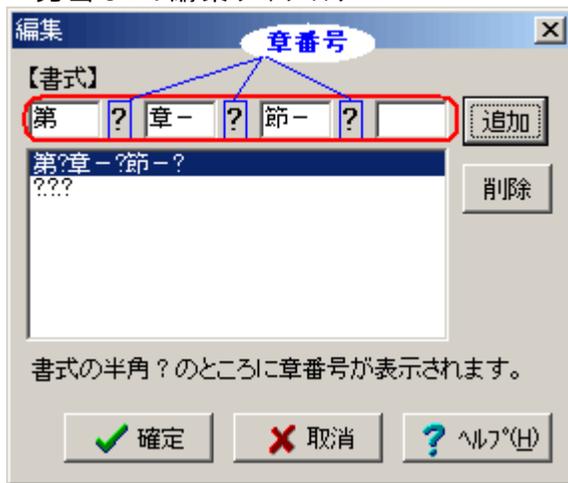
[その他の設定](#)では、[見出しレベル1~3](#)の章番号表示形式を任意に設定することができます。

■操作

[その他の設定](#)ダイアログで 見出し1, 2, 3いずれかの[編集]ボタンをクリックします。

章番号編集ダイアログが表示されます。

<見出し3の編集ダイアログ>



<ダイアログの見方>

実際に章番号が表示される部分は、?で表されます。

?の前後に表示する文字を定義することになります。

このダイアログ内では、上位の章番号を含めて表示することを前提に設定します。

上位番号の表示有無については、別途『[章番号の表示設定](#)』で選択します。

図の赤枠内で新しい形式を設定し、[追加]ボタンをクリックします。

[確定]ボタンをクリックします。

必要に応じて [章番号の表示設定\(目次ツリー\)](#)を行います。

出力する章(節、項)を選択

ドキュメントの本文は、章・節・項の単位で出力対象から外すことができます。出力対象から外した項目は、いつでも元に戻せます。

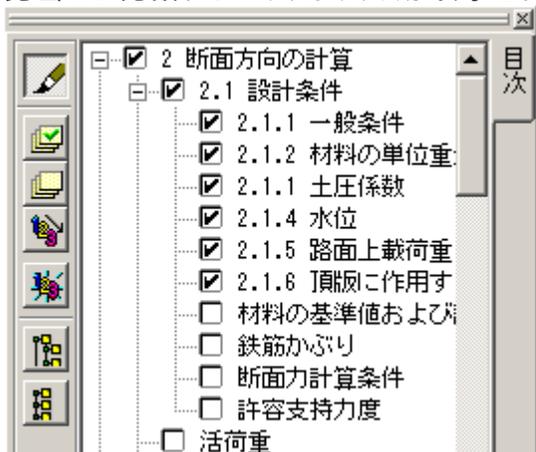
『出力』とは、以下の処理を指します。

- ・[プレビューに表示する](#)
- ・[プリンタに印刷する](#)
- ・[他形式ファイルの出力](#)

■操作

[目次ツリーを編集モード](#)にします。

見出しの先頭にチェックボックスが表示されます。出力しない項目のチェックを外します。



全てにチェックを付ける場合は  アイコンをクリックします。

全てのチェックを外す場合は、  アイコンをクリックします。

章番号がずれる場合があります。[章番号の振りなおし](#)を行うと、出力する項目に合わせて正しく番号が振られます。

出力しない項目には、章番号は振られません。

編集アイコンをクリックし、[目次ツリーの編集モード](#)を終了します。

■関連トピック

[目次ツリーの編集モード](#)

[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

[章番号を振りなおす](#)

[章\(節、項\)を作成する](#)

[章\(節、項\)を削除する](#)

[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

[出力する章\(節、項\)の選択](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

章(節、項)を作成

目次ツリー上で、新しい章(節・項)を作成することができます。

章(節・項)を作成することにより、プレビューに見出しが自動的に追加されます。

■注意

この機能は有償機能となっています。

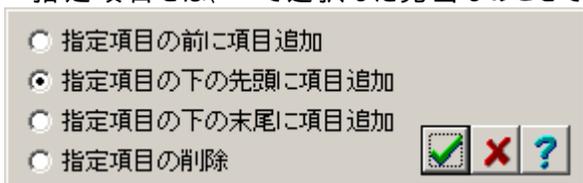
■操作

目次ツリーを編集モードにします。

章(節・項)追加の基準となる見出しをクリックし、右クリックします。
(追加例を参照)

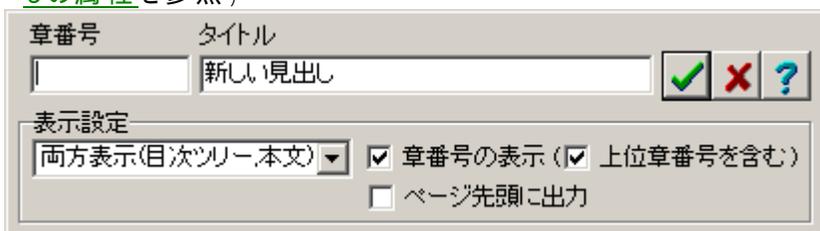


右クリックするとメニューが表示されます。
指定項目とは、で選択した見出しのことです。



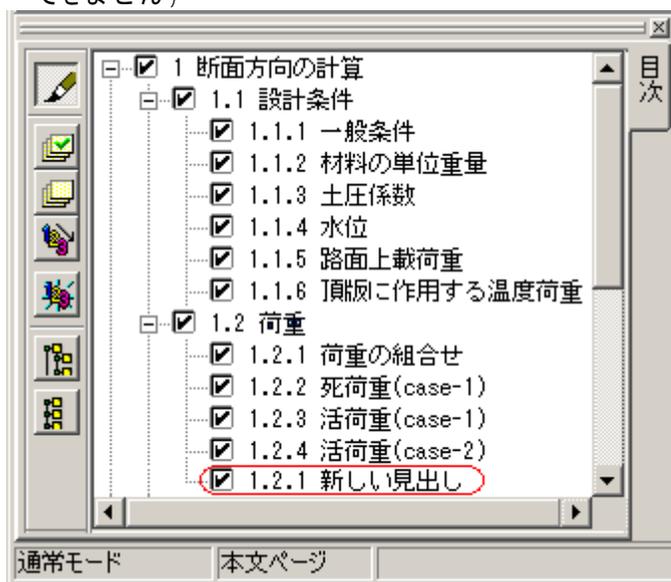
追加方法を選択し、をクリックします。

新しい項目の見出し属性(下図ダイアログ)を設定し、をクリックします。(設定の詳細は見出しの属性を参照)



新しい章(節・項)が追加されます。
章番号がずれた場合は、[章番号の振りなおし](#)を行ってください。

追加後、タイトルを修正する方法は、[見出しのテキスト修正](#)をご覧ください。(目次ツリーでは修正できません)



編集アイコンをクリックし、編集モードを終了します。

■ 追加例

以下のサンプル目次を使用し、それぞれの追加方法の結果を示します。

< サンプル目次 >

2章 あいうえお

2章1節 かきくけこ

2章1節1項 さしすせそ

2章1節2項 たちつてと

2章1節3項 なにぬねの

2章1節4項 はひふへほ

2章2節 まみむめも

2章2節1項 やゆよ

2章2節2項 らりるれる

基準となる見出し

< 指定項目の前に項目追加 >

2章 あいうえお

2章1節 かきくけこ

2章1節1項 さしすせそ

2章1節2項 たちつてと

2章1節3項 なにぬねの

2章1節4項 はひふへほ

2章1節 新しい見出し
2章2節 まみむめも
2章2節1項 やゆよ
2章2節2項 らりるれろ

< 指定項目の下の先頭に項目追加 >

2章 あいうえお
2章1節 かきくけこ
2章1節1項 さしすせそ
2章1節2項 たちつてと
2章1節3項 なにぬねの
2章1節4項 はひふへほ
2章2節 まみむめも
2章2節1項 **新しい見出し**
2章2節1項 やゆよ
2章2節2項 らりるれろ

< 指定項目の下の末尾に項目追加 >

2章 あいうえお
2章1節 かきくけこ
2章1節1項 さしすせそ
2章1節2項 たちつてと
2章1節3項 なにぬねの
2章1節4項 はひふへほ
2章2節 まみむめも
2章2節1項 やゆよ
2章2節2項 らりるれろ
2章2節1項 **新しい見出し**

■ 関連トピック

[見出しとは](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

[章番号を振りなおす](#)

[章\(節、項\)を作成する](#)

[章\(節、項\)を削除する](#)

[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

[出力する章\(節、項\)の選択](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

章(節、項)の削除

目次ツリー上で、章(節、項)を削除することができます。

これに対応するプレビュー上の見出しBOX及び、見出しに属する本文も削除されます。(見出しBOXは、プレビュー上で削除することはできません)

■注意

見出しだけでなく、その下に属する全て(下位見出し、本文)が一括削除されます。

見出しのみを削除することはできません。下位見出しや本文を残したい場合は、別の見出しの下へ移動する等の処理が必要です。(参照:[章の順番入れ替え](#)、[BOXの移動](#))

類似の操作として、[出力する章の選択](#)があります。見出しや本文を削除せず、一時的に非表示にすることができます。

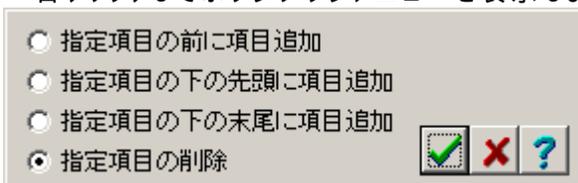
■操作

[目次ツリーを編集モード](#)にします。

目次ツリー上で、削除する見出し項目を選択します。



右クリックしてポップアップメニューを表示します。



[指定項目の削除]を選択し、をクリックします。

目次ツリーの編集モード終了時、プレビューが再構築されます。

削除によって章番号がずれる場合があります。[章番号の振りなおし](#)を行うと、正しい番号が振られます。

目次ツリーの編集モードを終了します。

■ 関連トピック

[見出しとは](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

[章番号を振りなおす](#)

[章\(節、項\)を作成する](#)

[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

[出力する章\(節、項\)の選択](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

章(節、項)の順番入れ替え・移動

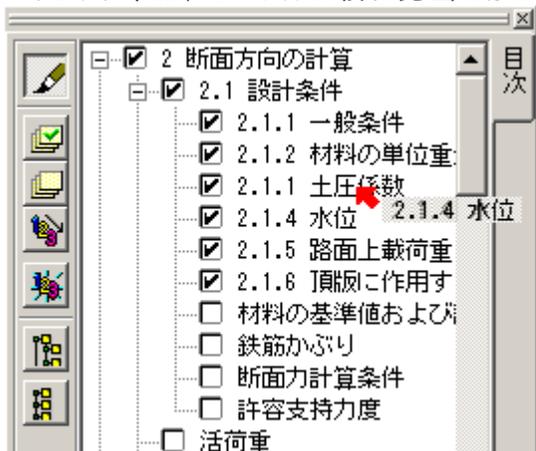
ドキュメントの章・節・項の並び順を変える / 階層を変更する 等の処理は、目次ツリーを使用して簡単に実行することができます。

目次ツリーでの並び替えは、プレビューにも反映されます。

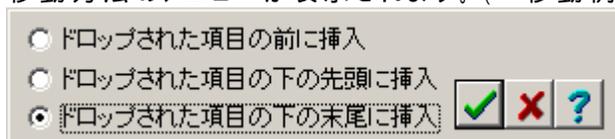
■ 操作

[目次ツリーを編集モード](#)にします。

移動する見出しをドラッグし、移動先の親見出し(または挿入先見出し)へドロップします。ドラッグ中は、カーソルの横に見出しがついてきます。



移動方法のメニューが表示されます。([移動例](#) 参照)



任意の方法を選択し、をクリックします。

目次ツリー及びプレビューの表示順が入れ替わります。必要に応じて章番号の振りなおしを行います。

編集アイコンをクリックし、編集モードを終了します。

■移動例

以下のサンプル目次を使用し、それぞれの移動方法の結果を示します。

<サンプル目次>

2章1節 かきくけこ

2章1節1項 さしすせそ

2章1節2項 たちつてと

2章1節3項 **なにぬねの**

2章1節4項 はひふへほ

2章2節 まみむめも

2章2節1項 やゆよ

2章2節2項 らりるれろ

移動する項目

この項目にドロップする

<ドロップされた項目の前に挿入する>

2章1節 かきくけこ

2章1節1項 さしすせそ

2章1節2項 たちつてと

2章1節4項 はひふへほ

2章2節 **なにぬねの**

2章3節 まみむめも

2章3節1項 やゆよ

2章3節2項 らりるれろ

<ドロップされた項目の下の先頭に挿入する>を選択した場合

2章1節 かきくけこ

2章1節1項 さしすせそ

2章1節2項 たちつてと

2章1節4項 はひふへほ

2章2節 **まみむめも**

2章2節1項 **なにぬねの**

2章2節2項 やゆよ

2章2節3項 らりるれろ

「ドロップされた項目の下の末尾に挿入する」を選択した場合

2章1節 かきくけこ

2章1節1項 さしすせそ

2章1節2項 たちつてと

2章1節4項 はひふへほ

2章2節 まみむめも

2章2節1項 やゆよ

2章2節2項 らりるれろ

2章2節3項 なにぬねの

■ 関連トピック

[見出しとは](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

[章番号を振りなおす](#)

[章\(節、項\)を作成する](#)

[章\(節、項\)を削除する](#)

[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

[出力する章\(節、項\)の選択](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

章番号を振りなおす

章の入替え・削除等でずれてしまった章番号は、章番号の振り直しにより修正することができます。また、見出し1(最上位の見出し)の開始番号を指定することもできます。

■ 操作

[目次ツリーを編集モード](#)にします。



アイコン(章番号振り直し)をクリックします。

見出し1の開始番号を指定するダイアログが表示されます。任意の番号を入力し、[確定]ボタンをクリックします。



振り直しが実行されます。

目次ツリーの編集モードを終了します。

■関連トピック

[見出しとは](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

[章番号の形式設定\(その他の設定\)](#)

[章番号を振りなおす](#)

[章\(節、項\)を作成する](#)

[章\(節、項\)を削除する](#)

[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

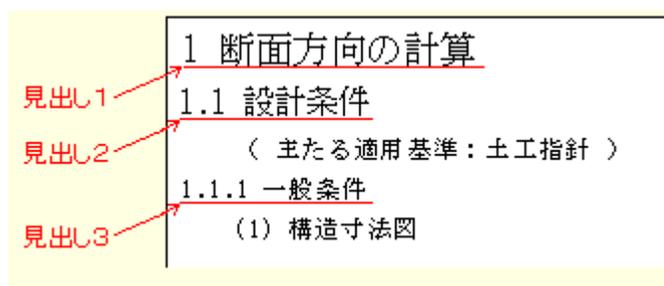
[出力する章\(節、項\)の選択](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

見出し

見出しとは、ドキュメント内の章(節、項)のタイトルを指します。

- ・プレビュー上で、見出しは『見出しBOX』によって表示されます。
- ・『見出しBOX』はプレビュー上で追加・削除することはできません。目次ツリー上で操作します。
- ・本プロダクトでは階層化された見出しに対応しています。
- ・3階層まで(見出し1,2,3)は、下図のように章番号を自動的に振ることができます。
- ・4階層以降の見出しも作成できますが、章番号を振ることはできません。



見出しと連動する機能として、『[目次ツリー](#)』と『[目次](#)』があります。

■関連トピック

[見出しを追加する](#)

[見出しを修正する](#)

[見出しを削除する](#)

[特定の見出しを必ずページの先頭に配置する](#)

[見出しの章番号を設定する](#)

[目次](#)

見出しを追加する

[見出しとは](#)ドキュメント内の章(節・項)のタイトルを指します。

見出しを追加する(=章・節・項を追加する)場合は、目次ツリー上で[章\(節、項\)を作成](#)します。

見出しを修正する

[見出しとは](#)ドキュメント内の章(節・項)のタイトルを指します。

■見出しの文字を修正する

[見出しのテキストを修正](#)

■見出しを追加する

[章\(節、項\)を作成](#)

■見出しを削除する

[章\(節、項\)を削除する](#)

■見出しの順番を入れ替える

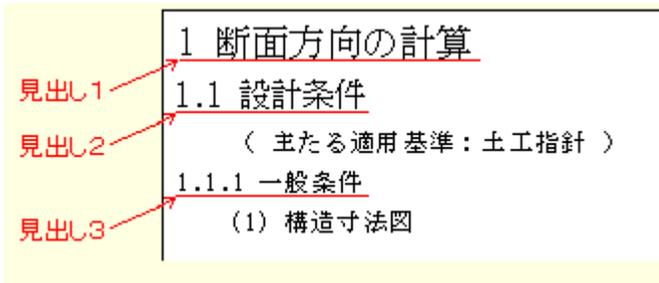
[章\(節、項\)の順番入れ替え](#)

■章番号を修正(設定)する

[章番号](#)

見出しのテキストを修正する

[見出し](#)のテキスト修正は、プレビューの本文ページで行います。



■注意

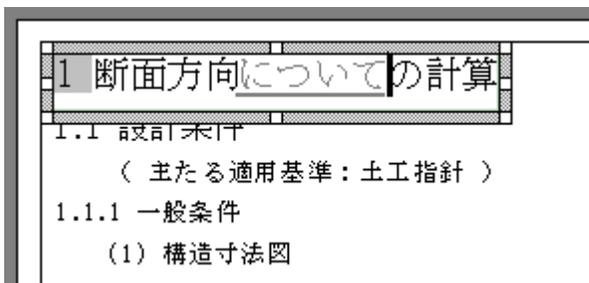
下記の操作で修正できるのは、見出しのテキスト部分のみです。
見出しの先頭に表示されている章番号の修正については[章番号](#)をご覧ください。

■操作

対象の見出しBOXを[編集状態](#)にします。

見出しBOX内に[キャレット](#)が表示されます。キャレットを移動し、テキストを修正します。

このBOX内で章番号は修正しないでください。(参照：[章番号正](#))



入力確定後、見出しの長さに合わせてBOXの幅が自動的に調整されます。

[目次の更新](#)を行うと、[目次ツリー](#)および[目次ページ](#)に修正内容が反映されます。

■関連トピック

[見出しを追加する](#)

[見出しを修正する](#)

[特定の見出しを必ずページの先頭に配置する](#)

[見出しの章番号を設定する](#)

[見出しの自動整列](#)

[目次](#)

見出しを削除する

[見出し](#)とはドキュメント内の章(節、項)のタイトルを指します。

見出しには、それに従属する本文や下位の見出しが存在しますので、見出しだけを削除することはできません。

■全て含めて削除する

削除対象の見出しと、それに属する本文や下位見出しをすべて含めて、削除するには、[章\(節、項\)の削除](#)をご覧ください。

■見出し以外を移動してから削除する

従属する本文や下位見出しを残す場合は、それらを他の見出しの下へ移動します。

- ・[章\(節、項\)を移動する](#)
- ・[BOXを移動する](#)

移動後、[章\(節、項\)の削除](#)により、対象の見出しを削除します。

■関連トピック

[見出しを追加する](#)

[見出しを修正する](#)

[特定の見出しを必ずページの先頭に配置する](#)

[見出しの章番号を設定する](#)

[目次](#)

見出しの属性(目次ツリー)

個々の見出しに対して、章番号形式、改ページ、任意の章番号などを設定できます。

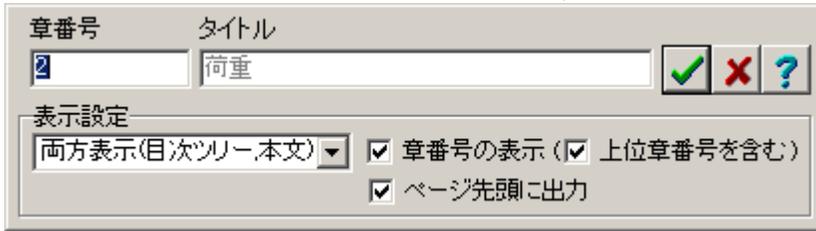
■操作

[目次ツリーを編集モード](#)にします

設定対象の見出しをダブルクリックします。



見出し属性のダイアログが表示されます。(詳細項目説明を参照)



ボタン をクリックすると、ダイアログが閉じます。

目次ツリーの編集モードを終了します。

■ 詳細項目説明

章番号

選択した見出しの章番号が表示されます。

- ・ここで任意の番号に変更できます。
- ・[章番号の振りなおし](#)を行うと別の番号に書き換わる場合があります。

タイトル

選択した見出しのタイトルが表示されます。

- ・既存の見出しタイトルをここで修正することはできません。[\(既存のタイトルを修正するには...\)](#)
- ・項目を[新しく作成](#)中の場合は、ここでタイトルを入力します。

本文のみ表示/目次ツリーのみ表示/両方表示(目次ツリー,本文)

見出しBOXを選択した場合のみ表示される項目です。

(詳細は[見出しの表示設定](#)をご覧ください)

章番号の表示

見出しの先頭に章番号を表示する/しない を設定します。

< 表示例 >

章番号を表示する..... 1.1.1 一般条件

章番号を表示しない..... 一般条件

上位章番号を含む

章番号を表示する際、章番号に上位レベル番号も付加する/しない を設定します。

< 表示例 >

上位章番号を含む..... 1.1.1 一般条件

上位章番号を含まない..... 1.一般条件

ページ先頭に出力

選択した見出しが、プレビュー(または印刷)で必ずページの先頭に来るように、見出し直前で改ページを行ないます。

- ・以下のいずれかに該当すると、ページ先頭に配置されない場合があります。
 - 1)プレビュー上で、直前のBOXが上位見出しである
 - 2) [その他の設定](#)で「トップページ属性を無視する」を選択している
選択している場合は、本項目のチェックBOXはカスケード(薄い灰色)表示になります。
- ・本項目を選択した後、見出しBOXを手動で[移動](#)した場合、選択は自動的に解除されます。

■ 関連トピック

[見出しとは](#)

[見出しを追加する](#)

[見出しを修正する](#)

[見出しを削除する](#)

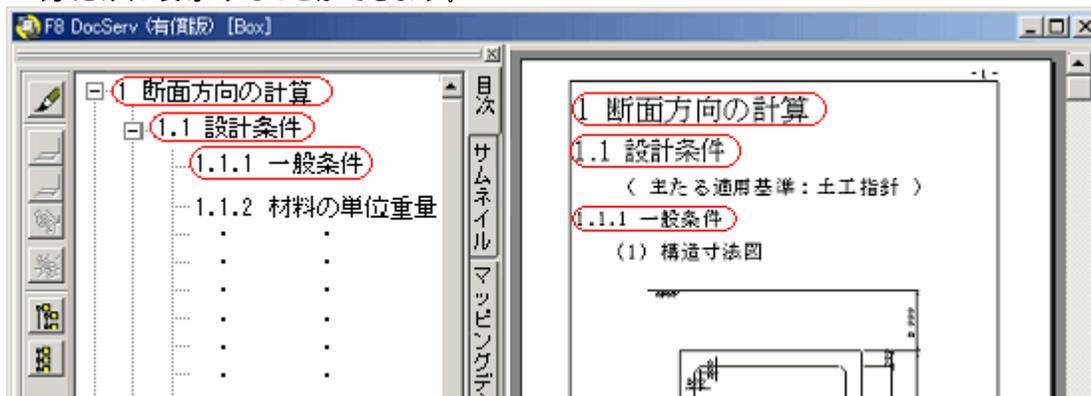
[見出しの章番号を設定する](#)

[改ページをすべて無効にする](#)

[目次](#)

見出しの表示設定

見出しは、基本的に本文と目次ツリーの両方に表示されますが、プロパティの設定により、どちらか一方だけに表示することができます。



■操作

プレビューで設定する

当該見出しを選択し、[BOXのプロパティ](#)で表示設定を切り替えます。

目次ツリーで設定する

[目次ツリーを編集モード](#)にし、[見出しの属性](#)で表示設定を切り替えます。

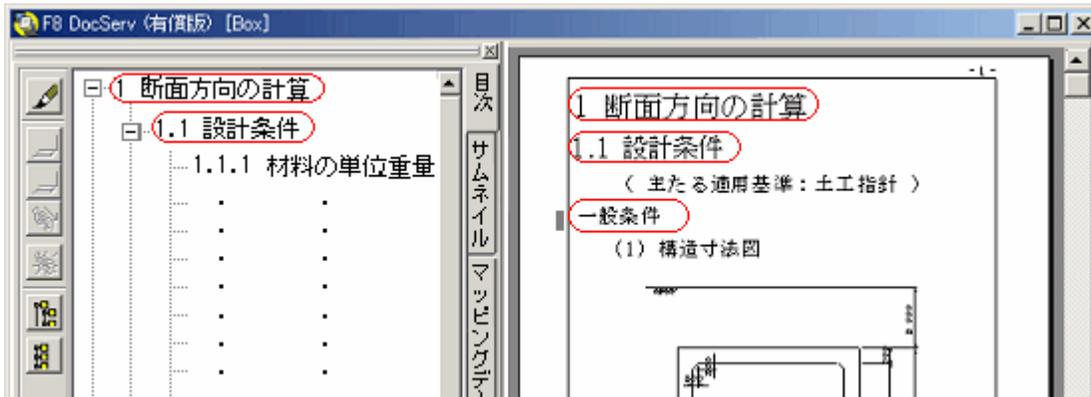
■注意

どちらか一方だけに表示する見出しは、[ドキュメントの目次](#)には含まれません。

■補足

本文のみに表示する場合

- ・プレビュー上の当該見出しは章番号が消え、余白部分にグレーの[補助マーカー](#)が表示されます。
- ・目次ツリーで[章番号の振りなおし](#)を行うと、当該見出しの番号をつめて、番号が振り直されます。

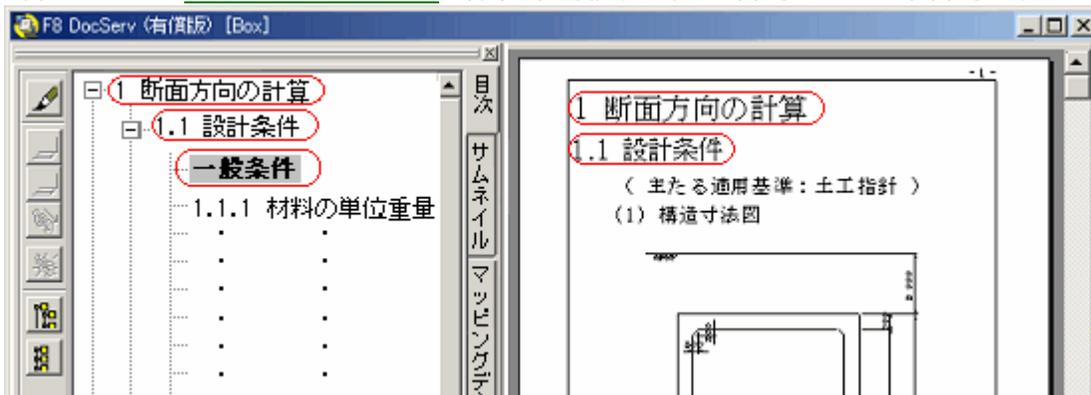


【この設定を行う条件】(いずれかに該当すればよい)

- ・当該見出しに属する下位見出しがない
- ・下位見出しがすべて「本文のみに表示」の設定になっている

目次ツリーのみに表示する場合

- ・目次ツリー上の当該見出しは、カスケード表示になり、章番号は付きません。
- ・目次ツリーで章番号の振りなおしを行うと、当該見出しの番号をつめて、番号が振り直されます。



■関連トピック

[出力する章を選択する（見出しと本文をまとめて非表示にする）](#)

[目次と目次ツリー](#)

見出しの自動整列

プレビューにおいて、見出しBOXはページの左端に揃えて配置されます。

縦方向へは手で任意に移動できますが、下記の自動整列により余分な空白は詰められてしまいますので、ご注意ください。

■自動整列のタイミングと整列方法

目次ツリーにて任意の編集が行われ編集モードが解除された時、すべての見出しBOXが縦方向に自動整列が行われます。

見出しBOXの前にある空白は、全て詰めてしまいます。

1.プレビューでページ再解析が実行された時。

直前のBOXと重なっている見出しBOXを下方向へ移動し、直前のBOXの下端に揃えます。

- ・重なっていない見出しBOXは、動きません。
- ・[ページ再解析]は、利用者がメニュー選択する場合と、各種設定の変更に伴って自動的に実行される場合があります。

2.目次ツリーの編集が終了した時。

すべての見出しBOXを、直前のBOXの下端に揃えます。

- ・見出しBOXの前にある空白は、全て詰めてしまいます。
- ・この整列と同時に見出しBOXの幅が自動調整されます。ページ幅に入りきらない場合のみ折り返し表示されます。

■補足

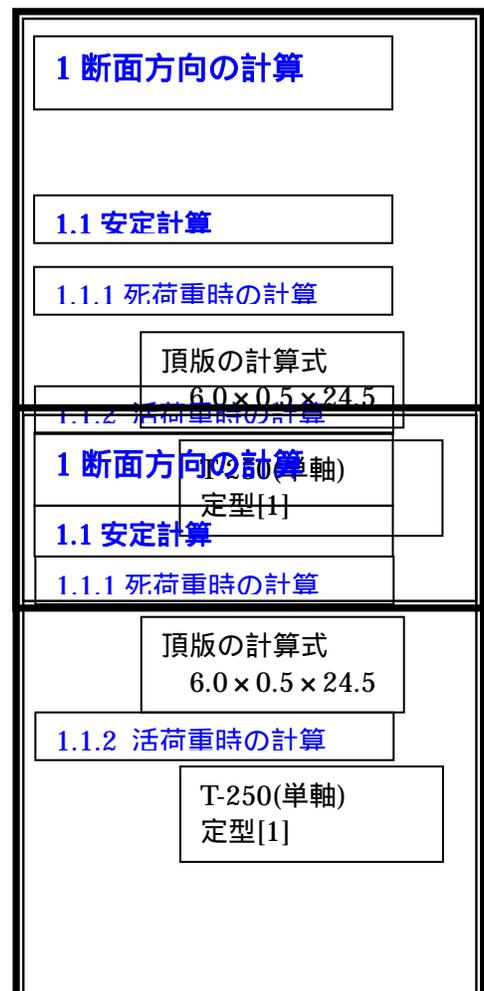
- ・見出しの特殊な配置方法として、任意の見出しBOXのプロパティで「常にページの先頭に配置する」という設定が可能です。
- ・自動/手動のどちらでも、見出しBOXが移動すると、本文のBOXも相対的な位置関係を保ちながら同時に動きます。
- ・見出しを手動で移動し、他の見出しとの順番を入れ替えた場合、その「入れ替え」は恒久的に有効です。(目次ツリーでの見出し入れ替えと同等です)

■自動整列の例

『1.1』の見出しを下(後)方に下げ、テキストBOX(“左右の水平・・・”)を『1.1.2』の見出しに重ねる編集を行った直後

目次ツリーの編集モードで任意の操作を行った後、編集モードを終了する。

ページ情報が再作成され、『1.1』の見出しの前の余分な空白が詰まり、『1.1.2』の見出し(本文含む)が、下方向に移動しています。



■関連トピック

[BOXを移動する](#)

[章\(節、項\)の順番を入れ替える](#)

目次ツリーの編集モード

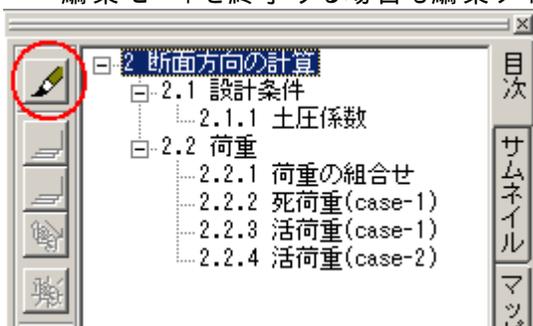
[目次ツリー](#)の編集モードでは、以下のような操作を行うことができます。

- ・[出力する章\(節、項\)の選択](#)
- ・[見出し\(=章、節、項\)を追加する](#)
- ・[見出し\(=章、節、項\)全体を削除する](#)
- ・[見出し\(=章、節、項\)の順番入れ替え](#)
- ・[章番号を昇順に振りなおす](#)
- ・[章番号の表示形式を設定](#)
- ・[章番号を直接指定する](#)
- ・[任意の見出しを必ずページの先頭に配置する](#)
- ・[任意の見出しを目次ツリーのみ\(または本文のみ\)に表示する](#)

[メイン画面](#)に目次ツリーが表示されていない場合は、[アウトラインフレーム表示](#)をご覧ください。

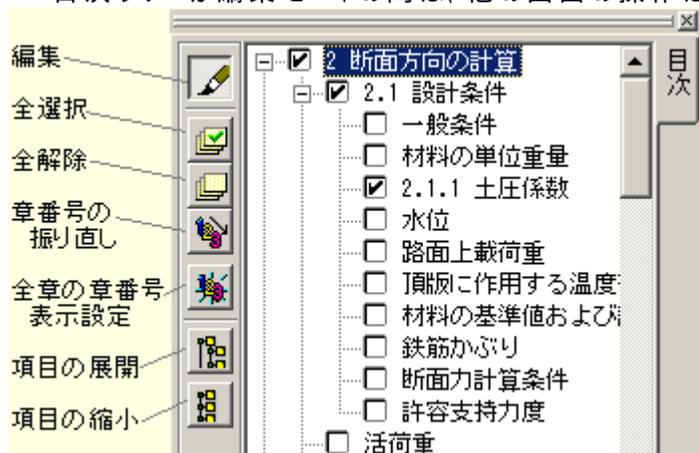
■操作

目次ツリーを編集モードにするには、ツリーの左側の編集アイコン(下図赤丸部)をクリックします。
編集モードを終了する場合も編集アイコンをクリックします。



編集モードに切り替わります。

- ・各見出しの先頭にチェックボックスが表示されます。
- ・ツリーの左側のアイコンが使用できるようになります。
- ・目次ツリーが編集モードの間は、他の画面の操作はできません。



編集モードを終了する場合、①でクリックした編集アイコンを再度クリックします。

■関連トピック

[目次ツリーの展開と縮小](#)

[見出しとは](#)

[見出しのテキストを修正する](#)

テキスト BOX

テキストBOXを追加

現在開いているドキュメントに、テキストBOXを追加することができます。

■新しいテキストBOXを追加する

[BOXを追加](#) (BOXタイプ = テキスト) すると、追加したテキストBOXが編集状態になります。

テキストBOX内に、「入力してください」という文字と[キャレット](#)が表示されますので、不要なテキストは削除し、文字を入力します。



テキストBOXのマーカー (BOXの外枠) 外をクリックすると、編集状態が終了します。

文字の入っていないテキストBOXを作成することはできません。空のテキストBOXには、強制的に「入力してください」の文字がセットされます。

必要に応じて、[BOXのサイズを調整](#)します。

■既存のテキストBOXに、文字を追加する

[テキストBOXの修正](#)をご覧ください。

テキストBOXを修正

プレビュー上のテキストBOXを編集状態にすると、BOX内でテキストを修正することができます。

新しくテキストBOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

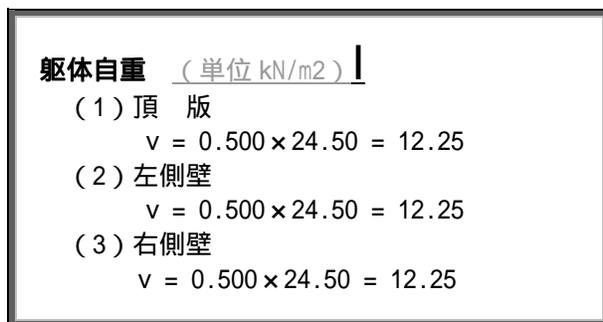
■注意

- ・表のセルに貼り付けたテキストBOXについては[セルにテキストを入力](#)をご覧ください。
- ・XMLマッピングの対象となっているテキストBOXの場合は、[テキストBOXを修正\(マッピング\)](#)をご覧ください。

■操作

対象のテキストBOXを[編集状態](#)にします。

BOX内に[キャレット](#)が現れます。キャレットを移動し、テキストを修正または追加入力します。途中で改行するには、Enterキーを使用します。



入力完了後は、マーカー外 (BOXの範囲外) をクリックすると編集状態が終了します。

文字の入っていないテキストBOXを作成することはできません。空のテキストBOXには、強制的に「入力してください」の文字がセットされます。

必要に応じて、[BOXのサイズを調整](#)します。

テキストBOXを修正(マッピング)

XMLマッピングの対象となっているテキストBOXは、マッピングされたデータの前後にテキストを追加・修正することができます。

< 例 > マッピングされた許容応力データ (8.00) の前後に、文章を追加したテキストBOX。

以上により、 ca は 8.00 となる

■ 操作

辞書項目を配置したテキストBOXを[編集状態](#)にします。

BOX内に[キャレット](#)が現れます。キャレットを移動し、テキストを修正または追加入力します。

・データは網掛け表示になります。この部分を修正することはできません。

・[マッピングデータを読み込んでいない場合](#)、または、[テンプレートモードでプレビュー](#)している場合、参照するデータが文字列の時『***』、数値の時『###』で表示されます。

以上により、 ca は 8.00 となる。(単位 kN/m²)

完了後は、マーカー外 (BOXの範囲外) をクリックすると編集状態が終了します。

必要に応じて、[BOXのサイズを調整](#)します。

■ 関連トピック

[テキストBOXの修正](#)

[データマッピング情報を修正](#)

[辞書項目を配置 \(マッピング\)](#)

[辞書項目を追加配置 \(マッピング\)](#)

表 BOX

表を追加

現在開いているドキュメントに、表を追加入力することができます。

■ 新しい表を作成する

[BOXを追加](#) (BOXタイプ = 表) すると、[表エディタ](#)が起動します。エディタを利用して表を作成します。

■ 既存の表を修正する

対象の表BOXを[編集状態](#)にすると、[表エディタ](#)が起動します。エディタ内で、行列の増減・セルの編集等を行います。

■ 関連トピック

[セルの入力・修正・削除](#)

[セルのプロパティ](#)

[シートのプロパティ](#)
[行・列のプロパティ](#)
[表のタイトル](#)
[表のヘッダ/フッタ追加](#)

表を修正

表BOXを編集状態にすると、表エディタが起動します。
エディタ内で表を修正することができます。

■表を修正

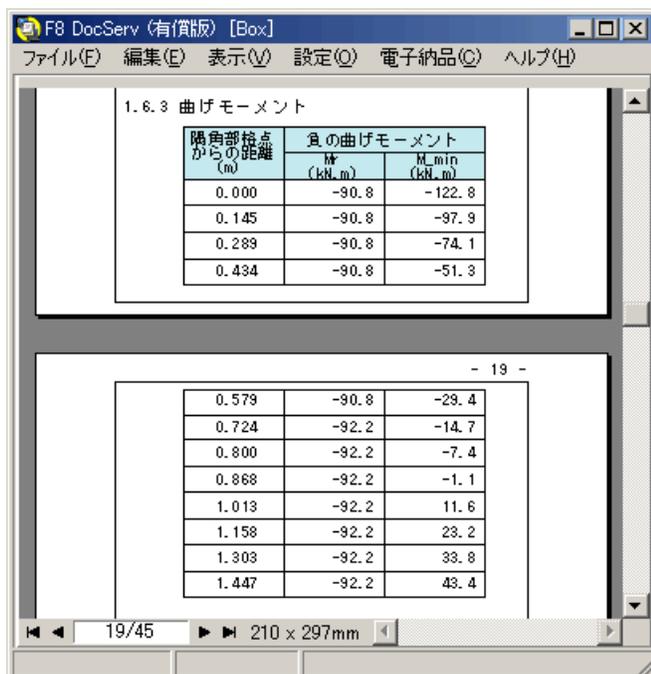
[セルの入力・修正・削除](#)
[セルの罫線・背景色を設定する](#)
[セルの書式設定](#)
[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)
[行の高さ・列の幅をマウスで調整する](#)
[表の途中での改ページ制御](#)
[タイトル行の繰り返し表示](#)
[その他の表操作](#)

■表のヘッダ/フッタを修正

[ヘッダ/フッタ修正](#)
[ヘッダ/フッタ追加](#)
[ヘッダ/フッタ削除](#)
[ヘッダ/フッタの表示設定](#)
[ヘッダ/フッタの書式設定](#)

表の途中での改ページ

初期状態では、表の途中でページが一番下に達した場合、次のページにその続きが表示されます。



1.6.3 曲げモーメント

隅角部拾点 からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
	M (kN.m)	M_min (kN.m)
0.000	-90.8	-122.8
0.145	-90.8	-97.9
0.289	-90.8	-74.1
0.434	-90.8	-51.3

- 19 -

0.579	-90.8	-29.4
0.724	-92.2	-14.7
0.800	-92.2	-7.4
0.868	-92.2	-1.1
1.013	-92.2	11.6
1.158	-92.2	23.2
1.303	-92.2	33.8
1.447	-92.2	43.4

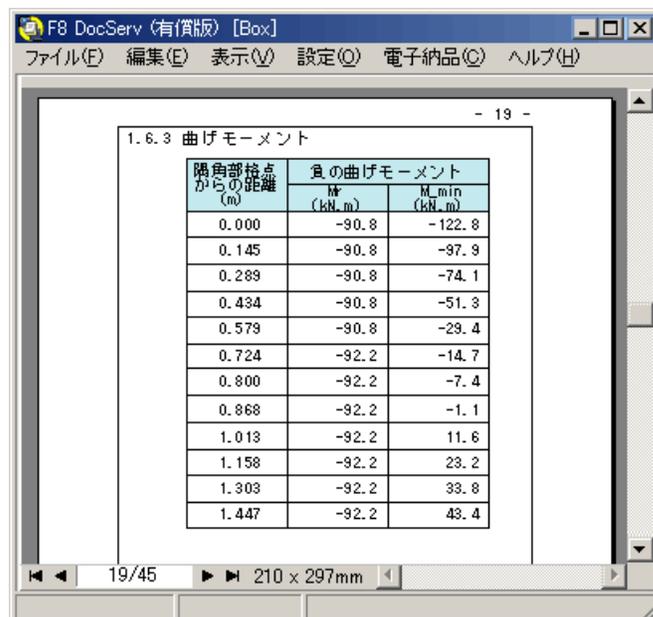
19/45 210 x 297mm

■表の途中でページを変えない

表エディタで全セルを選択状態にして、右クリックメニューから「プロパティ」をクリックし、シートのプロパティ

で「全行をタイトル行とする」を選択します。これにより、ページ内に収まらない表は、表の直前で改ページが実行され、ページ先頭から記述されるようになります。

ページ先頭から記述しても1ページに収まらない場合は、ページをはみ出して表示しますのでご注意ください。



F8 DocServ (有償版) [Box]

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 設定(O) 電子納品(C) ヘルプ(H)

1.6.3 曲げモーメント

隅角部拾点 からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
	M (kN.m)	M_min (kN.m)
0.000	-90.8	-122.8
0.145	-90.8	-97.9
0.289	-90.8	-74.1
0.434	-90.8	-51.3
0.579	-90.8	-29.4
0.724	-92.2	-14.7
0.800	-92.2	-7.4
0.868	-92.2	-1.1
1.013	-92.2	11.6
1.158	-92.2	23.2
1.303	-92.2	33.8
1.447	-92.2	43.4

- 19 -

19/45 210 x 297mm

■ ページが変わったら、タイトルヘッダ行／タイトルフッタ行を再表示する

表の途中でページが変わった場合に再び表のタイトルヘッダ行／タイトルフッタ行を表示することができます。

表エディタで再表示したい行を選択状態にして、右クリックメニューから「プロパティ」をクリックし、対象行の**行のプロパティ**で「タイトルヘッダ行とする」（または、「タイトルフッタ行とする」）を選択します。この設定により、タイトルヘッダ行は次ページの先頭で、タイトルフッタ行は次ページの末尾で再び表示されます。（右図参照：タイトルヘッダ行の例）

タイトルヘッダ行は表の先頭行から指定行まで、タイトルフッタ行は表の指定行から末尾行までの設定となります。表の途中の行だけをタイトルヘッダ行／タイトルフッタ行とする事はできません。

1.6.3 曲げモーメント

隅角部格点からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
	M ₀ (kN.m)	M _{min} (kN.m)
0.000	-90.8	-122.8
0.145	-90.8	-97.9
0.289	-90.8	-74.1
0.434	-90.8	-51.3

19/45 210 x 297mm

■ 改ページ毎に、ヘッダ／フッタを表示する

表の途中でページが変わる場合、表のヘッダ（またはフッタ）をページ毎に表示することができます。対象の**ヘッダ／フッタの表示設定**で「改ページ毎に表示する」を選択します。この設定を行ったヘッダ（フッタ）は、改ページ前後にそれぞれ表示されます。

1.6.3 曲げモーメント

【頂版】

隅角部格点からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
	M ₀ (kN.m)	M _{min} (kN.m)
0.000	-90.8	-122.8
0.145	-90.8	-97.9
0.289	-90.8	-74.1
0.434	-90.8	-51.3

※モーメントシフト分を含む

19/45 210 x 297mm

【頂版】

0.579	-90.8	-29.4
0.724	-92.2	-14.7
0.868	-92.2	-1.1
1.013	-92.2	11.6
1.158	-92.2	23.2
1.303	-92.2	33.8
1.447	-92.2	43.4

※モーメントシフト分を含む

表のタイトル

■表題

ヘッダ機能を使用することにより、表題を表BOX内に作成することができます。
[表のヘッダ/フッタ追加](#)をご覧ください。



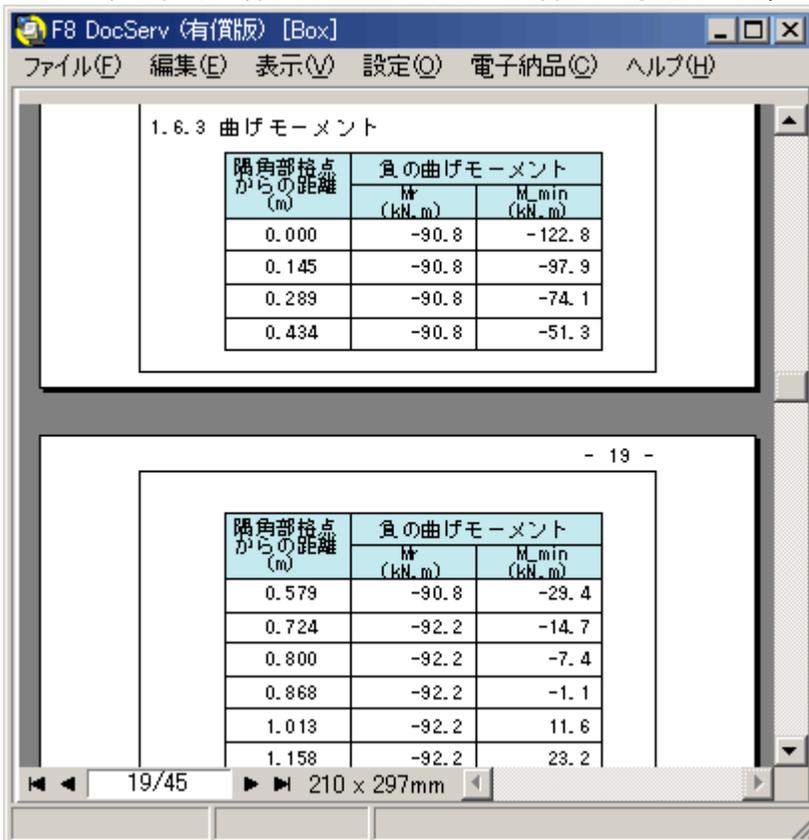
積	炭	ヤ	22.50
盛土	逐	積	18.00
	越	和	18.80
鉄筋コンクリート			24.50
水			9.80

(主たる適用基準：土工指針)

■表のタイトル行

表のタイトル行を設定しておく、表の途中でページが変わった場合に再びタイトル行を表示することができます。

表エディタで、タイトル行を選択し、[行のプロパティ](#)で「タイトル行とする」の項目を選択します。この設定により、選択した行は次ページの先頭で再び表示されます。



F8 DocServ (有償版) [Box]
ファイル(E) 編集(E) 表示(V) 設定(O) 電子納品(C) ヘルプ(H)

1.6.3 曲げモーメント

隅角部格点 からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
	M _中 (kN.m)	M _{min} (kN.m)
0.000	-90.8	-122.8
0.145	-90.8	-97.9
0.289	-90.8	-74.1
0.434	-90.8	-51.3

- 19 -

隅角部格点 からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
	M _中 (kN.m)	M _{min} (kN.m)
0.579	-90.8	-29.4
0.724	-92.2	-14.7
0.800	-92.2	-7.4
0.868	-92.2	-1.1
1.013	-92.2	11.6
1.158	-92.2	23.2

19/45 210 x 297mm

表エディタ

表BOXを編集状態にすると、表エディタが起動します。

表エディタでは、表の編集および表のヘッダ/フッタの編集を行うことができます。

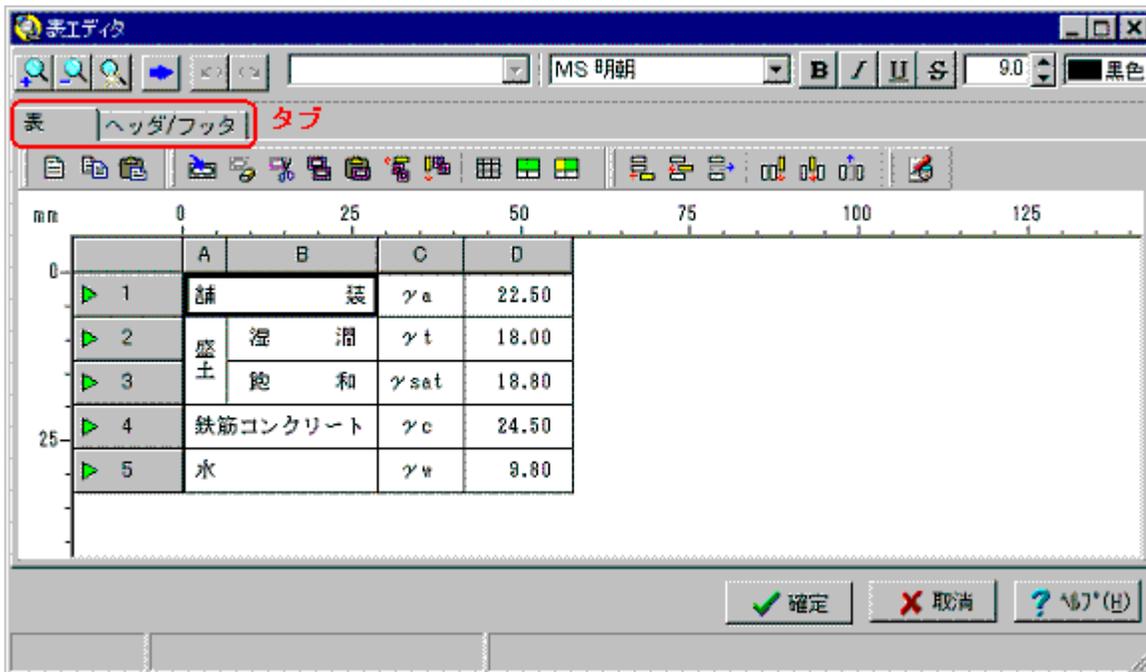
舗装	盛土	γa	22.50
盛土	湿潤	γt	18.00
盛土	飽和	γsat	18.80
鉄筋コンクリート		γc	24.50
水		γw	9.80

(主たる適用基準：土工指針)

新しく表BOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

■操作方法

エディタ内のタブを切り替えることにより、表またはヘッダ/フッタの編集が行えます。



[表を編集する](#)

[ヘッダ/フッタ修正](#)

[ヘッダ/フッタ追加](#)

[ヘッダ/フッタ削除](#)

[ヘッダ/フッタの表示設定](#)

[ヘッダ/フッタの書式設定](#)

■ ツールバー



スタイル名は、ヘッダ/フッタでのみ有効となります。(セルのスタイル名は変更できません。)

■ ボタン

確定ボタン 表の編集内容がドキュメントに反映され、表エディタが終了します。

取消ボタン 編集をすべて無効にして、表エディタを終了します。

■ 関連トピック

[表の途中での改ページ制御](#)

[セルのプロパティ](#)

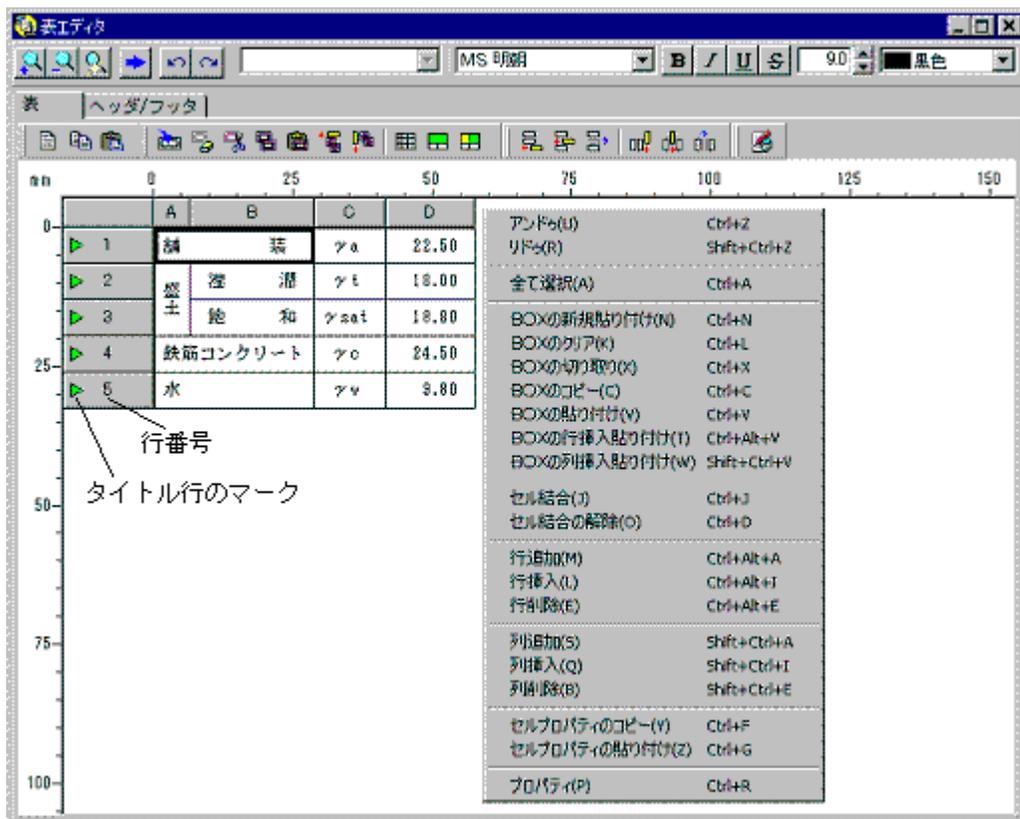
[シートのプロパティ](#)

[行・列のプロパティ](#)

表タブ(表エディタ)

[表エディタ](#)の『表』タブでは、次の操作を行うことができます。

- ・セルの操作 (入力、修正、削除、連結、分割、罫線、背景)
- ・行 / 列の操作 (追加、削除、行高、列幅)
- ・書式設定
- ・改ページの設定
- ・タイトル行の表示形式設定



操作

[セルの入力・修正・削除](#)

[セルの罫線・背景色を設定する](#)

[セルの書式設定](#)

[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

[行の高さ・列の幅をマウスで調整する](#)

[表の途中での改ページ制御](#)

[タイトル行の繰り返し表示](#)

■ ツールバー



メニュー項目	説明
マッピンググループ ID の変更	(1つまたは複数のセルを選択します) 選択したセル内の <u>マッピングデータグループID</u> を変更します。

その他の項目の詳細は、下記ポップアップメニューの同メニュー項目を参照して下さい。

■ ポップアップメニュー

- ・ポップアップメニューを使用して操作します。(下表参照)
- ・ポップアップメニューは、表タブ内で右クリックすると表示されます。

メニュー項目	説明
アンドゥ	(セルを選択する必要はありません) 直前の操作を取り消して、1つ前の状態に戻します
リドゥ	(セルを選択する必要はありません) アンドゥで取り消した操作を再度実行します
全て選択	(セルを選択する必要はありません) 表エディタに表示されている全てのセルを選択状態にします。
BOX の新規貼り付け	(セルを1つ選択します) 選択したセルに任意のBOX(テキスト・グラフィック・マッピング画像・表・数式・行列)を貼り付けます。既に貼り付けてあるBOXは上書きされます。 <u>セルの入力・修正・削除</u> 参照
BOX のクリア	(1つまたは複数のセルを選択します) 選択したセル内の BOX をクリア(削除)します。
BOX の切り取り	(1つまたは複数のセルを選択します) 選択したセル内のテキストとセルのプロパティを切り取り、コンピュータ内部に一時記憶します。切り取った後のセルは空白になります。 一時記憶は、最新の1回分しか記憶できません。
BOX のコピー	(1つまたは複数のセルを選択します) 選択したセル内のテキストとセルのプロパティを、コンピュータ内部に一時記憶します。セルの中身は消えません。 一時記憶は、最新の1回分しか記憶できません。
BOX の貼り付け	・1つのセルに貼り付ける場合 (貼り付け先のセルを1つ選択します) 切り取りまたはコピーしたテキストと、セルのプロパティを、選択したセルに貼り付けます。 貼り付け先の既存のテキスト等は上書きされます。

	<p>・複数のセルに貼り付ける場合</p> <p>(貼り付け先の範囲の左上に相当するセルを1つ選択します) 切り取りまたはコピーしたテキストとセルプロパティを、選択したセルを左上にして貼り付けます。 貼り付け範囲内に存在する既存のテキスト等は上書きされます。</p>
BOX の行挿入貼付け	(セルを1つ選択します) 選択しているセルの上に必要な数だけ新しく行を挿入し、挿入した行に貼り付けます。
BOX の列挿入貼付け	(セルを1つ選択します) 選択しているセルの左に必要な数だけ新しく列を挿入し、挿入した列に貼り付けます。
セル結合	(連続した複数のセルを選択します) 選択しているセルを結合して1つのセルにします。
セル分割(またはセル結合の解除)	(セルを1つ選択します) 選択しているセルが結合セルの場合、"セル結合の解除"となり、元の複数セルに戻ります。 結合セルではない場合、個数と方向を指定するダイアログが表示されます。分割によって増えたセルにあわせて、行または列が挿入されます。
行追加	(セルを選択する必要はありません) 表の末尾行の後に、新しく行を追加します。行数と行の高さを指定できます。
行挿入	(セルを1つ選択します) 選択しているセルの上になんく新しく行を挿入します。行数と行の高さを指定できます。
行削除	(1つまたは複数のセルを選択します) 選択しているセルの行を削除します。行全体が無くなります。
列追加	(セルを選択する必要はありません) 表の一番右になんく新しく列を追加します。列数と列の幅を指定できます。
列挿入	(セルを1つ選択します) 選択しているセルの左になんく列を挿入します。列数と幅が指定できます。
列削除	(1つまたは複数のセルを選択します) 選択しているセルの列を削除します。列全体が無くなります。
セルプロパティのコピー	(セルを1つ選択します) 選択したセルのプロパティを、コンピュータ内部に一時記憶します。セルは元のままです。(一時記憶は、最新の1回分しか記憶できません) セルのプロパティ参照
セルプロパティの貼り付け	(セルを1つ選択します) [セルプロパティのコピー]で一時記憶したプロパティを、選択したセルのプロパティに適用します。 セルのプロパティ参照
プロパティ	シートのプロパティ , 行・列のプロパティ , セルのプロパティ をご覧ください。
マッピンググループIDの変更	1つまたは複数のセルを選択し、選択したセル内の マッピングデータグループID を変更します。

貼り付けを行う前に、BOXのコピーまたはBOXの切り取りを実行する必要があります。

■関連トピック

[ヘッダ/フッタ修正](#)

[ヘッダ/フッタ追加](#)

セルの入力・修正・削除(表エディタ)

[表エディタ](#)で、表のセルへの入力・修正・削除を行うことができます。

セルの編集は、BOXを介して行います。

- ・1つのセルには、1つのBOXを貼り付けることができます。(重ねて貼り付けると上書きされます)
- ・貼り付けるBOXは、ドキュメント本文で使用する **BOX**と同様です。
- ・セルをダブルクリックすると、貼りつけたBOXが編集状態になります。
- ・表の初期状態では、すべてのセルにテキストBOXが貼り付いています。

■セルにBOXを貼り付け、入力する

[表エディタ](#)内で、対象のセルをマウスでクリックし、選択状態にします。

右ボタンをクリックし、ポップアップメニューから[BOXの新規貼り付け]を選択します。

ダイアログでBOXのタイプを選択し、[確定]ボタンをクリックします。



BOXが貼り付き、自動的に編集状態になります。

BOXタイプによって編集状態が異なります。BOXタイプに合ったトピックをご覧ください。

[テキストBOX](#)

[表BOX](#)

[グラフィックBOX](#)

[行列BOX](#)

[数式BOX](#)

[マッピング画像BOX](#)

■セルの内容を修正する

[表エディタ](#)内で、対象のセルをダブルクリックします。

セルに貼り付いているBOXが編集状態になります。(BOXが貼り付いていないと編集状態にはなりません)

BOXタイプによって編集状態が異なります。BOXタイプに合ったトピックをご覧ください。

[テキストBOX](#)

[表BOX](#)

[グラフィックBOX](#)

[行列BOX](#)

[数式BOX](#)

[マッピング画像BOX](#)

■セルの内容を(BOXごと)削除する

[表エディタ](#)内で、対象のセルをマウスでクリックし、選択状態にします。

マウスの右ボタンを押し、ポップアップメニューから[セル削除]を選択します。

■その他の操作

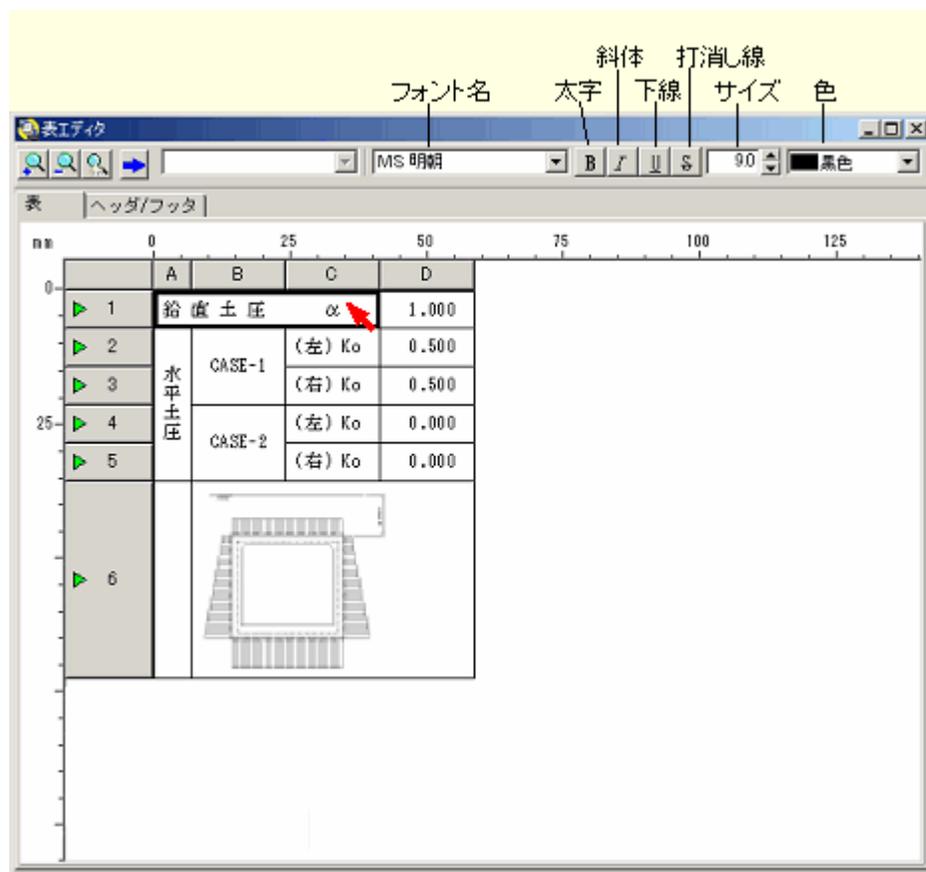
[表タブ](#)のメニュー項目、あるいは[セルの書式設定](#)をご覧ください。

セルの書式(表エディタ)

[表エディタ](#)内で、各セルのテキストに対して書式を設定することができます。

書式の設定はセルごとに行いますが、テキストBOXを貼り付けている場合に限り、セル内の一部のテキストに対して設定することもできます。

行スタイル、行ピッチ、インデントは、セルに設定することはできません。



■セルに書式を設定する

表エディタ内で、対象のセルをマウスでクリックし、選択状態にします。エディタ上部のアイコンを利用して書式を設定します。

■一部のテキストに書式を設定する

表エディタ内でセル(テキストBOXのセルのみ)を 編集状態にし、対象のテキストをドラッグします。
エディタ上部のアイコンを利用して書式を設定します。

■関連トピック

[セルのプロパティ](#)

セルの罫線(表エディタ)

表エディタ内で、セルの罫線の色・幅・線種・表示有無を設定することができます。

[セルのプロパティ](#)をご覧ください。

セルの背景(表エディタ)

表エディタ内で、セルの背景色を設定することができます。

[セルのプロパティ](#)をご覧ください。

セルのプロパティ(表エディタ)

表エディタの[セルのプロパティ]では、各セルに対する設定(背景色・罫線情報・配置)を行うことができます。

罫線情報(表示有無・色・線種・線幅)は、セルの上下左右および対角線に対してそれぞれ個別に設定できます。

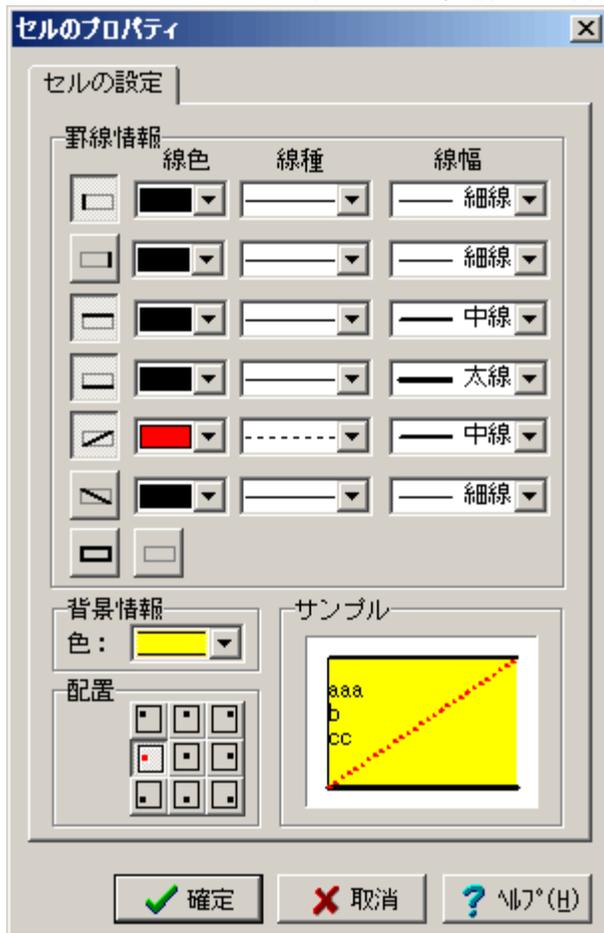
■操作方法

表エディタを起動し、『表』タブ内で対象のセル(複数可)を選択します。

	A	B	C	D	
▶ 1	舗	装	γ_a	22.50	
▶ 2	盛土	湿	潤	γ_t	18.00
▶ 3		飽	和	γ_{sat}	18.80
▶ 4	鉄筋コンクリート		γ_c	24.50	
▶ 5	水		γ_w	9.80	

右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

セルのプロパティが表示されます。(詳細項目説明をご覧ください)



確定 ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。

■ 詳細項目説明

罫線

各ボタンに、対象の罫線が強調表示されています。

ボタンが押し込まれていると、罫線を表示します。

ボタンをクリックすることで、罫線の表示 / 非表示を切り替えます。

線色

現在の罫線の色が表示されています。

右側のボタンをクリックし、カラーパレットで罫線の色を選択します。

線種

現在の罫線の種類が表示されています。

右側のボタンをクリックし、プルダウンで罫線の種類を選択します。

線幅

現在の罫線の幅が表示されています。(単位:mm)

右側の上下ボタンによって数値を変更、または数値欄に直接入力することもできます。



ボタンをクリックすると、外枠の罫線を全て表示にします。



ボタンをクリックすると、外枠の罫線を全て非表示にします。

背景情報

現在のセルの背景色が表示されています。

右側のボタンをクリックし、カラーパレットで背景色を選択します。

配置 セルにテキストBOXを貼り付けている場合のみ、設定できます。
入力したテキストの配置(左寄せ、中央寄せ、右寄せ等)を、9種類のアイコンをクリックして選択します。

サンプル 罫線・背景・配置の設定を元に、セルの状態を表示します。

選択中セルに対する確定時の条件 シートのプロパティが変更されると、当項目の「シートの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。

同様に、セルのプロパティが変更されると、当項目の「セルの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。

画面上に、「セルの設定」タブのみ表示されている場合は、この項目は表示されません。

※両プロパティ(シートの設定とセルの設定)を変更した後、セルのプロパティは元のままにしたいという場合に、「セルの設定」の方のチェックを外してから[確定]することで、「シートの設定」のプロパティの変更だけが反映されます。

チェック付 : そのプロパティは、確定ボタンをクリックすると表に反映されます。

チェックなし : 確定ボタンをクリックしても変更内容は無視されます。

■関連トピック

[シートのプロパティ](#)

[行・列のプロパティ](#)

[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

[行の高さ・列の幅をマウスで調整する](#)

セルにテキストを入力

[表エディタ](#)で、セルにテキストを入力・修正することができます。

■操作方法

[表エディタ](#)内で、対象のセル(テキストBOX)をダブルクリックします。

[セルにテキストBOXを貼り付けるには...](#)

テキストBOXが編集状態になり、セルにテキストを直接入力・修正できます。
テキストの途中で改行するには、Ctrlキーを押しながらEnterキーを押します

Enterキーを押すと、セルの編集状態が終了します。

セルの高さや幅を、任意に調整します。

■関連トピック

[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

[行の高さ・列の幅をマウスで調整する](#)

セルのテキスト配置

テキストBOXを貼り付けているセルは、[セルのプロパティ](#)でテキストの配置を指定することができます。

mm	0	25	50	75	100
0		A		B	
1		中央に配置する		右上に配置する	
25	2				

シートのプロパティ(表エディタ)

[表エディタ](#)の[シートのプロパティ]では、表全体に対する設定(行高、列幅、行数、列数など)を行うことができます。

■操作方法

表エディタの『表』タブで、シート全体を選択し、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

【シート全体を選択するには...】

- ・シート選択ボタン(下図矢印部)をクリックする
- ・ポップアップメニューで[全て選択]をクリックする

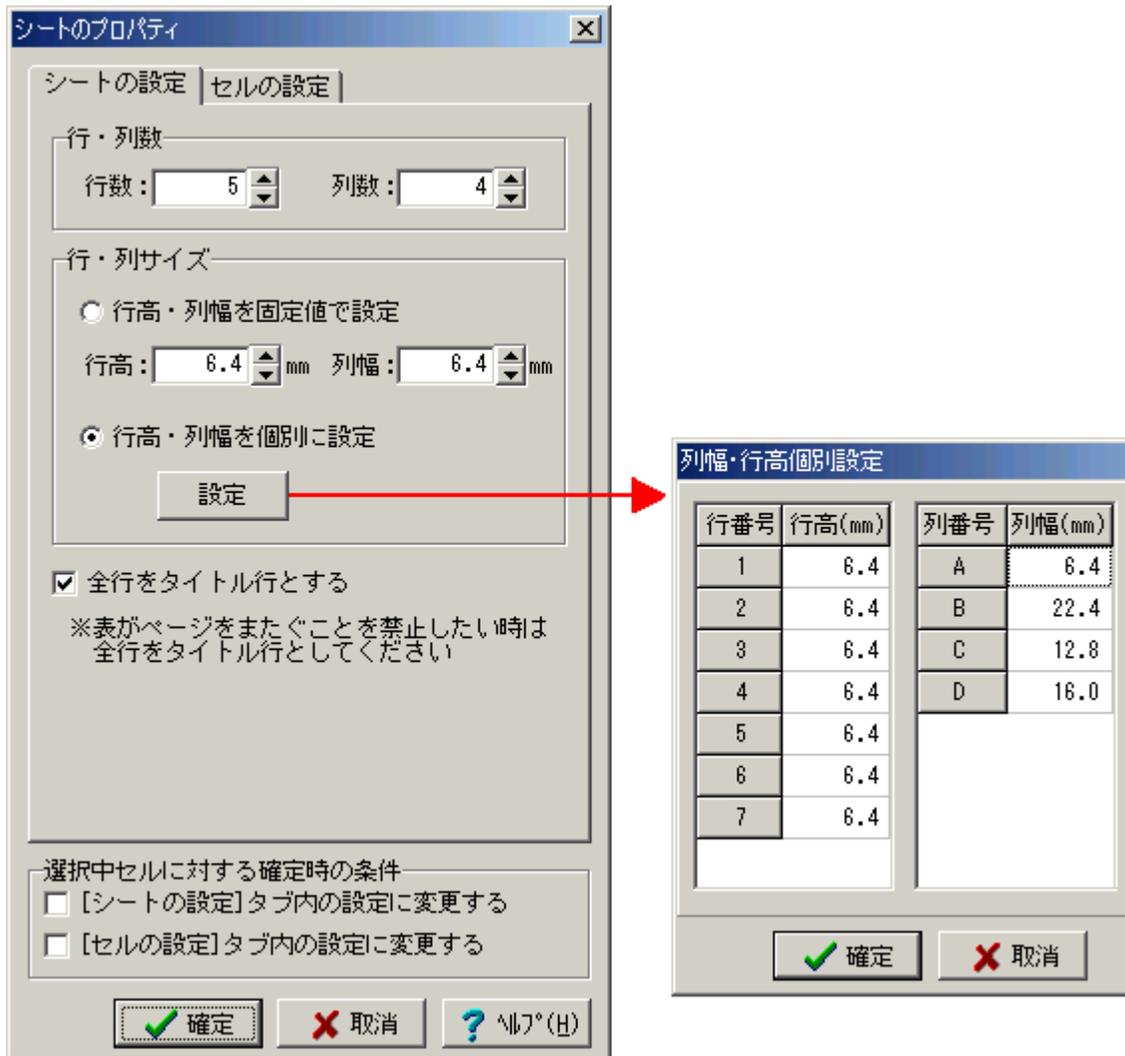
【ポップアップメニューを表示するには...】

- ・シート上で右クリックする

	A	B	C	D
▶ 1	舗 装		γ_a	22.50
▶ 2	盛土	湿 潤	γ_t	18.00
▶ 3		飽 和	γ_{sat}	18.80
▶ 4	鉄筋コンクリート		γ_c	24.50
▶ 5	水		γ_w	9.80

シートのプロパティが表示されます。

『シートの設定』タブで、行・列に関する設定を行います。(詳細項目説明を参照)



「セルの設定」タブに切り替え、[セルの罫線・背景色を設定する](#)も行えます。
ただし表全体が対象になりますのでご注意ください。

「確定時に有効となる設定」の「シート」と「セル」のチェックマークを確認します。(詳細項目説明をご覧ください)

[確定]をクリックし、ダイアログを閉じます。

■ 詳細項目説明

行数 表の行数を指定します。

列数 表の列数を指定します。

行高・列幅を固定値で設定

全ての行の高さ・列の幅を、指定のサイズに揃えます。

行高 行の高さ(単位:mm)

列幅 列の幅 (単位:mm)

行高・列幅を個別に設定

個別設定ダイアログ(上図右)を使用し、行高・列幅を個別に設定します。

個別設定ダイアログは、[設定]をクリックすると表示されます。

全行をタイトル行とする

プレビューにおいて、表の途中でページが変わるのを防ぐ項目です。

この項目にチェックマークをつけると、表が1ページに収まるように(必要に応じて)表の直前で改ページを行います。但し、1ページ以上に渡る表は、この設定を行ってもページをまたぐこととなります。

選択中セルに対する確定時の条件

シートのプロパティが変更されると、当項目の「シートの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。

同様に、セルのプロパティが変更されると、当項目の「セルの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。

※両プロパティ(シートの設定とセルの設定)を変更した後、セルのプロパティは元のままにしたい という場合に、「セルの設定」の方のチェックを外してから[確定]することで、「シートの設定」のプロパティの変更だけが反映されます。

チェック付 :そのプロパティは、[確定]をクリックすると表に反映される

チェックなし:[確定]をクリックしても変更内容は無視される

■関連トピック

[セルのプロパティ](#)

[行・列のプロパティ](#)

[表の途中での改ページ制御](#)

[表のタイトル](#)

[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

行の高さ・列の幅(表エディタ)

[表エディタ](#)の『表』タブで、行高・列幅を調整することができます。

・[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

・[行の高さ・列の幅をマウスで調整する](#)

行高・列幅を数値指定(表エディタ)

[表エディタ](#)の[シートのプロパティ](#)で、行高・列幅を数値指定することができます。

■操作方法

表エディタを起動します。

対象の行番号(列番号)をクリックし、行(列)全体を選択します。

・複数行(列)を対象にする場合は、マウスをドラッグして選択します。

	A	B	C
1	隅角部格点	負の曲げモーメント	
2	からの距離	M_r (kN.m)(m)	M_{min} (kN.m)
3	0.000	-109.7	-122.8
4	0.120	-109.7	-119.8
5	0.289	-109.7	-105.0

・表全体を対象にする場合はシート選択ボタン(下図矢印部)をクリックし、シート全体を選択します。

	A	B	C	D
▶ 1	舗 装		γ_a	22.50
▶ 2	盛土	湿 潤	γ_t	18.00
▶ 3		飽 和	γ_{sat}	18.80
▶ 4	鉄筋コンクリート		γ_c	24.50
▶ 5	水		γ_w	9.80

右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

『シートの設定』タブで『行高・列幅を個別に設定』を選択します。(下図)

[設定]ボタンをクリックし、個別設定ダイアログ(下図右)で数値を編集します。

シートのプロパティ

シートの設定 | セルの設定

行・列数

行数: 列数:

行・列サイズ

行高・列幅を固定値で設定

行高: mm 列幅: mm

行高・列幅を個別に設定

設定

全行をタイトル行とする

※表がページをまたぐことを禁止したい時は全行をタイトル行としてください

確定時に有効となる設定 シート セル

列幅・行高個別設定

行番号	行高(mm)	列番号	列幅(mm)
1	6.4	A	6.4
2	6.4	B	22.4
3	6.4	C	12.8
4	6.4	D	16.0
5	6.4		
6	6.4		
7	6.4		

[確定]をクリックし、ダイアログを閉じます。

■関連トピック

[プロパティ画面 \(シート全体を選択\)](#)

[プロパティ画面 \(行または列を選択\)](#)

[行の高さ・列の幅をマウスで調整する](#)

行高・列幅をマウスで調整 (表エディタ)

[表エディタ](#)の『表』タブで、行高・列幅を調整することができます。

■操作方法

行の高さ

行番号の境界 (対象行番号の下) にマウスカーソルを合わせ、カーソルの形状が上下矢印 (下図) の状態で上下にドラッグします。

列の幅

列番号の境界 (対象列番号の右) にマウスカーソルを合わせ、カーソルの形状が左右矢印 (下図) の状態で左右にドラッグします。

mm	0	25	50	75	100
	A	B	C	D	E
0		負の曲げモーメント		正の曲げモーメント	
1	隅角部格点からの距離 (m)	Mr (kN.m)	M _{min} (kN.m)	Mr (kN.m)	M _{max} (kN.m)
2					
3	0.000	-90.8	-122.8	90.0	-94.5
4	0.145	-90.8	-97.9	90.0	-75.8
5	0.289	-90.8	-74.1	90.0	-58.1
6	0.434	-90.8	-51.3	90.0	-41.4

■関連トピック

[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

行・列のプロパティ (表エディタ)

[表エディタ](#)の [行 (列) のプロパティ] では、行高 (列幅) の設定およびタイトルヘッダ行 / タイトルフッタ行を設定することができます。

■操作方法

表エディタを起動し、設定対象の行番号 (列番号) をクリックして行 (列) 全体を選択します。

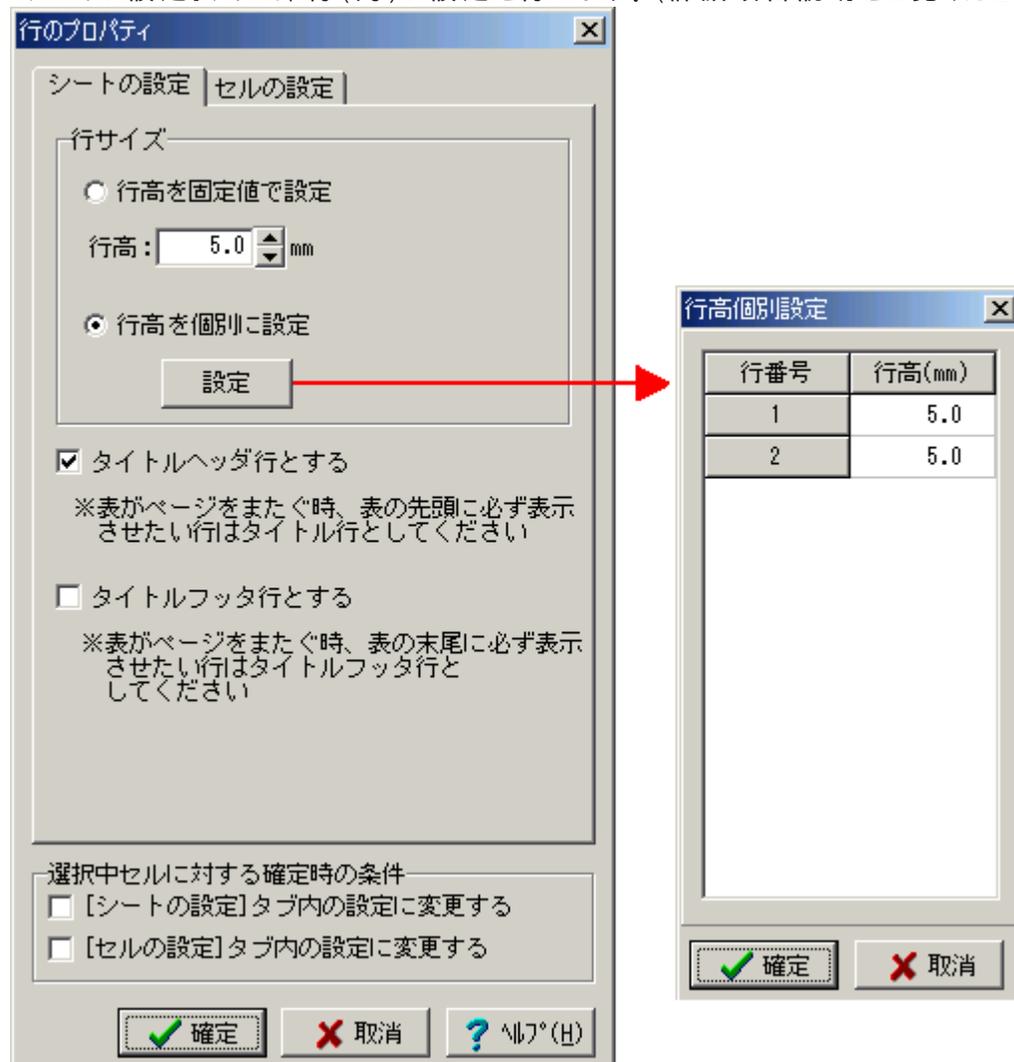
複数選択する場合はマウスをドラッグして選択します。

	A	B	C
1	隅角部格点	負の曲げモーメント	
2	からの距離	M_r (kN.m)(m)	M_{min} (kN.m)
3	0.000	-109.7	-122.8
4	0.120	-109.7	-119.8
5	0.239	-109.7	-105.0

右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。

行(列)のプロパティが表示されます。

『シートの設定』タブで、行(列)の設定を行います。(詳細項目説明をご覧ください)



『セルの設定』タブに切り替え、[セルの罫線・背景色を設定する](#)も行えます。
ただし選択した行(列)の全セルが対象になりますのでご注意ください。

選択中セルに対する確定時の条件の「シートの設定」...と「セルの設定」...のチェックマークを確認します。(詳細項目説明をご覧ください)

[確定]をクリックし、ダイアログを閉じます。

タイトル行には三角のマークが付きます。

	A	B	C
▶ 1	隅角部格点 からの距離 (m)	負の曲げモーメント	
▶ 2		Mr (kN.m)	M _{min} (kN.m)
3	0.000	-109.7	-122.8
4	0.120	-109.7	-113.8
5	0.239	-109.7	-105.0

■ 詳細項目説明

行を選択した場合のプロパティ

行高を固定値で設定	選択した行の高さを指定のサイズに揃えます。
行高を個別に設定	個別設定ダイアログ(上図右)を使用し、選択した行の行高を個別に設定します。 個別設定ダイアログは、[設定]ボタンをクリックすると表示されます。
タイトルヘッダ行とする	選択した行を表のタイトルヘッダ行とします。 表の途中でページが変わった場合、タイトルヘッダ行は次ページの先頭で再び表示されます。
タイトルフッタ行とする	選択した行を表のタイトルフッタ行とします。 表の途中でページが変わった場合、タイトルフッタ行は次ページの末尾で再び表示されます。
選択中セルに対する確定時の条件	シートのプロパティが変更されると、当項目の「シートの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。 同様に、セルのプロパティが変更されると、当項目の「セルの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。 ※両プロパティ(シートの設定とセルの設定)を変更した後、セルのプロパティは元のままにしたい という場合に、「セルの設定」の方のチェックを外してから[確定]することで、「シートの設定」のプロパティの変更だけが反映されます。 チェック付 : そのプロパティは、確定ボタンをクリックすると表に反映される チェックなし : 確定ボタンをクリックしても変更内容は無視される

列を選択した場合のプロパティ

列幅を固定値で設定	選択した列の幅を、指定のサイズに揃えます。
列幅を個別に設定	個別設定ダイアログを使用し、選択した列の列幅を個別に設定します。 個別設定ダイアログは、[設定]ボタンをクリックすると表示されます。
選択中セルに対する確定時の条件	シートのプロパティが変更されると、当項目の「シートの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。 同様に、セルのプロパティが変更されると、当項目の「セルの設定」タブ内の設定に変更する”に自動的にチェックマークが付きます。 ※両プロパティ(シートの設定とセルの設定)を変更した後、セルのプロパティは元のままにしたい という場合に、「セルの設定」の方のチェックを外してから[確定]することで、「シートの設定」のプロパティの変更だけが反映されます。 チェック付 : そのプロパティは、確定ボタンをクリックすると表に反映される

チェックなし : 確定ボタンをクリックしても変更内容は無視される

■関連トピック

[セルのプロパティ](#)

[シートのプロパティ](#)

[表の途中での改ページ制御](#)

[表のタイトル](#)

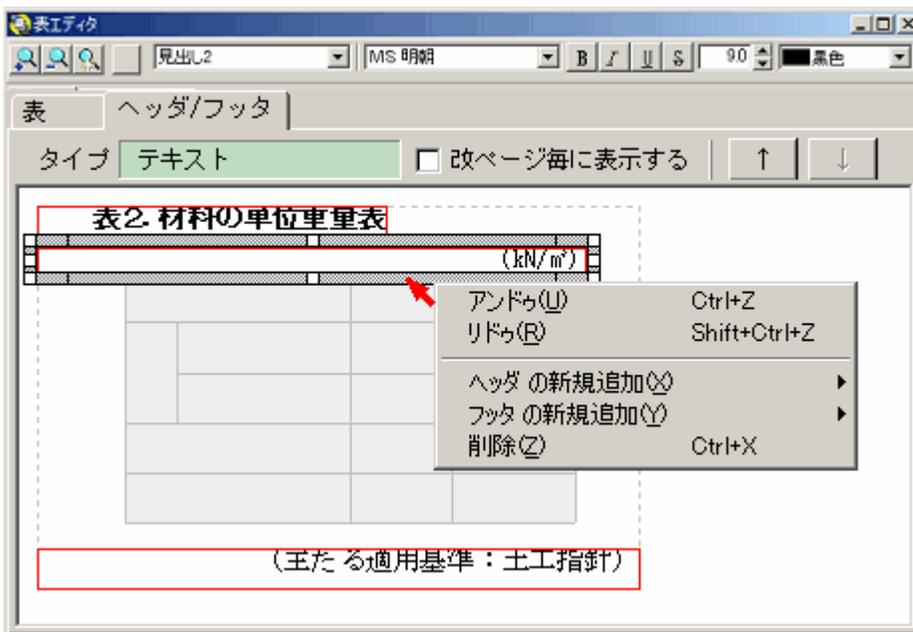
[行の高さ・列の幅を数値指定する](#)

表のヘッダ／フッタタブ(表エディタ)

[表エディタ](#)の『ヘッダ／フッタ』タブでは、ヘッダ(またはフッタ)に関して以下の操作を行うことができます。

- ・追加 / 削除 / 修正
- ・書式設定
- ・配置属性の設定

操作に必要なポップアップメニューは、『ヘッダ／フッタ』タブ内で右クリックすると表示されます。



■操作

[ヘッダ／フッタ修正](#)

[ヘッダ／フッタ追加](#)

[ヘッダ／フッタ削除](#)

[ヘッダ／フッタの表示設定](#)

[ヘッダ／フッタの書式設定](#)

- アンドゥ(ポップアップメニュー) : 直前の操作を取り消して、1つ前の状態に戻します
リドゥ(ポップアップメニュー) : アンドゥで取り消した操作を再度実行します

■関連トピック

[表エディタ](#)

[表タブ](#)

表のヘッダ／フッタ追加

[表エディタ](#)の『ヘッダ／フッタ』タブ内で、表のヘッダ(またはフッタ)の追加が行えます。

- ・プレビューと同様の [BOX](#)を使用し、テキストや画像などをヘッダ(フッタ)として入力します。
- ・ヘッダ(フッタ)のBOXは何段も重ねることができます。但し1段には1つのBOXのみです。

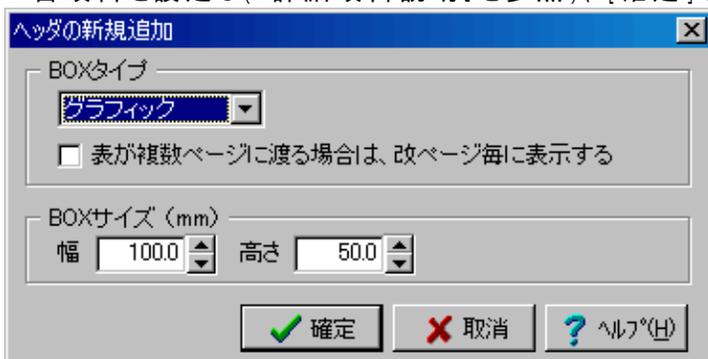
■操作

[表エディタの『ヘッダ／フッタ』タブ](#)を表示します。

ポップアップメニューの[ヘッダ(フッタ)の新規追加]を選択し、サブメニューで追加位置を選択します。(『ポップアップメニュー』を参照)

新規追加ダイアログが表示されます。

各項目を設定し(『詳細項目説明』を参照)、[確定]ボタンをクリックします。



BOXが追加され、自動的に編集状態になります。

BOXタイプによって編集状態が異なります。BOXタイプに合ったトピックをご覧ください。

[テキストBOX](#)

[表BOX](#)

[グラフィックBOX](#)

[行列BOX](#)

[数式BOX](#)

[マッピング画像BOX](#)

■補足

- ・「表が複数ページに渡る場合は、改ページ毎に表示する」を選択したヘッダは、選択していないヘッダよりも上に配置することはできません。
- ・「表が複数ページに渡る場合は、改ページ毎に表示する」を選択したフッタは、選択していないフッタよりも下に配置することはできません。

■ポップアップメニュー

ヘッダの新規追加 (1つ目のヘッダを作成する場合は、どのサブメニューを選択しても同じです)

先頭へ	既にヘッダが存在する場合、それらの一番上に BOX を追加します。
選択中のヘッダの前へ	選択した BOX の1行上に BOX を追加します。
選択中のヘッダの後へ	選択した BOX の1行下に BOX を追加します。
最後へ	既にヘッダが存在する場合、それらの一番下に BOX を追加します。

フッタの新規追加

先頭へ	既にフッタが存在する場合、それらの一番上に BOX を追加します。
選択中のフッタの前へ	選択した BOX の1行上に BOX を追加します。
選択中のフッタの後へ	選択した BOX の1行下に BOX を追加します。
最後へ	既にフッタが存在する場合、それらの一番下に BOX を追加します。

■詳細項目説明

BOX タイプ	追加する BOX のタイプを選択します
横書き / 縦書き	BOX タイプで「テキスト」を選択した場合に表示されます。縦書き・横書きのいずれかを選択します。
行数 / 列数	BOX タイプで「表」を選択した場合に表示されます。表の行数・列数を指定します。
表が複数ページにわたる場合は、改ページ毎に表示する	『 表の途中での改ページ 』をご覧ください。
幅・高さ	追加する BOX の初期サイズを指定します。後でサイズを変更することもできます。

■関連トピック

[ヘッダ / フッタ修正](#)

[ヘッダ / フッタ削除](#)

[ヘッダ / フッタの表示設定](#)

[ヘッダ / フッタの書式設定](#)

表のヘッダ / フッタ削除

表のヘッダまたはフッタの削除は、[表エディタ](#)の『ヘッダ / フッタ』タブで行います。

■基本操作

[表エディタの『ヘッダ / フッタ』タブ](#)を表示します。
削除するヘッダ (またはフッタ) のBOXを選択します。

右クリックでポップアップメニューを表示し、[削除]を選択します。

■アイコン

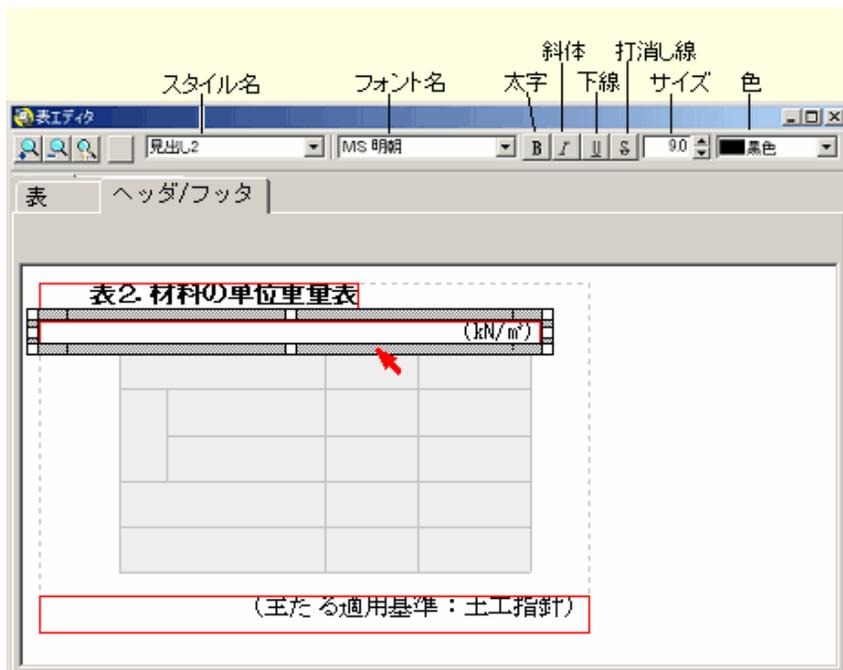
-  表エディタ内の表示を拡大します
-  表エディタ内の表示を縮小します
-  表エディタ内の表示を、初期状態に戻します。

■関連トピック

- [ヘッダ/フッタタブ](#)
- [ヘッダ/フッタ追加](#)
- [ヘッダ/フッタ修正](#)
- [ヘッダ/フッタの表示設定](#)
- [ヘッダ/フッタの書式設定](#)

表のヘッダ/フッタ書式

表のヘッダ(フッタ)は、[表エディタ](#)のアイコンを使用して書式を設定できます。



■基本操作

表エディタの『ヘッダ/フッタ』タブで、設定対象のBOXを選択します。

エディタ上部のアイコンで、書式を設定します。

スタイル名は、[プレビューのスタイル](#)と共通です。

■関連トピック

[ヘッダ/フッタ追加](#)

[ヘッダ/フッタ修正](#)

[ヘッダ/フッタ削除](#)

[ヘッダ/フッタの表示設定](#)

表のヘッダ/フッタ修正

表のヘッダ(フッタ)は、[表エディタ](#)の『ヘッダ/フッタ』タブ内で修正することができます。

■BOXの内容を修正する

[表エディタの『ヘッダ/フッタ』タブ](#)を表示します。

修正するヘッダ(またはフッタ)のBOXをダブルクリックします。

BOXが編集状態になります。BOXタイプに合ったトピックをご覧ください。

[テキストBOX](#)

[表BOX](#)

[グラフィックBOX](#)

[行列BOX](#)

[数式BOX](#)

[マッピング画像BOX](#)

■BOXのサイズを修正する

[BOXのサイズを変更する](#)

■並び順を変更する

[表のヘッダ/フッタの表示設定](#)

■改ページ毎にヘッダ(フッタ)を表示する

[表のヘッダ/フッタの表示設定](#)

■関連トピック

[ヘッダ/フッタ追加](#)

[ヘッダ/フッタ削除](#)

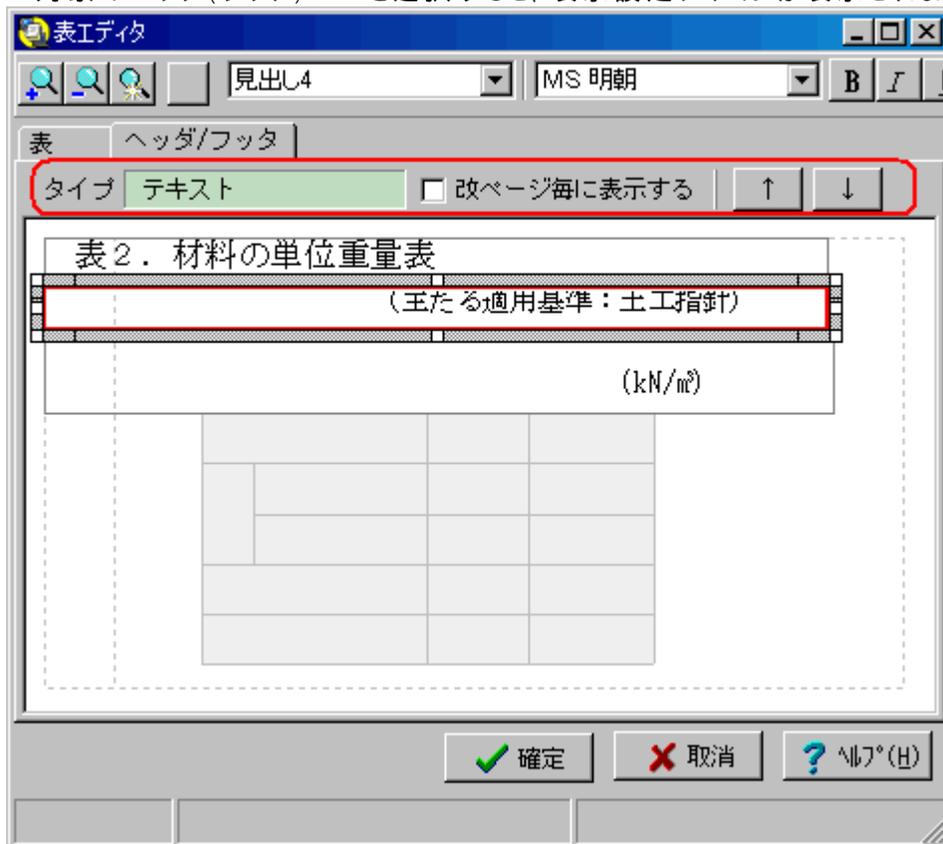
[ヘッダ/フッタの書式設定](#)

表のヘッダ／フッタの表示設定（表エディタ）

表エディタの『ヘッダ／フッタ』タブにおいて、既存のヘッダ（フッタ）の表示設定を変更することができます。

■操作方法

対象のヘッダ（フッタ）BOXを選択すると、表示設定アイコンが表示されます。



アイコンを使用して、表示設定を設定します。（詳細項目説明を参照）

■詳細項目説明

- | | |
|------------|-----------------------------------|
| タイプ | 選択したBOXのタイプを表示します（変更不可） |
| 改ページ毎に表示する | 表が複数ページに渡る場合、改ページ毎にヘッダ（フッタ）を表示します |
| | 1つ上に移動する（『補足』参照） |
| | 1つ下に移動する（『補足』参照） |

■補足

- ・「改ページ毎に表示する」を選択したヘッダは、選択していないヘッダよりも上に配置することはできません。
- ・「改ページ毎に表示する」を選択したフッタは、選択していないフッタよりも下に配置することはできません。

■関連トピック

- [ヘッダ/フッタ追加](#)
- [ヘッダ/フッタ修正](#)
- [ヘッダ/フッタ削除](#)
- [ヘッダ/フッタ書式設定](#)

数式 BOX

数式を追加

現在開いているドキュメントに、プレビュー上で数式を追加入力することができます。
数式BOXを利用すると、特殊な記号(π , ∞ , $\frac{1}{2}$ 等)を使用した数式が簡単に入力できます。
通常のテキストだけで記述できる数式は、[テキストBOX](#)に入力することもできます。

■新規の数式BOXを作成し、数式を入力する

[BOXを追加](#) (BOXタイプ = 数式) すると、[数式エディタ](#)が起動します。エディタを利用して数式を入力します。

■既存の数式BOXに、追加入力する

[数式を修正](#) をご覧下さい。

■表の中の数式BOX

[表エディタ](#)を起動し、任意のセルに数式BOXを貼りつけ、[数式エディタ](#)で編集します。

数式を修正

数式BOXを[編集状態](#)にすると数式エディタが起動します。エディタ内で数式を修正することができます。

新しく数式BOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

■操作

対象の数式BOXを[編集状態](#)にします。

$$q_l = \frac{\sum V}{B} + \frac{6 \times Me}{B^2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_r = \frac{\sum V}{B} - \frac{6 \times Me}{B^2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

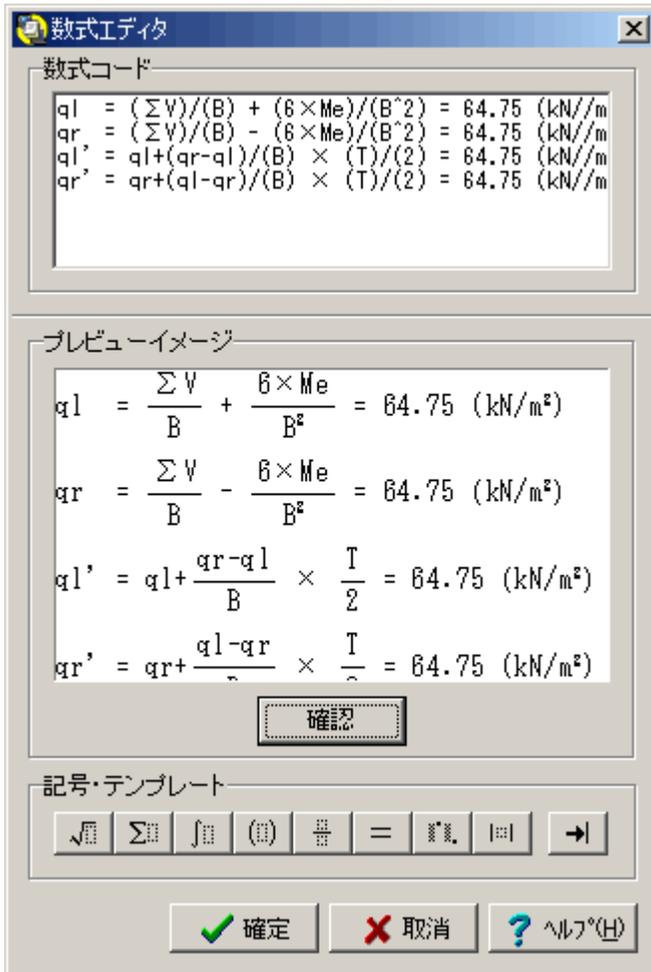
$$q_l' = q_l + \frac{q_r - q_l}{B} \times \frac{T}{2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

$$q_r' = q_r + \frac{q_l - q_r}{B} \times \frac{T}{2} = 64.75 \text{ (kN/m}^2\text{)}$$

数式エディタが起動します。このエディタ内で、数式を修正することができます。

[数式エディタの使い方](#)をご覧ください。

テキストBOXに数式が記述されている場合は、数式エディタは起動しません。



確定ボタンをクリックすると修正がドキュメントに反映され、数式エディタが終了します。

取り消しボタンは修正をすべて無効にし、数式エディタを終了します。

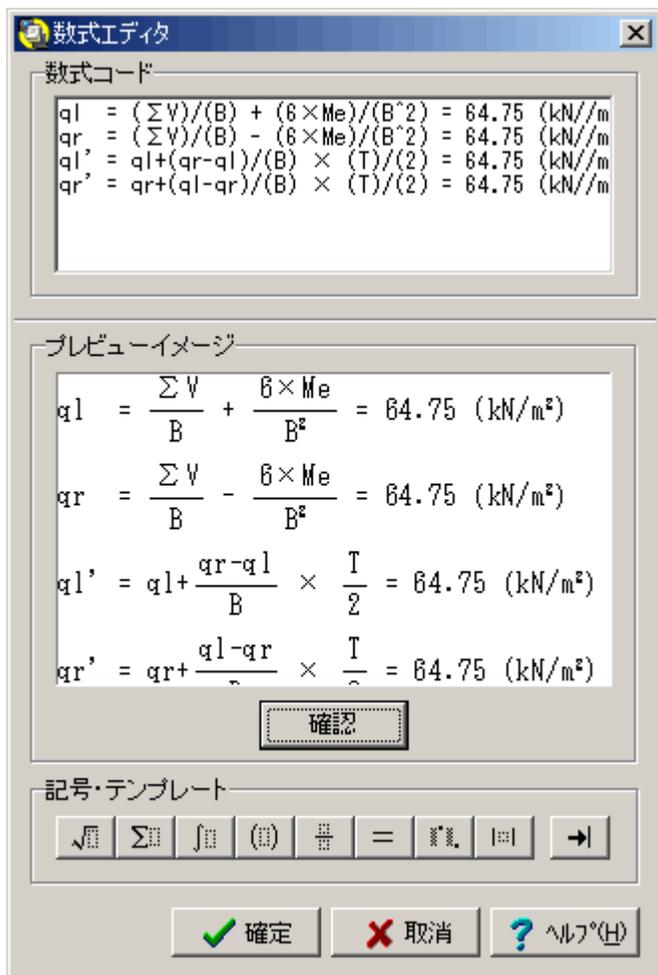
数式エディタの使い方

数式BOXを[編集状態](#)にすると、数式エディタが起動します。

特殊な記号(, , 等)を使用した数式が簡単に入力でき、数式の表示イメージも確認すること

ができます。

新しく数式BOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります

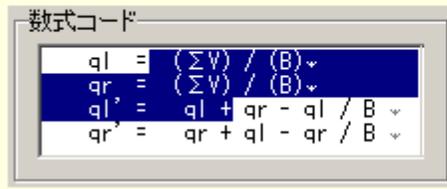
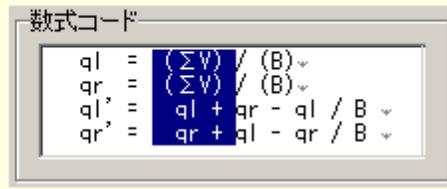


■エディタ画面解説

数式コード

- ・一般的なテキストエディタと同様に、**キャレット**の移動やテキスト入力ができます。
- ・キーボード及び『記号・テンプレート』のアイコンを使用し、入力・修正します。
- ・エリア内で右クリックすると、一般的なテキスト編集メニューがポップアップ表示されます。

メニュー	内容
元に戻す	数式エディタ内での編集操作を1つ取り消して、元の状態に戻します。
やり直し	直前に「元に戻す」で取り消した操作を、再び実行します。
切り取り	選択している範囲のテキストを切り取り、コンピュータが一時的に記憶します。 (コピーと合わせて最新の1回分しか記憶できません)
コピー	選択している範囲のテキストを、コンピュータが一時的に記憶します。 (切り取りと合わせて最新の1回分しか記憶できません)
貼り付け	切り取りまたはコピーで記憶されたテキストを、キャレットのある位置に貼り付けます。
BOX 貼り付け	BOX 選択モードで切り取りまたはコピーした矩形範囲のテキストを、キャレットのある位置

	を基準にして矩形の状態で貼り付けます。
削除	選択している範囲のテキストを削除します。
すべて選択	数式コード欄のすべてのテキスト・記号を選択します。
BOX 選択モード	<p>このメニューをクリックする毎に、モードの ON/OFF が切り替わります。</p> <p>BOX 選択モードを ON にすると縦方向への範囲選択が可能になり、矩形領域を選択できます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>● 通常の選択</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>● BOX選択モードON での選択</p>  </div> </div>

ここでの「BOX」とは、プレビュー画面上で使用している「BOX」とは異なり、矩形選択を一般的に表した言葉です。

プレビューイメージ

- ・数式コードに入力した内容を、実際の表示形式で確認する欄です。
- ・[確認]ボタンをクリックすると、プレビューイメージが最新の状態になります。

記号・テンプレート

特殊な式や記号($\sqrt{\quad}$ や \int)は、記号・テンプレートのアイコンを使用して入力します。

数式コード欄で、記号を入力したい位置にカーレットを置きます。

使用する記号のアイコン  をクリックします。

サブメニューがプルダウン表示されます。それぞれ式の表示形式が違います。下表を参照の上、目的のサブメニューアイコンを選択してください。

数式コード欄に、特殊記号用の関数が入力されます。(下表『数式コード欄』参照)
 a, b, c, x の部分を、任意の値に書き換えます。

プレビューイメージ欄の[確認]をクリックし、実際の表示状態を確認します。

アイコン メイン サブ	数式コード欄	ドキュメント上の 表示形式
 ①  ② 	$(\sqrt{\text{a}})$ $(\sqrt[b]{\text{a}})$	$\sqrt{\text{a}}$ $\sqrt[b]{\text{a}}$
 ①  ②  ③ 	$\sum(\text{a})$ $\sum_{\text{a}}(\text{b})$ $\sum_{\text{a}}^{\text{b}}(\text{c})$	Σa $\Sigma_{\text{a}}^{\text{b}}$ $\Sigma_{\text{a}}^{\text{b}} \text{C}$
 ①  ②  ③ 	$\int(\text{x})$ $\int_{\text{a}}(\text{b})$ $\int_{\text{a}}^{\text{b}}(\text{c})$	$\int \text{X}$ $\int_{\text{a}} \text{b}$ $\int_{\text{a}}^{\text{b}} \text{C}$
 ①  ②  ③ 	(a) $[\text{a}]$ $\{\text{a}\}$	(a) $[\text{a}]$ $\{\text{a}\}$
 ①  ② 	$(\text{b}) / (\text{a})$ $(\text{b}) // (\text{a})$	$\frac{\text{b}}{\text{a}}$ b / a
 ①  ②  ③ 	$=$ $<$ $>$	$=$ $<$ $>$
 ①  ② 	a^{b} a_{b}	a^{b} a_{b}
 ① 	$\text{abs}(\text{x})$	$ \text{X} $
 ①  (整列位置のマーク)	$ $ <例> $\text{ax} + \text{bx} = (\text{a} + \text{b})\text{x}$ $\text{x} = (\text{b}\sqrt{\text{R}})(\text{R})$	$\text{ax} + \text{bx} = (\text{a} + \text{b})\text{x}$ $\text{x} = \sqrt[b]{\text{R}}$

行列 BOX

行列式を追加

現在開いているドキュメントに、プレビュー上で行列式を追加入力することができます。

■新規の行列BOXを作成し、行列を入力する

[BOXを追加](#) (BOXタイプ = 行列) すると、[行列エディタ](#)が起動します。エディタを利用して行列を入力します。

■既存の行列BOXに、追加入力する

『[行列式の修正](#)』をご覧ください。

■表の中の行列BOX

[表エディタ](#)内で行列BOXが貼りついたセルをダブルクリックし、[行列エディタ](#)で編集します

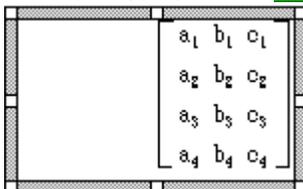
行列式を修正

行列BOXを[編集状態](#)にすると行列エディタが起動します。エディタ内で行列式を修正することができます。

新しく行列BOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

操作

対象の行列BOXを[編集状態](#)にします。



The diagram shows a table with a shaded border. Inside the table, there is a rectangular box containing a 4x3 matrix of variables. The matrix is arranged as follows:

a_1	b_1	c_1
a_2	b_2	c_2
a_3	b_3	c_3
a_4	b_4	c_4

行列エディタが起動します。このエディタ内で行列を修正、または追加入力することができます。詳細は、[行列エディタ](#)をご覧ください。

テキストBOX内に行列式が記述されている場合は、行列エディタは起動しません。



確定ボタンをクリックすると、修正がドキュメントに反映され、行列エディタが終了します。取り消しボタンは修正をすべて無効にし、行列エディタを終了します。

行列エディタの使い方

行列BOXを編集状態にすると、行列エディタが起動します。このエディタ内で行列式を編集し、イメージを確認できます。

新しく行列BOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

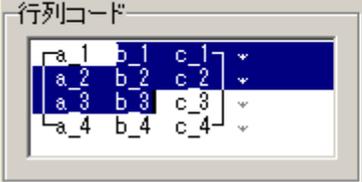
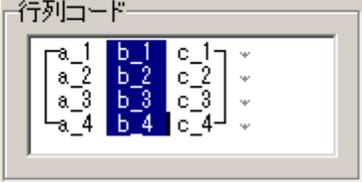


■ 行列エディタ解説

行列コード

- ・一般的なテキストエディタと同様に、**キャレット**の移動やテキスト入力ができます。
- ・行列式を追加する場合は、追加する行列の開始位置にキャレットを置き、『行列テンプレート』で行列数を指定して挿入します。
- ・エリア内で右クリックすると、一般的なテキスト編集メニューがポップアップ表示されます。

メニュー	内容
元に戻す	行列エディタ内での編集操作を1つ取り消して、元の状態に戻します。
やり直し	直前に「元に戻す」で取り消した操作を、再び実行します。
切り取り	選択している範囲のテキストを切り取り、コンピュータが一時的に記憶します。 (コピーと合わせて最新の1回分しか記憶できません)
コピー	選択している範囲のテキストを、コンピュータが一時的に記憶します。 (切り取りと合わせて最新の1回分しか記憶できません)
貼り付け	切り取りまたはコピーで記憶されたテキストを、キャレットのある位置に貼り付けます。
BOX 貼り付け	BOX 選択モードで切り取りまたはコピーした矩形範囲のテキストを、キャレットのある位置を基準にして矩形の状態貼り付けます。
削除	選択している範囲のテキストを削除します。

すべて選択	行列コード欄のすべてのテキスト・記号を選択します。
BOX 選択モード	<p>このメニューをクリックする毎に、モードの ON/OFF が切り替わります。</p> <p>BOX 選択モードを ON にすると縦方向への範囲選択が可能になり、矩形領域を選択できます。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>●通常の選択</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>●BOX選択モードON での選択</p>  </div> </div>

ここでの「BOX」とは、プレビュー画面上で使用している「BOX」とは異なり、矩形選択を一般的に表した言葉です。

プレビューイメージ

- ・行列コード欄の内容を、実際の表示形式で確認する欄です。
- ・行列コード欄を修正後、[確認]をクリックしてプレビューイメージ欄を更新します。

行列テンプレート

- ・行数・列数を指定して、行列コード欄に新しい行列を追加します。
- ・行列コード欄で行列を追加する位置にカーレットを置き、行数・列数を指定して[挿入]ボタンをクリックします。

記号・テンプレート

上付文字、下付文字、括弧などの入力は、記号・テンプレートのアイコンを使用して入力できます。

行列コード欄で、記号を入力したい位置にカーレットを置きます。

使用するアイコン  をクリックします。

サブメニューがプルダウン表示されます。
それぞれ式の表示形式が違います。下表を参照の上、目的のサブメニューを選択します。

行列コード欄に、特殊記号用の関数が入力されます。(下記一覧参照)
a, b, c, x の部分を、任意の値に書き換えます。

プレビューイメージ欄の[確認]をクリックし、実際の表示状態を確認します。

アイコン メイン	サブ	行列コード種	ドキュメント上の 表示形式
	①	(a)	(a)
	②	[a]	[a]
	③	{ a }	{a}
	①	=	=
	②	<	<
	③	>	>
	①	a ^b	a ^b
	②	a _b	a _b

グラフィック BOX

グラフィックを追加

現在開いているドキュメントに、プレビュー上でグラフィック(画像)を追加することができます。

[BOXを追加](#) (BOXタイプ = グラフィック) すると、グラフィックエディタが起動します。エディタを利用して [イメージファイルの読み込み](#) を行います。

■関連トピック

[グラフィックを修正](#)

[グラフィックをファイルに保存](#)

[グラフィックエディタの使い方](#)

グラフィックを修正

グラフィックBOXを [編集状態](#) にすると画像エディタが起動します。エディタ内でグラフィックの読み込み・保存を行うことができます。

新しくグラフィックBOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

■グラフィックを修正(加工)する

プレビュー上で、対象の [グラフィックをファイルに保存](#) します。

画像編集ソフト を利用し、 で保存したファイルを修正、保存します。

プレビュー上で [のグラフィックBOXに、 のファイルを読み込み](#)ます。

グラフィック(画像)の加筆・訂正を行うには、別途画像編集ソフトをご用意ください。本プロダクトに画像編集機能はありません。

■別のグラフィックと置き換える

プレビュー上で、対象のグラフィックBOXに[別のグラフィックファイルを読み込み](#)ます。

■関連トピック

[グラフィックを追加](#)

[グラフィックをファイルに保存](#)

[グラフィックエディタの使い方](#)

グラフィックをイメージファイルに保存

ドキュメント上のグラフィック(図)は、下記の形式のイメージファイルに保存できます。

エンハンスメタファイル (*.emf)

メタファイル (*.wmf)

ビットマップ (*.bmp)

JPEGイメージ (*.jpg , *.jpeg)

PNGイメージ (*.png)

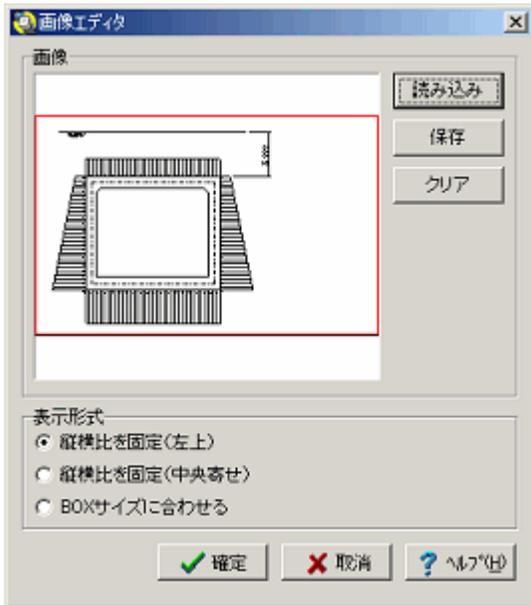
■注意

保存したイメージファイルを編集するには、別途、画像編集ソフトをご用意ください。

■操作

プレビュー上で、対象のグラフィックBOXを選択状態にします。
(表の中に埋め込まれたグラフィックBOXの場合、表エディタを起動し、対象のセルをダブルクリックします。)

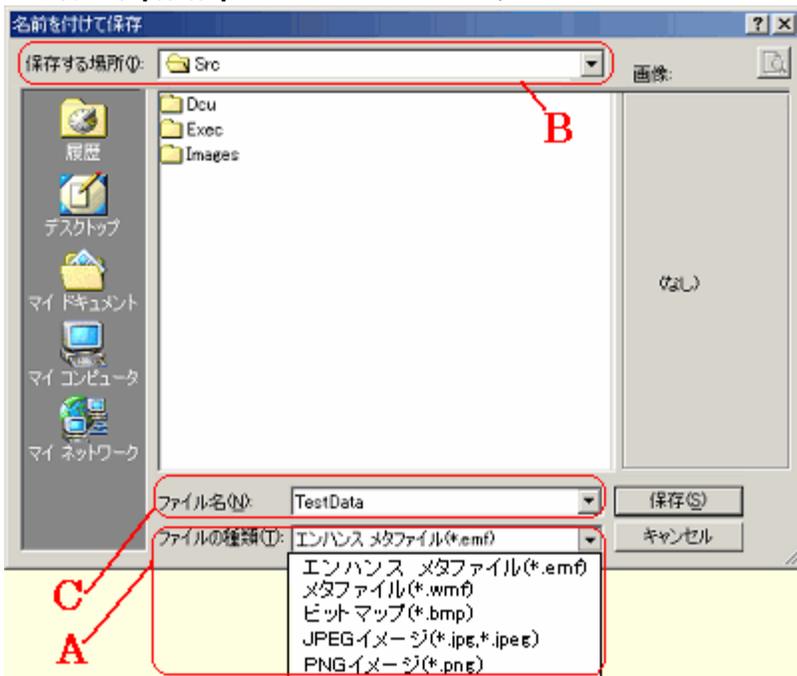
選択状態のBOXを再度クリックし、グラフィックエディタ(下図)を起動します。



[保存]ボタンをクリックします。

ファイル保存ダイアログで

- ・保存するイメージファイル形式を選択(下図A)
 - ・保存先のフォルダを選択(下図B)
 - ・保存するファイル名を入力(下図C)
- を行い、[保存]ボタンをクリックします。



グラフィックエディタを閉じます。

■関連トピック

[グラフィックを修正](#)

[グラフィックを追加](#)

[グラフィックエディタの使い方](#)

グラフィックエディタの使い方

グラフィックBOXを編集状態にすると、画像エディタが起動します。

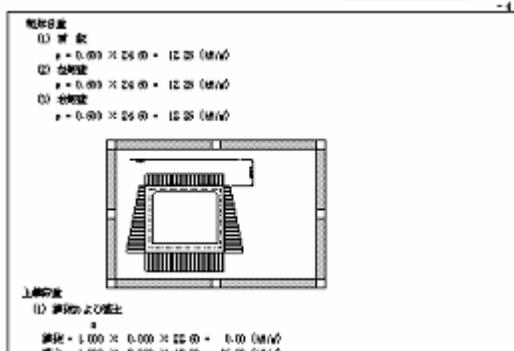
画像エディタ内では、以下の操作を行うことができます。

- ・ファイルからグラフィック(画像)を読み込む
- ・現在のグラフィックをファイルに保存する
- ・グラフィックの表示形式を設定する

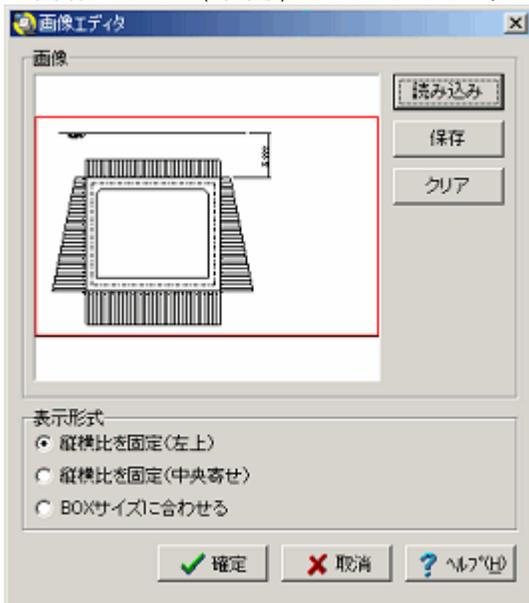
新しくグラフィックBOXを追加した直後は、自動的に編集状態になります。

■操作

対象のグラフィックBOXを編集状態にします。



画像エディタ(下図)が起動されます。



必要な操作を行います。詳細は詳細項目説明をご覧ください。

■詳細項目説明

読み込みボタン	イメージファイルを指定して、グラフィック(画像)をBOXに読み込みます。 詳細は イメージファイルの読み込み をご覧ください。
保存ボタン	現在表示しているグラフィックを、イメージファイルに保存します。 詳細は グラフィックをファイルに保存 をご覧ください。
クリアボタン	現在表示しているグラフィックを消去し、BOXを空にします。
縦横比を固定(左上)	BOXのサイズが変更された際、グラフィックは縦横比を固定し、BOX内に収まる大きさに調整します。また、グラフィックはBOXの左上に寄せて表示します。
縦横比を固定(中央寄せ)	BOXのサイズが変更された際、グラフィックは縦横比を固定し、BOX内に収まる大きさに調整します。また、グラフィックはBOXの中央に寄せて表示します。
BOXサイズに合わせる	グラフィックの縦横比は固定せず、BOXの縦・横に合わせて伸縮させ、表示します

■関連トピック

[グラフィックを追加](#)

[グラフィックを修正](#)

グラフィックのサイズを変更

グラフィックは、[グラフィックBOXのサイズ](#)に合わせて自動調整され、常にBOX内に全体が収まるように表示されます。

縦横比やBOX内の表示位置については、[グラフィックエディタ](#)で設定することができます。

■関連トピック

[グラフィックを追加](#)

[グラフィックをファイルに保存](#)

[グラフィックを修正](#)

イメージファイルの読み込み

グラフィックBOXに、下記の形式のイメージファイルを読み込むことができます。

エンハンスメタファイル (*.emf)

メタファイル (*.wmf)

ビットマップ (*.bmp)

JPEGイメージ (*.jpg , *.jpeg)

PNGイメージ (*.png)

操作

プレビュー上でグラフィックBOXを選択し、そのBOXを再度クリックします。

(新規のグラフィックBOXを作成した場合、この操作は不要です)

グラフィックエディタが起動します。

[読み込み]ボタンをクリックし、ファイル選択ダイアログで読み込むファイルを選択します。

画像エディタに、読み込んだ画像のプレビューが表示されます。

確定ボタンをクリックしてエディタを終了します。

■関連トピック

[グラフィックを修正](#)

[グラフィックを追加](#)

[グラフィックエディタの使い方](#)

マッピング画像BOX

マッピング画像を追加

[XMLマッピング](#)において、バイナリ型のデータは、マッピング画像BOXを使用してマッピングすることができます。

■操作

プレビュー上で、[BOXを追加](#) (BOXタイプ = マッピング画像) します。

追加したBOXに対して、バイナリ型の[辞書項目を配置](#)します。

[マッピングデータを読み込む](#)と自動的にマッピングが行われ、BOX内に画像が表示されます。

■関連トピック

[XMLマッピング機能を使用する](#)

[辞書項目のプロパティ](#)

[辞書項目のデータ型](#)

[辞書ツリーの操作](#)

マッピング画像を修正

マッピング画像BOXは、XMLマッピングにおいてバイナリ項目を表示するBOXです。

他のBOXタイプとは異なり、BOXをダブルクリックしても編集状態にはなりません。

BOXの表示内容を修正したい場合は、[XMLマッピングの修正](#)をご覧ください。

マッピング画像のサイズを変更

マッピング画像は、[BOXのサイズ](#)に合わせて拡大・縮小できます。

画像の縦横比は固定で、BOX内に画像全体が収まるように調整されます。

マッピング画像が表のセルに埋め込まれている場合は、[セルの高さ・幅](#)を変更すると画像の大きさも変わります。

BOXのグループ

BOXをグループ化する

BOX同士の一部を重ね合わせると1つのまとまり(グループ)となり、[グループとしての操作](#)が可能になります。

複数のBOXを1つのグループにすることにより、相互の位置関係を保ったまま移動する / 改ページによるBOXの分断を避ける 等が可能になります。

■注意

- ・グループ化には条件があります。(『[グループ化の条件](#)』参照)
- ・条件を満たせば自動的にグループ化されます。意図しないグループ化にご注意ください。

■グループの構成

グループは、親となる1つのBOXと、子となる複数のBOXで構成されます。

親 : 重ね合わせる元になったBOX

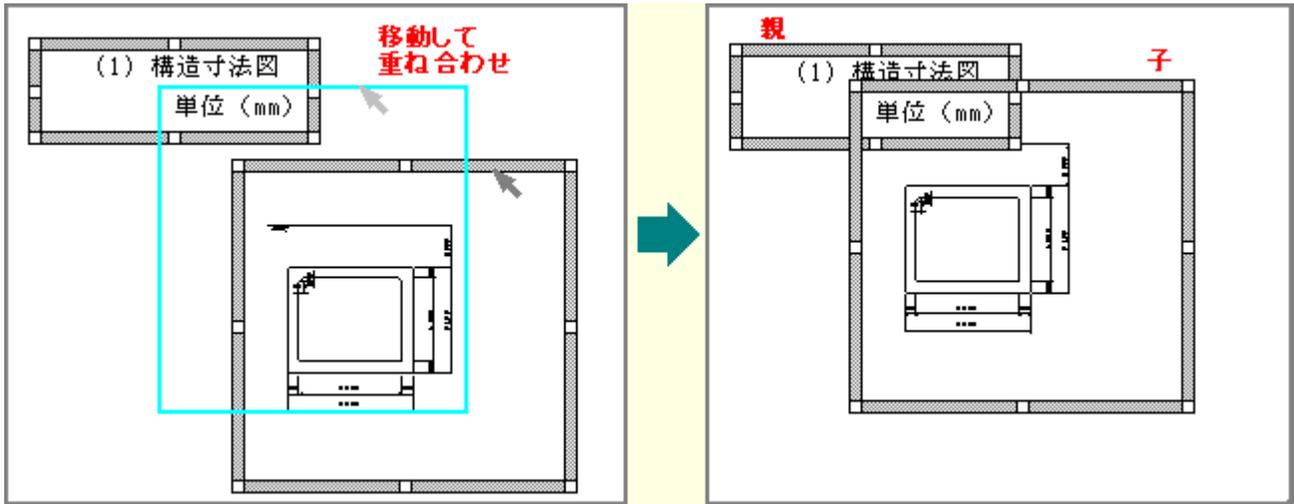
子 : 重ねるために移動してきたBOX

グループの親同士を重ね合わせて、階層的なグループを構成することもできます。

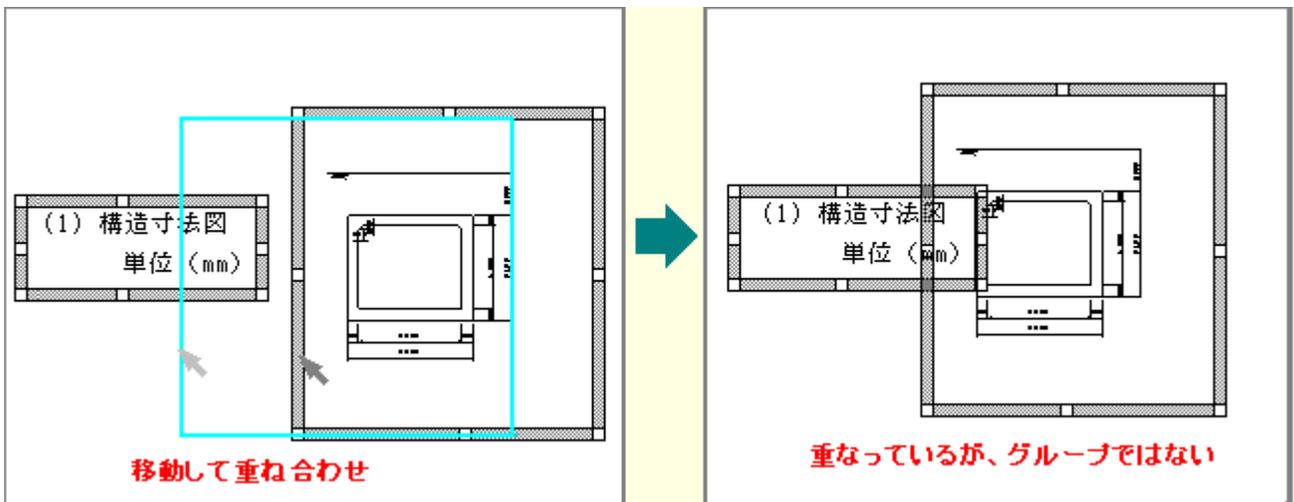
■グループ化の条件

- ・親となるBOXはテキストBOXである
- ・親となるBOXは、別のグループの子になっていない
- ・BOXを重ねた際、親となるBOXの上端は、子のBOXの上端よりも上方(ページの先頭に近い方)にある

グループ化できる例



グループ化できない例



■ 操作

子となるBOXを移動し、親となるBOXに一部分を重ね合わせます。(上図参照)

■ 関連トピック

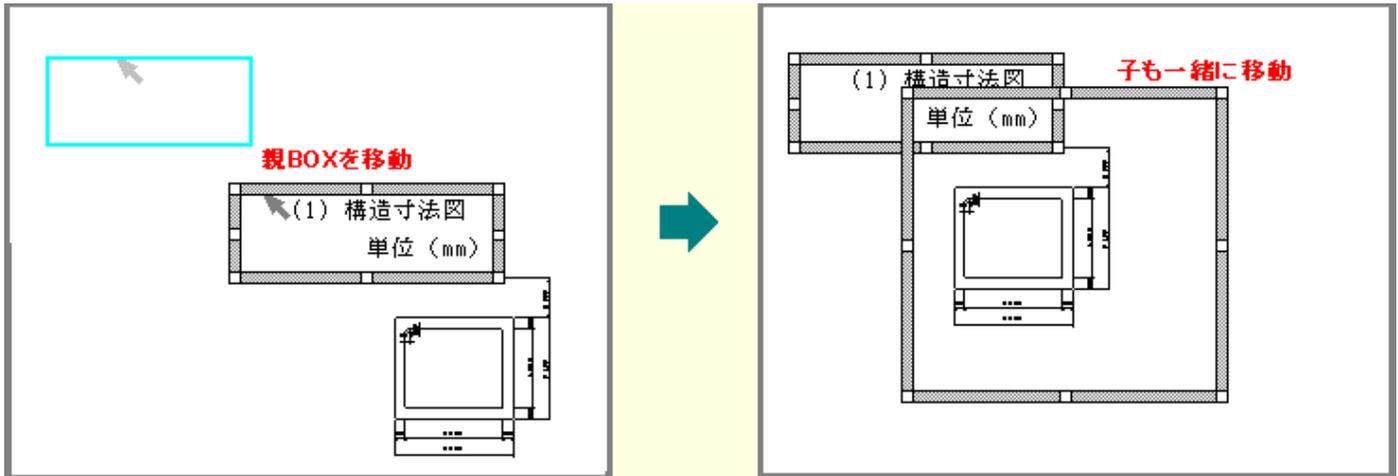
[BOXグループの操作](#)

グループの操作

■ グループ全体の移動・削除

[グループの親](#)を移動・削除すると、グループ全体が一緒に移動・削除されます。

< 例 >



■グループから外す(グループ解除)

子BOXは、親BOXと重ならない位置へ移動するとグループから外れたことになります。

■グループに属するBOXの、単体移動・削除

- ・子BOXを選択すると、そのBOXだけを移動・削除できます。
- ・親BOXを単体で移動・削除したい場合は、すべての子BOXをグループから外します。

■関連トピック

[BOXをグループ化する](#)

表示条件

表示条件の設定

プレビューでBOXを選択し、ポップアップメニューから [\[表示条件の設定...\]](#)を選択すると、表示条件の設定画面が起動します。

既に表示条件が設定されているBOXの場合、設定内容の編集が可能です。

この機能を利用することにより、ドキュメントに付加されたマッピングデータの内容により、表示ON/OFFの切替指定が行えます。

■注意

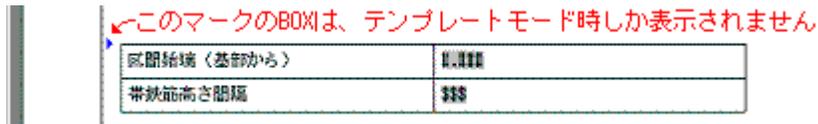
この機能は[有償機能](#)となっています。

■表示条件の設定方法

条件式を入力すると、条件式の結果がTRUEとなる場合のみプレビュー上にBOXが表示されるようになります。

[テンプレートモード](#)時は、条件式の結果がFALSEとなる場合でもBOXは表示されます。

[テンプレートモード](#)時で条件式の結果がFALSEの場合、BOXの左上に青い三角マークが表示されます。(下図)



条件式についての詳細は[表示条件の設定ダイアログ](#)をご覧ください。

■表示条件を削除するには

設定画面で条件式を空白にしても確定できません。
削除方法は[表示条件のクリア](#)をご覧ください。

表示条件のクリア

表示条件が設定されているBOXの選択中のポップアップメニューには、[表示条件のクリア]というメニューが表示されます。

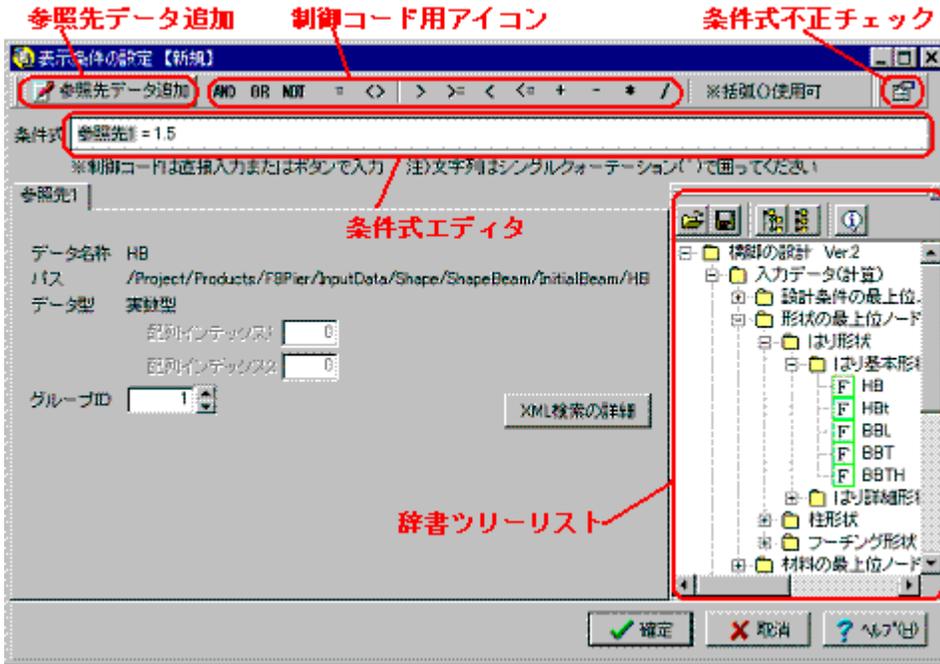
表示条件を削除する場合は、ポップアップメニューから[表示条件のクリア]を選択してください。

確認メッセージを確定すると、表示条件のクリアとページ再解析が実行されます。

表示条件が設定されていないBOXの場合、ポップアップメニューには、[表示条件のクリア]というメニューはありません。

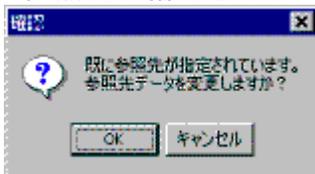
表示条件の設定ダイアログ

BOXの表示条件の設定を行います。

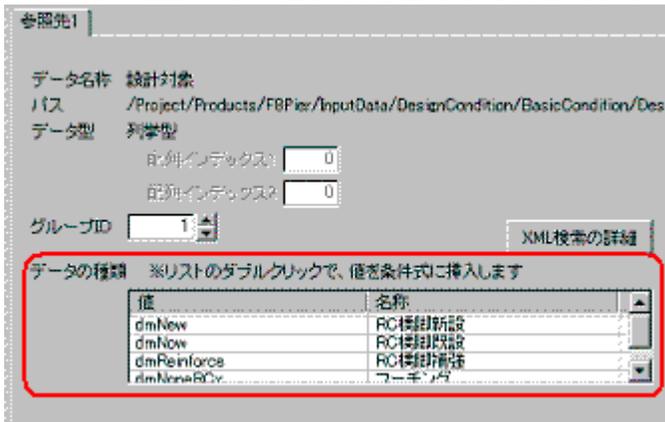


■参照先データ追加

参照先データとは、条件式内でマッピングデータ内の値を参照したい場合に使用するものです。参照先データ追加ボタンを押すと変数名の編集ダイアログが開き、確定すると参照先指定タグが追加されます。参照先指定タグに対して、本ダイアログ右側の辞書ツリーから参照するデータをドラッグし、ドロップする事でデータが入力できます。既に参照先が指定されているタグに対してドロップすると参照先を更新できます。



ドロップしたデータの値に名称がある場合はそれらのリストが表示されます。(下図赤枠)



このリストをダブルクリックすると条件式エディタのカーレット位置に値を示す文字列が挿入されま

す。

・XML検索の詳細については、"[データマッピング情報 - 『XML検索の詳細』タブ](#)"をご覧ください。

■制御コード用アイコン

AND	左辺値 / 右辺値の両方を満たす
OR	左辺値 / 右辺値のいずれかを満たす
NOT	直後の値(又は直後の括弧で囲まれた条件式)を満たさない
=	左辺値と右辺値は等しい
<>	左辺値と右辺値は等しくない
>	左辺値は右辺値より大きい
>=	左辺値は右辺値以上
<	左辺値は右辺値より小さい
<=	左辺値は右辺値以下
+	加算
-	減算
*	乗算
/	除算

■条件式エディタ

条件式の結果がTRUEとなる場合のみ、メイン画面のプレビューにBOXが表示されます。但し[テンプレートモード](#)時は結果に関係なく表示されます。

- ・一般的なテキストエディタと同様に、 caretの移動やテキスト入力ができます。
- ・キーボード及び制御コード用アイコンを使用し、入力・修正します。
- ・条件式で文字列を意味する部分はシングルクォーテーション()で囲ってください。
- ・Ctrl+C キーでコピー、Ctrl+V キーで貼り付けができます。
- ・同じ参照先データ(グレー表示部分)を複数使用する場合はエディタ上でコピー・貼り付けを行ってください。
- ・参照先データ(グレー表示部分)を削除すると、同時に参照先指定タグの内容も全てクリアされます。(確認メッセージあり)

■条件式不正チェック

- ・条件式に不正がないかをチェックします。
- ・同様のチェックをダイアログ確定時に自動で行っていますので、あえて行う必要はありません。条件式が複雑になる時など、入力途中で部分的に確認入力したい場合にご使用ください。

■辞書ツリーリスト

- ・参照先データの参照先を指定する為に使います。
- ・メイン画面の辞書ツリーリストに辞書が読み込まれている場合、同じ辞書の内容が表示されています。
- ・[辞書ツリーリストの操作方法](#)、及び[マッピング操作方法](#)については、メインでの操作と同様となります。

変数名の編集

変数名とは、[表示条件の設定](#)の条件式内で参照先データを表す為のものです。



- ・変数名の重複は許可されません。
- ・変数名は半角16文字以内で入力してください。

一度確定した変数名の変更は、[表示条件の設定ダイアログ](#)の参照先指定のタグ部分のポップアップメニュー[変数名の変更]から行う事ができます。

XML検索の詳細

[表示条件の設定](#)の参照先で使用中のXMLデータベース情報を設定します。



詳しい操作は、[データマッピング情報](#)の”XML検索の詳細タブ”をご覧ください。

書式設定

行スタイル

■行スタイルについて

- ・文字属性(フォント)と行属性(行間、インデント)の条件に名前をつけて登録したものです。
- ・任意の名称で何種類も登録することができます。

■行スタイルを使った書式設定

ドキュメント内の各BOXに、任意の[行スタイルを適用](#)することができます。これにより、[行スタイルの属性を修正](#)すると、適用された全てのBOXに対して修正が反映されます。ドキュメント全体の書式を簡単に制御できるので便利です。

■あらかじめ準備された行スタイル

本プロダクトは、標準的な行スタイルをあらかじめ用意しています。

これらのスタイルを削除することはできません。

スタイル名以外の条件は、自由に変更できます。

■注意

[ツールバーを使用して個々のBOXの書式を修正](#)することもできます。個別に修正した属性は行スタイルよりも優先され、それ以後行スタイルの属性が修正されても、当該BOXの属性には反映されません。

再び行スタイルの管理下へ戻りたい場合は、対象のBOXに別の行スタイルを適用し、再び元の行スタイルを再適用します。

■関連トピック

[行スタイルの追加・修正](#)

[行スタイルをBOXに適用する](#)

[BOXの書式設定](#)

[一部のテキストの書式を設定する](#)

行スタイル修正

[行スタイル](#)の書式を修正することにより、その行スタイルを適用しているBOX全てに修正が反映されます。これにより、ドキュメント全体の書式を簡単に統一することができます。

■注意

[ツールバーを使用して個々のBOXの書式を修正](#)することもできます。個別の修正は行スタイルよりも優先され、それ以後は行スタイルの修正は反映されません。

< 例 >

- ・行スタイルの「見出し1」を適用しているテキストBOXを選択し、ツールバーのアイコンで文字色を赤に変更する。これ以降「見出し1」の文字色が変更されても、当該BOXには反映されない。色以外の属性は反映される。
- ・再び行スタイルの管理下へ戻りたい場合は、対象のBOXに別の行スタイルを適用した後、目的の行スタイルを再適用します。

■操作

[\[行スタイルの設定\]](#)の「行スタイルの条件を修正する」をご覧ください。

■関連トピック

[行スタイルについて](#)

[行スタイルを適用する](#)

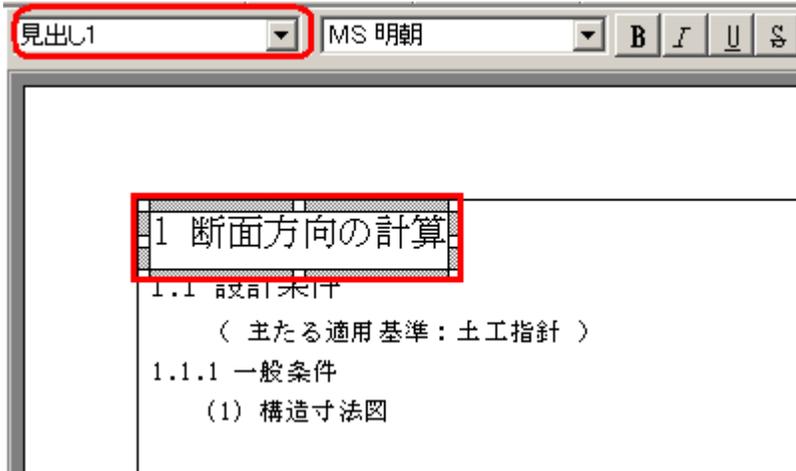
行スタイルを適用する

プレビューのBOXに行スタイルを適用する

行スタイルは、ドキュメント内の各BOXに関連付けることができます。

プレビューで、対象のBOXを選択します。

ツールバーの行スタイル欄で、任意の行スタイルを選択します。



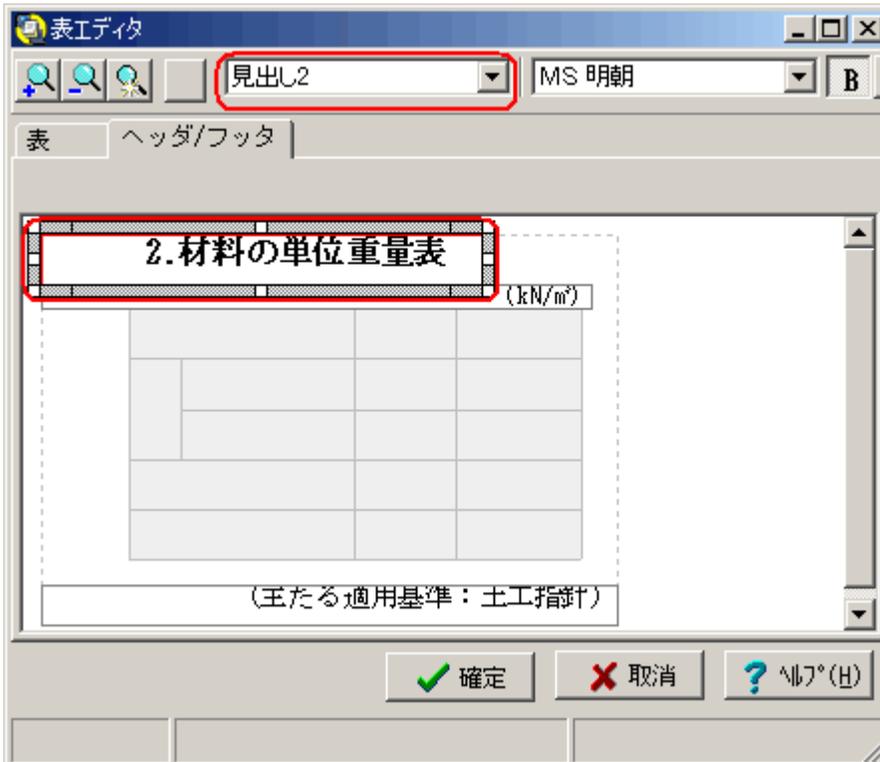
注意：グラフィック中に書かれているテキストには適用されません。

表のヘッダ/フッタに行スタイルを適用する

行スタイルは、表のヘッダ・フッタのBOXに関連付けることができます。

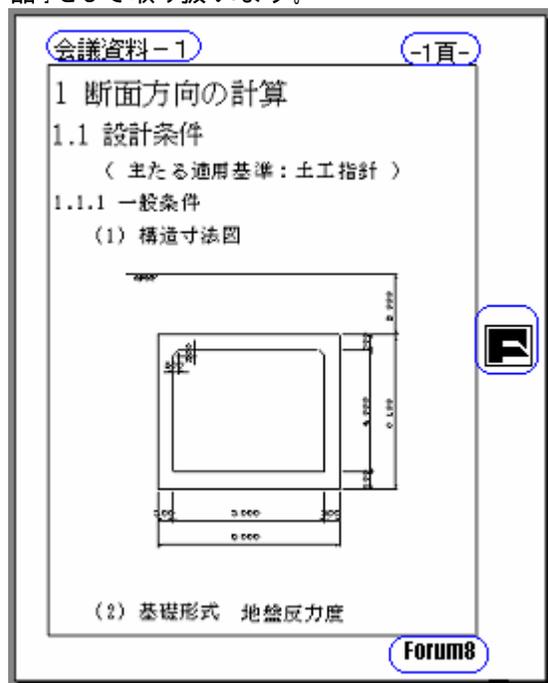
表エディタのヘッダ/フッタタブ内で、対象のBOXを選択します。

ツールバーの行スタイル欄で、任意の行スタイルを選択します。



装飾部品の行スタイル

各ページの余白に表示する「ページ番号」「マーク(図)」「社名」などは、本プロダクトでは「装飾部品」として取り扱います。



装飾部品には行スタイルを適用できません。個別に書式を設定します。関連する装飾部品のトピックをご覧ください。

[ページ番号\(装飾部品\)](#)

[社名\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#)

[日付\(装飾部品\)](#)

[任意文字\(装飾部品\)](#)

[図\(装飾部品\)](#)

表紙の行スタイル

表紙に表示されるテキストはすべて装飾部品です。上記『装飾部品の行スタイル』をご覧ください。

目次の行スタイル

目次の行スタイルは「目次1, 2, 3」に固定されます。他の行スタイルを適用することはできません。

■関連トピック

[行スタイルについて](#)

[行スタイル修正](#)

一部のテキストの書式を設定する

テキストBOXの場合、BOX内の一部のテキストに対して書式を設定することができます。

(数式BOX・行列式BOXでは、記号テンプレートを使用することにより上付文字・下付文字のみ設定できます。詳細は各エディタのトピックをご覧ください)

■注意

この方法で設定した書式は、行スタイルの影響を受けなくなります。

■操作

テキストBOXを[編集状態](#)にし、対象の文字をドラッグします。



[ツールバーのアイコン](#)を使って、書式を変更します。

■補足

行ピッチについての説明は、[行ピッチの設定](#)をご覧ください。
インデントについての説明は、[インデントの設定](#)をご覧ください。

■関連トピック

[行スタイル](#)

[BOXの書式設定](#)

[数式エディタの使い方](#)

[行列エディタの使い方](#)

フォント(文字属性)設定

ドキュメント内のテキストは、フォント(文字色・サイズ・書体)を設定することができます。

■BOX内のテキスト

下記2種類の方法で、テキストのフォントを設定することができます。

行スタイルを使用し、一括設定する

[行スタイル](#)のフォントを設定することで、その行スタイルを適用している全てのBOXに、設定を反映することができます。[行スタイル修正](#)をご覧ください。

ツールバーのアイコンを使用して個別設定する

- ・プレビュー上のBOXに対する設定 : [BOXの書式設定](#)
- ・表のセルに貼り付けたBOXへの設定 : [表タブ\(表エディタ\)](#)
- ・表のヘッダ/フッタへの設定 : [表のヘッダ/フッタ](#)

■装飾部品のテキスト

目的の装飾部品のトピックをご覧ください。

[ページ番号\(装飾部品\)](#)

[社名\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#)

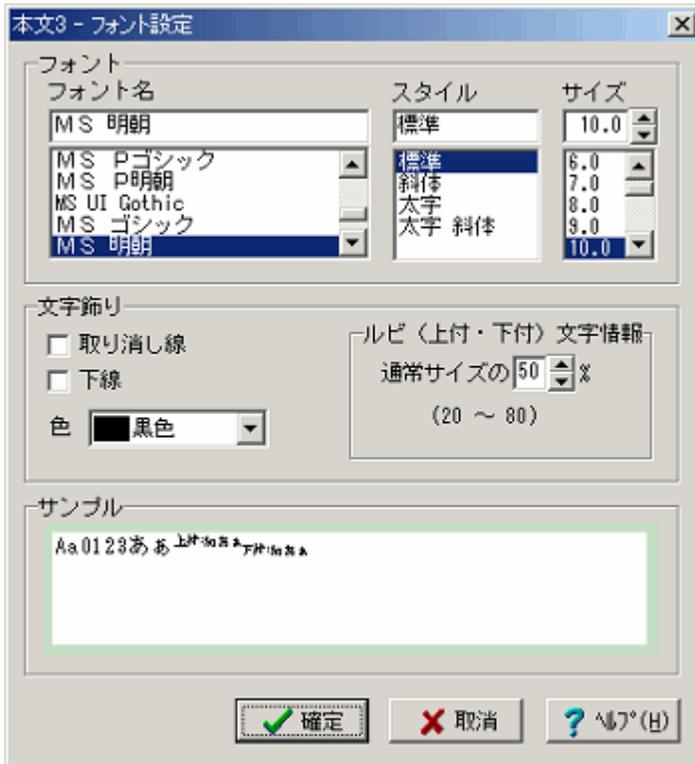
[日付\(装飾部品\)](#)

[任意文字\(装飾部品\)](#)

[図\(装飾部品\)](#)

フォント設定ダイアログ

[行スタイル](#)や[装飾部品](#)はフォント設定ダイアログを使って、テキストの書体・スタイル・サイズ等を設定します。



■ 項目説明

フォント	フォント名	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の書体を選択します ・現在選択中のフォント名が表示され、その下に選択できるフォント名がリスト表示されます。
	スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の形体を選択します。 ・現在選択中のスタイルが表示され、その下に選択できるスタイルがリスト表示されます。
	サイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさを選択します。 ・現在選択中のサイズが表示され、その下に選択できるサイズがリスト表示されます。
文字飾り	取り消し線	<ul style="list-style-type: none"> ・文字に取り消し線を付ける場合に選択します。
	下線	<ul style="list-style-type: none"> ・文字に下線を付ける場合に選択します。
	色	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の色を選択します。 ・選択できる色は、プルダウンに表示されます。
	ルビ文字情報	<ul style="list-style-type: none"> ・振り仮名や数式の次数表示等で使う小さい文字の大きさを、通常の文字に対する割合で指定します。
サンプル	上記で指定したフォントのサンプルを表示します。	

■ 関連トピック

[ページ番号\(装飾部品\)](#)

[社名\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#)

[日付\(装飾部品\)](#)

[任意文字\(装飾部品\)](#)

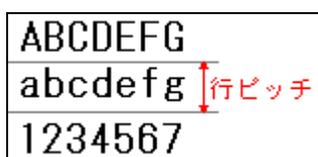
[図\(装飾部品\)](#)

[フォント設定](#)

行ピッチ(行間)を設定

■行ピッチとは

テキストを改行した際の、次の行までの間隔を行ピッチとして設定します。



行ピッチは、下記2種類のいずれかの単位で設定できます。

- ・ 文字の大きさと同じ単位(ポイント)
- ・ 表示する文字の大きさに対する割合(%)

■スタイルを使用して一括設定する

[行スタイル](#)の行ピッチを設定することで、その行スタイルを適用している全てのBOXに、設定を反映することができます。[行スタイル修正](#)をご覧ください。

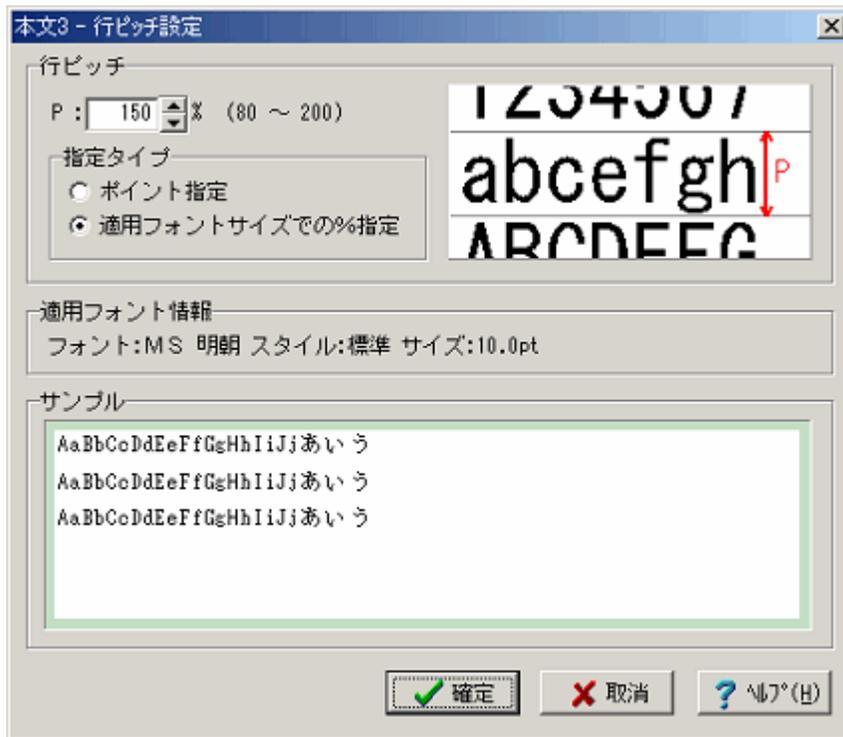
■ツールバーを使用して個別に設定する

ツールバーのアイコンを使用し、選択したBOXの行ピッチを設定できます。[BOXの書式設定](#)をご覧ください。

表のセルに貼り付けたBOXは、個別設定できません。表BOX全体への設定のみとなります。

行ピッチ設定ダイアログ

[行スタイル](#)では、行ピッチダイアログを使って行間を設定します。



■ 詳細項目説明

行ピッチ	P	<p>行の高さを、下記2種類のいずれかの方法で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 文字の大きさと同じ単位(ポイント)で指定する 表示する文字の大きさに対する割合で設定する <p>どちらの方法で指定するかは、次の『指定タイプ』の項で決定します。</p>
指定タイプ		<ul style="list-style-type: none"> ・文字の大きさと同じ単位(ポイント)で行ピッチPを指定する場合、ポイント指定 を選択します。 ・表示する文字の大きさに対する割合で行ピッチPを指定する場合、適用フォントサイズでの%指定 を選択します。 ・タイプを変更すると、行ピッチPの値も変化します。
適用フォント情報		<p>現在処理中の行スタイルで設定されているフォント情報が、参考値として表示されます。</p>

インデント(字下げ)を設定

■ インデントとは

ページの余白境界から、テキストの左端までの空白の長さを指します。
 インデント設定できるのは 開始行 折り返し2行目以降 の2種類です。



- ・インデント設定は、テキストの書き出しから次の改行までを1つのまとまりとして扱います。(上図では、AからQまで)
- ・テキストは、ページの右端まで達すると自動的に折り返されます。
- ・書き出しから自動折り返しまでを「開始行」といい、自動折り返しによって2行目・3行目・・・となった行のことを、「折り返2行目以降」といいます。
- ・改行を挿入した後は、ふたたび「開始行」になります。

インデントは、下記いずれかの単位で設定できます。単位を選択した後、インデント幅を設定します。

- ・文字数
- ・文字の大きさと同じ単位(ポイント)

■行スタイルを使用して一括設定する

[行スタイル](#)のインデントを設定することで、その行スタイルを適用している全てのBOXに、設定を反映することができます。[行スタイル修正](#)をご覧ください。

■ツールバーを使用して個別に設定する

ツールバーのアイコンを使用し、選択したBOXのインデントを修正できます。[BOXの書式設定](#)をご覧ください。

表のセルに貼り付けたBOXは、個別設定できません。表BOX全体への設定のみとなります。

インデント設定ダイアログ

[行スタイル](#)では、インデント設定ダイアログを使って、字下げを設定します。

「字下げ」

テキストは、ページの右端まで達すると自動的に折り返されます。書き出しから自動折り返しまでを「開始行」といい、自動折り返しによって2行目・3行目・・・となった行のことを、「折り返2行目以降」といいます。

改行を入力した後は、ふたたび「開始行」になります。



■ 詳細項目説明

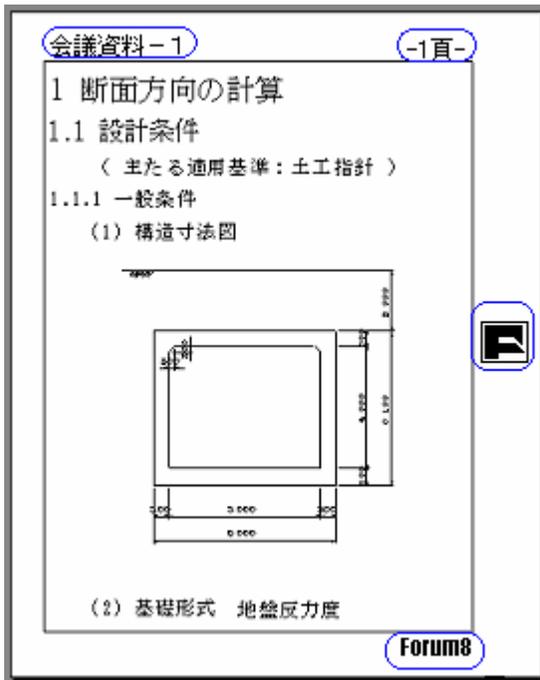
インデント	開始行 (I1)	<p>開始行の左端(余白境界から先頭文字まで)の間隔を下記いずれかの方法で指定します。</p> <p style="padding-left: 40px;">文字の大きさと同じ単位(ポイント)で指定する</p> <p style="padding-left: 40px;">文字数で指定する</p> <p>どちらの方法で指定するかは、『指定タイプ』の項で決定します。</p>
	折り返し2行目以降 (I2)	<p>折り返し2行目以降の左端(余白境界から左端文字まで)の間隔を下記いずれかの方法で指定します</p> <p style="padding-left: 40px;">文字の大きさと同じ単位(ポイント)で指定する</p> <p style="padding-left: 40px;">文字数で指定する</p> <p>・どちらの方法で指定するかは、『指定タイプ』の項で決定します文字の形体を選択します。</p>
	指定タイプ	<p>・文字の大きさと同じ単位(ポイント)でインデントを指定する場合、ポイント指定を選択します。</p> <p>・文字数でインデントを指定する場合、文字数指定 を選択します。</p> <p>・この項目を変更すると、インデントの値も変化します。</p>
適用フォント情報		<p>現在処理中の行スタイルで設定されているフォント情報が、参考値として表示されます。</p>

装飾部品

装飾部品

装飾部品とは、主にページの余白部分に配置するもの(ページ番号・日付・ロゴ・マーク等)の総称です。

余白以外の場所にも配置できます。



■装飾部品の種類

装飾部品は、下記の6種類があります。

ページ番号 / 社名 / 製品名 / 日付 / 任意文字 / 図
表紙のタイトルは、「任意文字」を利用します。

■装飾部品の追加・削除・変更

[装飾部品の追加・削除・変更](#)

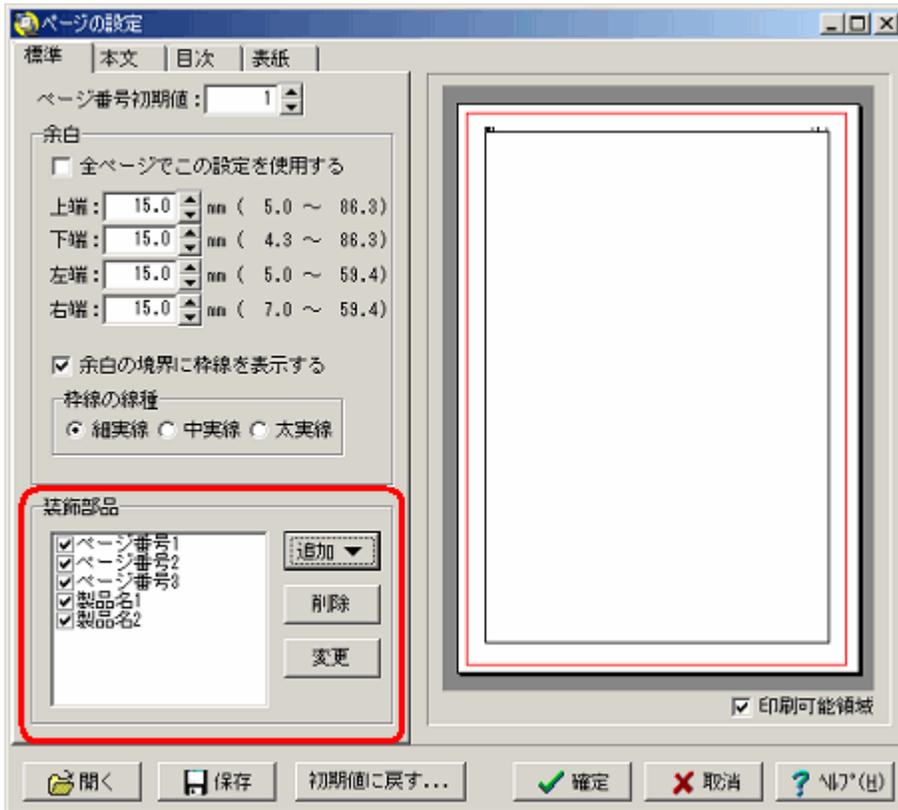
■関連トピック

[装飾部品の配置](#)

装飾部品の追加・削除・変更

装飾部品の追加・削除・変更は、[ページの設定]の各タブ(標準 / 本文 / 目次 / 表紙)の「装飾部品」欄で行います。

タブの選択方法は、[[ページの設定](#)]をご参照ください。



■ 追加

上図、装飾部品欄の[追加]ボタンをクリックし、部品の種類を選択します。

設定ダイアログが表示されます。

選択した種類によって登録方法が異なります。目的のトピックをご覧ください。

[ページ番号\(装飾部品\)](#) [社名\(装飾部品\)](#) [日付\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#) [任意文字\(装飾部品\)](#) [図\(装飾部品\)](#)

■ 削除

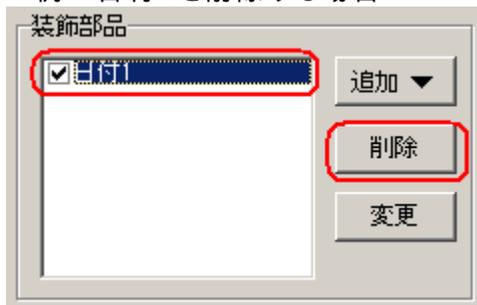
[ヒント] 装飾要素名の先頭のチェックマークを外すだけで、その要素を非表示(ページに表示しない)にできます。

以下の手順は、非表示ではなく削除です。

装飾部品の欄で、削除する要素名をクリックします。

[削除]ボタンをクリックします。

<例> 日付1を削除する場合

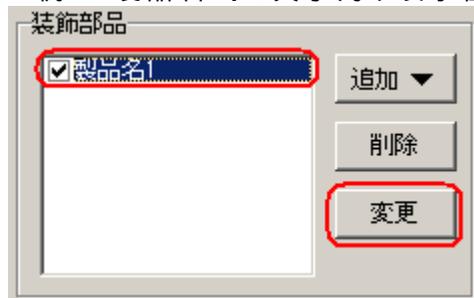


■変更

装飾部品の欄で、修正する要素名をクリックします。

[変更]ボタンをクリックします。

<例>「製品名1」の文字列や表示位置を変更する



設定ダイアログが表示されます。

装飾部品の種類によってダイアログが異なります。目的のトピックをご覧ください。

[ページ番号\(装飾部品\)](#)

[社名\(装飾部品\)](#)

[日付\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#)

[任意文字\(装飾部品\)](#)

[図\(装飾部品\)](#)

■関連トピック

[ページの設定](#)

[装飾部品](#)

[装飾部品を表示する／しない](#)

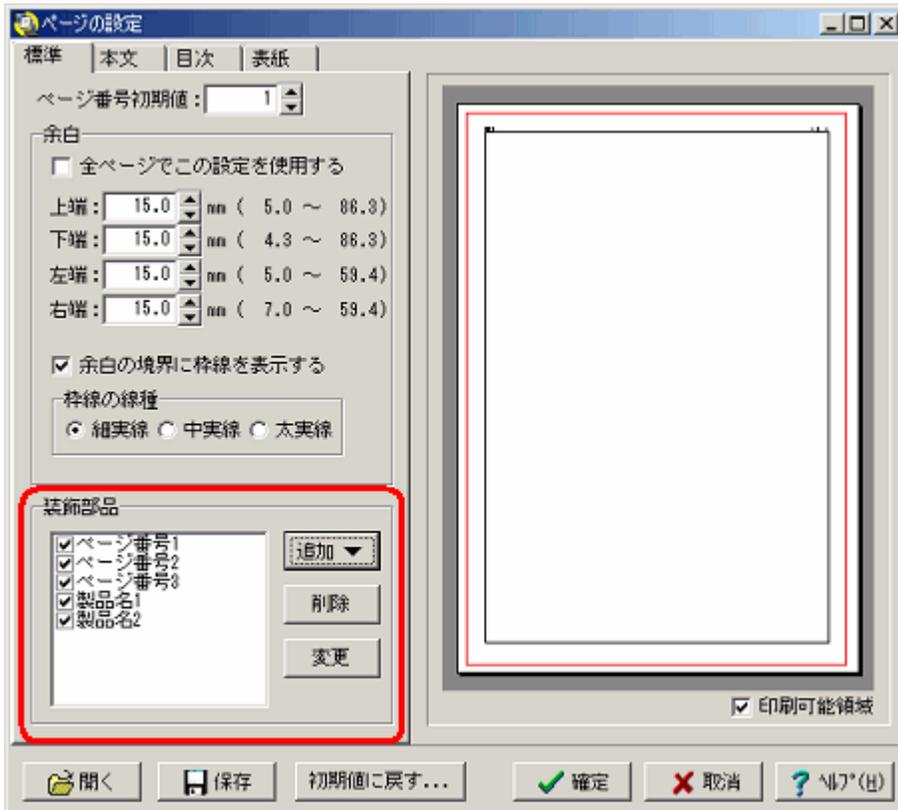
[装飾部品の配置](#)

装飾部品を表示する／しない

任意の[装飾部品](#)をページに表示することができます。

■装飾部品の設定画面

[ページの設定]の各タブ(標準/本文/目次/表紙)の「装飾部品」欄で設定します。
タブの選択方法は、[[ページの設定](#)]をご参照ください。



■ 操作

[ページの設定]で、任意のタブを選択します。
「装飾部品」欄で、表示する要素にチェックマークを付けます。
表示しない要素は、チェックマークを外します。
[確定]ボタンをクリックすると、ダイアログが閉じ、設定がドキュメントに反映されます。

■ 関連トピック

[装飾部品の追加・削除・変更](#)

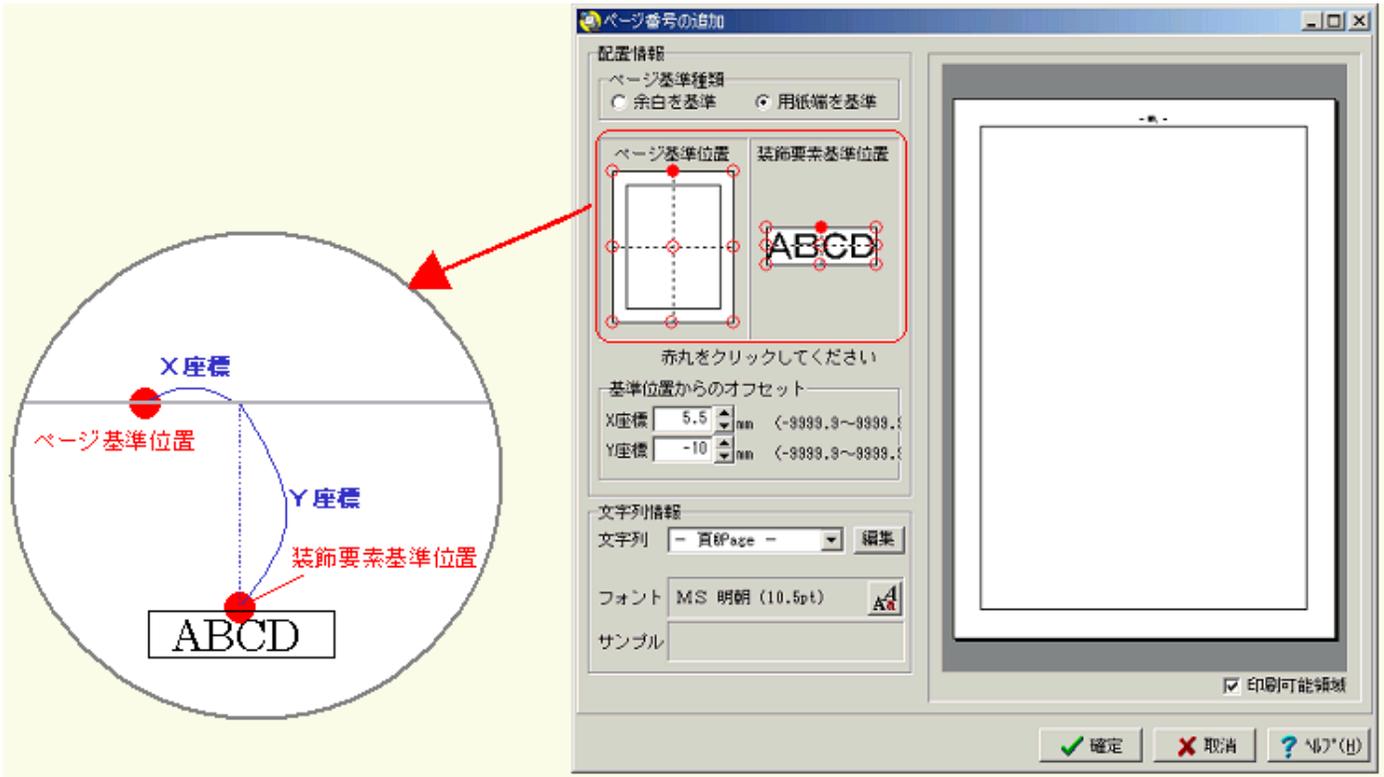
装飾部品の配置

[装飾部品](#)は、各要素ごとに任意の表示位置を指定することができます。

表示位置は装飾部品の追加または変更ダイアログ内で、ページの基準位置と装飾要素基準位置との距離で指定します。

要素とは：装飾部品に登録してあるページ番号・会社名などを指します。

<例> 装飾部品追加ダイアログ



■ 詳細項目説明

ページ基準種類

- ・装飾部品の表示位置は、余白または用紙端からの距離で指定します。
- ・余白・用紙端のどちらを基準にするかを選択します。

ページ基準位置

- ・上記『ページ基準種類』で選択された枠に対して、9個の赤丸が表示されます。この9個の中から、ページ基準位置として使用するものを選択（クリック）します。
- ・選択されている位置は、塗り潰し表示されます。

装飾要素基準位置

- ・装飾部品の文字列を仮に「ABCD」として、文字列の周囲と中央に合計9個の赤丸が表示されます。この9個の中から、装飾要素基準位置として使用するものをクリックして選択します。

基準位置からのオフセット

- ・選択されている位置は、塗り潰し表示されます。
- ・ページ基準位置を始点に、装飾要素基準位置までの距離をミリメートル単位で指定します。
- ・X座標は、ページ基準位置より右側がプラス、左側がマイナスの値になります。
- ・Y座標は、ページ基準位置より上側がプラス、下側がマイナスの値になります。

■ 関連トピック

[ページ番号\(装飾部品\)](#)

[社名\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#)

[日付\(装飾部品\)](#)

[任意文字\(装飾部品\)](#)

図 (装飾部品)

社名 (装飾部品)

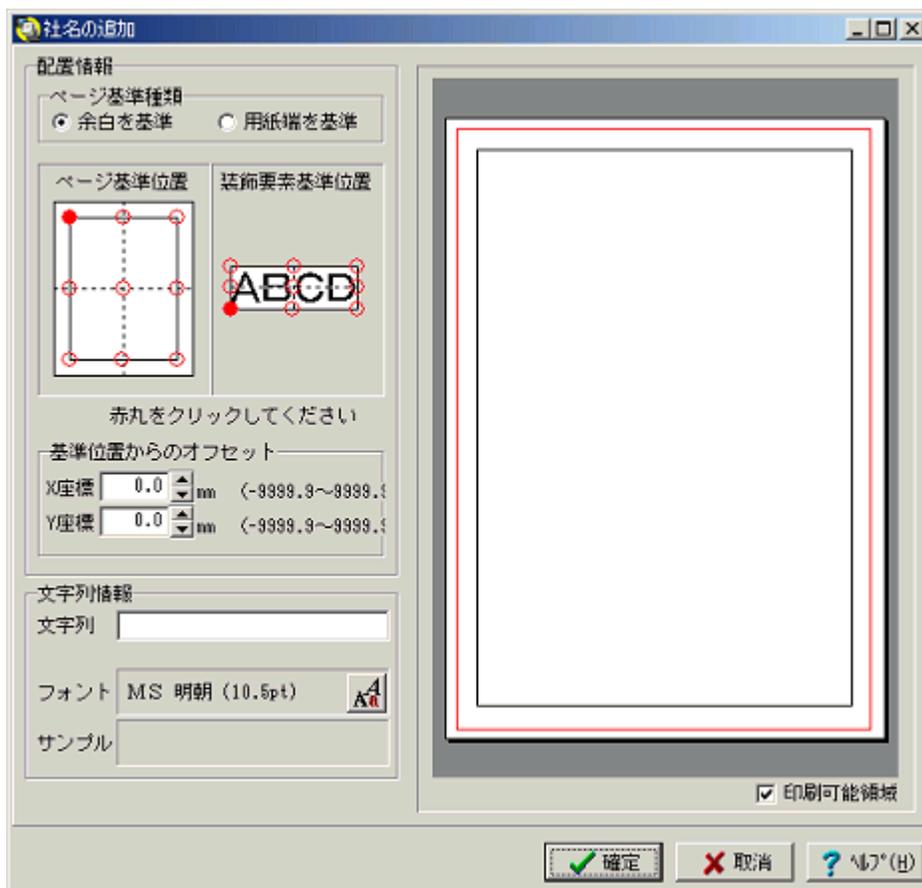
[装飾部品](#)を追加または変更する際、「社名」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。
ダイアログ内で、社名の文字列と表示位置を設定します。

■ 操作

[ページの設定]の装飾部品で、[社名を追加\(または変更\)](#)します。

社名設定ダイアログ(下図)が表示されます。
配置情報と文字列情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。(詳細項目説明を参照)

[ページの設定]ダイアログに戻ります。



■ 詳細項目説明

配置情報

社名を表示する場所を指定します。詳細は、[装飾部品の配置](#)をご覧ください。

文字列情報

文字列

社名の表示形式を指定します

フォント

・現在設定されている文字フォントが表示されます。

その他

印刷可能領域

- ・フォントを変更する場合は、 アイコンをクリックします。
([フォント設定ダイアログ](#)を参照)
- ・設定ダイアログのプレビューに、印刷可能領域の枠(赤)を表示する/しないを切り替えます。
- ・この枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。
- ・印刷可能領域の枠は、印刷されません。

製品名(装飾部品)

[装飾部品](#)を追加または変更する際、「製品名」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。

このダイアログで、製品名の文字列と表示位置を設定します。

本プロダクトは、当社製品の出力部を介して起動することができます。以下の説明では、起動時に介在した当社製品名を「製品名」と表記します。ただし、本プロダクトを直接起動した場合は、製品名 = 本プロダクト名 となります。

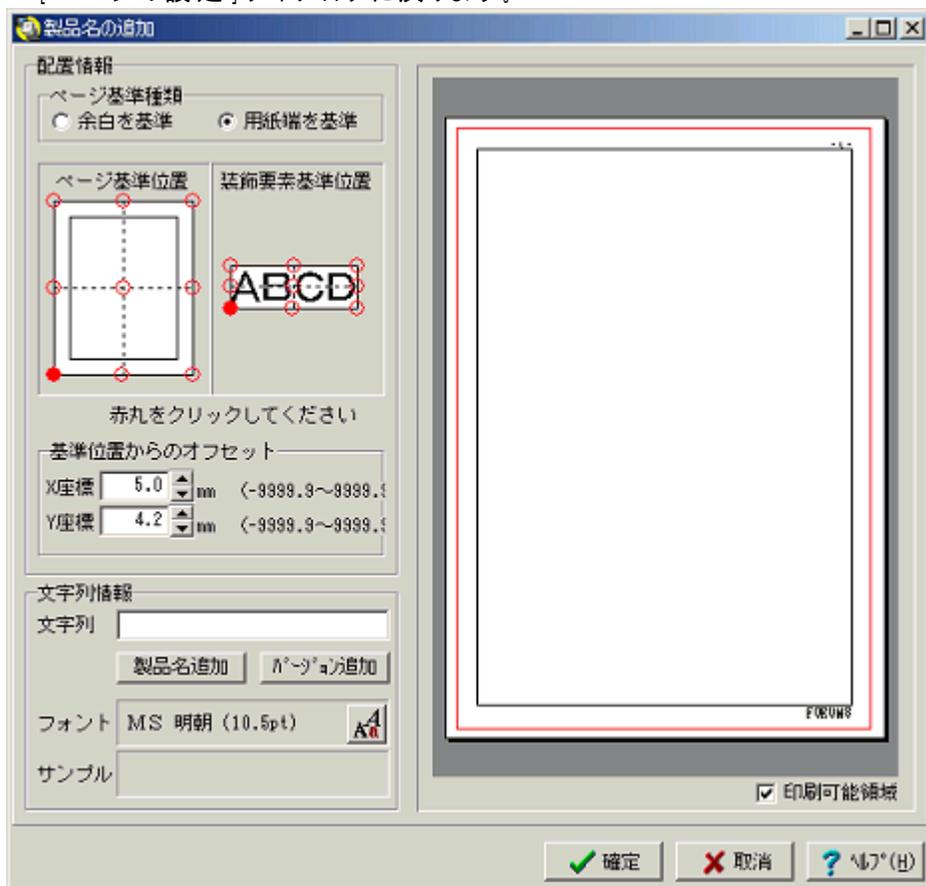
■ 操作

[[ページの設定](#)]の装飾部品で、[製品名を追加\(または変更\)](#)します。

製品名の設定ダイアログ(下図)が表示されます。

配置情報と文字列情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。(詳細項目説明を参照)

[[ページの設定](#)]ダイアログに戻ります。



■ 詳細項目説明

配置情報	製品名を表示する場所を指定します。詳細は、 装飾部品の配置 をご覧ください
文字列情報	製品名の表示形式を指定します
文字列	<ul style="list-style-type: none">・製品名として表示する文字列を設定します。・@Product と @Version は、それぞれ製品名と製品バージョンを表す予約語です。 <p>< 例 ></p> <p>『使用製品:@Product(@Version)』と設定した場合、ドキュメント上では『使用製品:BOX カルバート(3.0.0.1)』のように表示されます。</p>
製品名追加	<ul style="list-style-type: none">・上記2つの予約語は、それぞれ[製品名追加][バージョン追加]のボタンによってワンタッチで入力できます。・文字列のフィールドに、製品名の予約語(@Product)を挿入します。
バージョン追加	<ul style="list-style-type: none">・文字列のフィールドに、バージョンの予約語(@Version)を挿入します。
フォント	<ul style="list-style-type: none">・現在設定されている文字フォントが表示されます。・フォントを変更する場合は、アイコンをクリックしてください。 (フォント設定ダイアログを参照)
その他	印刷可能領域 <ul style="list-style-type: none">・設定ダイアログのプレビューに、印刷可能領域の枠(赤)を表示する/しないを切り替えます。・この枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。・印刷可能領域の枠は、印刷されません。

日付(装飾部品)

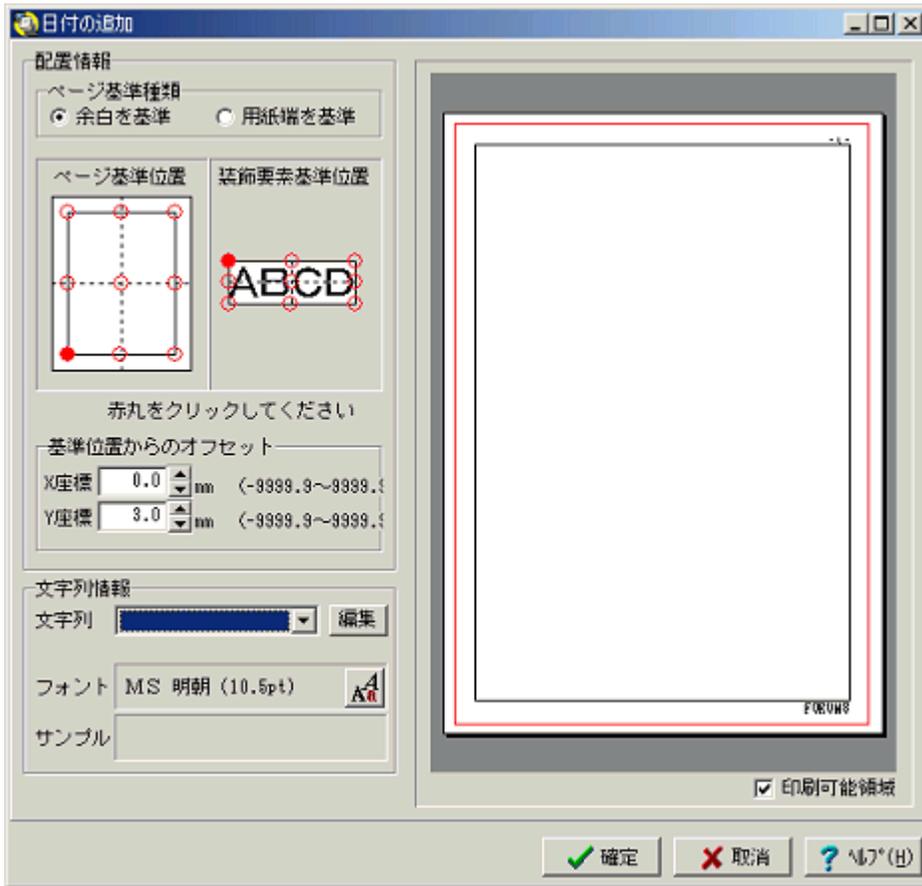
[装飾部品](#)を追加または変更する際、「日付」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。ダイアログ内で、日付文字列と表示位置を設定します。

■ 操作

[\[ページの設定\]](#)の装飾部品で、[日付を追加\(または変更\)](#)します。

日付の設定ダイアログ(下図)が表示されます。配置情報と文字列情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。(詳細項目説明を参照)

[\[ページの設定\]](#)ダイアログに戻ります。



■ 詳細項目説明

配置情報

日付を表示する場所を指定します。詳細は、[装飾部品の配置](#)をご覧ください。

文字列情報

日付の表示形式を指定します

文字列

- ・プルダウンリストから、日付の表示形式を選択します。
- ・[編集]ボタンをクリックし、表示形式を追加または変更することができます。
([日付の文字列編集](#)を参照)

フォント

- ・現在設定されている文字フォントが表示されます。
- ・フォントを変更する場合は、アイコンをクリックしてください。
([フォント設定ダイアログ](#)を参照)

その他

印刷可能領域

- ・設定ダイアログのプレビューに、印刷可能領域の枠(赤)を表示する/しないを切り替えます。
- ・この枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。
- ・印刷可能領域の枠は、印刷されません。

日付の文字列編集(装飾部品)

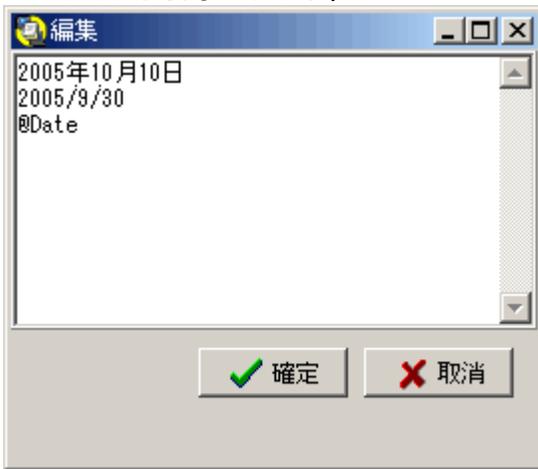
装飾部品の『日付』で表示する文字列(日付)を設定します。

< 表示例 > 2000年10月10日

■ 操作

[日付設定ダイアログ](#)で、文字列情報の[編集]ボタンをクリックします。

エディタが表示されます。



・エディタは、一般のテキストエディタと同様に編集できます。任意の位置をクリックし、文字を入力（または削除）してください。改行までが1つの要素になります。

・@Dateと@Timeは予約語です。

 @Dateは、[その他の設定](#)の「日付の設定」で指定されている日付が埋め込まれます。

 @Timeは、[その他の設定](#)の「日付の設定」で指定されている時刻が埋め込まれます。

[確定]ボタンをクリックし、ページ番号エディタを閉じます。

[日付設定ダイアログ](#)に戻ります

ページ番号(装飾部品)

[装飾部品](#)を追加または変更する際、「ページ番号」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。

ダイアログ内で、ページ番号の文字列と表示位置を設定します。

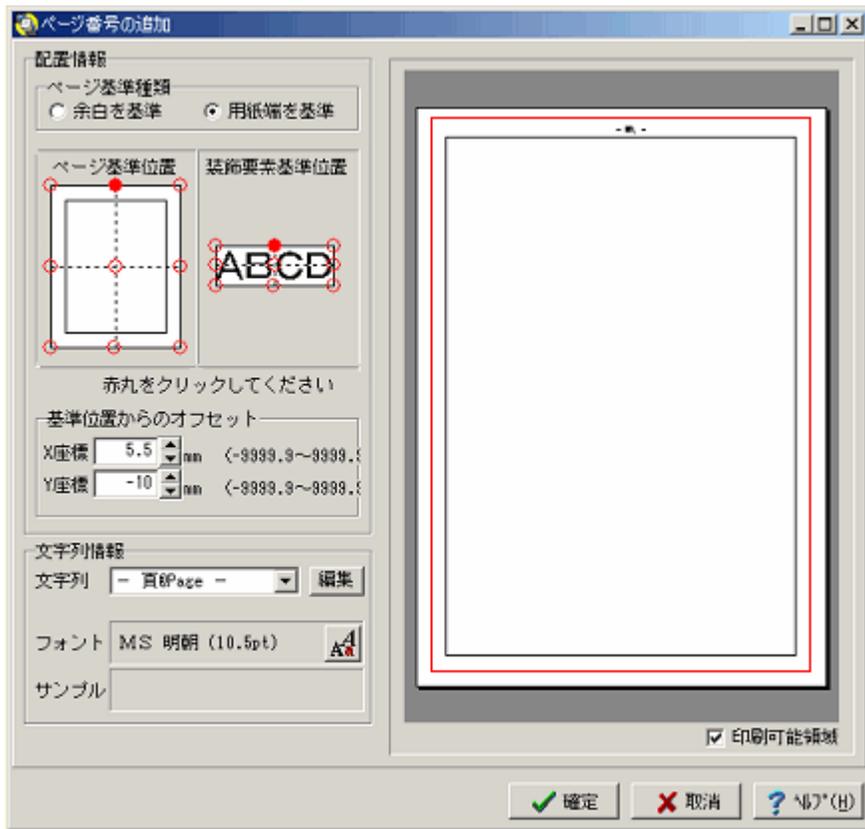
■ 操作

[[ページの設定](#)]の[装飾部品](#)で、[ページ番号の追加\(または変更\)](#)を選択します。

[ページ番号の設定ダイアログ](#)(下図)が表示されます。

配置情報と文字列情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。(詳細項目説明を参照)

[ページの設定]ダイアログに戻ります。



■ 詳細項目説明

配置情報

ページ番号を表示する場所を指定します。詳細は、[装飾部品の配置](#)をご覧ください。

文字列情報

ページ番号の表示形式を指定します

文字列

- ・プルダウンリストから、ページ番号の表示形式を選択します。
- ・実際にページ数が表示される部分は @Page という予約語で表わします。
- ・[編集]ボタンをクリックし、表示形式を新規作成または変更することもできます。
([ページ番号の文字列編集](#)を参照)

フォント

- ・現在設定されている文字フォントが表示されます。
- ・フォントを変更する場合は、 アイコンをクリックしてください。
([フォント設定ダイアログ](#)を参照)

その他

印刷可能領域

- ・設定ダイアログのプレビューに、印刷可能領域の枠(赤)を表示する/しないを切り替えます。
- ・この枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。
- ・印刷可能領域の枠は、印刷されません。

ページ番号の文字列編集

[ページ番号](#)の表示形式を追加・変更・削除することができます。

■操作

[ページ番号設定ダイアログ](#)で、文字列の[編集]ボタンをクリックします。

エディタが表示されます。

- ・一般のテキストエディタと同様に編集できます。任意の位置をクリックし、文字を入力(または削除)してください。
- ・改行するまでが1つの要素になります。
- ・ページ番号を埋め込む部分は、@Page と記述します。



< 例 >

エディタに 頁@Page と記述した場合
実際の表示では 頁24 と表示される。

[確定]ボタンをクリックし、ページ番号エディタを閉じます。
[ページ番号設定ダイアログ](#)に戻ります

ページ番号の初期値

ページ番号の初期値(開始番号)は、[[ページの設定](#)]の標準タブで指定します。

ページ番号を各ページに表示するには、[ページの設定]の[装飾部品](#)で指定する必要があります。

任意文字列(装飾部品)

装飾部品の任意文字は、ドキュメントの表紙タイトルの表示などに使用します。

[装飾部品](#)を追加または変更する際、「任意文字」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。ダイアログ内で、任意の文字列と表示位置を設定します。

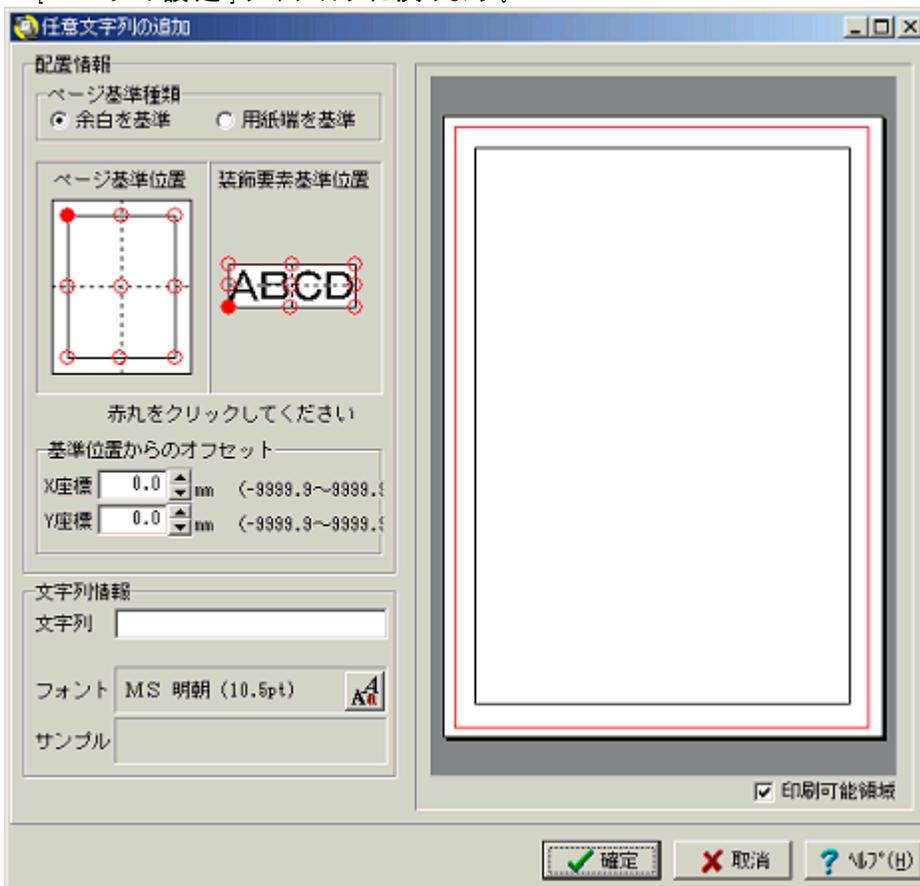
■操作

[ページの設定]の装飾部品で、[任意文字列を追加\(または変更\)](#)します。

任意文字列の設定ダイアログ(下図)が表示されます。

配置情報と文字列情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。(詳細項目説明を参照)

[ページの設定]ダイアログに戻ります。



■詳細項目説明

配置情報

任意文字列を表示する場所を指定します。詳細は、[装飾部品の配置](#)をご覧ください。

文字列情報

任意文字列の表示形式を指定します

文字列

・表示する文字列を定義します。

フォント

・現在設定されている文字フォントが表示されます。

・フォントを変更する場合は、 アイコンをクリックしてください。
([フォント設定ダイアログ](#)を参照)

その他

印刷可能領域

- ・設定ダイアログのプレビューに、印刷可能領域の枠(赤)を表示する/しないを切り替えます。
- ・この枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。
- ・印刷可能領域の枠は、印刷されません。

図(装飾部品)

あらかじめ保存してある画像ファイルを読み込み、各ページの決まった位置に表示することができます。

読み込める画像ファイルは、次の6種類です。

- ・Device Independent Bitmap (*.dib)
- ・JPEGイメージファイル(*.jpg , *.jpeg)
- ・ビットマップ(*.bmp)
- ・アイコン(*.ico)
- ・エンハンス メタファイル(*.emf)
- ・メタファイル(*.wmf)

装飾部品を追加または変更する際、「図」を選択すると、下図のダイアログが表示されます。

ダイアログ内で、使用する画像ファイル名と表示位置を設定します。

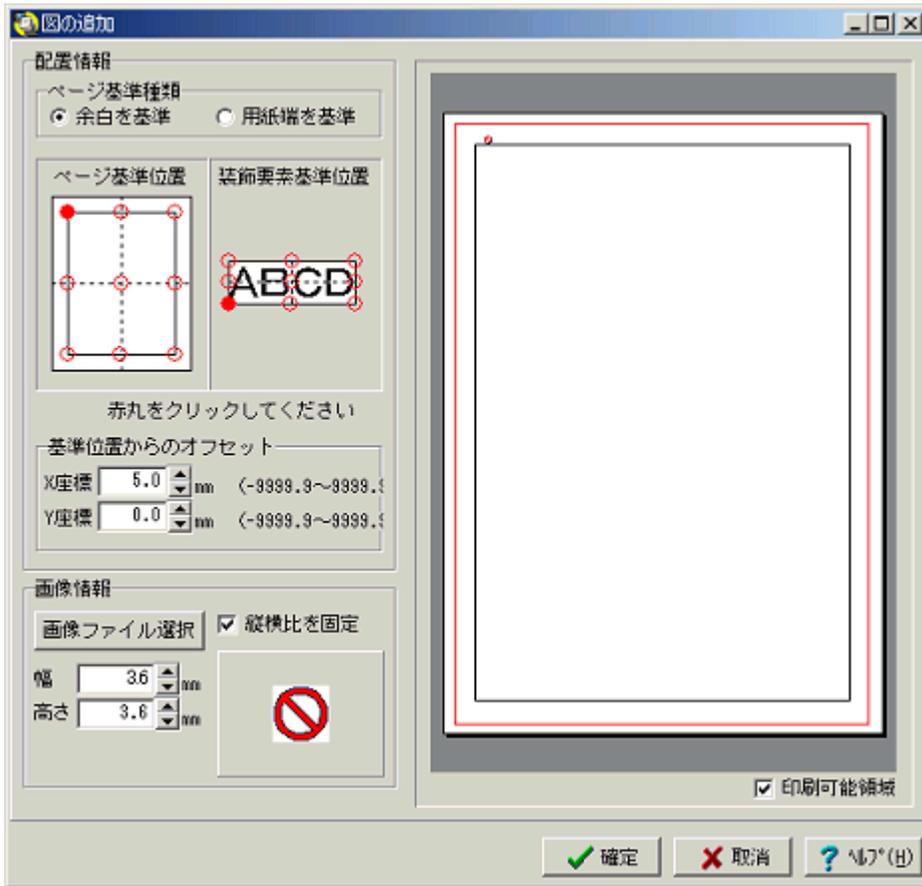
■操作

[ページの設定]の装飾部品で、図の追加(または変更)を選択します。

図の設定ダイアログ(下図)が表示されます。

配置情報と文字列情報を設定し、[確定]ボタンをクリックします。(詳細項目説明を参照)

[ページの設定]ダイアログに戻ります。



■ 詳細項目説明

配置情報

図を表示する場所を指定します。詳細は、[装飾部品の配置](#)をご覧ください。

画像情報

表示する画像ファイルを指定します

画像ファイル選択

- ・ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されます。目的の画像ファイルを選択してください。
- ・選択した画像のプレビューが、ボタンの右下に表示されます。

縦横比を固定

- ・この項目にチェックを付けることにより、画像の幅と高さの比を現在の比率で保つことができます。
- ・幅を変更すると、比率にあわせて高さが自動的に変わります。
- ・高さを変更した場合は、幅が自動的に変わります。

幅

- ・ドキュメントに表示する際の、画像の幅をミリメートルで指定します。

高さ

- ・ドキュメントに表示する際の、画像の高さをミリメートルで指定します。

その他

印刷可能領域

- ・設定ダイアログのプレビューに、印刷可能領域の枠(赤)を表示する/しないを切り替えます。
- ・この枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。
- ・印刷可能領域の枠は、印刷されません。

XML マッピング

XMLマッピング 概要

XMLマッピングは、表示する項目名を定義したBOXに、実データ(マッピングデータ)の値を埋め込む処理です。

■使用するファイル

BOXに項目名を定義するために、マッピング辞書ファイルを使用します。

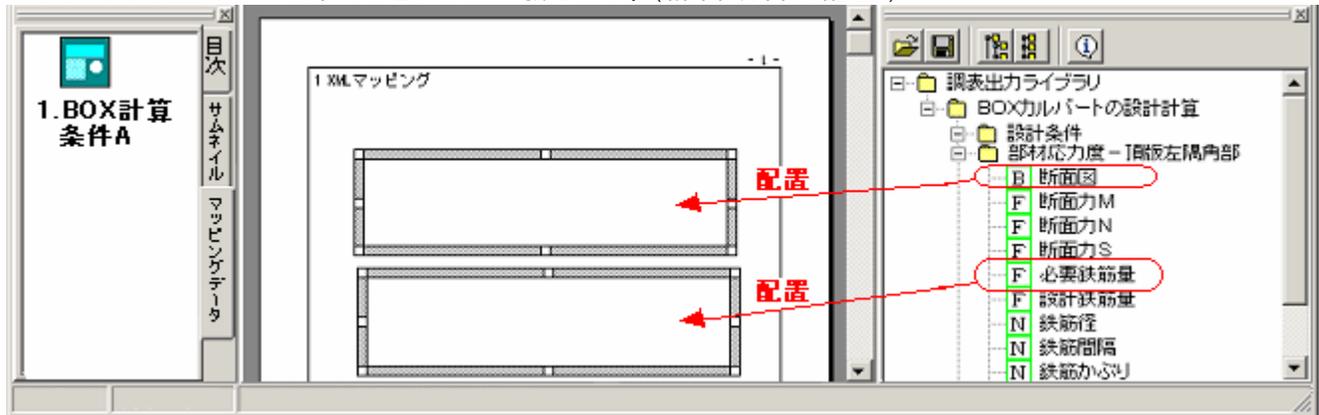
[マッピング辞書ファイルとは...](#)

定義されたBOXに実データを埋め込むには、マッピングデータが必要です。

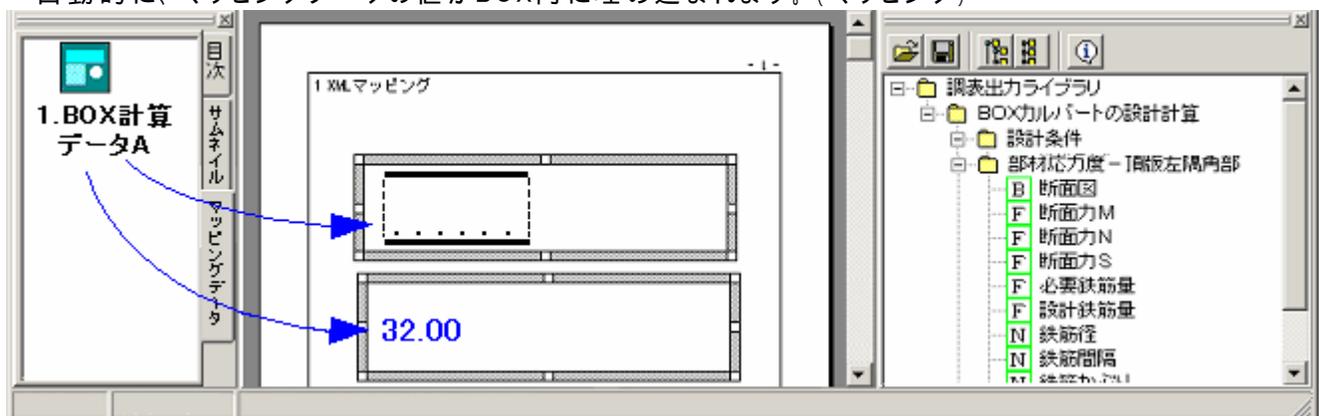
[マッピングデータとは...](#)

■概要

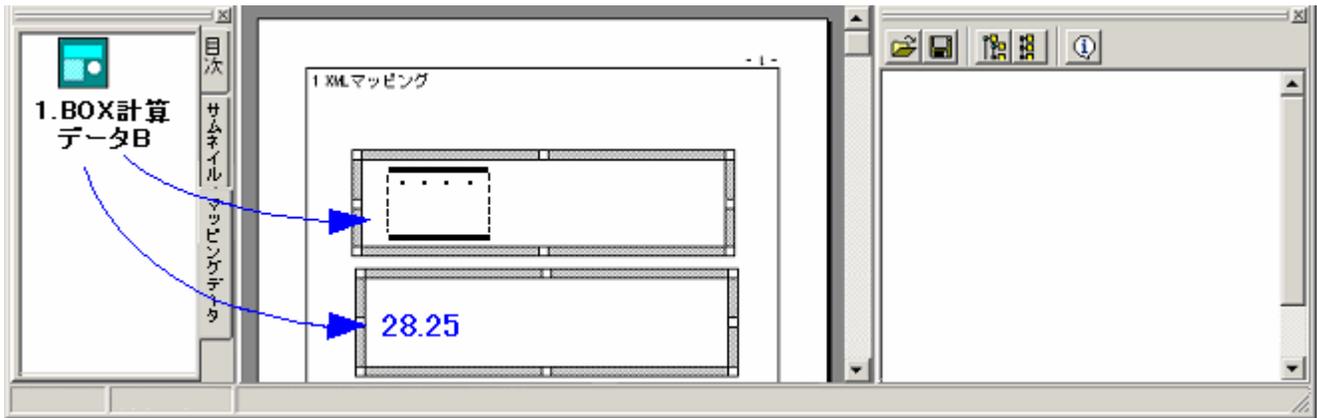
ドキュメント上のBOXに、マッピングを定義します。(辞書項目の配置)



自動的に、マッピングデータの値がBOX内に埋め込まれます。(マッピング)



別のマッピングデータを読み込むと、BOX内の表示が変わります。(マッピング)



『[XMLマッピング機能を使用する](#)』もご覧下さい。

■関連トピック

[マッピングデータを読み込む](#)

[BOXに辞書項目を配置](#)

[テンプレートとは](#)

[テンプレートを作成する](#)

[テンプレートを利用する](#)

[テンプレートファイルを開く](#)

[テンプレートとして保存する](#)

[テンプレートによるXMLマッピング](#)

[マッピングしたドキュメントを保存する](#)

XMLマッピング機能を使用する

XMLマッピングは、既存または新規作成のドキュメント上で実行することができます。

■使用方法(サンプル)

新規作成または既存のドキュメントを開きます。

[マッピング辞書ファイルを読み込み](#)ます。

[マッピングデータを読み込み](#)ます。

この時点では読み込みは必須ではありませんが、読み込んでおくと項目の配置がわかりやすくなります。

[辞書ツリーを操作](#)し、マッピングする[辞書項目のデータ型](#)を確認します。

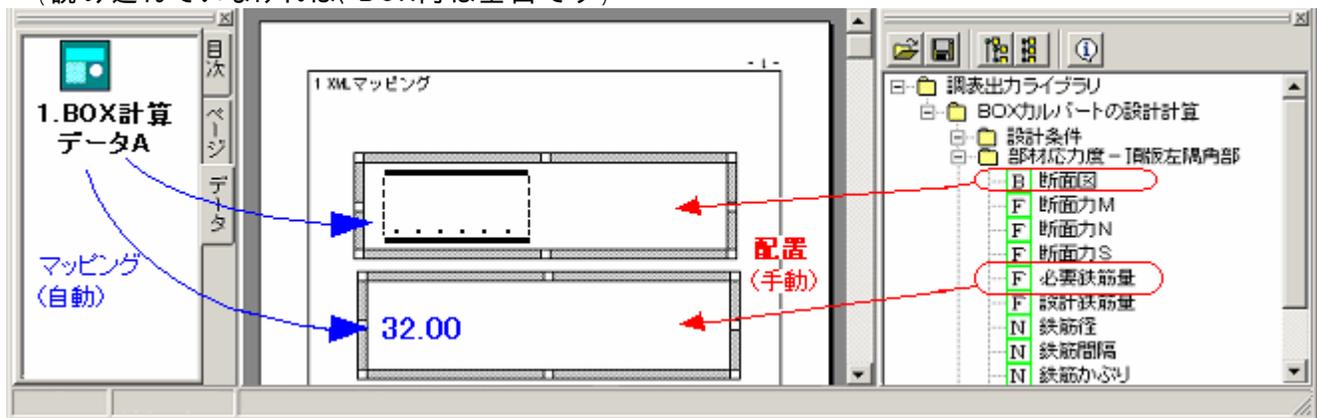
プレビュー上で、[BOXを追加](#)します。

上記で確認したデータ型によって、追加するBOXのタイプが異なります。
バイナリ型の場合 : マッピングデータBOXを追加する

その他の型 : テキストBOXを追加する

辞書項目を、 で追加したBOXに配置します。(辞書項目の配置)

マッピングデータを読み込んでいれば、マッピングが実施され、実際の値が表示されます。
(読み込んでいなければ、BOX内は空白です)



XMLマッピングを使用したドキュメントを保存することができます

■関連トピック

[XMLマッピング概要](#)

[XMLマッピングの修正](#)

[テンプレートとは](#)

[マッピングデータとは](#)

XMLマッピングの修正

XMLマッピングによって表示されるデータ(テキスト, 画像など)そのものを書き換えることはできません。
マッピングする項目, 表示形式, 元となるデータファイル 等は、下記の方法で修正することができます。

■別の項目をマッピングする(辞書項目の配置を上書き)

既に辞書項目を配置したBOXに対して、別の辞書項目を配置することができます。(配置の操作は同じです)

この場合、後から配置した項目が有効になります。

辞書項目のデータ型とBOXタイプの組合せが正しくなければ配置できません。(辞書項目のデータ型参照)

■項目を追加する(辞書項目の追加配置)

既に辞書項目を配置したBOXに対して、別の辞書項目を追加配置することができます。
この場合、1つのBOX内に複数のデータがマッピングされます。

辞書項目のデータ型とBOXタイプの組合せが正しくなければ追加配置できません。(辞書項目のデータ型参照)

■ マッピングされたデータの前後に、任意のテキストを追加・修正する

[データマッピング情報の表示形式欄を修正する](#)

[テキストBOXの編集機能を使用する](#)

■ マッピングの設定を修正する

[データマッピング情報を修正する](#)

■ 他のマッピングデータと入れ替える

現在使用しているマッピングデータのプロパティでグループIDを確認します。

現在使用しているマッピングデータを「データ」タブ内から削除します。

マッピングデータを削除したくない場合は、マッピングデータのプロパティでグループIDを別の番号に変更することで、削除を省略することができます。

新たに使用するマッピングデータを「データ」タブに読み込みます。

新たに読み込んだマッピングデータのグループIDを、[で確認したIDに修正更](#)します。

■ 関連トピック

[マッピングデータとは](#)

[マッピング辞書ファイルを読み込み](#)

[辞書項目のプロパティ](#)

XMLマッピングを保存する

[XMLマッピング](#)を行っているドキュメントは、下記2種類の方法で保存することができます。

■ 統合文書ファイルとして保存する

[名前を付けて保存](#)あるいは[上書き保存](#)を使用し、「ファイルの種類」で「統合文書ファイル(拡張子*.F9D)」を選択して保存します。

保存した統合文書ファイルの中には、マッピングデータは含まれますが、マッピング辞書ファイルは含まれません。

マッピングしたドキュメントを表示するだけであれば、マッピング辞書ファイルは必要ありません。

■ テンプレートとして保存する

[名前を付けて保存](#)を使用し、「ファイルの種類」で「テンプレートファイル(*.F9T)」を選択して保存します。

保存したテンプレートの中には、[マッピングデータ / マッピング辞書のどちらも含まれません](#)。必要なときに、再度読み込みを行う必要があります。

■関連トピック

[テンプレートとは](#)

[マッピングデータを読み込む](#)

[マッピング辞書ファイルを読み込む](#)

マッピング辞書ファイルとは

[XMLマッピング](#)及び[マッピングデータ](#)と密接に関係するファイルです。

- ・マッピングデータの構成 (XML 書式) が記述されています。
- ・マッピングデータの構成が異なれば、それに対応したマッピング辞書ファイルが必要になります。
- ・XMLマッピングの準備として、BOXに対してマッピング項目を定義 ([辞書項目を配置](#)) する際に使用します。
- ・当社製品が出力するマッピングデータに対しては、データの種類に対応するマッピング辞書ファイル (XML タグ辞書ファイル) が提供されます。

■マッピング辞書ファイルの種類

マッピング辞書ファイルとして、次の3種類のファイルを読み込むことができます。

XMLタグ辞書ファイル (*.F9I)

調表出力ライブラリ 名称定義ファイル (*.BTDN)

調表出力ライブラリ データ定義ファイル (*.BTDT)

■マッピング辞書ファイル操作

マッピング辞書ファイルを読み込む

[辞書ツリーの操作](#)

[辞書項目のプロパティ](#)

マッピング辞書ファイル読み込み(マッピング)

[XMLマッピング](#)で使用する[マッピング辞書ファイル](#)を、[辞書フレーム](#)に読み込むと、辞書ツリーが表示されます。

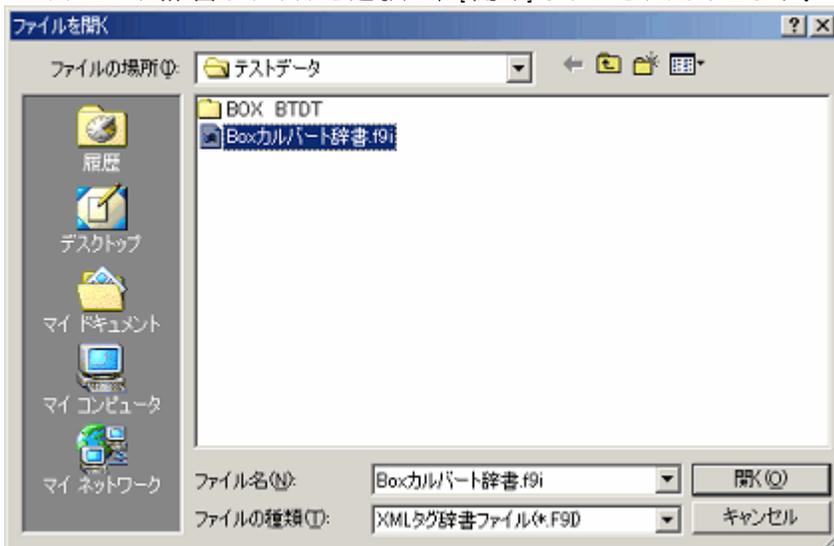
メイン画面に辞書フレームが表示されていない場合は、[辞書フレーム表示](#)をご覧ください。

■操作

辞書フレームの  アイコンをクリックします。



マッピング辞書ファイルを選択し、[開く]ボタンをクリックします。



辞書ツリーが表示されます。



■ 関連トピック

[辞書項目のプロパティ](#)

[辞書ツリーの操作](#)

辞書項目のデータ型

[辞書ツリー](#)において、辞書項目のデータ型を確認することができます。

■ データ型

データ型は、辞書ツリーの項目名の先頭に表示されるアルファベットで判別できます。

B バイナリ型 (Stream)

T 文字列型 (String)

F 実数型 (Double)

N 整数型 (Integer)

は、項目のグループを表しています。

■ データ型とXMLマッピングのBOXタイプ

・データ型によって、[XMLマッピング](#)で項目を配置するBOXのタイプが異なります。

バイナリ型の場合 : マッピング画像BOX

その他の型 : テキストBOX

・バイナリ型の項目をテキストBOXに配置することはできません。

・同様に、文字列型 / 実数型 / 整数型などの項目をマッピング画像BOXに配置することはできません。

■ 関連トピック

[辞書ツリーの操作](#)

[辞書項目のプロパティ](#)

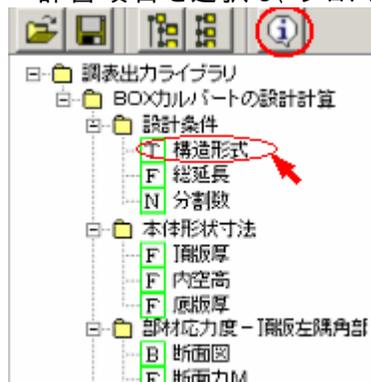
[XMLマッピング](#)

辞書項目のプロパティ

[辞書ツリー](#)において、辞書項目のプロパティを確認することができます。

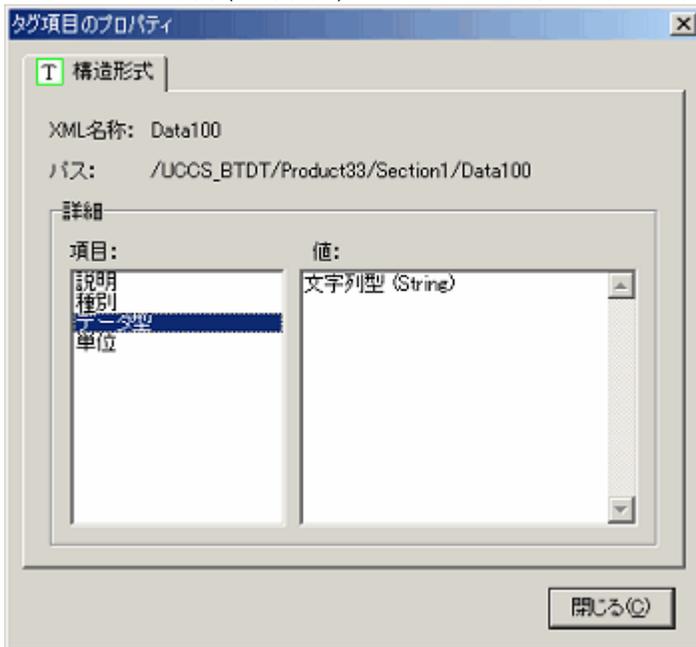
■ 操作

辞書項目を選択し、プロパティアイコン(下図赤丸)をクリックします。



プロパティダイアログが表示されます。

プロパティ項目 (項目欄) をクリックすると、右側に項目の内容 (値) が表示されます。



■ 詳細項目説明

XML 名称 選択した項目の XML 名 (= マッピングデータ内の XML タグ名) が表示されます。

パス 上記 XML 名称へのフルパス (= マッピングデータ内の XML パス) が表示されます。

項目 辞書項目のプロパティ項目の一覧です。

説明 ・選択した辞書項目の内容説明です。

種別 ・辞書項目を選択している場合は「値」または「属性」と表示されます。
・辞書項目の上位にあたるグループ項目を選択している場合は「グループ」と表示されます。

※「属性」とは XML タグの属性として、「値」とは要素として設定されているものです。

データ型 選択した辞書項目の、実データ (マッピングデータにおけるデータ型) です。

N 整数型 (Integer)

F 実数型 (Double)

T 文字列型 (String)

L 論理型 (Boolean)

E 列挙型 (Enum)

S 集合型 (Set Of Enum)

B バイナリ型 (Stream)

尚、N F T L には右側に数字が入るものがあります。

これらは配列データであることを示します。

例) F1 実数型 1 次元配列

N2 整数型 2 次元配列

データ型を囲む線は、種別が「値」のものは緑色、「属性」のものは紫色で表示されます。

単位 ・本プロダクトでは使用していません。

値 項目で選択したプロパティの値が表示されます。

■関連トピック

[辞書ツリーの操作](#)

[辞書項目のデータ型](#)

[XMLタグ辞書ファイルの作成](#)

辞書項目を配置(マッピング)

[辞書ツリー](#)の項目をプレビューのBOXに配置することで、[XMLマッピング](#)を可能にします。

配置先のBOXは、テキストBOXまたはマッピング画像BOX を使用します。

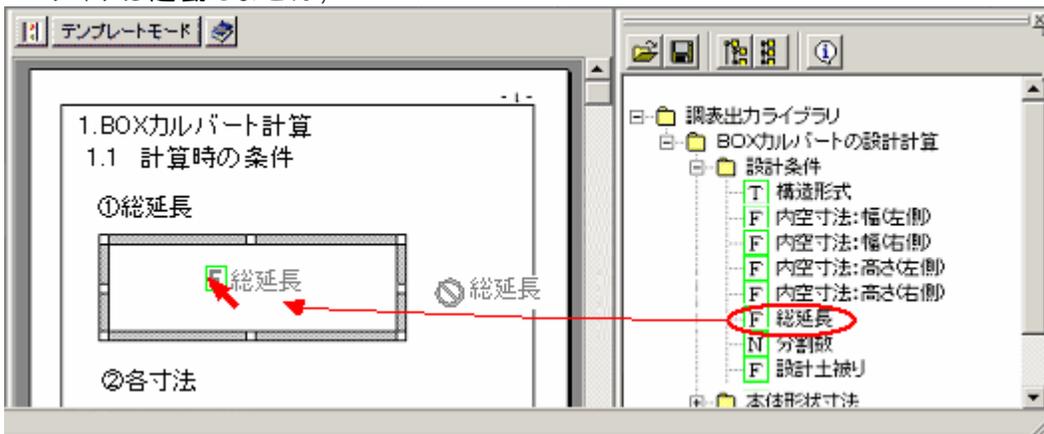
■操作

マッピングする辞書項目のデータ型に合ったBOXを追加します。(辞書項目のデータ型を参照)

辞書ツリーから対象の辞書項目をドラッグし、BOX内にドロップします。

マウスカursorの形が矢印にならない場所にはドロップできません。

表のセルに配置する場合、表を選択した状態で配置したいセルの位置にドロップします。(表エディタは起動しません)



[データマッピング情報ダイアログ](#)が表示されます。必要に応じて、情報を設定します。

[確定]をクリックすると、辞書項目の配置が完了します。

[マッピングデータを読み込む](#)と、BOX内に値 (または画像) が表示されます。

■関連トピック

[辞書項目を追加配置](#)

[辞書ツリーの操作](#)

[データマッピング情報修正](#)

[マッピングデータのプロパティ\(グループID修正\)](#)

[表BOXに対する一括マッピング](#)

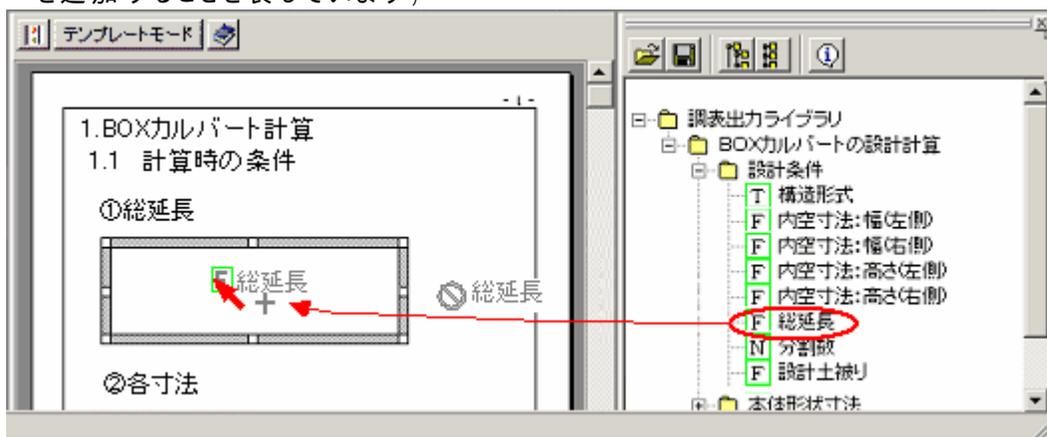
辞書項目を追加配置(マッピング)

既に辞書項目を配置済みのテキストBOXに、別の辞書項目を追加配置することができます。

マッピング画像BOXは追加配置できません。

■操作

辞書ツリーから追加する辞書項目をドラッグし、Ctrlキーを押しながらBOX内にドロップします。ドロップする際、Ctrlキーを押すと、マウскарソル横の項目名に+マークが表示されます。(項目を追加することを表しています)



[データマッピング情報ダイアログ](#)が表示されます。必要に応じて、情報を設定します。

[確定]をクリックすると、辞書項目の追加配置が完了します。

■関連トピック

[辞書項目を配置\(マッピング\)](#)

[辞書ツリーの操作](#)

[データマッピング情報を修正](#)

[マッピングデータのプロパティ\(グループID修正\)](#)

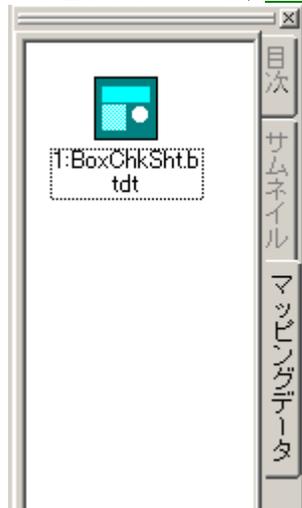
マッピングデータ

■ マッピングデータとは

[XMLマッピング](#)で使用するデータファイルです。

当社製品が出力するマッピングデータには、計算条件・計算結果などの実データが書き込まれています。

マッピングデータは、[アウトラインフレーム](#)の『[マッピングデータ](#)』タブに読み込みます。



■ マッピングデータの種類

- ・調表出力ライブラリ データ定義ファイル(拡張子:*.BTDT)
- ・UC-1データファイルXML形式(拡張子:*.F7?, *.F8?, *.F9?)

■ マッピングデータ操作

[マッピングデータ読み込み・追加](#)

[マッピングデータ削除](#)

[マッピングデータのグループIDを変更する](#)

[マッピングデータの表示名を変更する](#)

■ 関連トピック

[XMLマッピング概要](#)

[マッピング辞書ファイルとは](#)

[テンプレートとは](#)

マッピングデータ追加

[XMLマッピング](#)で使用するマッピングデータは、次の形式のファイルを読み込むことができます。

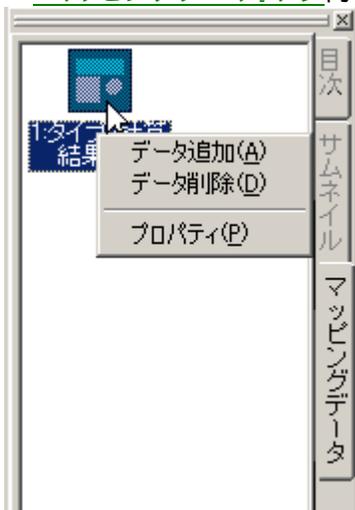
調表出力ライブラリ データ定義ファイル(拡張子:*.BTDT)

UC-1データファイルXML形式(拡張子:*.F7?, *.F8?, *.F9?)

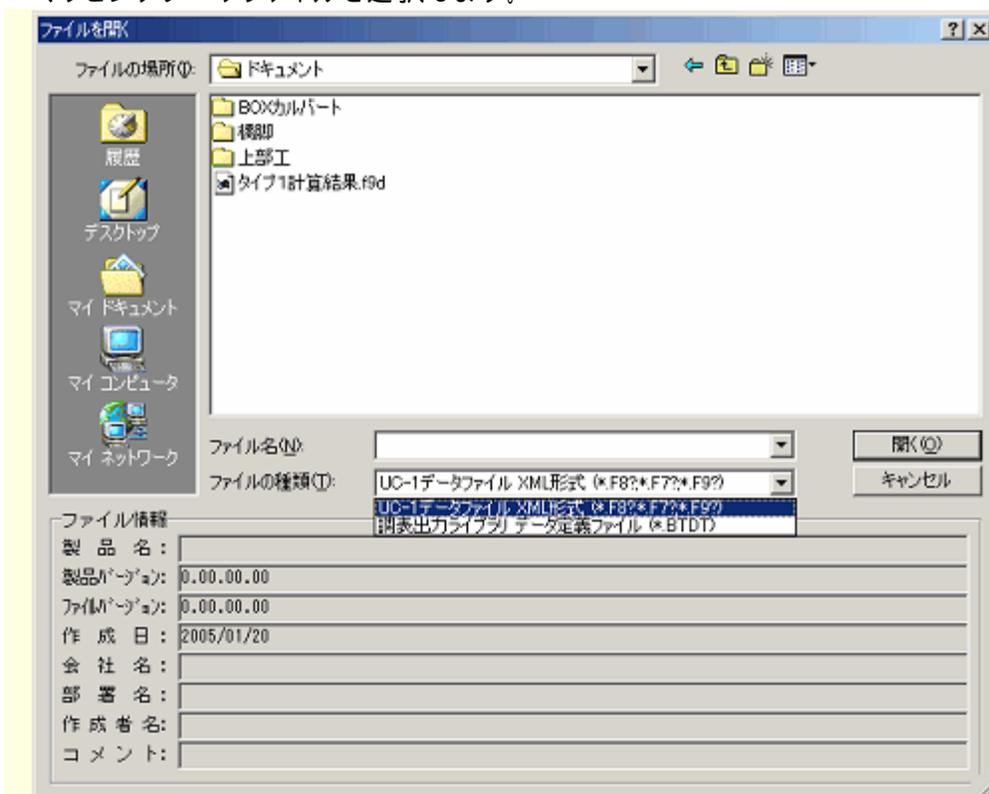
- ・読み込みは[アウトラインフレーム](#)の『[マッピングデータ](#)』タブで行います。
- ・複数のマッピングデータを読み込むことが可能です。
- ・読み込んだマッピングデータには、グループIDが割り当てられます。グループIDは、[ドキュメントに配置された可変項目](#)とマッピングデータを結び付けるキーになります。
- ・グループIDの確認および変更は、[マッピングデータのプロパティ](#)を使用します。

■ 操作

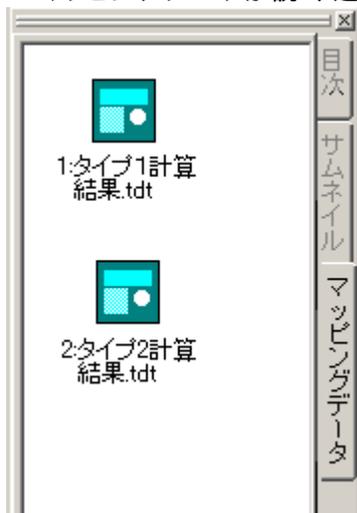
『[マッピングデータ](#)』タブ内で右クリックし、ポップアップメニューの[データ追加]を選択します。



マッピングデータファイルを選択します。



マッピングデータが読み込まれます



上記の操作以外に、エクスプローラー等からマッピングデータファイルをドラッグし、データ画面へドロップして読み込むことも可能です。

■関連トピック

[マッピングデータ削除](#)

[マッピングデータのプロパティ](#)

[マッピングデータの抽出](#)

マッピングデータ削除

『[マッピングデータ](#)』タブに読み込まれているマッピングデータを削除します。

■操作

『マッピングデータ』タブ内で、削除するマッピングデータのアイコンを右クリックし、ポップアップメニューで[データ削除]を選択します。



■ 関連トピック

[マッピングデータ追加](#)

[マッピングデータのプロパティ](#)

[マッピングデータの抽出](#)

マッピングデータのプロパティ

『[マッピングデータ](#)』タブに読み込まれたマッピングデータには、グループIDおよびデータ名称が設定されます。

これらの設定は、プロパティダイアログを使用し、任意の値に変更することができます。

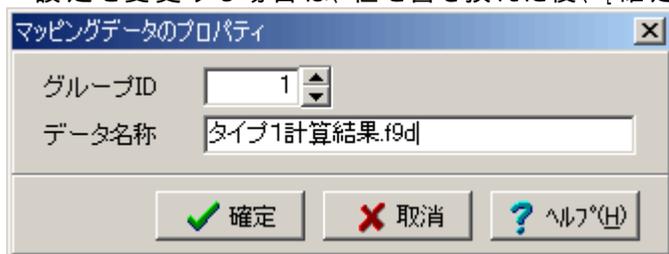
■ 操作

『マッピングデータ』タブで、プロパティを変更するデータアイコンを右クリックし、ポップアップメニューの[プロパティ]を選択します。



プロパティダイアログが表示されます。

設定を変更する場合は、値を書き換えた後、[確定]ボタンをクリックします。



■ 詳細項目説明

グループ ID マッピングデータの読み込み時に割り当てられた番号です。

重複しなければ任意の番号に変更することができます。
XMLマッピングにおける [辞書項目の配置](#) で指定するグループIDは、この値を指します。

データ名称 データ画面に表示するデータ名です。
デフォルトでは、マッピングデータのファイル名がセットされ、任意の名称に変更することができます。

■関連トピック

[マッピングデータ追加](#)

[マッピングデータ削除](#)

[マッピングデータの抽出](#)

マッピングデータの抽出

[XMLマッピング](#)機能を用いて作成された統合文書ファイル(拡張子*.F9D)の中には、マッピングの対象となったデータが、ほぼオリジナルの状態で作成されています。

このデータのみを、データファイルとして抽出することができます。



■注意

『調表出力ライブラリ データ定義ファイル(拡張子:*.BTDT)』は当機能によって抽出することはできません。

■操作

ドラッグ&ドロップで抽出する

『マッピングデータ』画面を表示し、抽出するファイルを選択(複数可)します。
エクスプローラなどで表示しているフォルダにドラッグ&ドロップします。
フォルダ内にデータファイルが作成されます。

ポップアップメニューを使用して抽出する

『マッピングデータ』画面を表示し、抽出するファイルを1つ選択します。
右クリックし、ポップアップメニューの[データ保存]を選択します。

保存先指定ダイアログで、保存先フォルダ及びファイル名を指定します。

■関連トピック

[マッピングデータとは](#)

マッピングデータグループIDの変更

この設定では、選択中のセルが[マッピングされたデータ](#)がある場合、そのグループIDを変更することができます。



■関連トピック

[XMLマッピング概要](#)

[マッピングデータのプロパティ](#)

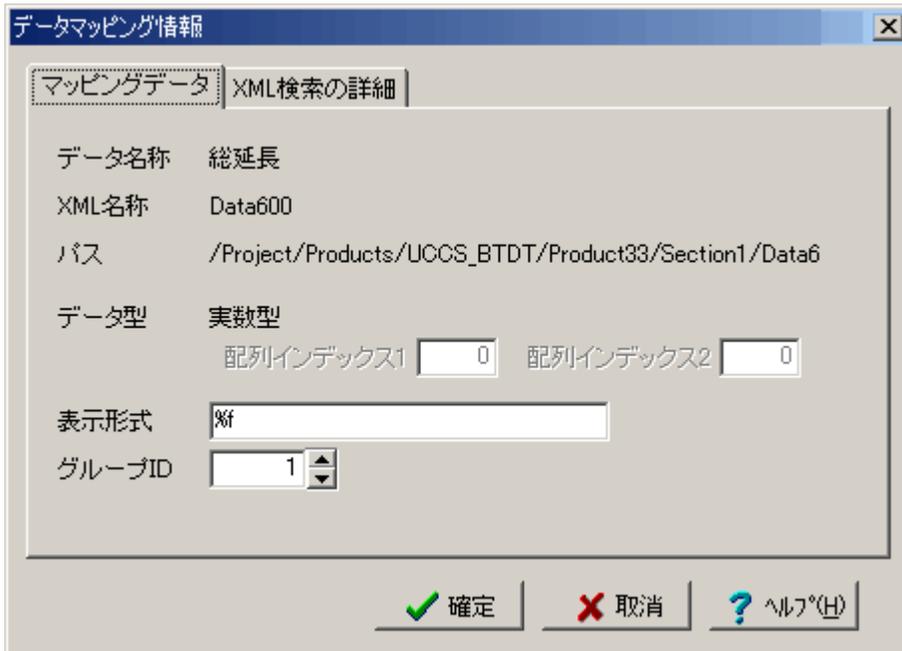
[表BOXに対する一括マッピング](#)

データマッピング情報

[データマッピング情報]ダイアログは、BOXに対してXMLマッピングの設定を行うダイアログです。

[辞書項目の配置](#)あるいは[データマッピング情報の修正](#)時に表示されます。

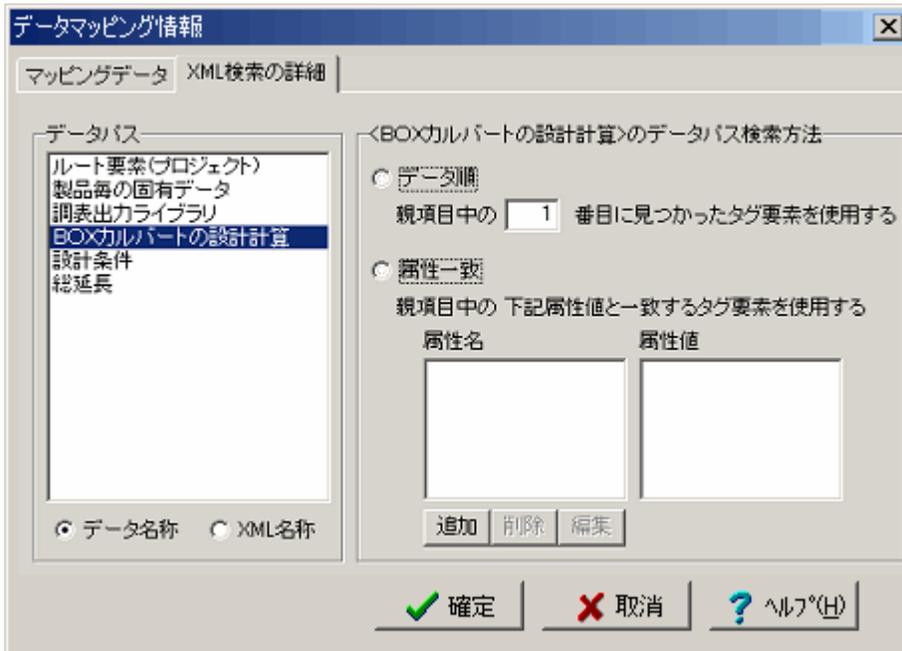
■『マッピングデータ』タブ



詳細項目説明

- データ名称** マッピングする項目の日本語名 (= 辞書ファイル内での項目名)が表示されます。
- XML 名称** マッピングする項目の正式名 (= マッピングデータ内の XML タグ名)が表示されます。
- パス** 上記 XML 名称へのフルパス (= マッピングデータ内の XML パス)が表示されます。
- データ型** マッピングする項目のデータ型が表示されます。
- 配列インデックス1** データ型が配列の場合、参照要素の 1 次インデックスを指定します。
- 配列インデックス2** データ型が配列の場合、参照要素の 2 次インデックスを指定します。
- 表示形式** プレビューに表示する際の形式を指定します。
- ・項目の値を表す記号と、その前後に表示するテキストを組み合わせる形式を指定します。
 - ・項目の値を表す記号は、データ型によって異なります。
- | | | | | |
|------|----|-------|----|---------------|
| 文字列型 | %s | 整数型 | %d | |
| 実数型 | %f | バイナリ型 | | 表示形式の設定はできません |
- <例>
- | | |
|-------------|-----------|
| 表示形式の設定 | 『約%fkkg』 |
| プレビューの実際の表示 | 『約 5.8kg』 |
- グループ ID** 使用するマッピングデータ (『マッピングデータ』タブ内)のグループIDを指定します。
([マッピングデータのグループIDを修正・確認するには...](#))

■『XML検索の詳細』タブ



詳細項目説明

データベース

『マッピングデータ』のパスを階層ごとに表示しています。

ここで選択した項目の検索方法を、ダイアログの右側で指定します。

データ名称

上記データベース欄を、日本語名称で表示します。

XML 名称

上記データベース欄を、XML 名称で表示します。

データベース検索方法

データベース欄で選択している項目を、マッピングデータ内で検索する際の検索方法を指定します。

データ順

同名の項目のうち、ここで指定した出現順位の項目を検索し、使用する。(通常は1)

属性一致

同名の項目のうち、次の欄で指定する属性名と値を持つ項目を検索し、使用する。

・属性名と属性値はペアで指定します。

・条件の追加は、[追加]をクリックし、属性名と値を指定します。

・条件の削除は、不要な属性名(または属性値)を選択し、[削除]ボタンをクリックします。

・条件の修正は、対象の属性名(または属性値)を選択し、[編集]ボタンをクリックします。ダイアログが表示されるので、内容を修正します。

■関連トピック

[辞書項目のプロパティ](#)

[マッピングデータのプロパティ](#)

データマッピング情報を修正する

[辞書項目を配置](#)したBOX (以下マッピングBOXと表記) を選択し、マッピングの設定を修正します。

1つのBOXに複数の辞書項目を配置している場合は、ダイアログの「データ名称一覧」で項目名を切り替えます。

■ 操作

プレビュー上のマッピングBOX

プレビュー上で、マッピング情報を確認・修正したいBOXを選択し、本機能を利用することができます。(操作方法は「[BOXのマッピング情報](#)」を参照)

BOXのデータマッピング情報ダイアログが表示されますので、設定を確認・修正します。(設定項目の詳細は[データマッピング情報ダイアログ](#)を参照)

表のセル内のマッピングBOX

表BOXを選択状態にします。

表エディタは起動せず、対象のマッピングBOX上で右クリックし、プルダウンメニューの[マッピング情報]を選択します。

ダイアログが表示されますので、設定を修正します。

(設定項目の詳細は[データマッピング情報ダイアログ](#)を参照)

■ 関連トピック

[XMLマッピングとは](#)

表BOXに対する一括マッピング

XMLタグ辞書から下層項目を持つ項目をドラッグし、表BOXに対してドロップすると、下層項目の一括マッピングが可能です。

注)既に入力済みの表BOXに対して下層項目の一括マッピングを行うと、既存情報を全てクリアし、マッピングされた内容で新しく表が形成されます。

■一括マッピング操作中

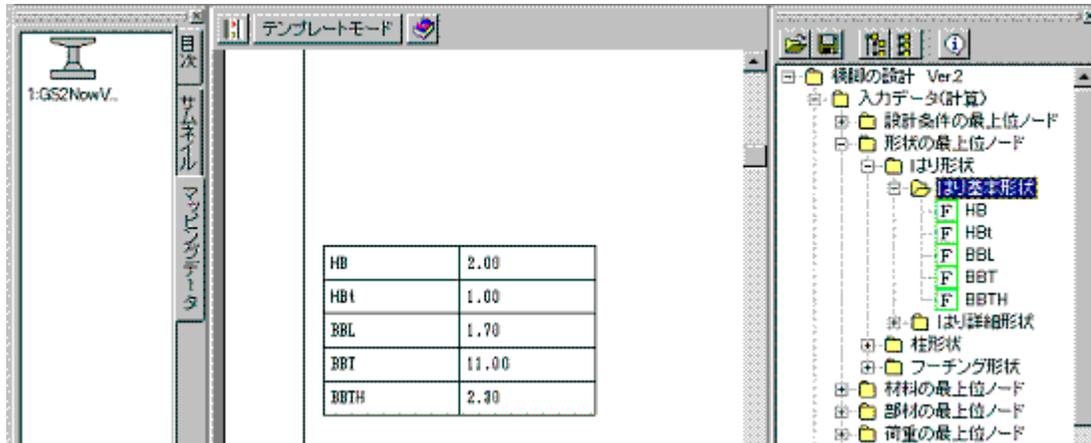


一括マッピングが完了すると（マウสดラッグ終了時）、「下層データの一括マッピング」ダイアログが表示され設定を確定します。

設定方法は、[下層データの一括マッピングダイアログ](#)をご覧ください。

下層データの一括マッピング設定はマッピング動作時だけに使用する画面です。同設定の確定後の修正は行えません。

■一括マッピング操作完了



一度確定してデータをマッピングした表BOXの作成が完了した後は、表BOXエディタにて編集を行ってください。

■自動でセルが繰り返される表BOX

マッピングする項目がデータ側に複数存在していた場合、表BOXは自動でマッピングデータをシフトしながらセルを繰り返し表示します。

現在は表BOXのセルの繰り返し方向が縦方向にしか対応していない為、下層データの一括マッピング設定画面で[マッピングの展開方向]を”列方向”とした場合のみ有効となります。

項目がデータ側に複数存在するパターンとしては、Array型のデータ項目だった場合、クラス単位で複数個データが用意されている場合が考えられます。

その際プレビュー上では、通常モード（テンプレートモードOFF状態）での表示では繰り返しが適応された表示、テンプレートモードでは基本部分のみ（繰り返しが行われていない状態）の表示となります。

【通常モード】

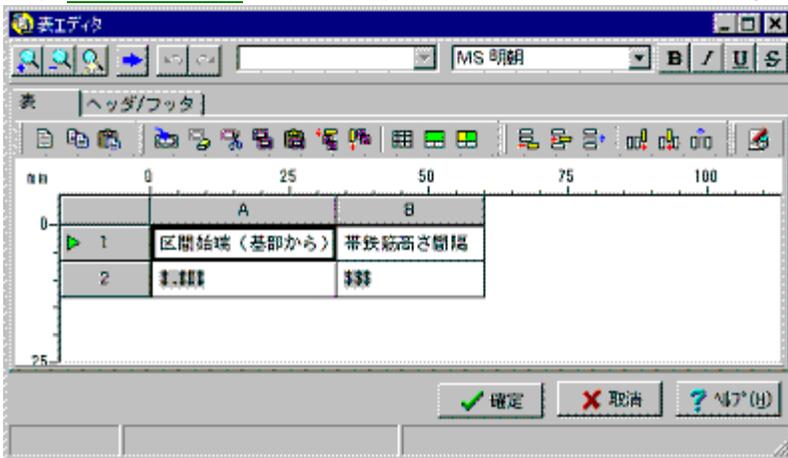
区間始端 (基部から)	帯鉄筋高さ間隔
0.00	150
1.50	300
2.02	300
4.70	150

【テンプレートモード】

区間始端 (基部から)	帯鉄筋高さ間隔
0.00	300

モード（通常/テンプレート）によって表BOXの高さが変わりページレイアウトが異なってきます。

尚、表BOXの編集では基本部分のみが対象となります。



テンプレートモードでの編集画面となっています。

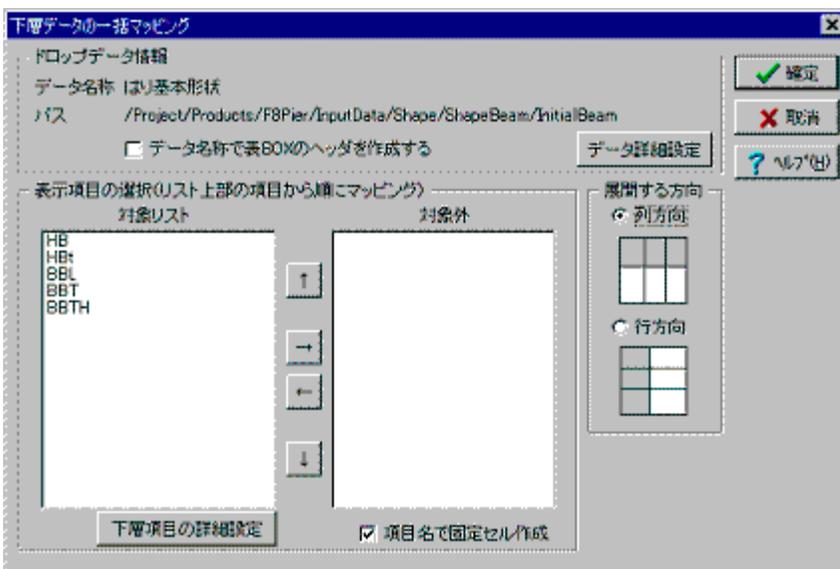
繰り返しが適応されている表BOXは、表BOXエディタで「タイトル行とする」の設定が行われていない行全てを繰り返しの対象とします。

通常の単体マッピングでもArray型項目を表に対してマッピングすると、複数データ存在時には繰り返しが適応されます。

繰り返しが適応されている表BOXに対して全く別のデータをマッピングすると繰り返しの適応は解除されます。

下層データの一括マッピングダイアログ

一括マッピングが完了すると、以下のダイアログが表示されます。



■ドロップデータ情報

XMLタグ辞書からドラッグしてきた項目に関する情報（データ名称・パス）が表示されます。

この項目の下層項目を表BOXに対して一括マッピングします。

《データ名称で表BOXのヘッダを作成する》

チェックを付けると、ドラッグしてきた項目のデータ名称で、表BOXのヘッダを作成します。

は基本形状 ←ヘッダ

HD	HDL	DDL	DDT	DDTH
...

《データ詳細設定》

ドラッグしてきた項目に関する詳細設定が開きます。

ここで設定したグループIDは下層項目の詳細設定にも反映されます。(逆に下層項目の詳細設定からはグループIDの変更ができません)

■表示項目の選択

ドラッグしてきた項目の下層項目の一覧が対象リストに表示されます。

但し、下一層のみが対象となりますので、それより深い階層は無視されます。

マッピングの対象から外したい項目は、対象外リストへ移動してください。

対象リスト上部の項目から順にマッピングされるので、マッピング位置を考慮しながら対象リストの項目順を調整してください。

《アイコンボタンの説明》

対象リストの選択項目を1つ上に移動します。(項目の複数選択時は無効)

対象リストの選択項目を対象外リストへ移動します。

対象外リストの選択項目を対象リストへ移動します。

対象リストの選択項目を1つ下に移動します。(項目の複数選択時は無効)

《項目名で固定セル作成》

チェックを付けると、対象リストにある項目名をセットしたセルも同時に作成します。

[展開する方向]が列方向の場合は1行目にそれらのセルが入ります。行方向の場合は1列目にそれらのセルが入ります。

【項目名で固定セルを作成した場合】

HD	HDL	DDL	DDT	DDTH
...

【項目名で固定セルを作成しない場合】

...
-----	-----	-----	-----	-----

《下層項目の詳細設定》

対象リストにある項目の詳細設定が開きます。

グループIDは[ドロップデータ情報]のデータ詳細設定で上位の項目が設定している値と同じものを使いますので、ここでは変更できません。

またXML検索の詳細設定では上位パスの設定を変更する事はできません。

設定の方法は、"データマッピング情報"をご覧ください。

■展開する方向

下層データを表BOXの列・行のどちらに展開するのかを設定します。

列方向に展開する場合、マッピングする項目がデータ側に複数存在していると表BOXは自動でマッピングデータをシフトしながらセルを繰り返し表示する仕様となります。

【列方向で展開した場合】

HD	HDL	BBL	BBT	BBTH
0.0000	0.0000	0.0000	0.0000	0.0000

【行方向で展開した場合】

HD	0.0000
HDL	0.0000
BBL	0.0000
BBT	0.0000
BBTH	0.0000

テンプレート

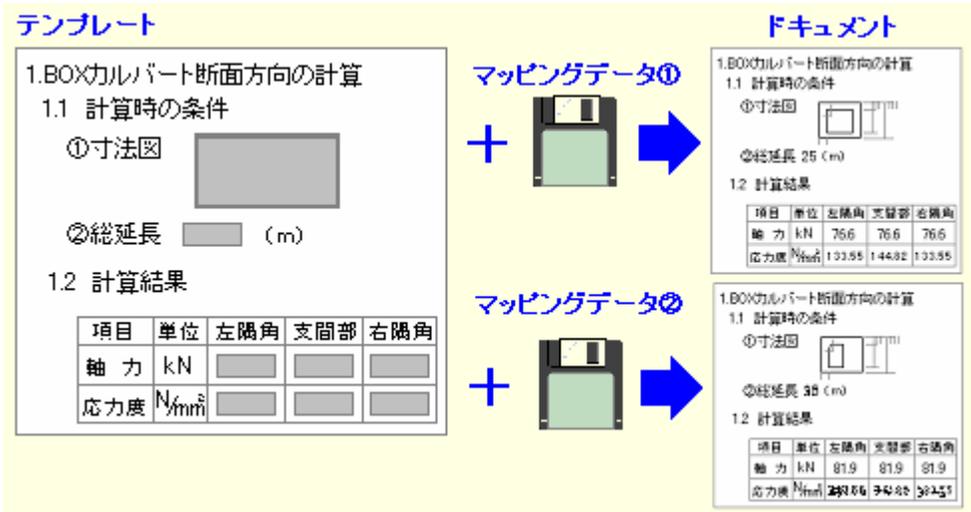
テンプレート

本プロダクトを当社製品の出力機能として使用する場合、出力データを規定の形式のドキュメントとして得ることができます。得られたドキュメントに修正を加えることも可能です。

本プロダクトでは、上記以外に『ユーザ独自のドキュメントの中に、出力データの値を埋め込む』という方法でドキュメントを作成することができます。

テンプレートとは、このような『出力データを埋め込むBOX(下図網かけ部)を内包した、ドキュメントの雛形』のことです。

- ・出力データを埋め込むBOXに、埋め込む項目名を定義するには、出力データに対応したマッピング辞書ファイルが必要になります。([マッピング辞書ファイルとは...](#))
- ・実際に出力データ(= [マッピングデータ](#))の値を埋め込むのは、XMLマッピング機能によります。([XMLマッピング](#))



マッピングデータを入れ替えるだけで、異なる値を埋め込むことができます。
 テンプレートの活用により、ユーザ独自の定型ドキュメントを効率良く作成することができます。

■テンプレートの構成

可変項目 計算条件や結果の値など、マッピングデータの値を埋め込むBOXの総称です。(上図テンプレート内の、網掛けBOX)

マッピングデータを入れ替えることにより、BOX内の値が変わります。

マッピングデータを読み込んでいない場合、BOX内は空白です。

テキストBOXまたはマッピング画像BOXに [辞書項目の配置](#)を行うことにより、可変項目になります。

固定情報 可変項目を除いた、ドキュメント構成要素の総称。

常に同じ内容を表示する部分(上図テンプレート内のテキスト、見出し、表の枠など)や、用紙設定(サイズ、向き)など。操作は通常のドキュメントと同様です。([章の作成](#) , [BOXの追加](#) , [装飾部品の作成](#) など)

■関連トピック

[テンプレートを作成する](#)

[テンプレートを利用する](#)

[テンプレートファイルを開く](#)

[テンプレートとして保存する](#)

[マッピングデータを読み込む](#)

[マッピング辞書ファイルを読み込む](#)

[可変項目を作成する\(辞書項目を配置\)](#)

テンプレートを作成する

[テンプレート](#)は、既存の統合文書ファイルを加工する、または新規作成することができます。

■作成方法

新規作成または既存のドキュメントを開きます。

[マッピング辞書ファイルを読み込みます](#) (下図右フレーム)

[マッピングデータの読み込み](#) (下図左フレーム) は、この時点では必須ではありませんが、読み込んでおくと での可変項目作成がわかりやすくなります。

ドキュメントを作成します。

- ・定型の部分 (見出し、定型の本文、表など) は、通常のドキュメントと同様の方法で作成します。
- ・データをマッピングする部分は、[マッピング用のBOX](#)を作成し、[辞書項目を配置](#)します。
- ・マッピングデータが読み込まれていると、可変項目の作成時にマッピングが実施され、実際の値が表示されます。
(読み込んでいなければ、BOX内は空白です)

作成したドキュメントを[テンプレートとして保存](#)します

- ・マッピングデータおよび辞書ファイルは一時的に読み込んだだけであり、テンプレートの一部として保存されることはありません。テンプレートの修正などで再び必要になった場合は、個別に読み込みます。
- ・可変項目のBOXは空白の状態で作成されます。

■関連トピック

[テンプレートとは](#)

[テンプレートを利用する](#)

[XMLマッピングとは](#)

テンプレートを利用する

あらかじめ作成したテンプレートと、マッピングデータを組み合わせて、定型ドキュメントを効率よく作成することができます。([テンプレートとは](#))

■操作方法

[テンプレートファイルを開きます](#)

任意の[マッピングデータを読み込み](#)ます。

テンプレート作成時の「マッピング辞書ファイル」と対応したマッピングデータでなければ、正しくマッピングされません。

テンプレート内の可変項目に値や画像が表示され、ドキュメントとして完成した状態になります。

[統合文書ファイルとして保存する](#)あるいは、[印刷](#)や[他形式ファイルへの出力](#)等を行ってください。

■関連トピック

[テンプレートを作成する](#)

[テンプレートとして保存する](#)

[XMLマッピングとは](#)

[マッピングデータを読み込む](#)

[マッピング辞書ファイルを読み込む](#)

テンプレートを開く

テンプレートファイル(拡張子*.F9T)を開くには、[\[ファイルを開く\]](#)を使用し、**ファイルの種類**で「テンプレートファイル(*.F9T)」を選択します。

テンプレートを保存

テンプレートとして保存するには、[名前をつけて保存](#)を使用し、保存ダイアログの「ファイルの種類」で「テンプレートファイル(*.F9T)」を選択します。

既存のテンプレートファイルを上書きする場合は、[上書き保存](#)を使用します。

■注意

- ・XML マッピングで使用したマッピングデータ・マッピング辞書ファイルは、作業時に一時的に読み込んだだけであり、テンプレートの一部として保存されることはありません。テンプレートの修正などで必要になった場合は、再び手動で読み込みます。
- ・可変項目の BOX は空白の状態です。

■関連トピック

[XMLマッピング概要](#)

[テンプレートとは](#)

[テンプレートを作成する](#)

表示操作

プレビューの移動・スクロール

プレビューは、ページ単位で移動または任意にスクロールすることができます。

■ページ単位で移動する

ページ数を指定して移動

[ツールバーの表示頁ボックス](#)に、移動先のページ数を入力(または上下ボタンをクリック)すると、プレビューが指定ページへ移動します。

目次ツリーまたはページサムネイルによる移動

[目次ツリーの見出しをクリック](#)すると、プレビューは当該見出しページに移動します。

またページサムネイルでも同様に、[サムネイルをクリックするとプレビューが移動](#)します。

メニュー、アイコン、キーボードによる移動

移動先	メニューを使う	アイコンを使う	キーボードを使う
次のページへ	[表示] [次ページ]		[PageDown]
前のページへ	[表示] [前ページ]		[PageUp]
最終ページへ	[表示] [最終ページ]		
先頭ページへ	[表示] [先頭ページ]		

お使いのキーボードによっては、利用できない場合があります。

■任意にスクロールする

マウスに合わせて移動する

マウスが動いた分だけプレビューの表示を動かすことができます。少しでも表示をずらしたい場合に便利です。

[表示移動モード](#)をご覧ください。

スクロールバーで移動する

プレビューの右横にあるスクロールバーのツマミを上下すると、ツマミの移動にあわせてプレビューも移動します。

プレビューの表示拡大・縮小

プレビューの表示を拡大縮小する方法は5種類あります。

■画面をクリックして拡大する

[表示拡大モード](#)をご覧ください。

■表示倍率を指定する(縮小も可)

ツールバーの表示倍率設定  を使用します。

【使い方】

- ・直接数値を入力すると 20%～1000% の間で、任意の表示倍率にすることができます。
- ・ ボタンをクリックすると、100% 125% 150% 200% 400% 600% 800% 1000% の順で拡大します。
- ・ ボタンをクリックすると、100% 75% 50% 25% 20% の順で縮小します。

■実際の大きさと同じにする

[実際の大きさ](#)をご覧ください。

■ ページ全体が画面に収まるように表示する

[全体を表示](#)をご覧ください。

■ ページの幅がちょうど画面に収まるように表示する

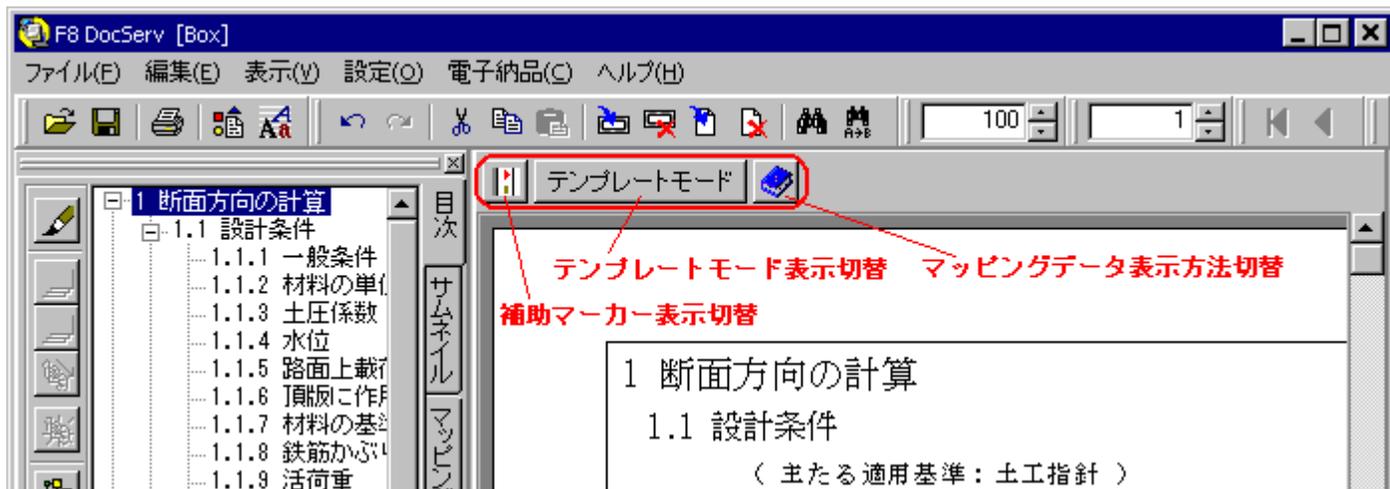
[幅に合わせる](#)をご覧ください。

プレビューの表示属性

プレビュー上部のボタンにて、プレビューの表示属性を変更することが可能です。

尚、これらのボタン類はBOXが選択されている場合、[BOXの書式変更用のツールバー](#)が表示されるため、表示されなくなります。

再び、プレビューの表示属性ボタン表示する場合は、BOXの選択状態を解除しておく必要があります。



■補助マーカー

配置されたBOXの表示属性を表すマークで、ページの左余白に表示されます。尚、補助マーカーは、印刷・ファイル出力の対象とはなりません。プレビューにのみ表示されるマーカーです。

<例>

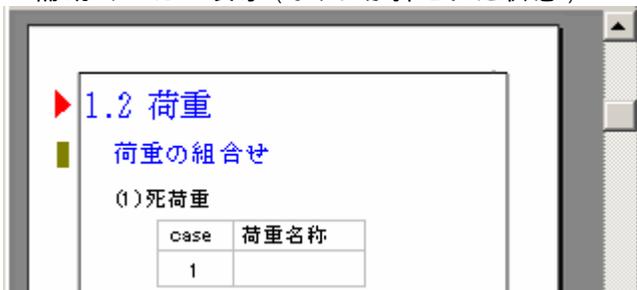
マーカー	内容
▶	このBOXは「常にページの先頭に配置する」という設定になっている。
▶	このBOXは「常にページの先頭に配置する」という設定になっているが現在、その設定は全て無効になっている。
■	このBOXは「本文のみに表示」と設定された見出しBOXである。

ページ先頭に配置を無効とするには、その他の設定の「トップページ属性を無視する」として下さい。

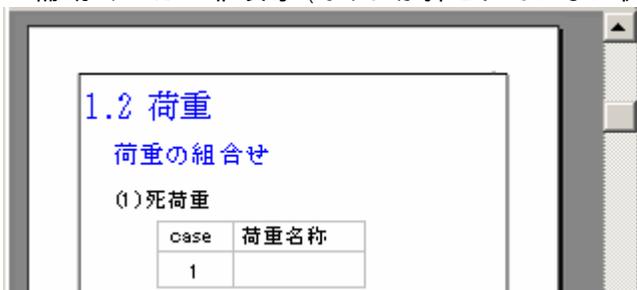
■補助マーカー表示切替

補助マーカーの表示を切り替えるメニューは、プレビューの上に表示されます。(プレビューでBOXが選択されている場合は、表示されません)

補助マーカー表示 (ボタンが押された状態)



補助マーカー非表示 (ボタンが押されていない状態)

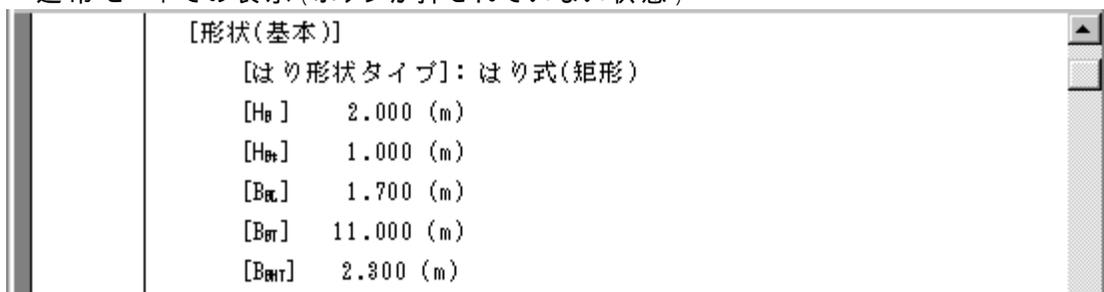


■テンプレートモード

表示中のドキュメントが、テンプレートとXMLマッピング機能にてマッピングデータを持っているBOXが表示されている場合、有効に機能します。

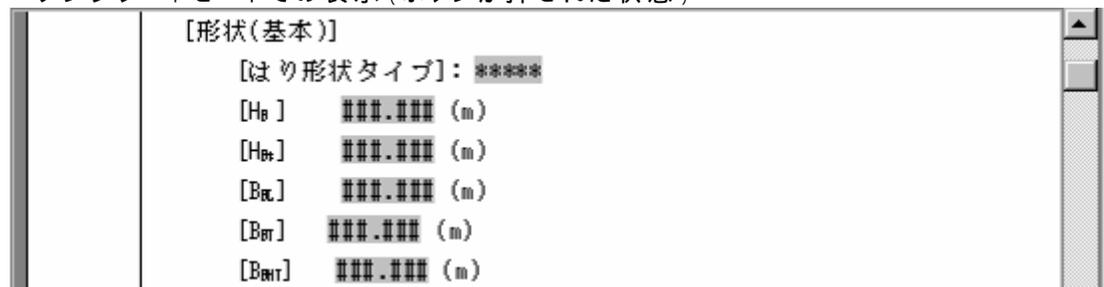
通常モードの場合、配置された辞書項目よりマッピングデータを取得し表示されます。テンプレートモードの場合、書式文字で表示されます。

通常モードでの表示 (ボタンが押されていない状態)



マッピングデータがない もしくは、マッピングデータ中に対象データがない場合は表示されません。

テンプレートモードでの表示 (ボタンが押された状態)



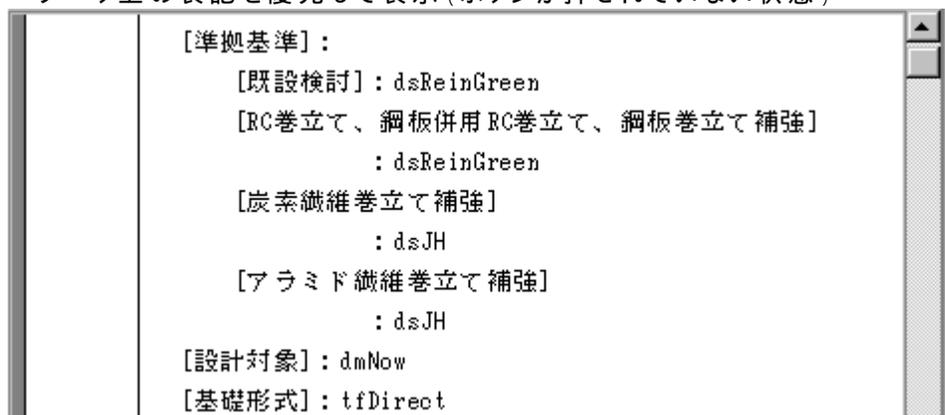
■マッピングデータ表示方法

ドキュメントが表示辞書を保持していた場合、有効に機能します。
表示辞書とは、マッピングデータから参照したデータを、ドキュメント上意味のある文字列に置き換えるための辞書です。

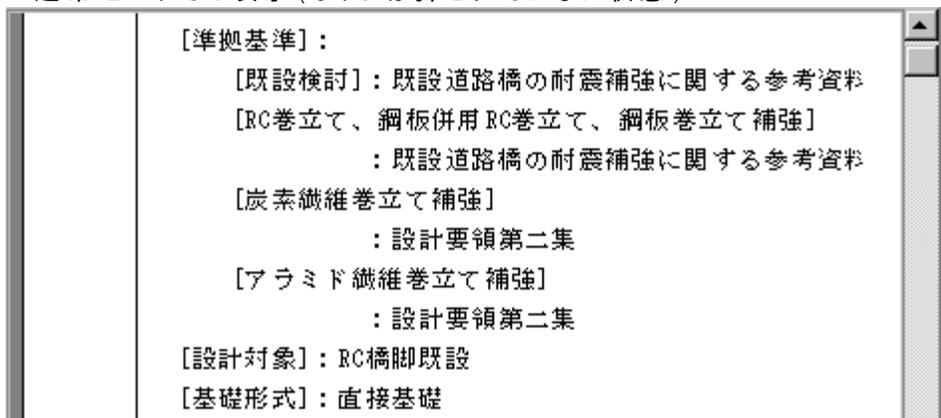
現在は表示辞書の提供はありません。(今後予定)

テンプレートモードで表示されている場合は、本機能は無効となります。

データ上の表記を優先して表示 (ボタンが押されていない状態)



通常モードでの表示 (ボタンが押されていない状態)



目次ツリーを表示する

目次ツリー画面には、編集中のドキュメントの見出しがツリー形式で表示されます。

詳細は、『[目次タブ](#)』をご覧ください。

■ 関連トピック

[目次ツリーの展開と縮小](#)

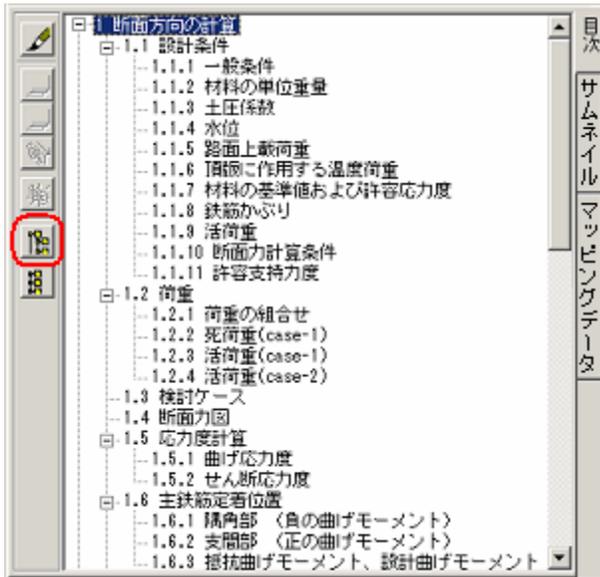
[目次ツリーの編集モード](#)

目次ツリーの展開と縮小

[目次ツリー](#)の操作は、アウトラインフレーム上で行います。

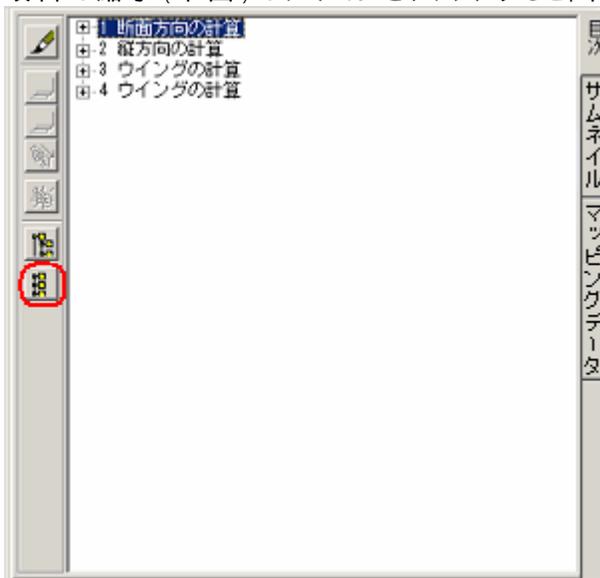
■ すべての階層を展開する

項目の展開 (下図) のアイコンをクリックすると、目次がすべて展開されます。



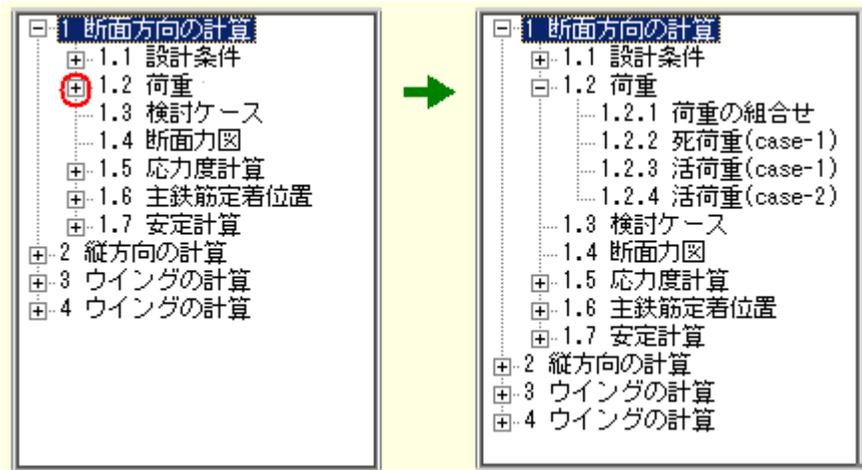
■すべての階層を縮小する

項目の縮小(下図)のアイコンをクリックすると、目次がすべて縮小されます。



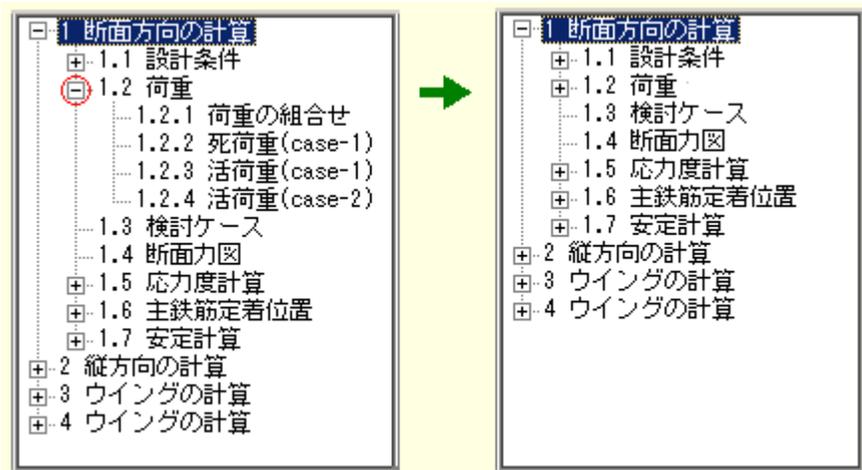
■任意の階層を展開する

見出しの先頭の+アイコンをクリックすると、その見出しの下位見出しが展開されます。



■任意の階層を省略する

見出しの先頭の - アイコンをクリックすると、その見出しの下位見出しが省略されます。



■関連トピック

[目次ツリーの編集モード](#)

全ページを一覧表示する

[サムネイル](#)画面は、現在開いているドキュメントの全てのページをサムネイル形式で一覧表示します。

■関連トピック

[サムネイルの拡大・縮小](#)

[アウトラインフレーム表示](#)

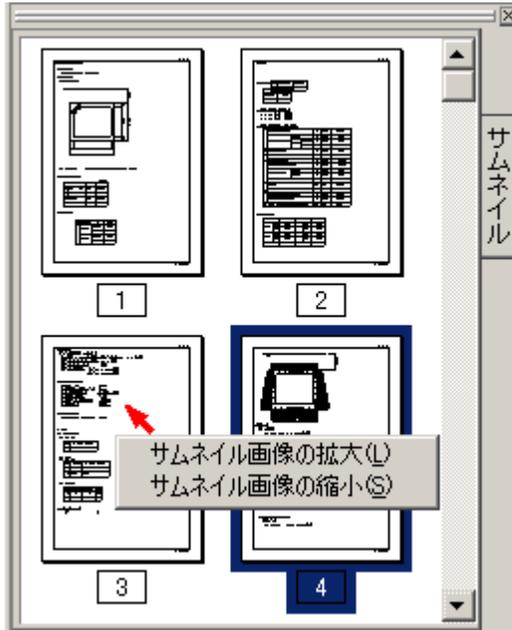
サムネイルの拡大・縮小

サムネイル画面に表示されるサムネイルの大きさは6段階あり、拡大・縮小することができます。

■操作

サムネイル上にカーソルを置き、右クリックすると拡大・縮小のポップアップメニューが表示されます。

これ以上拡大できない場合は、拡大メニューは選択できなくなります。(縮小も同様です)



サムネイルが拡大(または縮小)して表示されます。

■関連トピック

[サムネイル](#)

[アウトラインフレーム表示](#)

辞書ツリーを表示する

XML辞書フレームに[マッピング辞書ファイルを読み込む](#)ことにより、辞書ツリーが表示されます。

詳細は『[辞書フレーム](#)』をご覧ください。

■関連トピック

[辞書フレーム表示](#)

[辞書ツリーの操作](#)

辞書ツリーの操作

辞書フレームに表示された辞書ツリーの操作方法です。

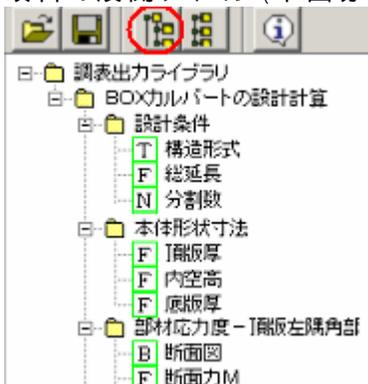
■すべての階層を縮小する

項目の縮小アイコン(下図赤丸)をクリックすると、ツリーがすべて縮小されます。



■すべての階層を展開する

項目の展開アイコン(下図赤丸)をクリックすると、ツリーがすべて展開されます。



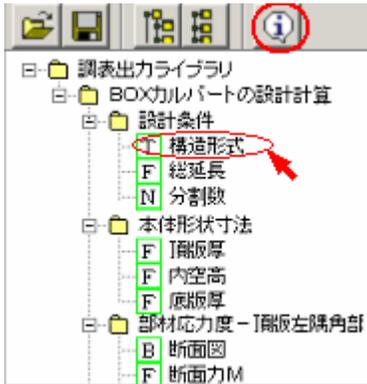
■任意のグループを展開・縮小する

グループ名の先頭の+アイコン(または-アイコン)をクリックすると、そのグループだけを展開(縮小)できます。



■辞書項目のプロパティを表示する

辞書項目を選択し、プロパティアイコン(下図赤丸)をクリックします。プロパティダイアログが表示されます。(辞書項目のプロパティ参照)



印刷

全て印刷する

現在プレビューに表示されているすべてのページを印刷するには、[印刷](#)で印刷範囲「すべて」を選択し、印刷します。

■注意

プレビューに表示していない章(節・項)は印刷されません。

同様に、表紙や目次もプレビューに表示していないと印刷されません。

■関連トピック

[出力する章\(節・項\)の選択](#)

[表紙](#)

[目次](#)

ページを指定して印刷する

現在プレビューに表示しているドキュメントにおいて、ページ範囲を指定して印刷することができます。

■注意

範囲を指定する際の「ページ数」は、[プレビュー画面の下に表示されている「ページ数」](#)を指します。印刷時に各ページに表示する[ページ番号](#)とは異なる場合があります。

■操作

メニューの[\[ファイル\]](#) [\[印刷\]](#)を選択し、印刷ダイアログの印刷範囲で「ページ指定」を選択する

印刷開始ページ・終了ページを指定する

印刷を実行する

指定の章(節、項)を印刷する

現在プレビューに表示しているドキュメントにおいて、任意の章(節、項)を指定して印刷することができます。

[出力する章\(節、項\)を選択し](#)、[印刷](#)を実行してください。

余白の境界線を印刷

ドキュメントの余白境界([ページの枠線](#))を表示することができます。

枠線の線種は、細実線・中実線・太実線 の3種類から選択できます。

これらの設定は、[ページの設定](#)で行います。

用紙設定

用紙サイズを変更する

プレビューの表示及びプリンタ印刷する際の用紙サイズを指定できます。

[用紙の設定](#)をご覧ください。

印刷時の用紙方向を設定

プレビューの表示及びプリンタ印刷する際の用紙の方向(縦、横)を指定します。

[用紙の設定](#)をご覧ください。

余白の設定

表紙・目次・本文のそれぞれに余白を設定することができます。

[ページの設定](#)をご覧ください。

F8DocServ Maintenance Tool (環境設定)

環境設定ツール

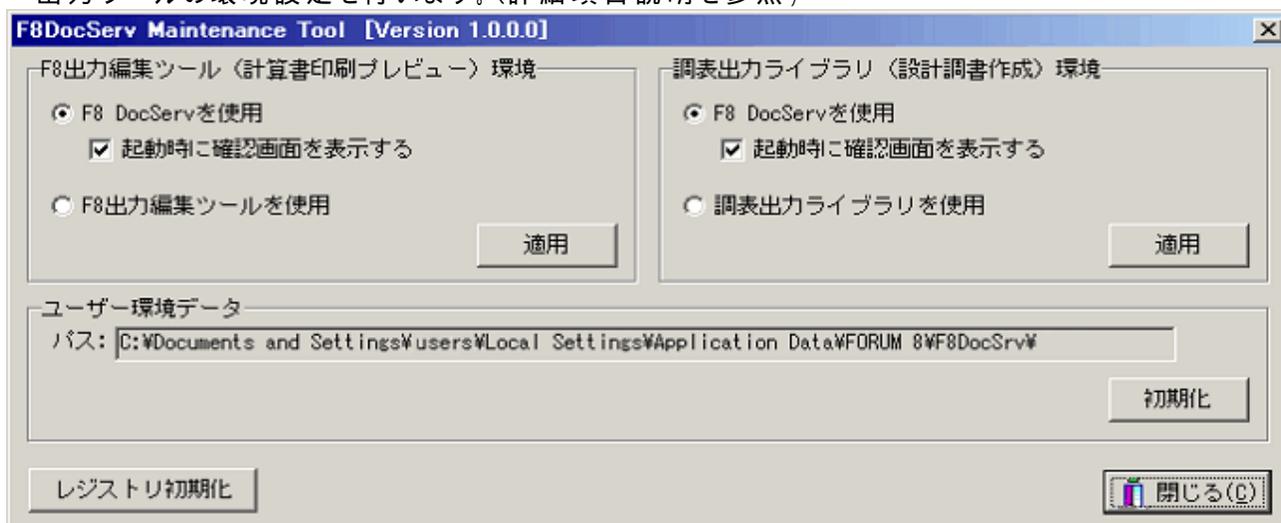
F8DocServ Maintenance Toolを使用して、本プロダクトの使用環境を設定します。

■ 操作

Windowsのスタートメニューより、F8DocServ Maintenance Tool を起動します。



出力ツールの環境設定を行います。(詳細項目説明を参照)



[閉じる] ボタンをクリックし、ダイアログを閉じます。

当社製品の次回起動時から上記の設定が有効になります。

■詳細項目説明

F8 出力ツール(計算書印刷プレビュー)環境

お使いのコンピュータにF8出力編集ツールがインストールされている場合のみ、当欄を設定することができます。

設定を変更した場合は、必ず[適用]ボタンをクリックします。

F8DocServ を使用	当社製品で計算書印刷プレビューを実行時、F8DocServ を起動します。
起動時に確認画面を表示する	上記「F8DocServ を使用」を選択した場合のみ、当項目を選択することができます。 F8DocServ を起動する前に、ツール選択画面(F8DocServ / F8 出力編集ツール)を表示します。
F8 出力編集ツールを使用	当社製品での計算書印刷プレビューを実行時、F8 出力編集ツールを起動します。
[適用]ボタン	当社製品に対して、上記の設定を適用します。

調表出力ライブラリ(設計調書作成)環境

お使いのコンピュータに調表出力ライブラリがインストールされている場合のみ、当欄を設定することができます。

設定を変更した場合は、必ず[適用]ボタンをクリックします。

F8DocServ を使用	当社製品で設計調書作成を実行時、F8DocServ を起動します。
起動時に確認画面を表示する	上記「F8DocServ を使用」を選択した場合のみ、当項目を選択することができます。
調表出力ライブラリを使用	当社製品からの設計調書作成に、調表出力ライブラリを使用します。
[適用]ボタン	当社製品に対して、上記の設定を適用します。

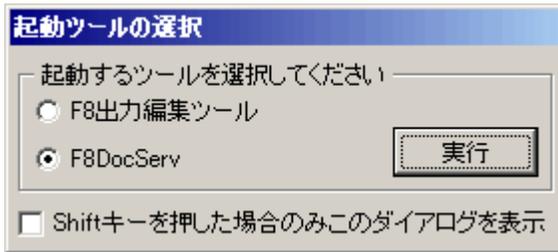
ユーザー環境データ

パス	(この項目は参照のみ) 本プロダクトの環境情報 を記述したファイルの、保存先フォルダ名が表示されます。
初期化	保存されている環境情報ファイルが削除され、本プロダクトをインストールした直後の状態になります。
[レジストリ初期化]ボタン	本プロダクトに関するレジストリを、すべてインストール直後の状態に戻します。

■補足

環境情報とは、画面サイズ、書式、表示状態など、本プロダクト使用時の状態をまとめたものです。

「起動時に確認画面を表示する」を選択した場合、当社製品の出力部から本プロダクトを起動する際、ダイアログが表示されます。



メニュー項目

メニュー・アイコン

メニューバー

メニューバーより、下記のメニューを選択することができます。

[ファイル]メニュー

[新規作成](#)
[開く](#)
[追加読み込み](#)
[開き直す](#)
[上書き保存](#)
[名前を付けて保存](#)
[他形式ファイルの出力](#)
[印刷](#)
[終了](#)

[編集]メニュー

[元に戻す](#)
[やり直し](#)
[切り取り](#)
[コピー](#)
[貼り付け](#)
[BOX追加](#)
[BOX削除](#)
[ページ追加](#)
[ページ削除](#)
[検索](#)
[置換](#)
[次を検索](#)
[前を検索](#)

[表示]メニュー

[先頭ページ](#)
[前ページ](#)
[次ページ](#)
[最終ページ](#)
[実際の大きさ](#)
[全体を表示](#)
[幅に合わせる](#)
[章立てツリー表示](#)
[辞書ツリー表示](#)

[表示移動モード](#)
[表示拡大モード](#)
[再描画](#)
[目次の更新](#)
[ページの再解析](#)

[設定]メニュー

[用紙の設定](#)
[プリンタの設定](#)
[ページの設定](#)
[行スタイルの設定](#)
[その他の設定](#)

[電子納品]メニュー

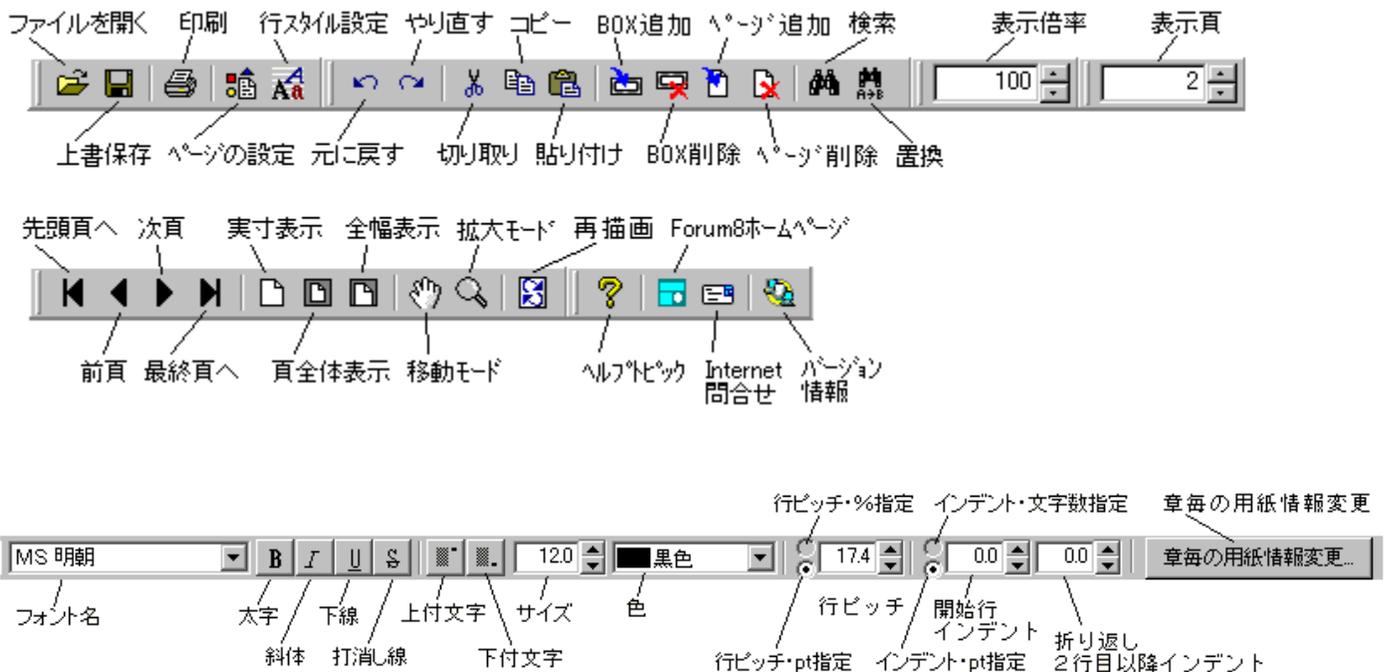
[電子納品規定文字列チェック](#)

[ヘルプ]メニュー

[トピックの検索](#)
[Forum8ホームページ](#)
[Internet利用による問い合わせ](#)
[バージョン情報](#)

ツールバーのアイコン

メイン画面のツールバーに表示されるアイコンは、それぞれ下記の機能に対応しています。
 画面上でマウスカursorをアイコンに重ねると、機能名がポップアップ表示されます。



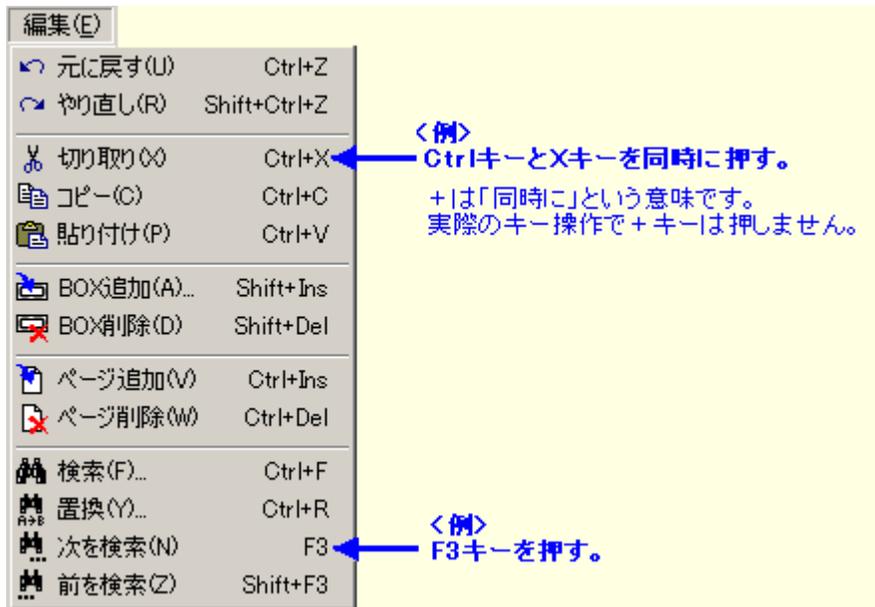
ショートカットキー

本プロダクトは、メインメニューをマウスで選択する代わりに、特定のキーボード操作によってメニュー選択と同様の操作を実行することができます。

特定のキーボード操作のことを『ショートカットキー』と言います。

■ショートカットキーを確認する

メニューをプルダウン表示すると、各メニューの右側にショートカットキーが表示されます。表示のないメニューは、ショートカットキーの割り当てはありません。



ファイル

[ファイル] ⇒ [新規作成]

新しいドキュメントを作成します。

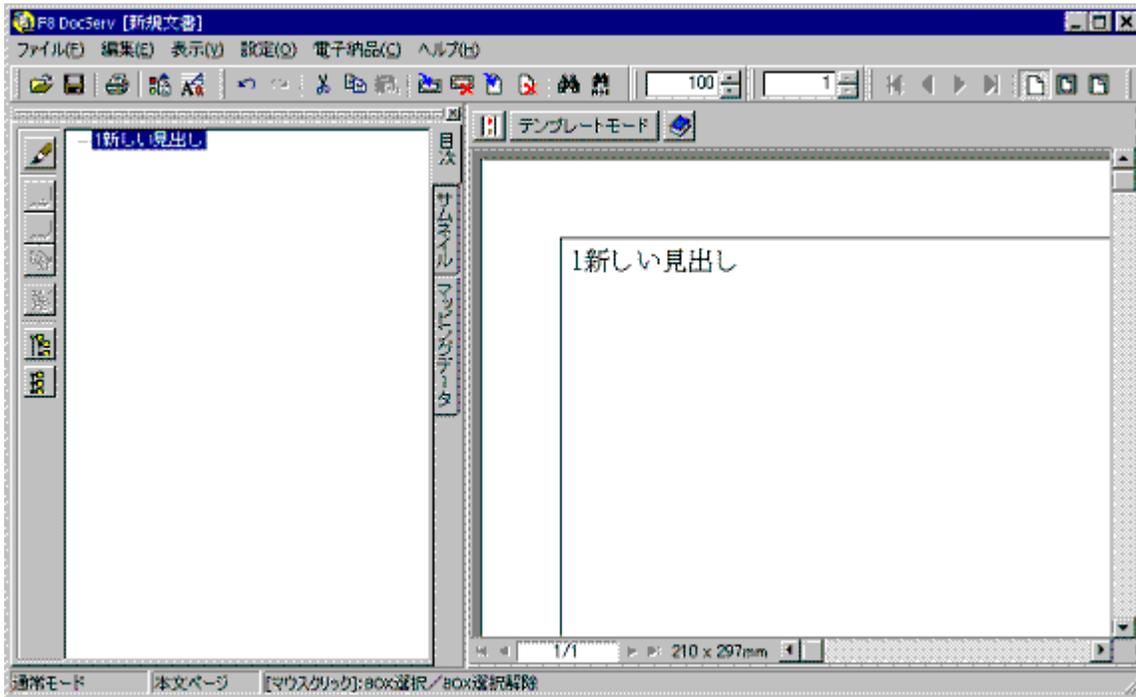
作成したドキュメントには仮の見出しが1つだけ用意されており、テキストや図・表などは何も入っていません。

必要に応じて見出し(章、節、項)の作成やBOXの追加を行い、ドキュメントを作成します。

■基本操作

メニューの[ファイル] [新規作成]を選択します。

仮の見出しが1つだけ入った、新しいドキュメントが作成されます。



前回使用していた[行スタイル](#)が初期値としてセットされています。

■関連トピック

[見出しのテキストを修正する](#)

[編集する / 入力する](#)

[ファイル]⇒[開く]

本プロダクトでは、次の5種類のファイルを開くことができます。

F8 統合文書ファイル (拡張子 *.F9D)

マッピングデータあり: 通常の印刷イメージで開きます。

マッピングデータなし: テンプレートモードで開きます。

テンプレートファイル (拡張子 *.F9T)

テンプレートモードで開きます。

F8 出力編集ツール文書ファイル (拡張子 *.PPF)

通常の印刷イメージで開きます。

F8 調表出力ライブラリ編集ファイル (拡張子 *.F8C)

通常の印刷イメージで開きます。

F8 調表出力ライブラリテンプレートファイル (拡張子 *.F8S)

通常の印刷イメージで開きます。

テンプレートモードについては、『[プレビューの表示属性](#)』をご覧ください。

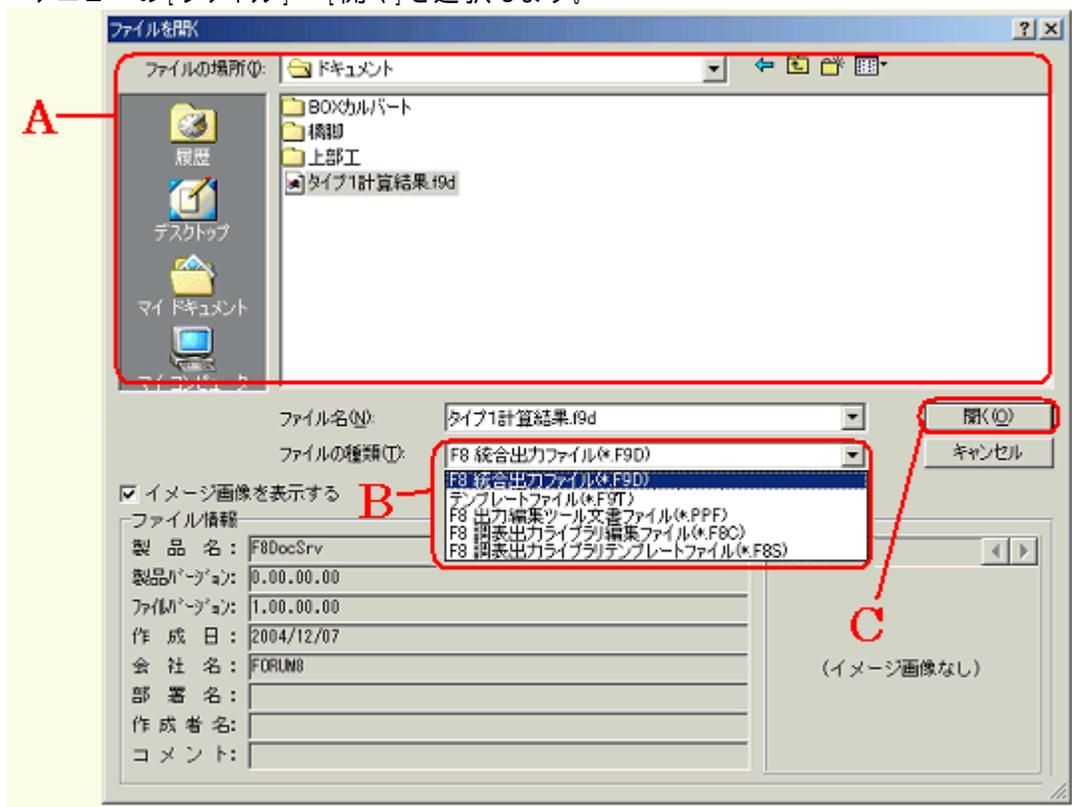
開いたファイルは、[プレビュー画面](#)に印刷イメージで表示されます。

上記 ~ のファイル(本プロダクトのファイル)に関する詳細は、[ファイルの構成](#)をご覧ください。

上記 ~ のファイル(旧製品のファイル)は制限事項がありますので、[継承元製品のファイル読み込み](#)をご覧ください。

■基本操作

メニューの[ファイル] [開く]を選択します。



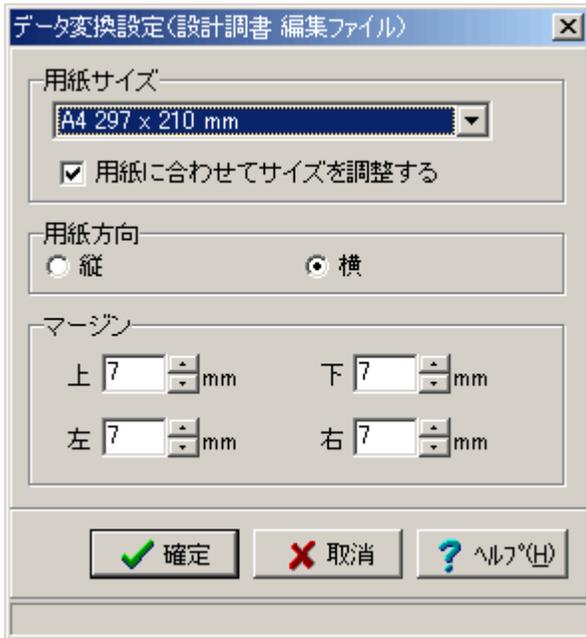
目的のファイルが格納されているフォルダを選択します。

「ファイルの種類」の欄で、目的のファイルの種類を選択します。

目的のファイル名をクリックします。

[開く]ボタンをクリックします。

旧製品のファイルを指定した場合、下記ダイアログが表示されます。用紙サイズ・方向・余白を指定して下さい。指定のサイズに合わせて調表を表示します。



■ 詳細項目説明

イメージ画像を表示する

基本操作の でクリックしたファイルのイメージ画像を表示する・しないを切り替えます。
表示する場合、上図の(イメージ画像なし)と表示されている領域に画像が表示されます。

ファイル情報

基本操作の で選択したファイルについて、製品名・バージョン 等の情報を表示します。

■ 関連トピック

[ファイルを開き直す](#)

[ファイル]⇒[追加読み込み]

現在開いているドキュメントの末尾に、別のドキュメントを付け加える機能です。異なる用紙サイズで読み込むことも可能です。

これにより、複数のドキュメントを1つにまとめて取扱うことができます。

追加読み込みできるのは、次の5種類のファイルです。

- F8 統合文書ファイル (拡張子 *.F9D)
 - マッピングデータあり: 通常の印刷イメージで開きます
 - マッピングデータなし: テンプレートモードで開きます
- テンプレートファイル (拡張子 *.F9T)
 - テンプレートモードで開きます。
- F8 出力編集ツール文書ファイル (拡張子 *.PPF)
 - 通常の印刷イメージで開きます。
- F8 調表出力ライブラリ編集ファイル (拡張子 *.F8C)

通常の印刷イメージで開きます。
F8 調表出力ライブラリテンプレートファイル (拡張子 *.F8S)
通常の印刷イメージで開きます。

モードは追加読み込みしたファイルを優先します。

テンプレートモードについては、『[プレビューの表示属性](#)』をご覧ください。

上記 ~ のファイル(本プロダクトのファイル)に関する詳細は、[ファイルの構成](#)をご覧ください。

上記 ~ のファイル(旧製品のファイル)は制限事項がありますので、[継承元製品のファイル読み込み](#)をご覧ください。

■基本操作

メニューの[ファイル] [追加読み込み]を選択します。

読み込むファイルが存在するフォルダを選択します。

「ファイルの種類」の欄で、読み込むファイルの種類を選択します。

読み込むファイル名をクリックします。

[開く]ボタンをクリックします。

インジゲータが表示され、指定のファイルが追加読み込みされます。

(7)旧製品のファイルを読み込む場合、下図のダイアログが表示されます。

- ・追加するページの用紙サイズと方向を指定します。現在開いているドキュメントと異なる指定も可能です。
- ・マージン(余白)の指定はできません。現在開いているドキュメントの余白に準じます。



[ファイル]⇒[開き直す]

メニューの[開き直す]を選択すると、最近使用したドキュメント名が表示されます(最大10ファイル)
開きたいドキュメント名をクリックしてください。

■基本操作

メニューの[ファイル] [開き直す]を選択します。

サブメニューで、開きたいドキュメント名を選択します。

■関連トピック

[ファイルを開く](#)

[ファイル]⇒[上書き保存]

現在開いているドキュメントを、開いた時と同じファイル名で、同じフォルダに保存します。

この機能を使用できるのは、統合文書ファイル(拡張子*.F9D)またはテンプレート(拡張子*.F9T)を開いている場合のみです。

次のような場合は、上書き保存を選択しても自動的に『[名前をつけて保存](#)』が実行されます。

- ・一度も保存していないドキュメント
- ・追加読み込みを行ったドキュメント
- ・拡張子がF9D、F9T以外のドキュメント

■基本操作

メニューの[ファイル] [上書き保存]を選択します

「ファイル保存中」のインジゲーターが出ます。インジゲーターが消えれば保存終了です。



[ファイル]⇒[名前を付けて保存]

現在開いているドキュメントを、任意の名称で保存する機能です。

保存できるファイル形式は次の2種類です。

- F8 統合文書ファイル (拡張子 *.F9D)
マッピングデータがある場合は、マッピングデータも保存します。
- テンプレートファイル (拡張子 *.F9T)
マッピングデータは保存されません。

■基本操作

メニューの[ファイル] [名前を付けて保存]を選択します。

ドキュメントを保存するフォルダを選択します。

「ファイル名」の欄に、任意の名称を入力します。

テンプレートファイルとして保存する場合は、ファイルの種類を「テンプレートファイル」にします。

「ファイル情報」の欄は、必要に応じて入力してください。

[保存]ボタンをクリックします。

[ファイル]⇒[他形式ファイルの出力]

現在開いているドキュメントを、他のアプリケーション(ワープロソフト等)で扱える形式のファイルに出力する機能です。

出力できる形式および制限事項・注意事項等は、[『データのエクスポート』](#)をご覧ください。

■基本操作

出力元となるドキュメントを準備します。

メニューの、[ファイル] [他形式ファイルの出力]を選択します。

出力ファイルを保存するフォルダを選択します。

「ファイルの種類」で、出力するファイルの形式を選択します。

「ファイル名」に、任意の出力ファイル名を入力します。

「出力範囲」で、必要に応じて出力するページ数を指定します。

[保存]ボタンをクリックします。

■詳細項目説明

出力範囲	すべて	現在開いているドキュメントの全ページを出力します。
	ページ指定	現在開いているドキュメントの一部のページ範囲のみ出力します。 出力する範囲の、先頭と末尾のページ数を指定して下さい。
	現在のページ	プレビューで現在表示されているページのみを出力します。

■関連トピック

[その他の設定](#)

[ファイル]⇒[印刷]

現在開いているドキュメントを、プリンタに出力する機能です。印刷範囲および部数を指定できます。

■注意

印刷できるのは、プレビューに表示しているページのみです。

下記の方法で、プレビューに表示するページを変更することができます。

- ・本文の「章・節・項」の表示/非表示を切り替える(=出力する章を選択)
- ・表紙の表示/非表示を切り替える
- ・目次の表示/非表示を切り替える

■基本操作

メニューの[ファイル] [印刷]を選択します

印刷ダイアログが表示されます。

プリンタ名、印刷範囲、印刷部数を設定し、[OK]ボタンをクリックします。

■詳細項目説明

プリンタ名		プルダウンリストの中から、印刷に使用するプリンタを選択します。 リストに表示されるプリンタは、そのコンピュータにインストールされているプリンタです。
プロパティボタン		[プロパティ]ボタンをクリックすると、選択しているプリンタの詳細設定ダイアログが表示されます。 詳細な設定については、プリンタに付属のマニュアルをご覧ください。
印刷範囲	すべて	プレビューに表示されている全てのページをすべて印刷します。表紙、目次を表示している場合は、これらも全て印刷します。
	ページ指定	指定したページ範囲を印刷します。ここで指定する「ページ」は、 <u>プレビュー画面のページ数</u> を指します。
印刷部数	選択した部分	<u>プレビュー画面の現在のページ</u> のみを印刷します
	部数	印刷する部数を設定します。
	部単位で印刷	部数が2以上の場合この項目にチェックをつけると、開始ページから終了ページまで1枚ずつ印刷し、1部目の印刷が完了してから2部目の印刷を開始します。印刷完了時、ドキュメントが1部ずつ揃った状態になります。

■関連トピック

[プリンタの設定](#)

[出力する章を選択](#)

[表紙](#)

[目次](#)

[ファイル]⇒[終了]

現在開いているドキュメントを閉じて、本プロダクトも終了する機能です。

ドキュメントに未保存の修正が加えられている場合、保存の要・不要を確認するダイアログが表示されます。

■基本操作

メニューの[ファイル] [終了]を選択します

■関連トピック

[上書き保存](#)

[名前をつけて保存](#)

編集

[編集]⇒[元に戻す]

プレビュー画面での編集において、直前に行った編集操作を取り消して1つ前の状態に戻す機能です。

編集操作を連続して行っていた場合、「元に戻す」を繰り返すことで、更に前の状態に戻ることができます。

元の状態を確認してから、取り消した操作をもう一度実行 ([やり直し](#)) することもできます。

■注意

編集操作の合間に行った表示操作 (ページ移動、拡大、縮小 等) は、元に戻さずスキップします。また、ファイル保存を行うと、保存前の状態には戻れませんので、ご注意ください。

■基本操作

メニューの[編集] [元に戻す]を選択します。

[編集]⇒[やり直し]

[\[元に戻す\]](#)によって取り消した操作を、もう一度実行する機能です。

[\[元に戻す\]](#)を連続して行った場合、[\[やり直し\]](#)を繰り返して1つずつ操作を再実行することができます。

[元に戻す]と[やり直し]以外の操作を行った時点で、[やり直し]は使えなくなりますのでご注意ください。

■基本操作

メニューバーの[編集] [やり直し]を選択します。

[編集]⇒[切り取り]

プレビュー上で、BOXを切り取る機能です。

切り取ったBOXはプレビューから消えて、一時的にコンピュータに記憶されます。このBOXをプレビューの別のページに[貼り付ける](#)ことができます。

■注意

切り取りと貼り付けの間に別の編集操作を行うと、操作の内容によっては一時的な記憶が消去され、貼り付けができない場合があります。

■基本操作

切り取るBOXを選択し、[編集] [切り取り]を選択します。

■関連トピック

[貼り付け](#)

[編集]⇒[コピー]

BOXを複製する機能です。[切り取り](#)のように指定したBOXが消えることはありません。

コピーしただけでは、プレビュー上は何も変化がありません。コピーしたBOXは一時的にコンピュータに記憶され、これを任意のページに[貼り付ける](#)ことができます。

■注意

コピーと貼り付けの間に別の編集操作を行うと、操作の内容によっては一時的な記憶が消去される場合があります。その場合は再度、対象のBOXをコピーしてください。

■基本操作

コピーするBOXを選択し、[編集] [コピー]を選択します。

■関連トピック

[貼り付け](#)

[編集]⇒[貼り付け]

切り取りやコピーによってコンピュータに一時的に記憶されたBOXを、プレビュー画面の現在のページに配置する機能です。

■注意

この機能は有償機能となっています。

■補足

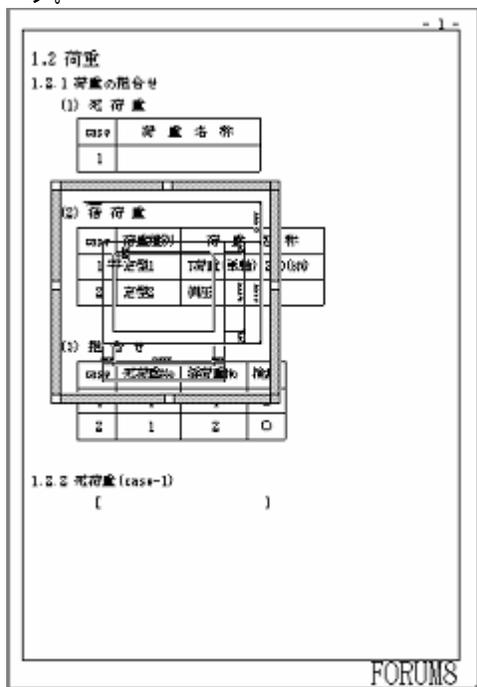
貼り付けたBOXは、元のBOXよりも少し右斜め下にずらして配置されます。
右斜め下にずらすことによりページ内に入り切らず、自動的に次ページの先頭に配置される場合がありますので、ご注意ください。

■基本操作

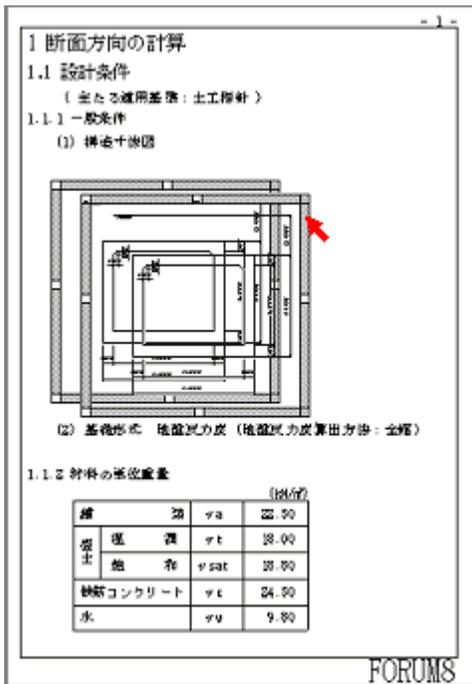
切り取りまたはコピーを行い、BOXをコンピュータに一時記憶させます。

プレビューを貼り付けるページへ移動します。

[編集] [貼り付け]を選択することにより、BOXが貼り付きます。必要に応じてBOXを移動します。



同じページに貼り付けた場合、元のBOXの斜め下に貼り付きます。



[編集]⇒[BOX追加]

プレビュー上で、任意の位置にBOXを作成する機能です。

■注意

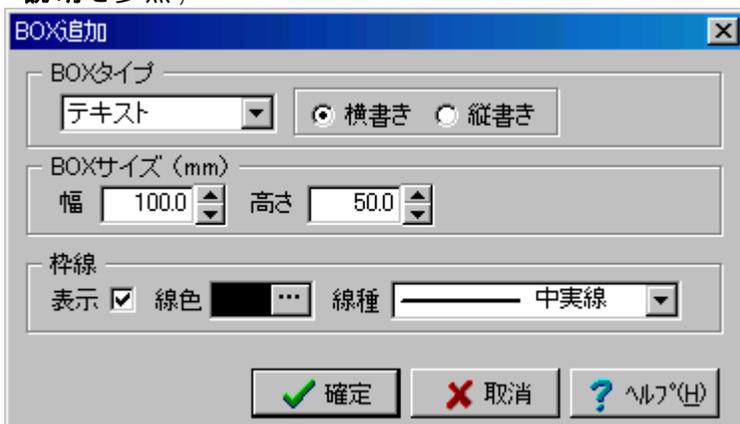
見出しBOXはこのメニューでは作成できません。見出しを作成する場合は、目次ツリー上で章を作成します。

この機能は有償機能となっています。

■基本操作

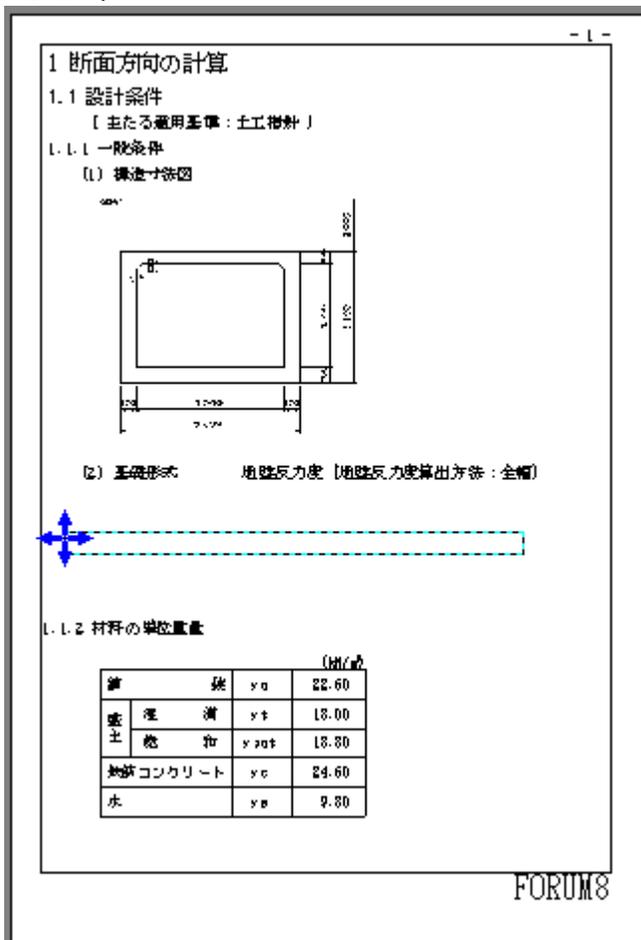
プレビューを移動し、BOXを追加したい場所を表示しておきます。

メニューの[編集] [BOX追加]を選択し、ダイアログで追加するBOXを設定します。(詳細項目説明を参照)



[確定]ボタンをクリックします。

プレビュー上でカーソルが十字型になります。そのままマウスを移動し、BOXの配置位置をクリックします。



BOXの配置が確定し、編集状態になります。
 次のBOXは自動的にエディタが起動します。それぞれのリンク先のトピックをご覧ください。

[表BOX](#) [グラフィックBOX](#) [行列BOX](#) [数式BOX](#)

- ・テキストBOXは、BOX内に文字が入力できる状態になります。([テキスト修正](#)を参照)
- ・マッピング画像BOXは、[辞書項目の配置](#)を行います。

■詳細項目説明

- BOX タイプ** プルダウンリストから、入力する内容にあったBOXを選択します。([BOXタイプと入力可能要素](#))
- 横書き / 縦書き** テキストBOX を選択した場合のみ表示されます。横書き・縦書きのいずれかを選択します。
- 行数 / 列数** 表BOX を選択した場合のみ表示されます。作成する表の行数・列数を設定します。(BOX 作成後に変更可能)
- BOX サイズ** **幅 / 高さ** BOX の初期サイズを設定します。(BOX 作成後に変更可能)
- 枠線** **表示** BOX の周囲を枠線で囲んで表示する場合、この項目にチェックマークを付

けます。

枠線の色、線種の設定ができるようになります。

線色

枠線の色を設定します。

[...]ボタンをクリックし、カラーパレットで目的の色を選択して下さい。

線種

枠線の線種を設定します。

[]ボタンをクリックし、プルダウンリストの中から目的の線種を選択して下さい。

■関連トピック

[BOXのサイズを変更する](#)

[BOXを移動する](#)

[BOXの枠線を変更する](#)

[BOXを削除する](#)

[編集]⇒[BOX削除]

選択したBOXを削除する機能です。

■注意

- ・見出しBOXはこのメニューでは削除できません。詳細は『[章\(節、項\)の削除](#)』をご覧ください。
- ・グループの親になっているBOXを削除すると、そのグループに属するすべてのBOXが同時に削除されます。詳細は『[BOXをグループ化する](#)』をご覧ください。

■基本操作

削除するBOXを[選択](#)します。

メニューの[編集] [BOX削除]を選択すると削除されます。

[編集]⇒[ページ追加]

プレビューの現在のページの後、新規ページを追加する機能です。

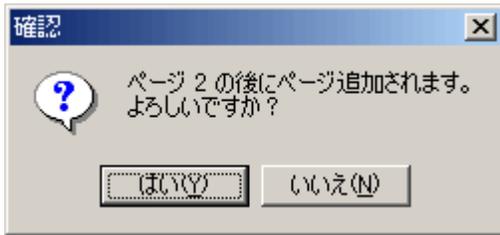
[現在のページ数はプレビューの下に表示](#)されています。

■基本操作

プレビュー画面をページ追加する位置まで移動します。

メニューの[編集] [ページ追加]を選択します。

確認メッセージが出ます。追加する場合は[はい]を選択します。



空のページが追加されます。

[編集]⇒[ページ削除]

プレビューの現在のページを丸ごと削除する機能です。現在のページ数は、プレビューの下に表示されています。

但し、ページ内にBOXがあると、そのページは削除できません。ページ内のBOXをすべて[別のページに移動する](#)または[削除](#)してから、ページ削除を行ってください。

■基本操作

プレビューで、削除したいページへ移動します。

メニューの[編集] [ページ削除]を選択します。

確認メッセージが出ます。削除して良い場合は[はい]を選択します。

[編集]⇒[検索]

現在開いているドキュメント内で、任意の文字列や数字を探す機能です。

現在カーソルがある位置を基点に、前方または後方に向かって検索しますので、カーソル位置にご注意ください。

■基本操作

メニューバーで[編集] [検索]を選択します。

検索ダイアログに検索テキストを入力し(詳細項目説明を参照)、[次を検索]をクリックします。



該当テキストがあるページへ移動し、テキストが強調表示されます。

ページの下の方に該当テキストがあると、プレビューで見えない場合があります。その場合は、画面を下にスクロールして下さい。

- 35 -

(2) 括弧曲げモーメントと設計曲げモーメントとの交点

付根からの距離	L'	n	1.349
曲げモーメント	M	$kn \cdot n$	443.58
せん断力	S	kn	258.66
単位長さ当りせん断力	Mn	$kn \cdot m/n$	100.76
	Sn	kn/m	58.75

(3) 定着位置
定着鉄筋 D22
定着長 $L_0 = 0.770$ (m)
定着位置 $L = L' + L_0 = 2.116$ (m)

[次を検索]により、次の該当テキストを検索し強調表示します。

ページの下の方に該当テキストがあると、プレビューで見えない場合があります。その場合は、画面を下にスクロールして下さい。

■ 詳細項目説明

検索する文字列

検索する文字列を入力します。

カナや数字の全角・半角は区別します。

英字の大文字・小文字は、次の項目で区別する/しないを指定できます。

大文字と小文字を区別する

この項目にチェックを付けると、英字の大文字と小文字を区別して検索します。

<例> sa と SA は、違う文字として検索する。

検索する方向(上へ/下へ)

検索は、現在カーソルがある位置を基点に、上(前頁方向)または下(次頁方向)に向かって検索を進めます。進める方向を選択してください。

[編集]⇒[置換]

現在開いているドキュメント内で任意のテキストや数値を検索し、検索した文字(数字)を別の文字(数字)に書き換えることができます。

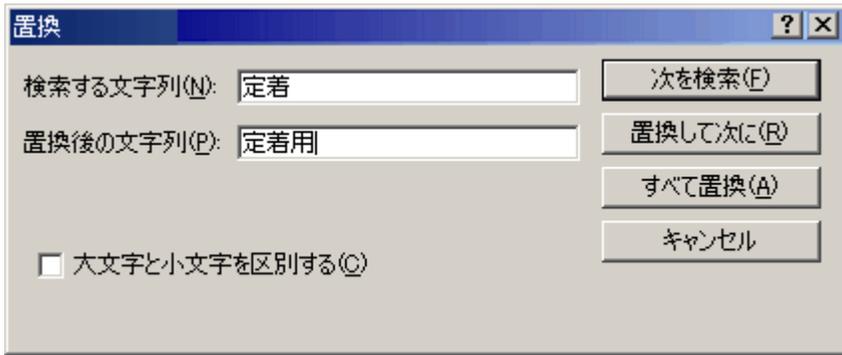
- ・検索結果を1件ずつ確認しながら置換することができます。
- ・検索結果を確認せず、一括置換することができます。

■ 基本操作

メニューバーで[編集] [置換]を選択します。

置換ダイアログに検索対象と置き換えるテキストを入力し(詳細項目説明を参照)、[次を検索]をクリックします。

ここで[すべて置換]をクリックすると、 のダイアログが表示されます。



該当テキストがあるページに移動し、テキストを強調表示します。

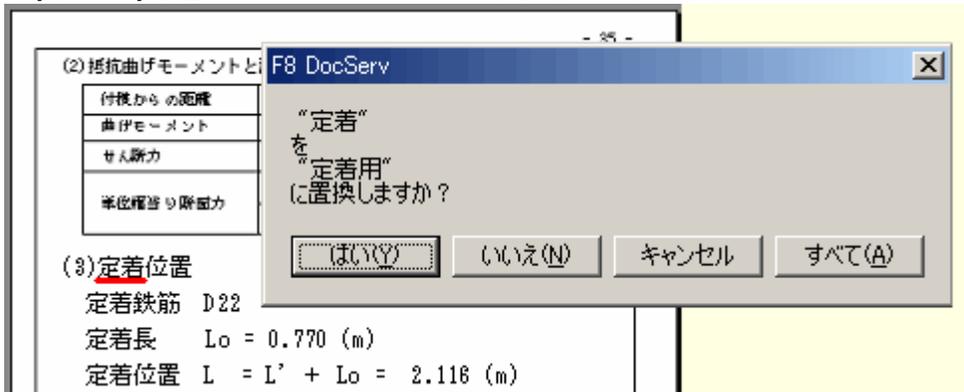
ページの下のほうに該当テキストがあると、プレビューで見えない場合があります。その場合は、画面を下にスクロールして下さい。

ダイアログで置換する/しないを選択します。

[はい]を選択すると現在のテキストの置換を行い、次のテキストへ移動します。

[いいえ]を選択すると現在のテキストの置換は行わず、次のテキストへ移動します。

[すべて]を選択すると、このダイアログが表示されます。



『すべて置換』を選んだ場合のみ、下記のダイアログが表示されます。

[OK]を選択すると、1件ずつの置換確認を行わず全ての対象テキストを一括置換します。



[編集]⇒[次を検索]

最後に実施した検索(または置換)と同じ条件で、現在のカーソル位置から次頁方向へ検索(または置換)を続けます。

前頁の方向へ進めたい場合は、[前を検索]を使用します。

■基本操作

検索によって発見したテキストが赤下線で強調表示されています。

- 35 -

(2) 抵抗曲げモーメントと設計曲げモーメントとの交点

付根からの距離	L'	n	1.149
曲げモーメント	M	kN・m	443.58
せん断力	S	kN	258.66
単位幅当り断面力	Mn	kN・m/m	100.76
	Sn	kN/m	58.75

(3) 定着位置
定着鉄筋 D22
定着長 $L_0 = 0.770$ (m)
定着位置 $L = L' + L_0 = 2.116$ (m)

[次を検索]を選択すると、後方の該当テキストを強調表示します。

ページの下の方に該当テキストがあると、プレビューで見えない場合があります。その場合は、画面を下にスクロールして下さい。

[編集]⇒[前を検索]

最後に実施した検索(または置換)と同じ条件で、現在のカーソル位置から前頁方向へ検索(または置換)を続けます。

次頁の方向へ進めたい場合は、[次を検索]を使用します。

■基本操作

検索によって発見したテキストが赤下線で強調表示されています。

- 35 -

(2) 抵抗曲げモーメントと設計曲げモーメントとの交点

付根からの距離	L'	n	1.149
曲げモーメント	M	kN・m	443.58
せん断力	S	kN	258.66
単位幅当り断面力	Mn	kN・m/m	100.76
	Sn	kN/m	58.75

(3) 定着位置
定着鉄筋 D22
定着長 $L_0 = 0.770$ (m)
定着位置 $L = L' + L_0 = 2.116$ (m)

[前を検索]を選択すると、前方の該当テキストを強調表示します。

ページの下の方に該当テキストがあると、プレビューで見えない場合があります。その場合は、画面を下にスクロールして下さい。

表示

[表示]⇒[先頭ページ]

プレビュー画面で、ドキュメントの先頭ページへ移動します。

■基本操作

メニューの[表示] [先頭ページ]を選択します

■関連トピック

[プレビューの移動・スクロール](#)

[表示]⇒[前ページ]

プレビュー画面を1ページ前へ移動します。

■基本操作

メニューの[表示] [前ページ]を選択します

■関連トピック

[プレビューの移動・スクロール](#)

[表示]⇒[次ページ]

プレビュー画面を1ページ後ろへ移動します。

■基本操作

メニューの[表示] [次ページ]を選択します

■関連トピック

[プレビューの移動・スクロール](#)

[表示]⇒[最終ページ]

プレビュー画面で、ドキュメントの最終ページへ移動します。

■基本操作

メニューの[表示] [最終ページ]を選択します

■ 関連トピック

[プレビューの移動・スクロール](#)

[表示]⇒[実際の大きさ]

プレビューの表示サイズを切り替える機能です。

印刷した際の大きさと、画面に表示されている大きさが等しくなるように表示されます。

■ 基本操作

メニューの[表示] [実際の大きさ]を選択します

■ 関連トピック

[プレビューの表示拡大・縮小](#)

[表示]⇒[全体を表示]

プレビューの表示サイズを切り替える機能です。

1ページ分全体が、プレビューフレーム内に収まる大きさになります。

■ 基本操作

メニューの[表示] [全体を表示]を選択します

■ 関連トピック

[プレビューの表示拡大・縮小](#)

[表示]⇒[幅に合わせる]

プレビューの表示サイズを切り替える機能です。

1ページ分の横幅が、ちょうどプレビューフレーム内に収まる大きさになります。

■ 基本操作

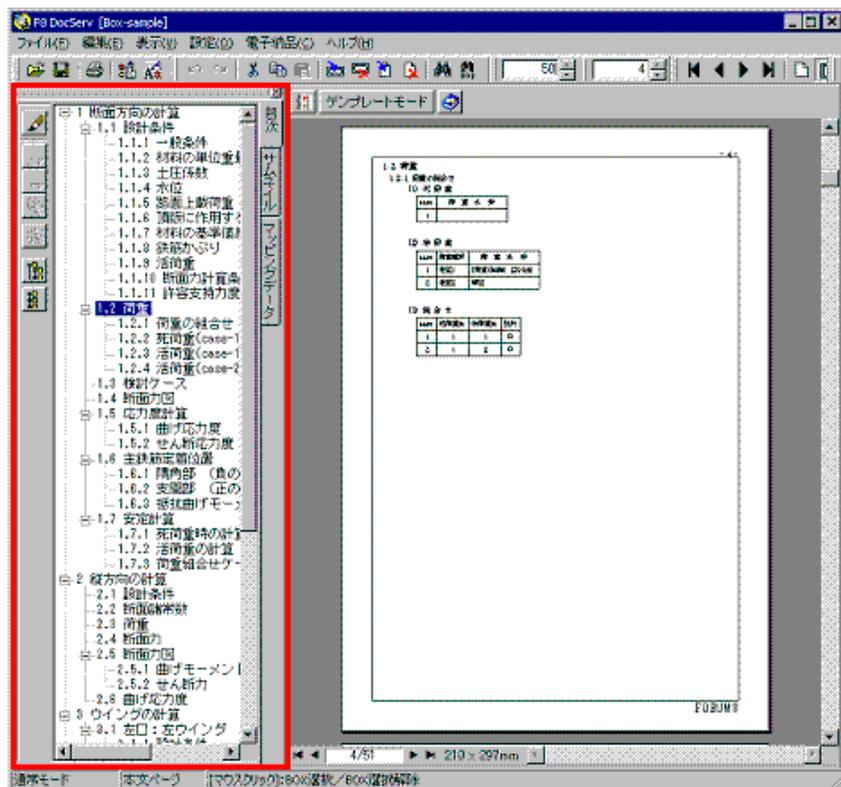
メニューの[表示] [幅に合わせる]を選択します

■ 関連トピック

[プレビューの表示拡大・縮小](#)

[表示]⇒[アウトラインフレーム表示]

本製品のメイン画面のうち、アウトラインフレームを表示する/しないを切り替える機能です。



■基本操作

メニューの[表示] [アウトラインフレーム表示]を選択します

■補足

メニューをクリックする毎に、表示する/しないが切り替わります。

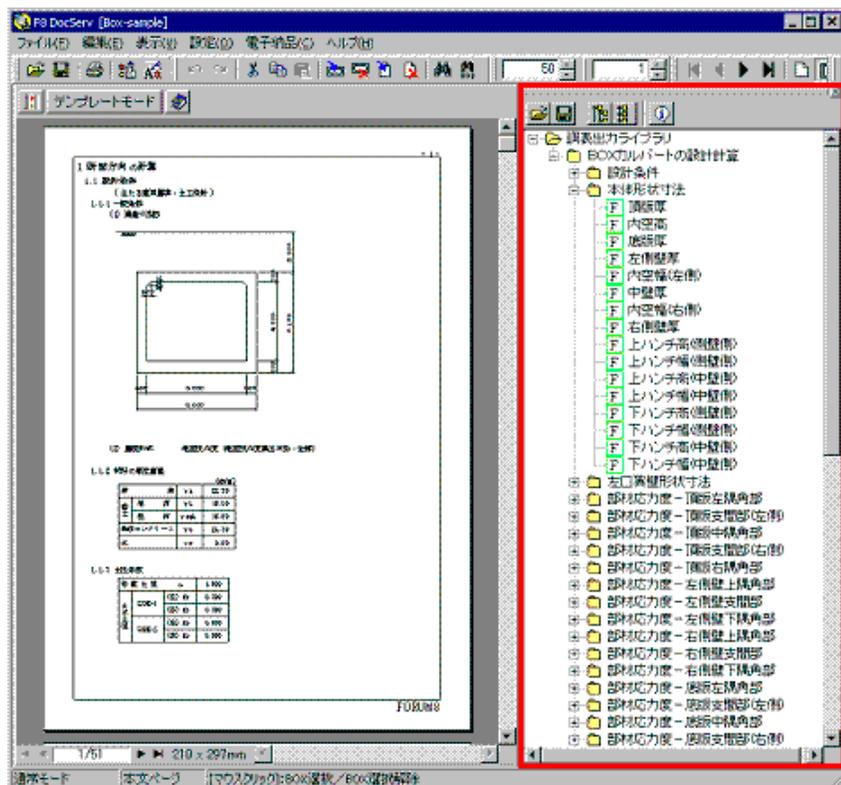
・当メニューの横に V(チェック)マークがついている場合は「表示する」状態です。

・チェックマークがついていない場合は「表示しない」状態です。



[表示]⇒[辞書フレーム表示]

本製品のメイン画面において、辞書フレームを表示する/しない を切り替えます。



辞書ファイルを読み込まなければ、ツリー表示部は空白です。
([マッピング辞書ファイルを読み込むには](#))

■注意

この機能は有償機能となっています。

■基本操作

メニューの[表示] [辞書フレーム表示]を選択します

■補足

メニューをクリックする毎に、表示する／しないが切り替わります。

- ・当メニューの横に V(チェック)マークがついている場合は「表示する」状態です。
- ・チェックマークがついていない場合は「表示しない」状態です。



[表示]⇒[表示移動モード]

マウスの動きに合わせて、プレビュー画面を自由に動かす機能です。

ページ単位の移動ではなく、少しかだけプレビューを移動する場合などに利用します。

メニューを選択する毎に、表示移動モードのオン／オフが切り替わります。

■注意

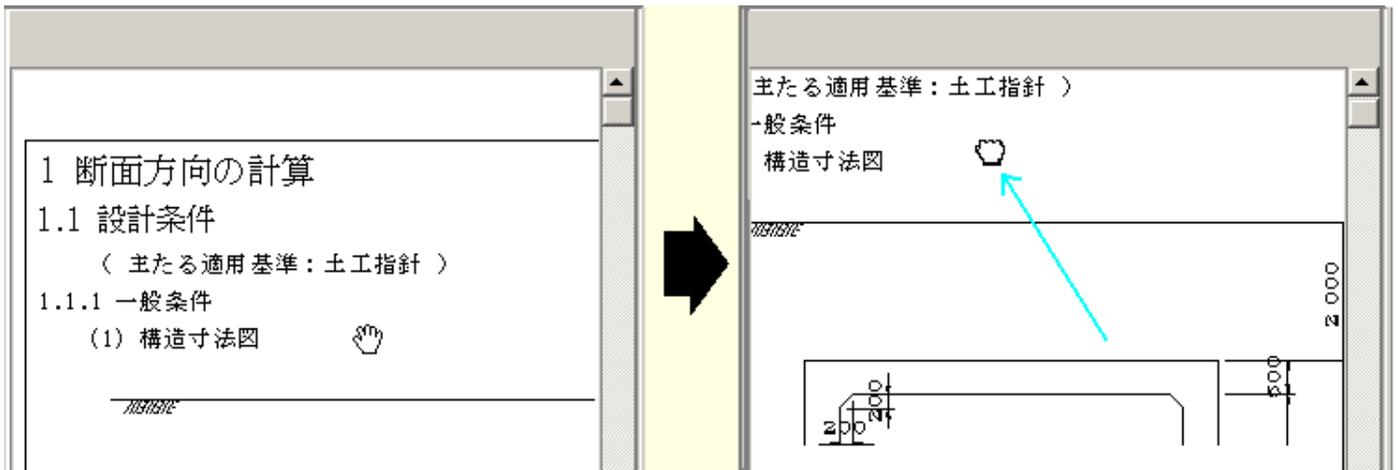
表示移動モードをオフにしなければ、テキストや図などをクリックして選択することはできません。

■基本操作

メニューの[表示] [表示移動モード]を選択します。

マウスカーソルを、プレビュー画面上に移動します。カーソルが手のひらの形になります。手のひらの形ではない場合、再度 のメニュー選択を実施します。

プレビュー画面上で、マウスの左ボタンを押したまま動かすと、プレビューと一緒に動きます。左ボタンを放すと、カーソルだけが移動します。



表示移動モードをオフにしないと、テキストや図などをクリックして選択することはできません。モードをオフにする場合は、[表示] [表示移動モード]を再度選択します。

■関連トピック

[プレビューの移動・スクロール](#)

[表示]⇒[表示拡大モード]

プレビュー画面でマウス左クリックするだけで、段階的に表示を拡大する機能です。右クリックすると、初期の表示倍率(100%)に戻ります。

■注意

表示拡大モードをオフにしなければ、テキストや図などをクリックして選択することはできません。

■補足

- ・メニューを選択する毎に、表示拡大モードのオン/オフが切り替わります。
 - ・モードがオンの場合、プレビュー画面のマウスカーソルは虫メガネの形になります。
 - ・虫メガネでクリックした位置が、拡大中心になります。
 - ・表示倍率は段階的に上がります。1000%が最大です。
- 100% 125% 150% 200% 400% 600% 800% 1000%

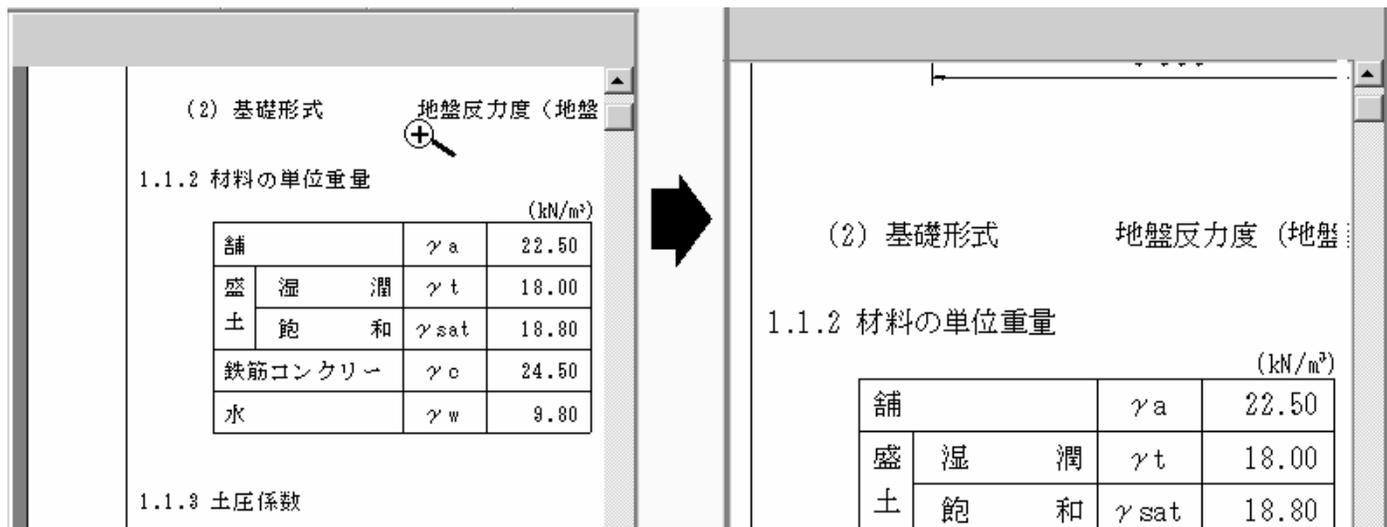
■基本操作

メニューの[表示] [表示拡大モード]を選択します。

またはアイコン  をクリックします。

マウスカーソルを、プレビュー画面上に移動します。カーソルが**虫メガネの形**になります。**虫メガネの形**ではない場合、再度 のメニュー選択を実施します。

マウスを左クリックすると、クリックした位置を中心に拡大表示されます。



初期の表示倍率 (100%) に戻したい場合は、マウスを右クリックします。

表示拡大モードをオフにする場合は、もう一度メニューの [表示] [表示拡大モード] を選択します。

あるいはアイコン  をクリックします。

■関連トピック

[プレビューの表示拡大・縮小](#)

[表示] ⇒ [再描画]

プレビュー画面を再描画します。

■基本操作

メニューの [表示] [再描画] を選択します。

■関連トピック

[ページ再解析](#)

[目次の更新](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

[表示] ⇒ [目次の更新]

プレビュー上での見出しBOXの修正を、『目次ツリー』および『目次』へ反映します。

■基本操作

メニューの[表示] [目次の更新]を選択します。

■関連トピック

[再描画](#)

[ページ再解析](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

[表示]⇒[ページ再解析]

プレビュー上のBOXの位置を調整します。([見出しの自動整列](#) もご覧ください)

■基本操作

メニューの[表示] [ページ再解析]を選択します。

■関連トピック

[再描画](#)

[目次の更新](#)

[目次ツリーの編集モード](#)

設定

[設定]⇒[用紙の設定]

ドキュメントを印刷する用紙の大きさおよび方向を設定します。設定した条件に合わせてプレビュー画面の表示も変わります。

更に詳細な設定(余白、ヘッダー、ページ番号 等)は、[ページの設定](#)をご利用ください。



■基本操作

メニューの[設定] [用紙の設定]を選択します。
設定ダイアログで、用紙サイズ、印字方向 を選択します。
選択した条件をドキュメントに反映してよい場合は [確定] ボタンをクリックします。
選択した条件を取り消したい場合は、[取消] ボタンをクリックします。

■詳細項目説明

- サイズ** プルダウンリストの中から用紙サイズを選択します。
リストに表示されるサイズは、現在設定されているプリンタの用紙サイズに基づきます。
プリンタが設定されていない場合は、A4 サイズに固定されます。
- 印字方向** 印刷する際の方向を選択します。

■関連トピック

[印刷](#)

[設定]⇒[プリンタの設定]

印刷で使用するプリンタの選択及び、選択したプリンタの設定を行います。

使用するプリンタの機種(あるいは使用しているプリンタドライバー)によって、設定項目が異なります。
詳細はプリンタ付属のマニュアル等をご覧ください。

ローカルプリンタを使用する場合、事前にコンピュータにプリンタをインストールしておく必要があります。

インストール方法については、プリンタ付属のマニュアル等をご覧ください。

ネットワークプリンタは、プリンタの設定の[ネットワーク] ボタンを利用してインストールすることができます。

■基本操作

メニューの[設定] [プリンタの設定]を選択します。

プリンタの設定ダイアログが表示されます。



プリンタ名のプルダウンリストの中から、使用するプリンタを選択します。

印刷に使用する用紙サイズ、給紙方法、印刷の向き等の条件を設定します。

[OK] ボタンをクリックし、設定を保存します。保存しない場合は、[キャンセル] ボタンをクリックします。

■ 詳細項目説明

下記は設定項目の一例です。設定項目は選択したプリンタによって異なります。

プリンタ名	プルダウンリストの中から、印刷に使用するプリンタを選択します。 リストに表示されるプリンタは、そのコンピュータにインストールされているプリンタです。
プロパティボタン	[プロパティ] ボタンをクリックすると、選択しているプリンタの詳細設定ダイアログが表示されます。 詳細な設定については、プリンタに付属のマニュアルをご覧ください。
サイズ	プルダウンリストの中から、印刷する用紙のサイズを選択します。 リストに表示されるサイズは、選択されているプリンタの用紙サイズに基づいています。
給紙方法	多くのプリンタには上トレイ、下トレイ等があり、それぞれにサイズ(または方向)の異なる用紙をセットできます。 用紙サイズに合ったトレイを選択して下さい。 自動トレイ選択を使用すると、印刷時に条件に合ったトレイが自動選択されます。
印刷の向き	縦 用紙を縦長に使用して印刷します。 横 用紙を横長に使用して印刷します。
ネットワーク	コンピュータにインストールしていないネットワークプリンタを選択し、インストールを行います。 [ネットワーク] ボタンをクリックし、インストールするプリンタを選択してください。 インストール手順については、OS に付属のマニュアル等をご覧ください。

■ 関連トピック

印刷

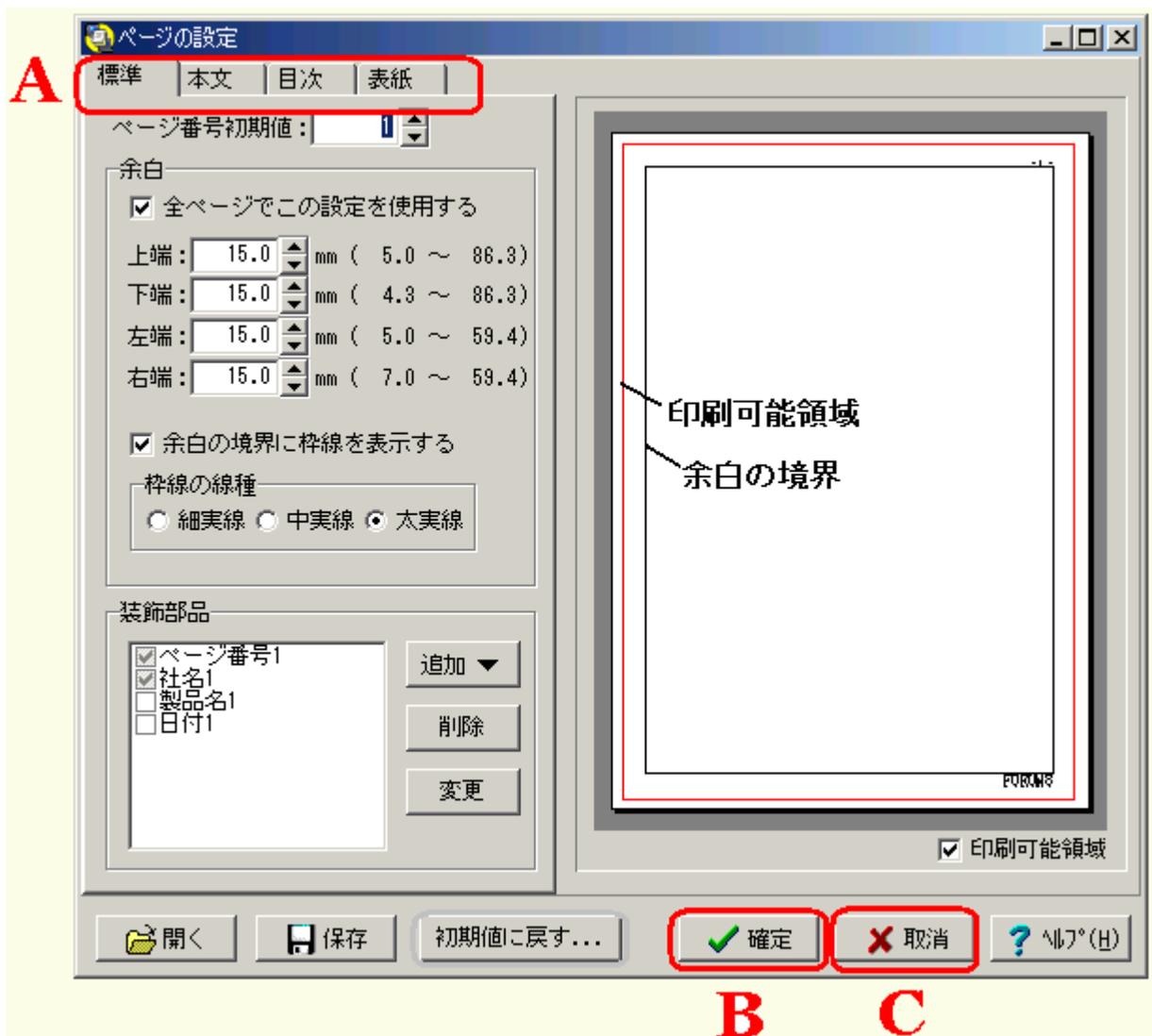
ページの設定

[設定]⇒[ページの設定]

[ページの設定]は、編集中のドキュメントの、余白・枠線・装飾部品・表紙有無・目次有無 等の設定を行います。

ダイアログ内には次の4つのタブがあり、それぞれのタブ内で設定できます。目的にあったタブを利用してください。

- ・ドキュメント全体で共通利用する設定 : 『標準』タブ
- ・本文ページのみにも適用する設定 : 『本文』タブ
- ・表紙ページのみにも適用する設定 : 『目次』タブ
- ・目次ページのみにも適用する設定 : 『表紙』タブ



ダイアログの右半分はプレビューになっています。上記の各タブで設定した条件がプレビューに即時反映されます。

■基本操作

メニューの[設定] [ページの設定]を選択します。
 設定ダイアログ(上図)が表示されます。
 標準タブ(上図A)で、ドキュメントの基準設定を行います。(詳細項目説明を参照)
 必要に応じて、『本文』、『目次』、『表紙』のタブで、個別の設定を行います。
 設定を確定する場合は、[確定]ボタンをクリックします。
 入力した設定を全て無効にする場合は、[取消]ボタンをクリックします。

■詳細項目説明

標準タブ内の項目

ページ番号初期値		<ul style="list-style-type: none"> ・装飾部品として表示するページ番号の開始番号を入力します。 ・装飾部品の設定でページ番号を選択していないと、この番号は利用されません。
余白	全ページでこの設定を使用する	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目を選択すると、本文・目次・表紙の全てのページで標準の余白設定を利用します。個別の余白設定欄に入力されている値は無視されます。 ・選択欄が薄い灰色になっている場合、標準設定を利用するページと利用しないページが混在していることを表します。
	上端 / 下端 / 左端 / 右端	<ul style="list-style-type: none"> ・上下左右の余白を入力します。 ・入力欄横のカッコ内に、余白で設定できる範囲が表示されています。
	余白の境界に枠線を表示する	<ul style="list-style-type: none"> ・この項目を選択すると、余白と描画エリアの境界線が表示されます。(上図参照)
	枠線の種類	<ul style="list-style-type: none"> ・余白境界線の線種を選択します。
装飾部品		<p>装飾部品の追加・削除・変更をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『標準』タブで選択した部品は、すべてのページで表示されます。 ・選択しているBOXが薄い灰色になっている部品は、個別タブ(本文・目次・表紙)で解除されていることを表します。 ・特定のページだけ非表示にしたい部品は、個別タブ(本文・目次・表紙)の装飾部品欄でチェックを外します。
印刷可能領域		<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアログ(上図)右側のプレビューに、印刷可能領域の赤枠を表示する / しなを切り替えます。 ・この赤枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。 ・印刷可能領域の赤枠は、当ダイアログのプレビューのみに表示されます。印刷やプレビュー画面には表示されません。

[本文タブの詳細説明](#)

[目次タブの詳細説明](#)

[表紙タブの詳細説明](#)

■各種ボタン

- 開く** ・あらかじめ保存してある、ページ設定ファイルを読み込みます。
- 保存** ・現在のページ設定を、ファイルに保存します。(ドキュメントとは関係なく、ページ設定の内容のみが保存されます)
 - ・ファイルの拡張子は *.sec です。
 - ・保存した設定ファイルを他のドキュメントに読み込んで、再利用することができます。
- 初期値に戻す** ・ページ設定の各値を、初期状態(インストール直後の値)に戻します。

■関連トピック

[ページ番号\(装飾部品\)](#)

[社名\(装飾部品\)](#)

[製品名\(装飾部品\)](#)

[日付\(装飾部品\)](#)

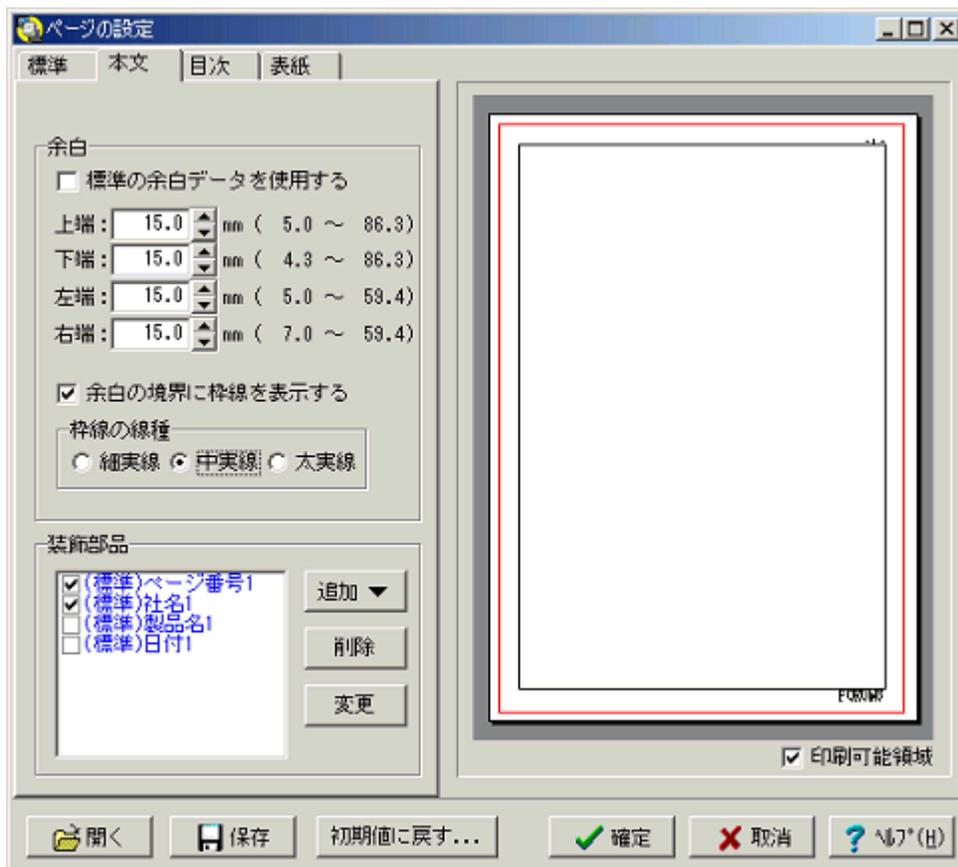
[任意文字\(装飾部品\)](#)

[図\(装飾部品\)](#)

[設定]⇒[ページの設定](本文)

[ページの設定]の基本操作は[ページの設定\(標準\)](#)をご覧ください。

『本文』タブでは、本文ページに関する設定を行います。



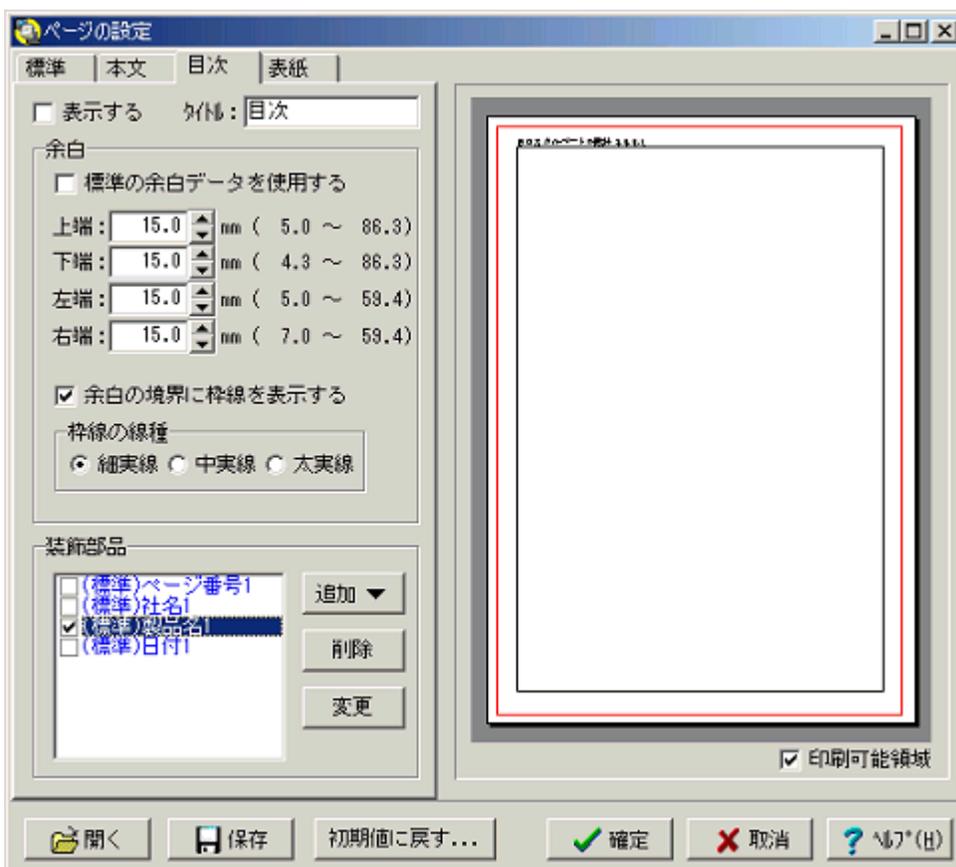
■ 詳細項目説明

余白	標準の余白データを使用する	<ul style="list-style-type: none"> 標準タブで設定した余白を使用する場合は、ここにチェックマークをつけます。 本文ページに個別の余白を設定する場合はチェックを外します。
	上端 / 下端 / 左端 / 右端	<ul style="list-style-type: none"> 本文ページの上下左右の余白を入力します。 入力欄の横のカッコ内に、余白で設定できる範囲が表示されています。
	余白の境界に枠線を表示する	<ul style="list-style-type: none"> この項目を選択すると、余白と描画エリアの境界線が表示されます。
	枠線の種類	<ul style="list-style-type: none"> 余白境界線の線種を選択します。
装飾部品	<p>装飾部品の追加・削除・変更をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本文ページのみで使用する装飾部品を選択します。 『標準』タブの装飾部品で選択された部品は、『本文』タブでも選択された状態になります。不要な場合は選択を解除します。 	
印刷可能領域	<ul style="list-style-type: none"> ダイアログ(上図)右側のプレビューに、印刷可能領域の赤枠を表示する / しないを切り替えます。 この赤枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。 印刷可能領域の赤枠は、当ダイアログのプレビューのみに表示されます。印刷やプレビュー画面には表示されません。 	

[設定]⇒[ページの設定](目次)

[ページの設定]の基本操作は[ページの設定\(標準\)](#)をご覧ください。

『目次』タブでは、目次ページに関する設定を行います。



■詳細項目説明

表示する		・目次ページをプレビューに表示する/しない を切り替えます。
タイトル		<ul style="list-style-type: none"> ・目次のタイトルを入力します。 ・目次タイトルは 行スタイルの「目次 1」で設定されたフォントを使用して表示されます。 ・目次の各項目は行スタイルの「目次 1,2,3」を用いて出力されます。また見出しレベルに応じて自動的にインデントして表示されます。
余白	標準の余白データを使用する	<ul style="list-style-type: none"> ・標準タブで設定した余白を使用する場合は、ここにチェックマークをつけます。 ・目次ページに個別の余白を設定する場合はチェックを外します。

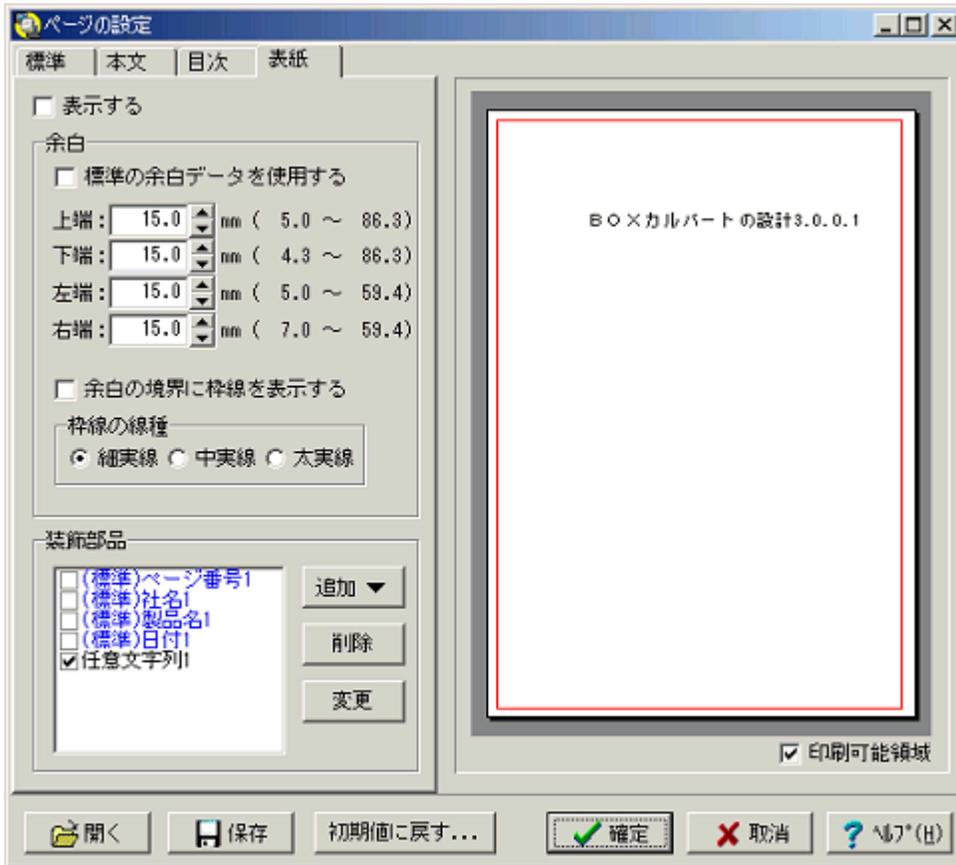
	<p>上端 / 下端 / 左端 / 右端</p>	<ul style="list-style-type: none"> 目次ページの上下左右の余白を入力します。 入力欄横のカッコ内に、余白で設定できる範囲が表示されています。
	<p>余白の境界に枠線を表示する</p>	<ul style="list-style-type: none"> この項目を選択すると、余白と描画エリアの境界線が表示されます。
	<p>枠線の種類</p>	<ul style="list-style-type: none"> 余白境界線の線種を選択します。
<p>装飾部品</p>	<p>装飾部品の追加・削除・変更をご覧ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 目次ページのみで使用する装飾部品を選択します。 『標準』タブの装飾部品で選択された部品は、『目次』タブでも選択された状態になります。不要な場合は選択を解除します。 	
<p>印刷可能領域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ダイアログ(上図)右側のプレビューに、印刷可能領域の赤枠を表示する/しないを切り替えます。 この赤枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。 印刷可能領域の赤枠は、当ダイアログのプレビューのみに表示されます。印刷やプレビュー画面には表示されません。 	

[設定]⇒[ページの設定](表紙)

[ページの設定]の基本操作は[ページの設定\(標準\)](#)をご覧ください。

『表紙』タブでは、表紙ページに関する設定を行います。

表紙のタイトル文字は、「装飾部品」の任意文字列を使用して設定します。



■ 詳細項目説明

表示する		・表紙ページをプレビューに表示する / しない を切り替えます。
余白	標準の余白データを使用する	・標準タブで設定した余白を使用する場合は、ここにチェックマークをつけます。 ・表紙ページに個別の余白を設定する場合はチェックを外します。
	上端 / 下端 / 左端 / 右端	・表紙ページの上下左右の余白を入力します。 ・入力欄横のカッコ内に、余白で設定できる範囲が表示されています。
	余白の境界に枠線を表示する	・この項目を選択すると、余白と描画エリアの境界線が表示されます。
	枠線の種類	・余白境界線の線種を選択します。
装飾部品		<u>装飾部品の追加・削除・変更</u> をご覧ください。 ・表紙ページのみで使用する装飾部品を選択します。 ・『標準』タブの装飾部品で選択された部品は、『表紙』タブでも選択された状態になります。不要な場合は選択を解除します。

<p>印刷可能領域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイアログ(上図)右側のプレビューに、印刷可能領域の赤枠を表示する/しないを切り替えます。 ・この赤枠より外側の文字や図は、現在設定されているプリンタでは印刷できません。 ・印刷可能領域の赤枠は、当ダイアログのプレビューのみに表示されます。印刷やプレビュー画面には表示されません。
----------------------	---

[設定]⇒[行スタイルの設定]

行スタイルで設定できる属性は以下の3種です。(行スタイルとは)

フォント / 行ピッチ(行高) / インデント

行スタイルは名前をつけて管理し、ドキュメント内の各BOXに行スタイルを関連付けることができます。

■基本操作

新しい行スタイルを追加する

メニューの[設定] [行スタイルの設定]を選択します。

[行スタイル追加]ボタンをクリックします(下図A)

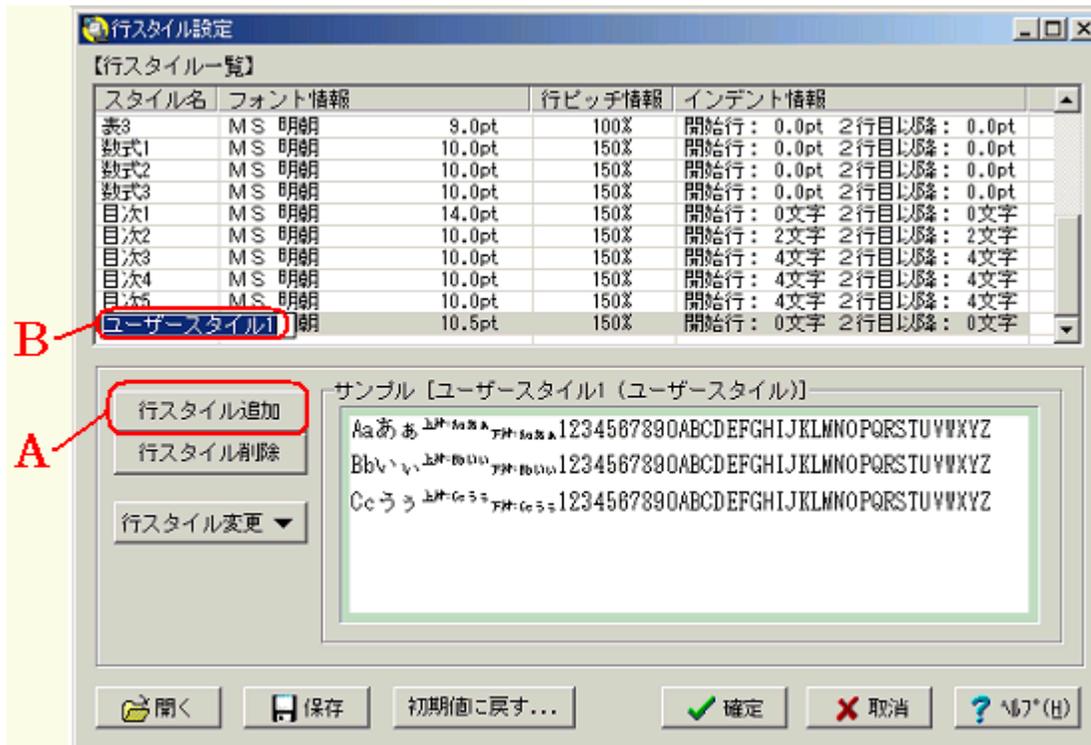
新しい行スタイルが1行追加され、スタイル名が編集モードになります。(下図B)

任意のスタイル名を入力し、Enterします。(例 箇条書き1)

追加したスタイルは、スタイル名の欄をダブルクリックすれば再び編集モードとなり、いつでも名前を変更することができます。

新しい行スタイルの情報欄(フォント情報, 行ピッチ情報, インデント情報)をダブルクリックし、条件を設定します。

条件の設定が終わったら[確定]ボタンをクリックし、スタイル設定ダイアログを終了します。



行スタイルの条件を修正する

メニューの[設定] [行スタイルの設定]を選択します。

行スタイルのダイアログ(上図)が表示されます。

・フォントを修正するには

- (1)対象となるフォント情報欄をダブルクリックします (例: 数式1のフォント情報)
または対象行をクリックし、[行スタイル変更]ボタンの[フォント情報]を選択しても同様です。
- (2)[フォント設定ダイアログ](#)でフォントを修正し、[確定]ボタンをクリックします。

・行ピッチを修正するには

- (1)対象となる行ピッチ欄をダブルクリックします (例: 数式1の行ピッチ情報)
または対象行をクリックし、[行スタイル変更]ボタンの[行ピッチ情報]を選択しても同様です。
- (2)[行ピッチ設定ダイアログ](#)でピッチを修正し、[確定]ボタンをクリックします。

・インデントを修正するには

- (1)対象となるインデント情報欄をダブルクリックします (例: 数式1のインデント情報)
または対象行をクリックし、[行スタイル変更]ボタンの[インデント情報]を選択しても同様です。
- (2)[インデント設定ダイアログ](#)でインデントを修正し、[確定]ボタンをクリックします

本プロダクトがあらかじめ用意しているスタイル(規定行スタイル)の名称は、変更できません。

■詳細項目説明

(各種ボタン)

開く あらかじめ保存してある行スタイル設定を読み込みます。

- 保存
 - ・現在の行スタイル設定を、ファイルに保存します。(ドキュメントは関係なく、行スタイル設定の内容のみが保存されます)
 - ・ファイルの拡張子は *.syl です。
 - ・保存した設定ファイルを他のドキュメントに読み込んで、再利用することができます。
- 初期値に戻す
 - 行スタイル設定を、初期状態(インストール直後の値)に戻します。追加したスタイルは消去されますのでご注意ください。

[設定]⇒[その他の設定]

その他の設定では、以下の項目を設定することができます。

- ・「[ページの先頭に表示する設定](#)」を一括で無効にする
- ・章番号の形式
- ・[装飾部品\(日付\)](#)の予約語で参照する日時
- ・[Word出力](#)のエラー回避処理

■基本操作

メニューの[設定] [その他の設定]を選択します。

ダイアログで設定(詳細項目説明を参照)し、[確定]ボタンをクリックします。

■詳細項目説明

トップページ属性を無視する

この項目を選択すると、[見出しの属性](#)または[BOXのプロパティ](#)で設定されている「ページ先頭に出る」の条件をすべて無視し、プレビューを再構築します。

見出し1,見出し2,見出し3

- ・見出し1～3の先頭に表示する章番号の形式を設定します。(例 第2章 - 5節 - 6項)
- ・ここでは「上位の章番号も含める」という前提で設定します。([上位の章番号を表示したくない場合](#))
- ・[] ボタンをクリックし、プルダウンから形式を選択します。
- ・[編集] ボタンにより新しい形式を追加することができます。([章番号の形式設定\(その他の設定\)](#) を参照)

日付

- ・本プロダクトを当社製品から起動した場合、当社製品側で指定した日付がセットされます。
- ・手動で任意の日付に変更することができます。
- ・[現在の日時を設定する] ボタンによって、ボタンを押した日時をセットできます。
- ・ここに設定した日付は、装飾部品(日付)の予約語「@Date」の部分に埋め込まれます。

時刻

- ・本プロダクトを当社製品から起動した場合、当社製品側で指定した時刻がセットされます。
- ・手動で任意の時刻に変更することができます。
- ・[現在の日時を設定する] ボタンによって、ボタンを押した日時をセットできます。
- ・ここに設定した時刻は、装飾部品(日付)の予約語「@Time」の部分に埋め込まれます。

TOC(目次)フィールドを作成しない

Word形式のファイル出力時、下記のエラーが発生する場合は、この項目にチェックを付けてください。
「文書の書式設定が複雑すぎます。[高速保存] オプションをオフにして、文書を今すぐ保存してください。」

【補足】

本オプションをチェックした場合、Word本来の目次機能の設定が行われません。完全なWord文書出力するにはWord2000以降の導入をお勧めします。

電子納品

[電子納品]⇒[電子納品規定文字列チェック]

現在開いているドキュメントに対し、電子納品に使用できない文字のチェックを行い、結果を表示します。

■基本操作

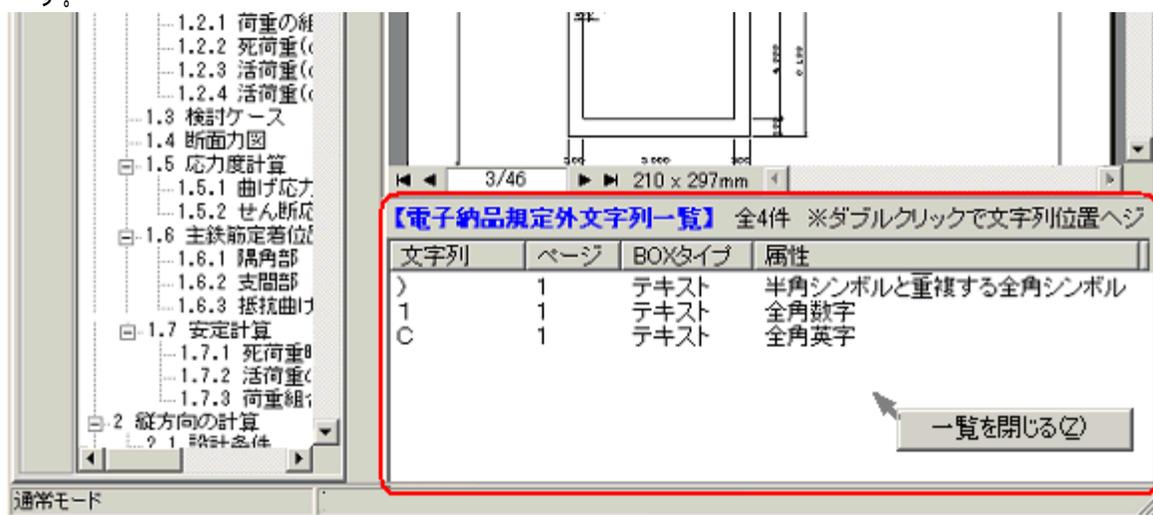
メニューの[電子納品] [電子納品規定文字列チェック]を選択します

インジゲータが表示されます。完了するまでお待ちください。



使用できない文字は、プレビューの下に一覧表示します。

・一覧の任意の行をダブルクリックすると、プレビューが対象文字の位置へ移動し、強調表示します。



リスト上で右クリックし、ポップアップメニューの[一覧を閉じる]を選択します。

ヘルプ

[ヘルプ]⇒[トピックの検索]

ヘルプトピックのウィンドウを表示します。

■各タブについて

- [目次] トピックを一覧表示します
- [キーワード] 索引の一覧を表示します。前方一致で索引を検索することができます。
- [テキスト検索] 特定の単語や句を本文中に含むトピックを検索します

[ヘルプ]⇒[Forum8ホームページ]

本メニューのご利用には、Internetへの接続が必要です。

本メニューを選択すると、WWWブラウザで当社ホームページが表示されます。

・WWWブラウザがインストールされていないとエラーが発生します。

・インターネットへの接続環境がないと表示できません。

[ヘルプ]⇒[Internet利用による問合せ]

本メニューのご利用には、Internetへの接続が必要です。

弊社の製品開発部署宛てに直接お問い合わせのメールを送信します。

尚、この機能を利用するには、別途『問い合わせ支援ツール』をインストールする必要があります。

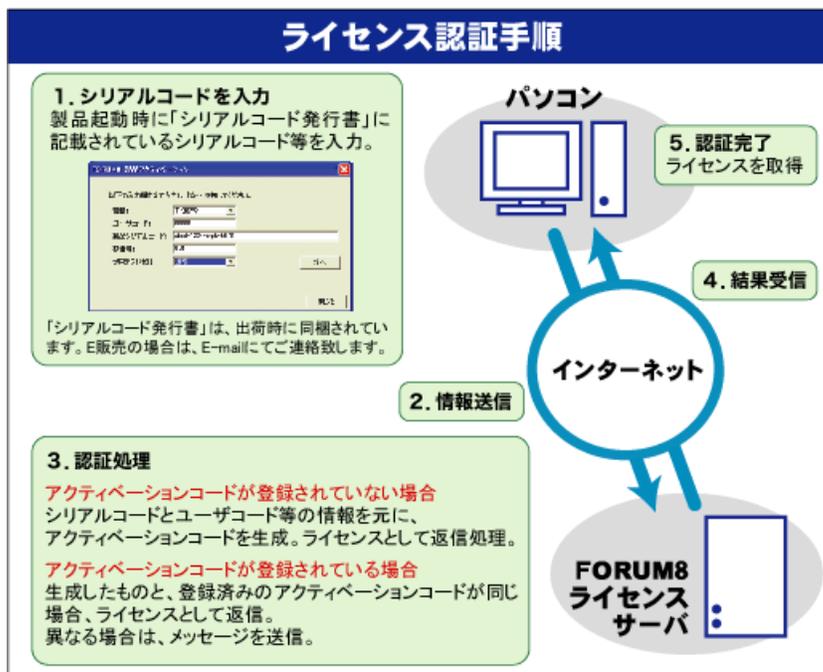
利用方法の詳細は、『問い合わせ支援ツール』のヘルプトピックをご覧ください。

[ヘルプ]⇒[通常/Web認証切り替え]

プロテクトモードとして、通常(ハードウェアキー方式)かWeb認証方式かを切り替えてください。

無償版でご利用される場合は、“通常モード”を選択し、[ヘルプ] [バージョン情報]にて、ハードウェアキーを”なし(無償版)”と設定されることをお勧めします。

Web認証方式によるライセンス認証手順は以下の通りです。



[ヘルプ]⇒[バージョン情報]

本製品のバージョン及びハードウェアキーに関する情報(通常モード時)、Web認証の状態(Web認証モード時)を、ウィンドウに表示します。

プロテクトに関しては、通常モードの場合「ローカル(LPT)」、「ローカル(USB)」、「ネットワーク」、「なし(無償版)」の4種類がありますので、該当する方法を選択してください。詳細については、本製品の「導入の手引き」を参照してください。

Web認証モードの場合「認証を行う」、「未認証(無償版)」が表示され、一度認証を行うと「この製品は、Web認証モードで実行しています。」となります。

無償版では、**有償機能**のご利用はできません。

無償版でご利用される場合は、[ヘルプ] [通常/Web認証切り替え]にて”通常モード”を選択し、ハードウェアキーを”なし(無償版)”と設定されることをお勧めします。

Q&A

用語集

用語集では、本製品およびヘルプの中で使われている用語について説明します。

(50音順)

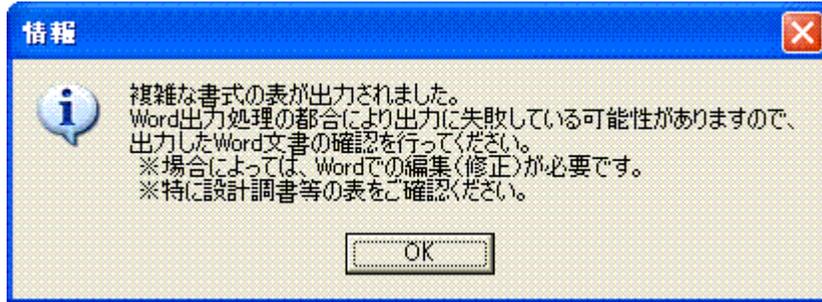
XML	(eXtensible Markup Language の略): 文書やデータの意味と構造を記述するためのマークアップ言語の一つで、「タグ」と呼ばれる特定の文字列でデータに構造が埋め込まれます。この構造によりデータの意味がコンピュータで容易に解釈できるようになり、データの活用範囲が格段に広がります。
アウトプレースエディタ	編集作業を行う専用の画面で、編集対象が表示されている画面とは別の画面として表示されます。通常は、特殊な指定や操作が必要なデータの入力に使用されます。
インプレースエディタ	編集作業を行う専用の画面を指しますが、編集対象が表示されている位置に表示され、画面枠なども表示されませんので、どの部分がインプレースエディタなのかは、見た目には分かりません。通常は、文字列の入力などで使われます。
インポート(Import)	本製品以外の製品などで作成されたファイルを本製品に読み込む事、または、読み込む機能を指します。
エクスポート(Export)	本製品で作成されたデータを他の製品などが読み込める形のファイルで保存する事、または、保存する機能を指します。
キャレット	インプレースエディタなどで文字を入力する際に、入力位置を示す点滅状態の縦棒や矩形の印を指します。
クリック	マウスカーソルを目的の位置に移動し、マウスの左ボタンを1回押して離す操作を指します。これに対し、右ボタンの場合は「右クリック」と明示します。
サムネイル	各ページの縮小画像で、主に目的のページを素早く見つけ表示する目的で使用されます。
ダブルクリック	マウスカーソルを目的の位置に移動し、マウスの左ボタンを押して離す動作をすばやく2回行う操作を指します。これに対し、右ボタンの場合は「右ダブルクリック」と明示します。
テンプレート	文書の雛形で、文書の固定的な文字列やスタイルおよび可変となる箇所などが指定されています。

ドキュメント	当社製品が出力する計算書, 比較表, 設計調書などの文書および一般的な全ての電子化された文書を指します。
ドラッグ, ドロップ	マウスカーソルを目的の位置に移動し、マウスの左ボタンを押したまま次の目的位置に移動するまでの操作をドラッグと言い、目的の位置でマウスの左ボタンを離す操作をドロップと言います。
ビットマップ	写真などの画像を点の集まりとして表現したデータまたはファイルで、Windows 自身がサポートしているファイルフォーマットの1つです。ビットマップとして表現されたデータは、メタファイル内の1つの図形として保存した場合を含め、拡大 / 縮小時に点の大きさ自体が変化するため、輪郭などがギザギザになったり、小さな部分が見えなくなったりします。
プレビュー	印刷イメージを表示する事、または印刷イメージを表示した画面を意味します。
マッピング	異種または同種のデータを複数重ね合わせ、1つに合成する処理を意味します。
メタファイル	直線や円などの図形を描画する手順(描き方)をデータとして記録したファイルで、Windows 自身がサポートしているファイルフォーマットの1つです。ビットマップなどの画像ファイルは拡大時に輪郭などがギザギザになったり縮小時に小さな部分が見えなくなったりしますが、メタファイルで保存された図形では拡大 / 縮小をしても、このような劣化は発生しません。但し、図形の1つとしてメタファイルにビットマップを保存する事ができますが、このビットマップ部分では拡大 / 縮小による劣化は発生します。

ヒント 1 WORD 出力：複雑な書式の表が出力されました

Q.

Word 出力後、下のようなメッセージが表示される。



A.

このメッセージは、Word 出力に失敗し表示されるものではなく、Word 文書の表形成仕様上、難易度が高い罫線表が出力された場合に表示されます。

このメッセージが表示された場合は、出力された Word 文書を開き、文書中の表が正しく出力されているかご確認下さい。

※問題のケースとしては、セルの罫線が有効になっていない場合があります。Word の”印刷プレビュー機能”にてご確認下さい

※罫線表に問題がある場合は、お手数ですが Word での修正が必要となります。ご了承下さい。

エラー1 WORD 出力：このファイルは他のアプリケーションまたはユーザーが使用しています

Q.

Word出力後Normal.dotの保存を聞いてくる。

または

「このファイルは他のアプリケーションまたはユーザーが使用しています。

(C:\WINDOWS¥.....¥Templates¥Normal.dot)」

「ほかのアプリケーションがOLEの操作を完了しているのを待機しています。」

というエラーが発生する。

A.

○最初にご確認いただきたい点

以下の製品のご利用はないでしょうか。

J I P テクノサイエンス社	e-ConductorX (電子納品物作成支援ツール)
ジャストシステム社	ATOK Office連携ツール(他、省入力のためのツール)
ロゴヴィスタ社	こりゃ英和!一発翻訳
F U J I X E R O X 社	DocuWorks 6.0
ソースネクスト	本格翻訳4

上記製品がインストールされた環境にて、このエラーが発生することを確認いたしております。こちらの見解では、上記製品はWordのアドインソフトとして機能するようですが、この場合、Normal.dot(Wordの標準テンプレートファイル)をロック(占有)状態としている為、Word出力処理に障害が発生しているものと推定いたしております。

この件に関しまして、Word出力処理での回避策は見つかってはおりませんが、上記ソフトのWordのアドイン機能をOFFにすることで、エラーが解消されることを確認いたしております。

抜本的な対策ではございませんが、Wordアドインソフトがインストールされている場合は、以下のWordアドイン機能をOFFにする方法をお試しく下さい。

- ・DocuWorks 6.0のWordアドインを無効にする方法
DocuWorks 6.0がインストールされている場合のみご参照下さい。
- ・ATOK Office連携ツールのWordアドインを無効にする方法
ATOK Office連携ツールがインストールされている場合のみご参照下さい。
- ・汎用的にWordアドインを無効にする方法

尚、エラーが発生したことによりWordがプロセス上に残っている事がございます為、念のためにWindowsを再起動されてから対策いただいた方が確実にございます。

【FUJI XEROX社 DocuWorks 6.0のWordアドインを無効にする方法】

スタートボタン - プログラム - Fuji Xerox - DocuWorksの”DocuWorks ユーザー個別設定ツール”を起動し、設定画面が「DocuWorks Creator for Microsoft Officeの設定」となるまで送り、「Microsoft Word」のチェックを解除すると、Wordアドイン機能をOFFにする事が可能です。

●DocuWorks ユーザー個別設定ツールの流れ

- 1.スタートボタン - プログラム - Fuji Xerox - DocuWorksの”DocuWorks ユーザー個別設定ツール”を起動する
- 2.最初の”DocuWorks ユーザー個別設定 画面”にて、”設定の変更”が選ばれた状態で、次へボタンをクリックする
- 3.次の”Deskフォルダの設定 画面”は、そのまま次へボタンをクリックする
- 4.次の”一時ファイル用のフォルダの設定 画面”は、そのまま次へボタンをクリックする
- 5.次の”OCR(文字認識)の選択 画面”は、そのまま次へボタンをクリックする
- 6.次の”DocuWorks Creator for Microsoft Officeの設定 画面”で、”Microsoft Word”のチェックをはずし、次へボタンをクリックする
- 7.次の”設定内容の確認 画面”で、DocuWorks Creator for Microsoft Officeを有効にするの箇所に、”Microsoft Word”がないことを確認し、次へボタンをクリックする
- 8.次の”設定終了”画面の閉じるボタンのクリックし終了する

【ジャストシステム社 ATOK Office連携ツールのWordアドインを無効にする方法】

デスクトップ上の「OFFICE連携機能設定ツール」のアイコンをクリックしていただき、OFFICE連携機能の追加・削除にて、「連携機能の削除」のクリック、その下の「WORD」がチェックされた状態で、「実行」ボタンを押す事で、WORDアドイン機能をOFFにする事が可能でございます。< div>

デスクトップ上に「Office連携機能設定ツール」のアイコンがない場合は、「ATOK Office連携ツール」インストールパス(ATOKがインストールされたところと同じ)の「ATOKEXST.EXE」を起動(ダブルクリック)し、上と同じ操作を行って下さい。

例えばATOK17の場合、下のようなパスとなります。

C:\Program Files\Justsystem\ATOK17\AT17EXT\ATOKEXST.EXE

「DocuWorks 6.0」・「ATOK Office連携ツール」をご利用されていない場合は、以下の汎用的にWordアドインを無効にする方法が有効でございます。

【汎用的にWordアドインを無効にする方法】

上記の2つのアプリケーションソフト固有の回避方法をお試しいただいても、同様のエラーが発生する場合は、他のWordアドインソフトの影響が考えられます。

この場合は、Wordの「COMアドイン」の設定をお試し下さいますようお願いいたします。

●Wordの「COMアドイン」設定の流れ

【Word2002以前のバージョンをお使いの場合】

- 1.Wordを起動する
- 2.[表示]メニューから[ツールバー] - [ユーザー設定]をクリックする
この操作で[ユーザー設定]画面が開きます。
- 3.[コマンド]タブをクリックして開き、左側の[分類]リストから[ツール]を選択する
- 4.[コマンド]リスト中の「COMアドイン」をドラッグ&ドロップしてメニューを追加する
[ヘルプ]メニューの右側あたりにドロップしてみてください。
- 5.[閉じる]ボタンをクリックし、[ユーザー設定]を閉じる
- 6.4で追加した[COMアドイン]をクリックする
この操作で[COMアドイン]画面が開きます。
- 7.左端の口にチェックがついている全ての項目のチェックをはずす
DocuWorksのアドインが有効な場合、「Fuji Xerox DocuWorks Creator」にチェックがついています。
ATOK Office連携ツールのアドインが有効な場合、「ATOK拡張ツール COM Addin」にチェックがついています。
- 8.[OK]ボタンをクリックし、[COMアドイン]を閉じる
- 9.Wordを終了する

【Word2007をお使いの場合】

- 1.Wordを起動する
- 2.画面左上の丸い Office ボタンをクリックする
- 3.開いたポップアップ画面の下方の[Wordのオプション]ボタンを押す
この操作で[Wordのオプション]画面が開きます。
- 4.Wordのオプション画面左側のカテゴリから「アドイン」をクリックする
- 5.同画面下方の「管理:COMアドイン」の右側の[設定]ボタンを押す
この操作で[COMアドイン]画面が開きます。
- 6.左端の口にチェックがついている全ての項目のチェックをはずす
DocuWorksのアドインが有効な場合、「Fuji Xerox DocuWorks Creator」にチェックがついています。
ATOK Office連携ツールのアドインが有効な場合、「ATOK拡張ツール COM Addin」にチェックがついています。
- 7.[OK]ボタンをクリックし、[COMアドイン]を閉じる
- 8.Wordを終了する

注意

掲載されている各社名および各社製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

サポート

本プログラムの改訂

本プログラムは、予告無く、機能の追加、入出力の改善、修正などを行うことがあります。

無償改訂、修正時には最新バージョンを当社ホームページよりダウンロードしていただけます。

<http://www.forum8.co.jp/tech/uc1win0-tech.htm>

製品版登録ユーザーの方で、無償改訂、修正時の最新バージョンの配布媒体を希望される方には、別途定める費用にて配布媒体を提供いたします。

サポートの範囲

サポート窓口でサポートするお問い合わせの範囲は本プログラムの内容に関する事項に限定していません。

OSや周辺機器、他のソフトとの同時使用の問題などについてはサポートできませんのであらかじめご了承ください。

■お問い合わせの方法

お問い合わせは、電話、問い合わせ支援ツール、電子メール、FAXにて承っております。

なお、お問い合わせなどの無償サポートサービスは、原則として製品購入後1年間とさせていただきますが、以降のバージョンアップ等も含めた有償サービスとして「保守・サポートサービス」を提供しています。

そのため、製品購入から1年を経過し、「保守・サポートサービス」のご契約がない場合は回答できません。あらかじめご了承ください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。または営業窓口へお問い合わせください。

<http://www.forum8.co.jp/product/hosyusupport.htm>

お問い合わせは、

- ・電話(専用電話番号)
- ・問い合わせ支援ツール(ヘルプメニューのInternet利用による問い合わせ)
- ・電子メール(ic@forum8.co.jp)
- ・FAX(06-6882-1008)

をご利用ください。なお、電話によるお問合せの専用番号につきましては、営業窓口までお問合せください。

電子メール、FAXでのお問い合わせに際しては必ずユーザコード、製品名を明記してください。ユーザコード、製品名が書かれていない場合は原則としてサポートできませんのでご了承ください。

■ホームページ

本ヘルプで解決できない場合は、下記サービスのQ & Aも併せてご利用ください。

当社ホームページ <http://www.forum8.co.jp/>

ご購入についてのお問い合わせ

本製品をご購入またはデモをご覧になりたいお客様は最寄りのフォーラムエイト営業部署(東京、大阪、仙台、福岡)にご連絡ください。

なお、電話でのお問い合わせは営業日の午前9時～午後12時、午後1時～午後5時30分までとさせていただきます。(FAX、電子メールは24時間受け付けております)

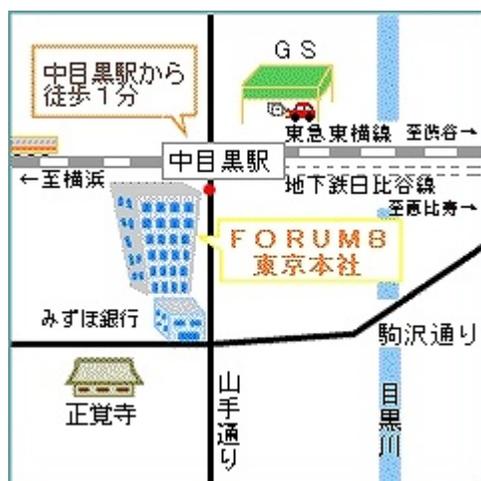
営業部署	Tel	E-Mail :
東京	03-5773-1888	f8tokyo@forum8.co.jp
大阪	06-6882-1888	f8osaka@forum8.co.jp
名古屋	052-551-1888	f8nagoya@forum8.co.jp
福岡	092-271-1888	f8fuku@forum8.co.jp

東京本社

〒153-0051
東京都目黒区上目黒2-1-1 中目黒GTタワー15F

TEL:03-5773-1888 FAX:03-5720-5688

E-Mail : f8tokyo@forum8.co.jp



大阪支社

〒530-6013
大阪市北区天満橋1-8-30 OAPタワー13F

TEL:06-6882-1888 FAX:06-6882-1880

E-Mail : f8osaka@forum8.co.jp



名古屋事務所

〒450-0003
名古屋市中村区名駅南2-14-19 住友生命名古屋ビル1F

TEL.052-551-1888 FAX.052-551-1883

E-Mail : f8nagoya@forum8.co.jp



福岡営業所

〒812-0025

福岡市博多区店屋町1-31 東京生命福岡ビル5F

TEL:092-271-1888 FAX:092-271-1902

E-Mail : f8fuku@forum8.co.jp



索引

@	
@Date	174, 260
@Page	176
@Product	172
@Time	174, 260
@Version	172
B	
BOX	68
BOXのタイプ.....	69, 76, 77, 234
C	
C P U	15
E	
Excel形式.....	19, 43
F	
F8 - PPF	20
F8-PPFのファイル.....	28
F8出力編集ツール.....	14, 19, 20
F8出力編集ツールのファイル.....	28
Forum8	
大阪支社.....	270
仙台営業所.....	270
東京本社.....	269
福岡営業所.....	271
ホームページ.....	261
P	
PDF形式	43
T	
TOC(目次)フィールドを作成しない.....	81, 260
V	
Viewer版	9, 14, 53
W	
Web認証	9, 15, 16, 262, 263
Windows	21
Word形式	21, 43

X

XMLタグ辞書ファイル.....	26, 40, 50
XMLデータファイル.....	18, 26
XMLパス	187
XMLマッピング.....	18, 38, 180

あ

アウトラインフレーム.....	31, 44
新しいドキュメント.....	222
アンドゥ	113

い

一太郎形式.....	19, 21, 43
一括マッピング.....	199, 201
移動	36
章（節、項）.....	91
表のヘッダ/フッタ.....	132
BOX	70
BOX グループ	148, 149
見出し	70, 91, 100
イメージファイル.....	146
印刷	30, 229, 248
すべて	216
任意の章.....	217
ページ範囲指定.....	216
印刷可能領域.....	179
印字方向	248
インデント設定ダイアログ.....	163

う

上付文字	75, 158
------------	---------

え

エクスポート.....	43, 228
エディタ	35
エラー	
ホームページ表示.....	261
Word 形式ファイル出力時	21, 81, 259

お

お問い合わせ.....	268, 269
オペレーティングシステム.....	15, 21
親BOX	148, 150

か

カーソルが手のひらの形.....	244
カーソルが虫メガネの形.....	245
解除	
グループ.....	150

表示移動モード	245
表示拡大モード	246
ページ先頭へ出力	98
BOX 選択	70
階層	
章 (節、項)	91
改ページ	82, 107
改ページ毎に表示する	129, 132
拡大	
グラフィック	146
プレビュー	207
マッピング画像	148
下線	75, 130, 160
画像	
グラフィック BOX	142
装飾部品	178
マッピング画像 BOX	147
画像エディタ	145
画像編集	143
下付文字	75, 158
き	
起動	
F8DocServ Maintenance Tool	218
起動 (F8DocServ)	
単体で起動	54
当社製品から起動	54
当社製品から起動する為の設定	57, 58
機能一覧	53
行数	121, 234
行スタイル	154, 257
初期値	223
行ピッチ設定ダイアログ	161
行列エディタ	139
行列式	23, 69
切り取り	
行列エディタ	140
数式エディタ	135
セル (表)	113
プレビュー	231
く	
グラフィック	23, 69
グラフィックエディタ	145
グループ	
グループの親	148, 149
グループの子	76, 148
辞書項目	186
BOX グループ	79, 148
グループID	

マッピングデータ.....	191, 193
け	
罫線	
セル (表)	117
検索	236, 238, 239
こ	
互換性	20
コピー	
行列エディタ	140
数式エディタ	135
セル (表)	113
セルプロパティ (表)	114
プレビュー	231
子BOX	148, 150
さ	
サイズ変更.....	36
グラフィック	146
ドキュメント	247
BOX	72
マッピング画像	148
用紙サイズ	247, 249
削除	
行 (表)	114
章 (節、項)	90
セル (表)	115
装飾部品	166
表のヘッダ / フッタ	129
ページ	236
BOX	235
BOX グループ	149
マッピングデータ	192
見出し	90, 96
列 (表)	114
作成	
行列 BOX	138
グラフィック BOX	142
章 (節、項)	87
数式 BOX	133
テキスト BOX	103
ドキュメント	34, 222
表 BOX	105
ファイル	222
ページ	235
BOX	233
マッピング画像 BOX	147
見出し	87
サポートサービス	

無償	268
有償	268
サムネイル.....	32, 47, 213
拡大・縮小.....	214
し	
字下げ	162
辞書項目	186
辞書ツリー.....	14, 49, 185, 243
展開・縮小.....	215
辞書ファイル.....	49
辞書フレーム.....	44
社名（装飾部品）.....	170
縦横比	
グラフィック.....	146
図（装飾部品）.....	179
修正	
インデント（行スタイル）.....	258
XML マッピング	182, 197
行スタイル.....	155, 258
行の高さ.....	122, 124
行ピッチ（行スタイル）.....	258
行列 BOX	138
グラフィック BOX	142
数式 BOX	133
セル（表）.....	115, 119
装飾部品.....	167
テキスト BOX	104
ドキュメント.....	34
表のヘッダ/フッタ.....	106, 131
表 BOX	106
フォント（行スタイル）.....	258
マッピング画像 BOX	147
マッピングしたテキスト BOX	104
見出し	95
目次	67
列の幅	122, 124
終了	230
縮小	
プレビュー.....	207
出力	86
章（節、項）.....	85
他形式ファイル.....	228
順序	
章（節、項）の並び順.....	64, 91
表のヘッダ/フッタ.....	132
BOX の並び順	64
章番号	83
形式	85, 259
任意の番号を設定.....	98
振りなおす（自動）.....	93

ショートカットキー	222
初期値	
行スタイル	259
ページ設定	252
ページ番号	176
書式設定	61
一部のテキストに摘要する	158
インデント	162, 257
行ピッチ	161, 257
セル(表)に摘要する	116
表紙に摘要する	157
表のヘッダ/フッタに摘要する	130
フォント	158, 257
BOXに摘要する	74
目次に摘要する	157
書式設定ツールバー	
表エディタ	116
表のヘッダ/フッタ	130
プレビュー	74, 158
す	
図(装飾部品)	178
数式	23, 69
数式エディタ	134
せ	
製品名(装飾部品)	171
全行をタイトル行とする	107, 122
線種	63
表の罫線	118
ページの枠線(表紙)	256
ページの枠線(標準)	251
ページの枠線(本文)	253
ページの枠線(目次)	255
BOXの枠線	78, 235
選択	
章(節、項)	85
選択解除	69
複数選択	70
BOX	69
BOX選択モード	136, 141
そ	
装飾部品	165
表紙ページの設定	256
標準設定	251
本文ページの設定	253
目次ページの設定	255
挿入	
行(表)	114

列 (表)	114
た	
タイトル	
表紙タイトル	255
表のタイトル	109
表のタイトル行	122
目次のタイトル	254
タイトル行とする	109
ダウンロード	268
高さ	
行の高さ	63, 121, 122, 124, 161
図 (装飾部品) の高さ	179
BOX の高さ	77, 78, 234
他社プロダクトのファイル	28
縦書き	76, 78, 129, 234
ち	
置換	237
中央寄せ	61, 119, 146
抽出	
XML データ	18
マッピングデータ	40, 194
調表出力ライブラリ	19, 20
調表出力ライブラリのファイル	27
つ	
追加	
行 (表)	114
行スタイル	257
行列 BOX	138
グラフィック BOX	142
章 (節、項)	87
数式 BOX	133
装飾部品	166
テキスト BOX	103
表のヘッダ / フッタ	128
表 BOX	105
ページ	235
BOX	14, 233
マッピング画像 BOX	147
マッピングデータ	190
見出し	14, 87
列 (表)	114
常にページの先頭になるように配置する	77, 78, 101, 209
ツリー構造	21
て	
データ型	186, 187
データタブ	48

データ変換設定	224
データ名称	193
テキスト	22, 69
電子納品	260
テンプレート	18, 37, 203
テンプレートファイル	26

と

統合文書ファイル	26
トップページ属性を無視する	77, 78, 98, 260
取り消し線	75, 130, 160
取り消す	65

に

入力	60
行列 BOX	140
数式 BOX	134
セル (表)	115, 119
テキスト BOX	104
表のヘッダ / フッタ	128
表 BOX	111
マッピングしたテキスト BOX	105
入力してください	104
任意文字列 (装飾部品)	177

は

バージョン	9, 21
ハードウェアキー	15, 262, 263
ハードウェアプロテクトキー	16
背景色	
セル (表)	117, 118
配置	61
辞書項目	147, 188
辞書項目追加	189
セル内のテキスト BOX	119
装飾部品	168
プレビュー上の BOX	73
ページ再解析	247
BOX	234
見出しの自動整列	100
幅	
図 (装飾部品) の幅	179
BOX の幅	77, 78, 234
列の幅	121, 122, 124
貼り付け	
行列エディタ	140
数式エディタ	135
セル (表)	113
セルプロパティ (表)	114
プレビュー	232

BOX	14
ひ	
左寄せ	61, 119
日付（装飾部品）	172, 259
Viewer版	9, 14
表	23, 69
表エディタ	110
表紙	25, 65
表示条件	79
表示条件の設定	150
表示制御	
上位の章番号（個別）	98
上位の章番号（全体）	84
章番号（個別）	98
章番号（全体）	84
装飾部品	167
表紙	256
表の罫線	118
表のタイトル行	108
表のヘッダ/フッタ	108, 132
ページの枠線（表紙）	256
ページの枠線（標準）	251
ページの枠線（本文）	253
ページの枠線（目次）	255
補助マーカー	209
BOXの枠線	78, 234
見出し	77, 99, 209
目次	254
開く	
旧製品のファイル	224
行スタイル	258
テンプレート	80, 206
統合文書ファイル	80
マッピング辞書ファイル	185
ふ	
ファイル形式	20, 146, 178, 184, 190, 223
フォント設定ダイアログ	159
フッタ	67, 127
プリンタ	229, 248
プレビュー	30, 34, 45
移動	206
拡大縮小	207
再描画	246
スクロール	207
ページ再解析	247
元に戻す	230
プレビューフレーム	44
フローティングライセンス	13, 15, 16

プログラム使用権許諾	12
プロテクト	16
分割	
セル (表)	114
へ	
ページ	32
移動	206
再描画	246
スクロール	206
ページ再解析	247
ページ再解析	101
ページ数	45
ページ先頭へ出力	98, 209, 260
ページタブ	47
ページ番号 (装飾部品)	174
開始番号	251
ヘッダ	67, 127
ヘルプ	261
変更	
装飾部品	167
編集	60
行スタイル	257
行列 BOX	138, 139
グラフィック BOX	142
数式 BOX	133
セル (表)	115, 119
装飾部品	167
テキスト BOX	104
ドキュメント	34
表のヘッダ/フッタ	127, 131
表 BOX	106, 110
BOX を編集状態にする	73
マッピング画像 BOX	147
マッピングしたテキスト BOX	105
見出し	96
目次	67
目次ツリー	101, 102
ほ	
保存	59
上書き保存	227
XML マッピング	183
旧製品のファイル	227
行スタイル	259
グラフィック	143, 146
テンプレート	183, 206
統合文書ファイル	183
名前を付けて保存	227
ページ設定	252

マッピングデータ.....	194
本文	25
ま	
マッピング画像.....	24, 69
マッピング辞書ファイル.....	14, 39, 183, 184, 206
マッピングデータ.....	39, 41, 183, 190, 206
み	
右寄せ	61, 119
見出し	94
め	
メインアイコン一覧.....	221
メイン画面.....	44
メインメニュー一覧.....	220
も	
目次	25, 31, 66
更新	246
目次タブ	46
目次ツリー.....	32, 46, 102
更新	246
展開・縮小.....	211
文字の色	75, 130, 160
元に戻す	113
行列エディタ.....	140
数式エディタ.....	135
プレビュー.....	230
や	
やり直し	65, 113
行列エディタ.....	140
数式エディタ.....	135
プレビュー.....	230
ゆ	
有償機能	9, 14
よ	
用紙サイズ.....	248
異なる用紙サイズ.....	226
横書き	76, 78, 129, 234
余白	
ページの余白（表紙）.....	256
ページの余白（標準）.....	251
ページの余白（本文）.....	253
ページの余白（目次）.....	254
読み込み	

グラフィック	146
継承元製品のファイル	41, 42
図（装飾部品）	178
追加読み込み	225
マッピング辞書ファイル	184
マッピングデータ	191
ら	
ライセンス	14
り	
リドゥ	113
る	
ルビ文字	160
れ	
例	
XML タグ辞書ファイルの作成	50
XML マッピング	181
テンプレート	204
テンプレート利用	205
列数	121, 234
連結	
セル（表）	114
レンタルライセンス	13, 15, 16
わ	
枠線	
ページの枠線（表紙）	256
ページの枠線（標準）	251
ページの枠線（本文）	253
ページの枠線（目次）	255
BOX の枠線	234